農事試驗場彙報　第三十一號

滿洲の粟

南滿洲鐵道株式會社
農事試驗場

滿洲の粟（正誤表）

頁數	行	誤	正
粟の穂（寫眞）其の二 一八	一〇	海南日	海南白
三三	一五	卽東三省	卽ち東三省
三三	一五	粟作にとして	粟作にとりて
四〇	八	成熟間期	成熟期間
四〇	一三	極めて小なりし	極めて小なり
四六	五	奉天以南に多にし	奉天以南に多し
一三三	四	五箇年間採間	五箇年間株間
一五一	一七	イノコロ	エノコロ
一五四	三	大湖眼には	大湖眼にて
一五四	九	粒黃色刺、毛の長	粒黃色刺毛の長
一五九	一	一粒重量 五四四•六	一立重量 五四四•六
一五九	六	重量 一三•〇二九穗	重量 一三•〇二九瓦
一六九	六	イノコロ	エノコロ
一八三	六	絶然の狀態	絶無の狀態
一八九	二	前年皆懇	前年皆無
一八八	一三	第一項鋤耕法	第一項耕鋤法
一八九	一	下種兒的と種する	下種兒的と稱する
一八九	一	播種期	播種器
一九九	四	撒獲（或ひは	撒獲
一九九	一六	土饗の成分により	土饗の成分は地方に依り
二〇三	一	粟◎栽培	粟の栽培
二〇八	二	アンペラ 三九枚	アンペラ 三〇枚
二〇八	一六	通行に便たる	便なる
二一四	一五	上部綠邊	上部綠邊
二一九	七	土三鋤頭	十三鋤頭
二二六	一三	鈀集—又の場圃	鈀集—又は場圃
二三〇	二三	鷺鷥樹	鷺鷥樹
二三一	一九	毛一 五六•一九一 五六•二〇	毛 五六•二〇
二三三	一	作況夏至 〇•〇八	〇•〇六
二三三	二	夏至 〇•〇八	〇•〇六
二三三	三	〃 〇•〇六	〇•〇七
二三三	四	作況の夏至 〇•〇六	〇•〇九
二三三	五	夏至 〇•〇七	〇•〇九
二三三	六	〃 〇•〇九	〇•〇八
二三三	七	〃 〇•〇九	〇•〇六
二三七	九	子實容量 〇•二六八	〇•六二八
二三七	一三	縄、錦	縄錦
二三〇	二	白河、八面城	白沙、八面城
二三一	六	八面城 二•四九九	一•四九九
二三三	三	收穫期 三•三六	一•三六
二三四	三	出穗期 八•二三	八•三
二三四	終	紅殼	御殼
二三九	七	黑粘 一•五二三	一•五二三
二三九	一三	縄緊 〇•五七一	〇•〇七一
二四〇	一七	叩根 三•二〇三	二•〇二〇
二四一	一	薄地租 一•九〇三	一•八〇三
二四一	五	牛尾把黃 二•〇三一	二•〇五一
二四三	二	收量及品質	收量及品質
二四七	四	稈重量 一四九•七八〇	一四九•〇七〇
二五〇	一〇	同深ろ三寸	同深さ三寸
二五四	三	子實容量 二•三七	二•三六
二五四	四	春一回耕	春期一回耕
二五四	一〇	八八•九八〇	八八•七七〇
二五九	一五	一•九四〇	• 一•九四七
二五六	一四	地方減耕試驗	地力減耗試驗
二六七	九	無燒酸區	無燐酸區
二六九	七	眠肥料區	無肥料區
二六九	七	八月三日	六月三日
二六九	八	同	同
二六九	九	八月四日	六月四日
二六九	一〇	八月二日	六月二日
二六九	一二	同	同
二七〇	一四	收量順位 二	一
二七〇	一五	三要素區 收量順位 一	二
二七九	一二	收量最も多し	最も少し
二八三	二	播種法壤土	播種法壤種
二八三	一三	發生浸喰に遭遇し	發生に遭遇し
二八三	一四	降溫の支持と	高溫の支持
二八四	二	前年期	前半期
二八九	四	穗長短少	穗長短小
二九〇	八	地代單價粟小洋銀 二•六八〇	二•六八〇
二九九	一三	天候順適	天候適順
二九九	七	種子代金 〇•二二八	〇•二三六
三〇六	一三	二人に付懷耙一臺	二人に付壤耙一臺
三〇六	一三	收穫期	收穫費
三〇七	一四	週 餘遲延	數日餘遲延
三〇九	一三	苦力一人懷耙	苦力一人壤耙
三一一	一六	收穫期	收穫費
三一七	終り	苦力二人に付懷耙	二人に付壤耙
三一一	終り	收穫期	收穫費
三一七	一〇	種實 五六•九〇〇	五六•九〇二
三二〇	一二	施方代	施肥代
三二三	六	黃苗寮里 子實收量 一•九八一	一•九七一
三二七	四	白穀 八•三	八•四
三二八	六	稍數量を減ぜり	稍收量を減
三二九	一三	夜盜虫の浸害	—の侵害
三四一	一三	大暑 一•〇三	一•〇五
三四三	一三	尖穗點	尖穗粘
三四四	一三	二百十日一米間莖數 三三•六	三三•六
三四九	一一	收量順位 三	三
三五〇	一三	搦要 懷耙	壤耙
三六〇	九	搦要 懷耙	壤耙
三六三	四	搦要 懷耙	壤耙
三六六	七	三寸區と六寸區	三寸區と七寸區
三七五	九	差引益反當 二•四四五	一•四四九
三七七	六	柔組織浸され	柔組織侵され
三七九	一三	押切てに細片	押切にて細片と爲し
三九二	一一	價額 二六•三二九	二六•三三三
三九四	七	一•四六〇	一•四六九
三九九	九	粗纖維 一六•八四三	二六•八四三
三九九	二	odigin culiuatec	origin cultivated
三九六	二	Songo	Sorgo

[illegible]の調査研究を記録せる

本編は滿洲粟に關する調査研究を記錄せるものにして滿洲農業上參考に資すべきもの尠なからずと信じ茲に之を刊行す

昭和五年七月

南滿洲鐵道株式會社
農事試驗場

序

粟は支那にては古來より五穀の一つに數へられ古き歷史を有し、學者によつては粟の原産地は支那なりと稱せられる。滿洲にあつては三主要作物の一にして年産額二千五百萬石内外と推算せられ子實は食糧たるの外黃酒の原料となり、莖稈は牛馬の缺くべからざる秣食なり。近年朝鮮に向け年額三百萬石以上の輸出があり、鮮人は自ら耕作せる高價なる水稻を賣却して安價にして嗜好に適せる滿洲粟を食糧とし其の差額を利しつゝあり卽ち間接に日本の食糧問題と深い關係を有す。

公主嶺農事試驗場にては開設以來着々之が試驗を施行し遂に一昨年來粟の品種改良試驗を開始するに至りたり。本書は當場に於ける試驗成績及熊岳城、鄭家屯、湯崗子等の各地にて粟に關し施行せられたる各種試驗成績を記載論評せるものなり。

筆者の淺學菲才を以つてして果して江湖の希望を滿たし參考の一助に資するを得るや疑問なき能はざるものあるも大方の御指導御叱正を仰ぎて他日之れを訂正する事とし斯業者に對

し聊なりとも參考となるを得ば望外の幸なり。

本書を編纂するに方り中本種藝科長其の他先輩同僚各位の多大なる御指導及び御援助を深く感謝する所なり。

昭和五年七月

公主嶺農事試驗場種藝科
村松　榮

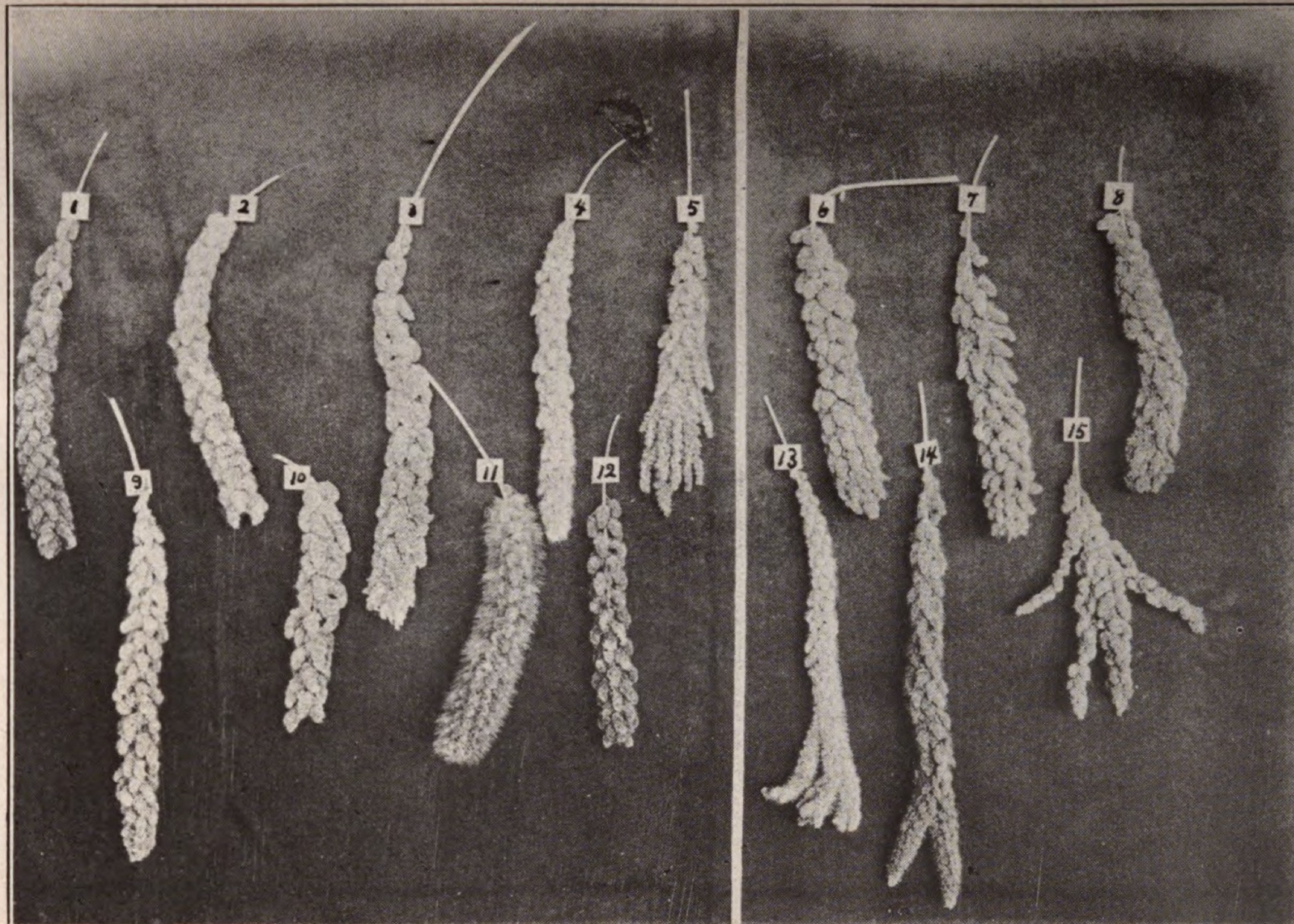
滿洲の粟　目次

以上



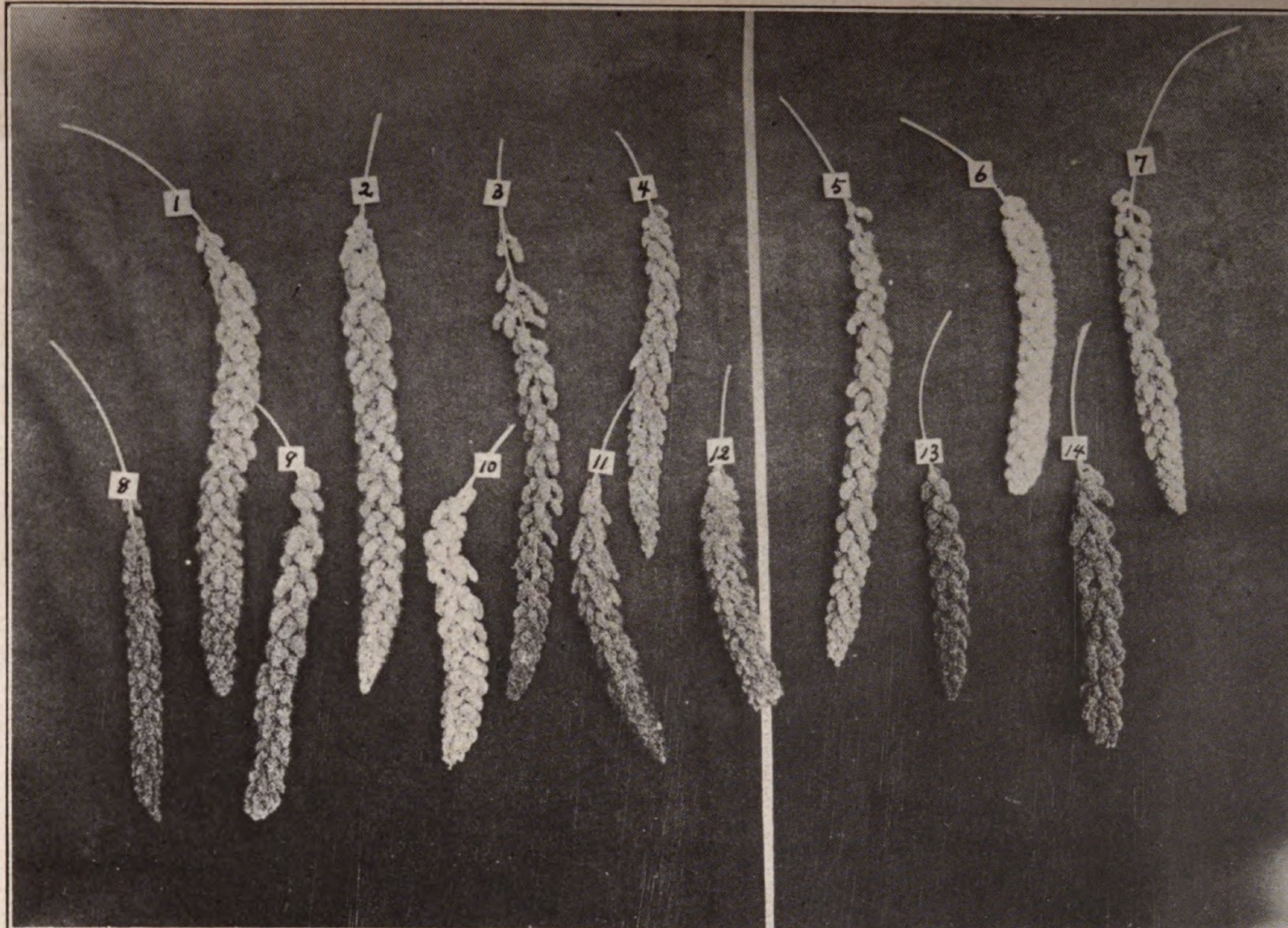
粟の收穫

粟の穂（其の一）



1. 長刀把齊　2. 高刀冒　3. 黄　毛　4. 小穂白　5. 刀把齊　6. 縄　緊　7. 黄　粘　8. 六十日
9. 昌圖三號　10. 龍鳳擋　11. 御　穀　12. 長春三號　13. 龍　爪　14. 鴨子嘴　15. 龍　角

粟の穗（其の二）



1. 薄地租　2. 新臺白　3. 北滿95號　4. 大粒黃　5. 狗尾谷子　6. 鴬鷺樹　7. 尖穗
8. 北滿103號　9. 高麗谷子B　10. 海南日　11. 長春一號　12. 紅穀　13. 紅粘　14. 黑粘


北京
直
37
39
天津
隷
省
115
117



北京
天津
直
隷
省
39
37
115
117

滿洲の粟

技術員　村松榮

第一章　粟の生產

第一節　滿洲に於ける粟の生產額

第一項　滿洲粟生產額推定

粟は高粱、大豆と共に滿洲に於ける三大主要作物にして大體に於て一年の產額二千萬石內外と推定せられて居る。

今最近三箇年間滿鐵調査課に於て推定せる粟の作付面積及產額を省縣別に示せば次の如し

第一表　滿洲に於ける粟の產額

奉天省（日本單位）

縣別＼項目	大正十三年 作付面積	大正十三年 收穫高	大正十四年 作付面積	大正十四年 收穫高	昭和元年 作付面積	昭和元年 收穫高
	反	石	反	石	反	石
瀋陽	一〇五、〇〇〇	一五七、五〇〇	二五五、六〇〇	三五七、八四〇	二五五、六〇〇	二七八、六〇四
撫順	一〇八、〇〇〇	一六二、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一五一、二〇〇	一〇八、〇〇〇	一一七、七二〇
遼陽	二四三、〇〇〇	三六四、五〇〇	一二〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	二二二、三六〇
海城	二〇三、〇〇〇	三〇四、五〇〇	二〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一六三、五〇〇
蓋平	九五、四〇〇	一四三、一〇〇	九四、三〇〇	一三二、〇二〇	一三、九〇〇	一四、〇六一
復	八二、八〇〇	一二四、二〇〇	一三六、八〇〇	一九一、五二〇	一三六、八〇〇	一四九、一一二
鐵嶺	一九五、〇〇〇	二九二、五〇〇	二三五、一〇〇	三六〇、一六〇	二三八、九〇〇	二一七、四五五
開原	一六九、三〇〇	二五三、九五〇	一七〇、三〇〇	二七二、四八〇	一七〇、三〇〇	一六一、七八五
遼中	四八、〇〇〇	七二、〇〇〇	四八、〇〇〇	六七、二〇〇	四八、〇〇〇	五二、三二〇
本溪	一二四、八〇〇	二七七、二〇〇	二四、〇〇〇	三三、六〇〇	二五、二〇〇	二七、四六八
法庫	一三、二〇〇	一九、八〇〇	二一七、二〇〇	三四七、五二〇	二一七、二〇〇	二〇六、三四〇
康平	一八〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一九二、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一一四、〇〇〇
錦	一〇八、〇〇〇	一六二、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一四〇、四〇〇	一〇八、〇〇〇	八五、三二〇
新民	一一六、四〇〇	一七四、六〇〇	六〇、〇〇〇	八四、〇〇〇	二一、〇〇〇	二二、八九〇
興城	一三八、八〇〇	二〇八、二〇〇	一五一、三〇〇	一九六、六九〇	一三二、七〇〇	一〇四、八三三

黒山	一五〇、〇〇〇	二三五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一一八、五〇〇
綏中	一一、八〇〇	一七、七〇〇	五四、〇〇〇	七〇、二〇〇	五四、〇〇〇	四二、六六〇
彰武	一一、八〇〇	一七、七〇〇	一一、八〇〇	一六、五二〇	一一、八〇〇	一三、八六二
北鎮	九〇、〇〇〇	一三五、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	二三四、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一四二、二〇〇
盤山	一三一、〇〇〇	一九六、五〇〇	一三一、〇〇〇	一七〇、三〇〇	一三一、〇〇〇	一〇三、四九〇
義	四〇六、八〇〇	六一〇、二〇〇	七八、〇〇〇	一〇一、四〇〇	七八、〇〇〇	六一、六二〇
錦西	一五〇、〇〇〇	二三五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一一八、五〇〇
營口	一七二、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一三、〇〇〇	一六八、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇八〇
鳳城	四五、〇〇〇	六七、五〇〇	二一、〇〇〇	二九、四〇〇	二一、〇〇〇	二三、八九〇
臺安	—	—	九、〇〇〇	一一、七〇〇	九、〇〇〇	七、一一〇
岫巖	五三、四〇〇	八〇、一〇〇	七三、八〇〇	一〇三、三一〇	七三、八〇〇	八〇、四四二
莊河	六〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一三〇、八〇〇
安東	四二、〇〇〇	六三、〇〇〇	一五、二〇〇	二一、二八〇	一、二〇〇	一、三〇八
寛甸	三三、〇〇〇	四九、五〇〇	二五、七〇〇	三五、九八〇	二五、七〇〇	二八、〇一三
興京	七九、五〇〇	一一九、二五〇	七九、五〇〇	一一一、三〇〇	七九、五〇〇	八六、六五五
通化	六七、八〇〇	一一五、二〇〇	四一、四〇〇	六六、二四〇	三〇、六〇〇	二九、〇七〇
桓仁	四九、八〇〇	七二、七〇〇	三五、〇〇〇	四九、〇〇〇	三五、〇〇〇	三八、一五〇
臨江	六、〇〇〇	九、〇〇〇	六、〇〇〇	九、六〇〇	六、〇〇〇	五、七〇〇
輯安	三〇、六〇〇	四五、九〇〇	三〇、六〇〇	四二、八四〇	三〇、六〇〇	三三、五五四

長白	一一、〇〇〇	一六、五〇〇	一一、〇〇〇	一三、一〇〇	一一、〇〇〇	九九〇
撫松	一五、〇〇〇	二三、五〇〇	一五、〇〇〇	一六、五〇〇	一五、〇〇〇	一三、五〇〇
金川	—	—	—	—	—	—
清原	—	—	—	—	—	—
膽榆	—	—	四八、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六五、六〇〇	七二、八一六
輝南	二四〇、〇〇〇	三八〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	三八、四〇〇	二四、〇〇〇	二三、八〇〇
安圖	一三、〇〇〇	一八、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、二〇〇	一二、〇〇〇	一〇、三〇〇
海龍	二一、〇〇〇	三一、五〇〇	一六、六〇〇	二六、五六〇	六〇、〇〇〇	五七、〇〇〇
東豐	三一六、四〇〇	四七四、六〇〇	三一六、四〇〇	五〇六、二四〇	二二四、六〇〇	二一三、三七〇
西豐	一四四、〇〇〇	二一六、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一九二、〇〇〇	一二八、五〇〇	一三二、〇七五
西安	一五三、〇〇〇	二三九、五〇〇	一五六、〇〇〇	二四九、六〇〇	一五六、〇〇〇	一四八、二〇〇
柳河	一四九、〇〇〇	七三、五〇〇	六〇、〇〇〇	九六、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	二五六、五〇〇
洮南	八九、一〇〇	一三三、六五〇	九二、二〇〇	一一五、二五〇	一二一、七〇〇	一三五、〇八七
遼源	九〇、〇〇〇	一三五、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一一三、五〇〇	三三、〇〇〇	三六、六三〇
洮安	一〇三、二〇〇	一五四、八〇〇	一三二、〇〇〇	一六五、〇〇〇	一三二、〇〇〇	一四六、五二〇
開通	六三、七〇〇	九五、五五〇	三〇〇、〇〇〇	三七五、〇〇〇	六五、七〇〇	七二、九二九
通遼	—	—	九六、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	四二三、〇〇〇	四六九、五三〇
鎮東	四九、〇〇〇	七三、五〇〇	三二、二〇〇	四〇、二五〇	六、〇〇〇	六、六六〇
安廣	三七、四〇〇	五六、一〇〇	七一、三〇〇	八九、一二五	一四二、六〇〇	一五八、二八六

縣別＼項目	昭和二年 作付面積	昭和二年 收穫高	昭和三年 作付面積	昭和三年 收穫高	平均 作付面積	平均 收穫高
	反	石	反	石	反	石
突泉	五五、一〇〇	八二、六五〇	三三、六〇〇	四二、〇〇〇	五三、七〇〇	五九、六〇七
昌圖	三三七、一〇〇	五〇二、六五〇	三六〇、〇〇〇	五七六、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	三四二、〇〇〇
懐徳	二四〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二八五、〇〇〇
梨樹	二六〇、八〇〇	三九一、二〇〇	二七五、〇〇〇	四四〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二八五、〇〇〇
雙山	三一、八〇〇	二七〇、〇〇〇	五一、〇〇〇	六三、七五〇	五一、〇〇〇	五六、六一〇
計	五、七三九、八〇〇	八、九四九、五〇〇	五、八七九、九〇〇	八、六〇三、一八五	六、〇九三、二〇〇	五、九八五、七八〇
瀋陽	三七五、八〇〇	五九七、五三三	三一四、五三〇	三三三、九六六	二六一、三〇六	三四三、〇八六
撫順	一一八、八〇〇	一八八、八九二	一一八、八〇〇	一三三、三六四	一一三、三三〇	一四八、四三五
遼陽	三五四、〇〇〇	五六二、八六〇	三八九、〇〇〇	四〇〇、六七〇	二六二、〇〇〇	三四三、六七八
海城	一八〇、〇〇〇	二八六、二〇〇	一八七、二〇〇	一九、三八二	一八四、〇四〇	二一〇、六九六
蓋平	一七、八〇〇	二八、三〇三	一九、五八〇	二〇、一六七	四七、九九六	六七、五三〇
復	八〇、〇〇〇	一二七、二〇〇	八〇、〇〇〇	八二、四〇〇	一〇三、二八〇	一一一、九九〇
鐵嶺	二二九、五〇〇	三六二、六一〇	二二九、五二〇	二三六、四〇六	二二一、六〇四	二九三、八一六
開原	一九八、〇〇〇	三一二、八四〇	一九八、〇〇〇	二〇三、九四〇	一八二、一八〇	二四〇、七九九
遼中	四八、〇〇〇	七六、三三〇	四八、〇〇〇	四九、四四〇	四八、〇〇〇	六三、四五六
本溪	二五、二〇〇	四〇、〇六八	二四、〇〇〇	二四、七二〇	四四、六四〇	八〇、六一〇

法庫	二三四,五〇〇	三五四,七一〇	二四〇,二〇〇	二四七,四〇六	一八二,四六〇	二三五,一五五
康平	一三〇,〇〇〇	一八九,六〇〇	一三三,〇〇〇	一三五,九六〇	一三四,四〇〇	一八〇,三二三
錦	一〇八,〇〇〇	一四〇,四〇〇	六八,〇〇〇	六一,六〇八	一〇〇,〇〇〇	一一七,九四六
新民	三一,〇〇〇	四九,二九〇	二四,〇〇〇	二四,七二〇	五〇,四八〇	七一,一〇〇
興城	七〇,三〇〇	九一,三九〇	七〇,三〇〇	六三,六九三	一一三,六八〇	一三三,九六二
黒山	一三五,九〇〇	一七六,六七〇	一三五,九〇〇	一三三,一二五	一四四,三六〇	一六七,六五九
綏中	六〇,〇〇〇	七八,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五四,三六〇	四七,九六〇	五二,五八四
彰武	一一,八〇〇	一八,七六三	二三,三〇〇	二三,九九九	一四,一〇〇	一七,九六九
北鎮	一八〇,〇〇〇	二三四,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	一六三,〇八〇	一六二,〇〇〇	一八一,六五六
盤山	一三一,〇〇〇	一七〇,三〇〇	一三一,〇〇〇	一一八,八六〇	一三一,〇〇〇	一五一,八九〇
義	七八,〇〇〇	一〇一,四〇〇	五四,〇〇〇	四八,九二四	一三八,九六〇	一八四,七〇九
錦西	一五〇,〇〇〇	一九五,〇〇〇	九五,〇〇〇	八六,〇七〇	一三九,〇〇〇	一六三,九一四
營口	一五,〇〇〇	二三,八五〇	一五,〇〇〇	一五,四五〇	二五,二〇〇	六五,六七六
鳳城	八三,八〇〇	一三一,六五二	七四,一〇〇	七六,三三三	四八,七八〇	六五,五五三
臺安	一五,〇〇〇	六,五〇〇	四,五〇〇	四,〇七七	六八,七五〇	七三,四六七
岫巖	七五,六〇〇	一三〇,二〇四	七五,六〇〇	七七,八六八	七〇,四四〇	九二,一八七
莊河	一三〇,〇〇〇	一九〇,八〇〇	一三〇,〇〇〇	一三三,六〇〇	一〇八,〇〇〇	一四〇,六四〇
安東	三九,〇〇〇	六三,〇一〇	一,二七〇	一,三〇八	一三,七一四	二九,七八一
寛甸	五五,二〇〇	八七,七六八	五〇,〇〇〇	五一,五〇〇	三七,九二〇	五〇,五五三

興京	五八、四〇〇	九二、八五六	五八、四〇〇	六〇、一五二	七一、〇五〇	九四、〇四三
通化	三三、〇〇〇	五三、一四〇	三三、〇〇〇	三三、九九〇	四一、一六〇	五九、三三八
桓仁	二五、八〇〇	四一、〇三三	二五、八〇〇	二六、五七四	三四、二八〇	四五、四八九
臨江	六、〇〇〇	九、四八〇	二七、〇〇〇	二七、八一〇	一〇、二〇〇	一三、三一八
輯安	三〇、六〇〇	四八、六五四	三〇、六〇〇	三一、五一八	三〇、六〇〇	四〇、四九三
長白	一一、〇〇〇	一三、一〇〇	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	一〇、五三八
撫松	一五、〇〇〇	一六、五〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一六、八〇〇
金川	—	—	二四、〇〇〇	二四、七二〇	—	—
清原	—	—	一五、〇〇〇	一五、四五〇	—	—
膽楡	七〇、〇〇〇	九一、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四八、四二〇	六〇、九〇〇	六八、〇五九
輝南	三七、九二〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、七二〇	六九、九八四	一九七、九八四
安圖	一三、〇〇〇	一三、二〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、三四〇
海龍	六〇、〇〇〇	九四、八〇〇	五八、八〇〇	六〇、五六四	四三、二八〇	五四、〇八五
東豐	一三九、三〇〇	二〇四、三九四	一三九、三〇〇	一三三、一七九	二三三、二〇〇	三〇六、三三七
西豐	一六八、〇〇〇	二五六、四四〇	一三五、〇〇〇	一三九、〇五〇	一三九、一〇〇	一八五、一一三
西安	三〇六、〇〇〇	四八三、四八〇	二六〇、二〇〇	二六八、〇〇六	二〇六、二四〇	二七五、七五七
柳河	二九七、〇〇〇	四六九、二六〇	二九七、〇〇〇	三〇五、九一〇	一九四、六〇〇	二四〇、二三四
洮南	一三一、〇〇〇	一七〇、三〇〇	一四二、〇〇〇	一一四、五九四	一一五、二〇〇	一三三、七七六
遼源	八六、四〇〇	一一三、三二〇	一〇三、六八〇	八三、六七〇	八〇、六一六	九六、〇二四

洮安	一五四,〇〇〇	二〇〇,二〇〇	一五四,〇〇〇	二二四,二七八	一三五,〇四〇	一五八,一六〇
開通	七〇,〇〇〇	九一,〇〇〇	六五,〇〇〇	五二,四五五	一一三,八八〇	一三七,三八六
通遼	二八八,〇〇〇	三七四,四〇〇	二八八,〇〇〇	二三一,四一六	二七三,七五〇	二九九,〇八七
鎭東	八六,四〇〇	一一一,八〇〇	九五,一〇〇	七六,七四六	五三,七四〇	六一,七九一
安廣	一五六,五〇〇	二〇三,四五〇	二五〇,〇〇〇	二〇一,七五〇	一三一,五六〇	一四一,七四三
突泉	五六,七〇〇	七三,七一〇	六〇,〇〇〇	四八,四二〇	五一,八二〇	六一,二七七
昌圖	四五六,四〇〇	七二一,一一二	四五〇,一八〇	四六三,六八三	三九二,七四〇	五二一,〇八九
懷德	三四三,二〇〇	五四二,二五六	三四三,二〇〇	三五三,四九六	三〇五,二八〇	四〇四,一五〇
梨樹	一八〇,〇〇〇	二八四,四〇〇	七四,〇〇〇	七六,二二〇	二一七,九六〇	二九五,三六〇
雙山	三六,一〇〇	四六,九三〇	三六,〇〇〇	二九,〇五二	四一,一八〇	九三,二六八
計	六,六二四,四二〇	九,八四六,二三四	六,四四〇,〇六〇	六,〇八〇,一二九	六,二六九,九四〇	八,〇〇三,八四八

吉林省

項目／縣別	大正十三年 作付面積	大正十三年 收穫高	大正十四年 作付面積	大正十四年 收穫高	昭和元年 作付面積	昭和元年 收穫高
	反	石	反	石	反	石
延吉	一六七,二〇〇	二三四,〇八〇	三五九,一〇〇	三九五,〇一〇	三六〇,〇〇〇	三六〇,〇〇〇
寧安	二四四,八〇〇	三四二,七二〇	二一六,〇〇〇	二八〇,八〇〇	二一六,〇〇〇	二五四,八八〇
東寧	五四,〇〇〇	七六,六〇〇	五一,二〇〇	六六,五六〇	五一,八〇〇	六一,一二四

琿春	三六,九〇〇	五一,六〇〇	七五,六〇〇	八三,一六〇	七五,六〇〇	七五,六〇〇
敦化	八六,四〇〇	一三〇,九六〇	六一,二〇〇	六七,一〇〇	六一,二〇〇	六一,二〇〇
穆稜	五〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	三八,二〇〇	四九,六六〇	三八,二〇〇	四五,〇七六
額穆	八六,四〇〇	一三〇,九六〇	七二,四〇〇	一〇四,九八〇	七二,四〇〇	六二,二六四
汪清	—	—	八〇,七〇〇	八八,七七〇	八〇,七〇〇	八〇,七〇〇
和龍	三六,八〇〇	五一,五二〇	二八八,〇〇〇	三一六,八〇〇	二八八,〇〇〇	二八八,〇〇〇
吉林	三六七,二〇〇	五一四,〇八〇	五七七,四〇〇	八三七,二三〇	五七七,四〇〇	四九七,一四一
長春	三七四,四〇〇	五二四,一六〇	二六四,四〇〇	五二八,三八〇	三六四,四〇〇	三一三,七四八
伊通	三五五,八〇〇	四九八,一二〇	五一八,四〇〇	八二九,四四〇	五三五,六〇〇	五〇八,八二一
濛江	四一,〇〇〇	五七,四〇〇	三七,〇〇〇	五九,二〇〇	三,六〇〇	三,四二〇
勃利	—	—	六,五〇〇	八,四五〇	六,五〇〇	七,六七〇
乾安	—	—	—	—	—	—
農安	五〇三,九〇〇	七〇五,四六〇	五八六,一〇〇	八四九,八四五	六五五,二〇〇	五六四,一二七
長嶺	三一九,二〇〇	四四六,八八〇	三四五,四〇〇	四三一,七五〇	二八五,七〇〇	三一七,一二七
樺甸	五八,〇〇〇	八一,二〇〇	三二四,〇〇〇	五一八,四〇〇	三二四,〇〇〇	三〇七,八〇〇
盤石	一二三,四〇〇	一七一,三六〇	一二三,四〇〇	一九五,八四〇	一二三,四〇〇	一一六,二八〇
舒蘭	—	—	五九,〇〇〇	八五,五五〇	五九,〇〇〇	五〇,七四〇
德惠	三三五,六〇〇	四六九,八四〇	三三四,八〇〇	四八五,四六〇	三三四,八〇〇	二八八,二六三
雙陽	二一〇,〇〇〇	二九四,〇〇〇	二一〇,〇〇〇	三〇四,五〇〇	二八八,〇〇〇	二四七,九六八

依蘭	七,二〇〇	一〇,〇八〇	二八,二〇〇	三六,六六〇	一三,八〇〇	一六,二八四
同江	三六,〇〇〇	五〇,四〇〇	二〇,六〇〇	二六,七八〇	二〇,六〇〇	二四,三〇八
密山	二一,六〇〇	三〇,二四〇	五七,六〇〇	七四,八八〇	五七,六〇〇	六七,九六八
寶清	六,二〇〇	八,六八〇	五,〇〇〇	六,五〇〇	五,〇〇〇	五,九〇〇
虎林	—	—	二,二〇〇	二,八六〇	二,二〇〇	二,五九六
綏遠	—	—	二,二〇〇	三,六四〇	二,八〇〇	三,三〇四
方正	三二一,〇〇〇	三〇九,四〇〇	四六,八〇〇	六〇,八四〇	四六,八〇〇	五五,二二四
富錦	四一,〇〇〇	五七,四〇〇	三六,〇〇〇	四六,八〇〇	三六,〇〇〇	四二,四八〇
饒河	—	—	五,八〇〇	七,五四〇	五,八〇〇	六,八四四
樺川	五,〇〇〇	七,〇〇〇	二一六,〇〇〇	二八〇,八〇〇	二一六,〇〇〇	二五四,八八〇
扶餘	四三三,〇〇〇	六〇四,八〇〇	四三二,〇〇〇	六二六,四〇〇	四三二,〇〇〇	三七一,九五二
雙城	六五五,二〇〇	八三七,二八〇	七五六,〇〇〇	一,〇九六,二〇〇	七七〇,四〇〇	六六三,三一四
賓	三七五,〇〇〇	五二五,〇〇〇	二五二,〇〇〇	三二七,六〇〇	四五三,六〇〇	五三五,二四八
五常	二一六,〇〇〇	三〇二,四〇〇	一六五,六〇〇	二四〇,一二〇	一六五,六〇〇	一四二,四一六
楡樹	七九二,〇〇〇	一,一〇八,八〇〇	三六〇,〇〇〇	五三二,〇〇〇	三六〇,〇〇〇	三〇九,九六〇
濱江	六二,九〇〇	八八,〇八〇	一三五,七〇〇	一七六,四一〇	一三五,七〇〇	一六〇,二二六
珠河	—	—	—	—	—	—
同濱	一一五,二〇〇	一六一,二八〇	一四四,〇〇〇	一八七,二〇〇	一四四,〇〇〇	一六九,九二〇
阿城	三〇三,四〇〇	四二三,三六〇	三七四,四〇〇	四八六,七二〇	三六七,二〇〇	四三三,二九六

縣別＼項目	昭和二年 作付面積	昭和二年 收穫高	昭和三年 作付面積	昭和三年 收穫高	平均 作付面積	平均 收穫高
葦沙河	—	—	—	—	—	—
計	六、七三八、七〇〇	九、四二七、一二〇	七、六六七、九〇〇	一〇、七九六、八三五	八、〇三七、六〇〇	七、六七七、九六八
延吉	反 三五九、一〇〇	石 三九五、〇一〇	反 三七九、一〇〇	石 三七九、一〇〇	反 三二四、九〇〇	石 三五二、六四〇
寧安	二八三、五〇〇	三四五、八七〇	二七六、四〇〇	三二二、三三三	二四七、五四〇	三〇七、三二〇
東寧	三二、五〇〇	三八、四三〇	六三、四七〇	七一、七二一	五〇、三九四	六二、八八七
琿春	九一、四〇〇	一〇〇、五四〇	四三、四六〇	四三、四六〇	六四、五九二	七〇、八七二
敦化	五五、六〇〇	六一、一六〇	九九、七九〇	九九、七九〇	七三、八三八	八二、〇四二
穆稜	二三、六〇〇	二八、七九三	二八、八二〇	三三、五六七	三五、七六四	四五、二一九
額穆	三七、〇〇〇	四八、一〇〇	三七、〇〇〇	三七、三七〇	六一、〇四〇	七四、七二一
汪清	四一、八〇〇	四五、一〇〇	八二、六四〇	八二、六四〇	七一、四六〇	七四、三〇三
和龍	一四四、〇〇〇	一五八、四〇〇	一三二、一三〇	一三二、一三〇	一七七、七八六	一八九、三七〇
吉林	七〇四、三〇〇	九一五、五九〇	七〇四、三〇〇	七一一、三四三	五八六、一二〇	六九五、〇七七
長春	三七四、四〇〇	四八六、七二〇	三七四、四〇〇	三七八、一四四	三五〇、四〇〇	四四六、二三〇
伊通	五二五、六〇〇	八三〇、四四八	五二五、六〇〇	五四一、三六八	四九二、二〇〇	六四一、六三九
濛江	三、六〇〇	五、六八八	三、六〇〇	三、七〇八	一七、七六〇	二五、八八三
勃利	五五、四〇〇	六八、一四[illegible]	三五、六五〇	三八、一四六	二六、〇一三	三〇、六〇二

乾安	—	—	四三、二〇〇	四三、六三三	—	—
農安	四六八、〇〇〇	六〇八、四〇〇	四五三、六〇〇	四五八、一三六	五三三、三六〇	六三七、一九四
長嶺	二八七、九〇〇	三七四、二七〇	二八七、八六〇	三三二、三〇三	三〇五、二一二	三六〇、四六六
樺甸	三二四、〇〇〇	五二、九二〇	三二四、〇〇〇	三三三、七二〇	二七〇、八〇〇	三五〇、六〇八
盤石	五七、六〇〇	九一、〇〇八	五七、六〇〇	五九、三三八	九六、四八〇	一二六、七六三
舒蘭	二八八、〇〇〇	三七四、四〇〇	二九五、二〇〇	二九八、一五二	一七五、三〇〇	二〇三、三一一
徳惠	三二六、八〇〇	四二一、八四〇	二八五、二六〇	二八八、一一三	三二一、四五四	三六八、七五三
雙陽	二六八、九〇〇	三四九、五七〇	二一八、〇〇〇	二三〇、一八〇	二三八、九八〇	二八三、二四四
依蘭	九四、〇〇〇	一一五、六二〇	一〇六、〇五〇	一一三、四七四	四九、八五〇	五八、四二四
同江	三〇、一〇〇	三七、〇二三	一八、〇七〇	一九、三三五	二五、〇七四	三一、五六九
密山	七九、五〇〇	九六、九九〇	三七、四八〇	四二、三五二	五〇、七五六	六二、四八六
寶清	三〇、五〇〇	三七、五一五	六〇、四五〇	六四、六八二	二一、四三〇	二四、六五五
虎林	一三、三〇〇	一六、三五九	二三、〇三〇	二四、六三一	一〇、一八〇	一一、六一二
綏遠	六、二〇〇	七、六二六	五、五二〇	五八、五五七	四、一七七	一八、二八二
方正	一〇九、三〇〇	一三四、四三九	一四三、四八〇	一五三、五二四	一一三、四七六	一四三、六八五
富錦	四四、七〇〇	五四、九八一	二八、二一〇	三〇、一八五	三七、一八二	四六、三六九
饒河	五、二〇〇	六、三九六	四、九五〇	五、二九七	五四、三七五	六五、一九三
樺川	一四七、九〇〇	一八一、九一七	二七一、四四〇	二九〇、四四一	一七一、二六八	二〇三、〇〇八
扶餘	五〇三、二〇〇	六五四、一六〇	五二一、五一〇	五二六、七二五	四六四、一四二	五五六、八〇七

縣別＼項目	大正十三年 作付面積	大正十三年 收穫高	大正十四年 作付面積	大正十四年 收穫高	昭和元年 作付面積	昭和元年 收穫高
雙城	六九二、五〇〇	九〇〇、二五〇	七三二、六八〇	七四〇、〇〇七	七二一、三五六	八四七、四一〇
賓	二四九、四〇〇	三〇六、七六二	二八八、三八〇	三〇八、五六七	三三三、六七六	四〇〇、六三五
五常	二九八、一〇〇	三八七、五三〇	二九六、〇一〇	二九八、九七〇	二三八、二六二	二七四、二八七
楡樹	六二四、四〇〇	八一一、七二〇	四五四、二六〇	四五八、八〇三	五一八、一三三	六四二、二五七
濱江	六〇、五〇〇	一四八、八四〇	七五、六八〇	八五、五一八	九四、〇九六	一三一、七九一
珠河	九七、六〇〇	一一九、〇七二	一九六、七一〇	二三二、二八二	—	—
同濱	一六五、〇〇〇	二〇一、三〇〇	二三四、八八〇	二五四、一一四	一五八、六一六	一九四、七六三
阿城	二八四、三〇〇	三四六、八四六	四〇〇、一六〇	四五二、一八一	一四七、一五五	一七〇、六七七
葦沙河	四六、〇〇〇	五六、一二〇	四八、九一〇	五五、二六八	四七、四五五	五五、六九四
計	八、三三三、八〇〇	一〇、八七〇、八六七	八、二九七、一二〇	九、一七六、二九七	七、六七一、〇五一	九、三八六、六五〇

黒龍江省

縣別＼項目	大正十三年 作付面積	大正十三年 收穫高	大正十四年 作付面積	大正十四年 收穫高	昭和元年 作付面積	昭和元年 收穫高
	反	石	反	石	反	石
龍江	五四、〇〇〇	五四、〇〇〇	一二〇、六〇〇	一六八、八四〇	一二〇、六〇〇	一四三、五一四
大賚	二五九、二〇〇	二五九、二〇〇	二五二、〇〇〇	三五二、八〇〇	七二、〇〇〇	八五、六八〇
肇州	二七六、四〇〇	二七六、四〇〇	三六〇、〇〇〇	五〇四、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	四二八、四〇〇
安達	一三、七〇〇	一三、七〇〇	五七、六〇〇	八〇、六四〇	一六四、五〇〇	一九五、七五五

呼蘭	三六〇、〇〇〇	四六八、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	五〇四、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	四二八、四〇〇
巴彥	三六〇、〇〇〇	四六八、〇〇〇	四三二、〇〇〇	六〇四、八〇〇	四三二、〇〇〇	五一四、〇八〇
蘭西	七四一、六〇〇	七四一、六〇〇	五五四、四〇〇	七七六、一六〇	五五四、四〇〇	六五九、七三六
依安	—	—	—	—	—	—
明水	—	—	—	—	—	—
木蘭	一〇六、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	三三、八〇〇	四七、三二〇	三三、八〇〇	四〇、二二二
綏化	三六〇、〇〇〇	四六八、〇〇〇	三九六、〇〇〇	五五四、四〇〇	三九六、〇〇〇	四七一、二四〇
慶城	一〇八、〇〇〇	一四〇、四〇〇	一四四、〇〇〇	二〇一、六〇〇	八〇、六〇〇	九五、九一四
海倫	四三二、〇〇〇	五七一、六〇〇	二三七、六〇〇	三三二、六四〇	二三七、六〇〇	二八二、七四四
青岡	四二九、二〇〇	四二九、二〇〇	六二六、四〇〇	八七六、九六〇	一五四、九〇〇	一八四、三三一
拜泉	二八四、六〇〇	二八四、六〇〇	二四一、九〇〇	三三八、六六〇	二六二、四〇〇	三一二、三五六
訥河	一四四、二〇〇	一四四、二〇〇	一四四、〇〇〇	二〇一、六〇〇	一三五、六〇〇	一六一、三六四
龍鎭	三一、九〇〇	三一、〇〇〇	三六、九〇〇	五一、六六〇	三六、九〇〇	四三、九一一
嫩江	五〇、四〇〇	五〇、四〇〇	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇
璦琿	三七、二〇〇	三七、二〇〇	三七、二〇〇	三七、二〇〇	三七、二〇〇	三七、二〇〇
通河	二五、二〇〇	二五、二〇〇	二八、八〇〇	四〇、三二〇	二八、八〇〇	二八、八〇〇
湯原	一四、一〇〇	一四、一〇〇	一四、一〇〇	一四、一〇〇	一四、一〇〇	一四、一〇〇
通北	二五、二〇〇	二五、二〇〇	一九、九〇〇	二七、八六〇	一九、九〇〇	二三、六八一
臚濱	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

縣別＼項目	昭和二年 作付面積	昭和二年 收穫高	昭和三年 作付面積	昭和三年 收穫高	平均 作付面積	平均 收穫高
綏稜	五四、〇〇〇	五四、〇〇〇	五四、〇〇〇	七五、六〇〇	五四、〇〇〇	六四、二六〇
肇東	四八一、〇〇〇	四八一、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	五〇四、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	四二八、四〇〇
克山	二五一、一〇〇	三三六、四三〇	一七七、一〇〇	二四七、九四〇	二六四、五〇〇	三一四、八七四
泰來	二一六、〇〇〇	二八〇、八〇〇	一八〇、〇〇〇	二五二、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	二一四、二〇〇
林甸	八二、八〇〇	一〇七、六四〇	一〇八、〇〇〇	一五一、二〇〇	一三九、一〇〇	一六五、五二九
景星鎭設治	九、六〇〇	一三、四八〇	四六、八〇〇	六五、五二〇	四六、八〇〇	五五、六九二
布西特哈設治	四、五〇〇	五、八五〇	一五、一〇〇	一五、一〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇
望奎	二八〇、八〇〇	二八〇、八〇〇	二八〇、八〇〇	三一三、一二〇	二八〇、八〇〇	三三四、一五二
鐵驪設治	六、五〇〇	六、五〇〇	六、二〇〇	八、六八〇	六、二〇〇	七、三七八
蘿北	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	—	—
漠河	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	—	—
烏雲設治	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	—	—
呼倫	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	—	—
計	五、五一九、九〇〇	六、一八四、二〇〇	五、三七七、一〇〇	七、四二〇、四二〇	四、八八八、七〇〇	五、七九一、八一三
三省合計	一七、九九八、四〇〇	二四、五六〇、八二〇	一八、九二四、九〇〇	二六、八二〇、四四〇	一九、〇一九、五〇〇	一九、四五五、五六一

縣別＼項目	昭和二年 作付面積	昭和二年 收穫高	昭和三年 作付面積	昭和三年 收穫高	平均 作付面積	平均 收穫高
龍江	反 二六一、三〇〇	石 三七八、八八五	反 二六九、九二〇	石 二九六、九一三	反 一六五、二八四	石 二〇八、四三〇

大賚	二六八、二〇〇	三八八、八九〇	二四四、八〇〇	二六九、二八〇	二一九、二四〇	二七二、一七〇
肇州	五三九、九〇〇	七六八、三五五	三八一、七七〇	四一九、九四七	三八一、六一四	四七九、四二〇
安達	一〇四、〇〇〇	一五〇、八〇〇	一三六、二三〇	一四九、八五三	九五、二〇六	一一八、一五〇
呼蘭	四一九、八〇〇	六〇四、五一二	五二六、七七〇	五六三、六四四	四〇五、三一四	五一三、七一一
巴彦	二五八、〇〇〇	三一七、三四〇	三一七、一三〇	三三九、三一八	三五九、八二四	四四八、七〇八
蘭西	一八三、六〇〇	二六六、二三〇	三三三、六二〇	三六六、九八二	四七三、五二四	五六二、一三九
依安	一〇〇、八〇〇	一四六、一六〇	一三九、二八〇	一四三、二〇八	一一五、〇四〇	一四四、一八四
明水	一八九、〇〇〇	二七四、一〇〇	二一二、七一〇	二三三、九八一	八〇、三四二	一〇一、六一六
木蘭	一一三、四〇〇	一三九、四八二	一九八、六八〇	二一三、五八八	九七、一三六	一〇九、一三三
綏化	四二六、〇〇〇	六一三、四四〇	三四九、三四〇	三七三、七九四	三八五、四六八	四九六、一七五
慶城	一〇三、一〇〇	一四八、四六四	八六、八四〇	九二、九一九	一〇四、五〇八	一三五、八五九
海倫	四一七、三〇〇	六〇〇、九一二	三六七、一七〇	三九二、八七二	三三八、三三四	四三六、一五四
青岡	二五二、〇〇〇	三六五、四〇〇	三二三、一二〇	三五五、四三二	三五七、一二四	四四二、二六五
拜泉	一五一、〇〇〇	二一八、九五〇	四二九、〇二〇	四七一、九二二	二七三、七八四	三三五、二七八
訥河	一九八、〇〇〇	二八七、一〇〇	二三五、二三〇	二五八、七五三	一七一、四〇六	二一〇、六〇三
龍鎭	九〇、七〇〇	一三〇、六〇八	二四、五六〇	二六、二七九	四四、一九二	五六、六九二
嫩江	四八、六〇〇	七〇、四七〇	六四、二四〇	七〇、六六四	四五、〇四八	五〇、七〇七
璦琿	九、五〇〇	八、五五〇	九、六六〇	一〇、一四三	二六、一五二	二六、〇五九
通河	五八、四〇〇	七二、八三二	七八、三〇〇	八三、七八一	四三、九〇〇	四九、九三七

湯原	四九、二〇〇	六〇、五一六	一五九、〇四〇	一七〇、一七三	五〇、一八〇	五四、五九八
通北	六〇、八〇〇	八七、五五二	九〇、五六〇	九六、八九九	四三、二七二	五二、三三八
臚濱	一六、九〇〇	一五、二一〇	六、二五〇	六、五六三	一〇、六三〇	一〇、三五五
綏稜	三七、八〇〇	一八四、〇三二	三七、二三〇	一三六、一三六	八三、四〇六	一〇三、八〇五
肇東	二五八、〇〇〇	三七四、一〇〇	二四八、四五〇	二七三、二九五	三四一、四九〇	四一三、一五九
克山	二六三、一〇〇	三八〇、〇四五	四六五、三三〇	五一一、八六三	二八四、〇二六	三五六、二三四
泰來	一八九、二〇〇	二七四、三四〇	二九四、七三〇	三二四、二〇三	二一一、九八六	二六九、一〇九
林甸	二三〇、一〇〇	三一九、一四五	一五三、八八〇	一六九、二六八	一四〇、七七六	一八三、五五六
最星鎮設治	九〇、七〇〇	一三一、五一五	七一、四八〇	七八、六二八	五三、〇七六	六八、七六七
布西特哈設治	三七、八〇〇	五四、八一〇	一四、二〇〇	一五、六二〇	一七、三三〇	二二、二七六
望奎	三一七、二〇〇	四五六、七六八	三一〇、九三〇	三三二、六九五	二九四、一〇六	三四三、五〇七
鐵驪設治	二三、三〇〇	三三、五五二	三四、一一〇	三六、四九八	一五、二六二	一八、五一六
蘿北	一、一〇〇	一、〇八〇	一、一三〇	一、一八七	一五、三二五	一五、一六八
漢河	三〇〇	二七〇	八〇	八四	一、四五〇	一、三八五
烏雲設治	六〇〇	五四〇	六四〇	六七二	六六〇	六五三
呼倫	—	—	八、五九〇	九、〇二〇	八、一九六	八、三四〇
計	五、八三三、八〇〇	八、三三三、九四五	六、七〇五、〇一〇	七、二九四、〇七八	五、七五三、六〇二	七、一〇四、〇五四
三省合計	二〇、七八一、〇一〇	二九、〇四一、〇三六	二一、四四三、一九〇	二三、五五〇、五〇四	一九、六九四、五九三	二四、四九三、五五二

以上最近五箇年間平均の各省別に其の作付面積及產額を一表にして見れば次の如し。

省別	作付面積	年産額	反當收量
奉天省	六、二六九、九四〇反	八、〇〇二、八四八石	一・二七六石
吉林省	七、六七一、〇五一	九、三八六、六五〇	一・二二四
黑龍江省	五、七五三、六〇二	七、一〇四、〇五四	一・二三五
計	一九、六九四、五九三	二四、四九三、五五二	一・二四四

以上の如く五箇年間の平均收量二千四百四十九萬三千五百五十二石なり、然れど其の各省に於ける反當收量は奉天省の一石二斗七升、吉林省の一石二斗二升、黑龍江省の一石二斗三升となり、奉天省にては少な過ぎ黑龍江省にては多過ぎる點あれば今之れを奉天省一石四斗、吉林省一石三斗、黑龍江省一石一斗として上述の作付面積に乘ずれば次の如くなる。

省別	年産額	一反歩當收量
奉天省	八、七七七、九一六石	一・四〇〇石
吉林省	九、九七二、三六六	一・三〇〇
黑龍江省	六、三二八、九六二	一・一〇〇
合計	二五、〇七九、二四四	一・二六七

即東三省に於ける粟の年産額は大約二千五百萬石と推定して可なり、然してこれは最近五箇

年の平均產額なれば其の年々の豐凶によりて增減あるは勿論なり。

次に東三省の各縣の內より五箇年平均にて年產額三十萬石以上ある縣名を記すれば次の如し。

奉天省　瀋陽、遼陽、東豐、昌圖、懷德……………………………………五縣
吉林省　樺甸、德惠、扶餘、雙城、賓、楡樹、延吉、寧安、吉林、長春、伊通、農安、長嶺…………十三縣
黑龍江省　肇州、呼蘭、巴彥、蘭西、綏化、海倫、青岡、拜泉、肇東、克山、望奎……………十一縣

以上圖示せる如く粟の主產地は吉林省の西南部即東支南部線地方と奉天省に於ては奉天以北地方、黑龍江省にては東支西部線地方なり。

第二節　支那に於ける粟の生產額

支那に於ける粟の生產を今中華民國農商部の編纂になる農商統計表に依つて示せば次の如し。

年度別作付面積及收穫高　（支那單位）

年次	作付面積	收穫高	畝當收穫高
民國六年	畝 一七五、二一九、七二一	石 四四五、九七八、一一二	石 五・九二九
同　七年	一七九、三〇五、〇〇四	一七六、七二七、六二三	〇・九八六

民國八年	一七三、〇八七、三〇二	一九四、〇九二、二五五	一・一二一
同 九年	一六六、九六三、三七八	一三九、二七九、四〇〇	〇・八三四

民國十年以後は發表なし。

次に省別に作付面積及收穫高を示せば次表の如し。

第二表 支那全土に於ける粟の産額

省名	民國七年 作付面積	民國七年 收穫高	民國七年 畝當收量	民國八年 作付面積	民國八年 收穫高	民國八年 畝當收量	民國九年 作付面積	民國九年 收穫高	民國九年 畝當收量
	畝	石	石	畝	石	石	畝	石	石
京兆	一、三八〇、一一七	五〇一、九七九	〇・三六四	一、〇八〇、八二九	五二六、三四三	〇・四八七	九五九、五〇七	五、〇五六、八二八	〇・五二七
直隷	三、四七三、五六四	七、〇九八、三九五	〇・五六九	一四、一一〇、七九三	七、七九九、八四一	〇・五五三	九、一六五、六六〇	三、八一九、一六九	〇・四一六
奉天	一、七三三、七三〇	七五七、四三〇	〇・四三九	—	—	—	—	—	—
吉林	三、七四三、三九七	一、八七一、六四八	〇・五〇〇	二、六九一、二八四	一、九四一、三四二	〇・五二三	二、八七一、二三四	一、二一八、九八〇	〇・四三五
黒龍江	四、四一四、七五五	二、四八三、〇四四	〇・五六二	—	—	—	—	—	—
山東	七、八〇三、八四七	九、三六四、六一六	一・二〇〇	七、八九九、五二七	九、八七四、四〇九	一・二五〇	一三、八八三、〇三七	一〇、二一一、七九三	〇・七三五
河南	九四、八一九、三〇〇	一〇四、三〇一、一三〇	一・一〇〇	九五、四〇八、六四〇	一一九、二六〇、八〇〇	一・二五〇	九五、四〇八、四九〇	九五、四〇八、四九〇	一・〇〇〇
山西	四〇、〇五七、三三八	四三、八六一、三四一	一・〇七〇	三九、八六七、二三九	四三、二五九、二九四	一・〇六〇	三九、八七四、四三二	一九、九三七、四一六	〇・五〇〇
江蘇	二、三二七、一九七	二、三四四、六一四	一・〇五七	二、二〇五、〇二八	二、三〇一、一九八	一・〇四〇	二、一六九、九〇四	二、二六九、四〇五	一・〇四五
安徽	九四、九八三	七五、九八五	〇・八〇〇	九四、九八九	七五、九九一	〇・八〇〇	九四、七六四	七五、八一二	〇・八〇〇

江西	三四、八〇九	六三、六五七	一・八〇〇	—	—	—	—	—	—
福建	—	—	—	一、五二七、五〇二	六、九五八、四八六	四・五五五	—	—	—
浙江	四三三、八八六	四三一、〇九九	〇・九九四	—	—	—	—	—	—
湖北	一、一〇八、〇一二	一、三六五、〇八二	一・二三二	—	—	—	—	—	—
陝西	一、〇三一、三七一	六七〇、三三六	〇・六五〇	一、三二四、一〇二	八五九、八七一	〇・七〇〇	一、四五七、一四二	八七四、二八五	〇・六〇〇
甘肅	五五九、七二五	一二三、一三九	〇・二二〇	—	—	—	—	—	—
新疆	四四、三六五	三一、四四三	〇・七〇九	—	—	—	—	—	—
熱河	六、〇〇四、五四七	一、九五五、〇二三	〇・三二五	五、九八三、六七四	一、九三九、五七八	〇・三二三	—	—	—
綏遠	六七八、一二〇	二二三、七一六	〇・三三〇	—	—	—	—	—	—
察哈爾	六八三、二五三	二〇四、九七六	〇・三〇〇	九九三、六七三	二九八、一〇二	〇・三〇〇	一、〇七九、二〇八	三七七、二三三	〇・三五〇

第三節 日本に於ける粟の生産額

今日本全國に於ける粟の作付面積及收穫高、反當收量を大正元年度より昭和二年度迄を一表として示せば次の如し。

第三表 日本に於ける粟の產額

年次別	作付面積	收穫高	反當收量
	反	石	石
大正元年	一、八〇五、三九六	一、八五九、五一七	一・〇三〇
同　二年	一、七九四、五五九	二、一四六、六七三	一・一九六
同　三年	一、六八四、二七五	一、七四七、二九六	一・〇三七
同　四年	一、六九七、〇〇七	二、〇八六、八〇八	一・二二七
同　五年	一、六四〇、一七三	二、一八四、三〇〇	一・三三二
同　六年	一、五七二、五二七	一、八八四、九八一	一・一九九
同　七年	一、四八八、八七六	一、八三六、六二五	一・二一一
同　八年	一、四八八、八七六	二、〇〇〇、〇二五	一・三四三
同　九年	一、四三九、七〇三	一、八八九、三四一	一・三一二
同　十年	一、三七四、六五六	一、七九二、九五〇	一・三〇四
同　十一年	一、二五八、二八六	一、六五五、五八二	一・三一六
同　十二年	一、一八八、九六九	一、五〇九、七一三	一・二七〇
同　十三年	一、〇二七、三四一	一、四一一、四一五	一・三七四
同　十四年	一、〇三〇、三二五	一、四二四、九二七	一・三八三
昭和元年	九九一、七六四	一、二四〇、七一〇	一・二五四
同　二年	九四五、〇六八	一、〇七三、五三一	一・一三六

以上の表に見る如く日本內地に於ては大正九年以後年々其の收穫高を減じつゝある將來も

粟の作付は減じ行くものと見られて居る。

次に大正十二年度より昭和三年度迄の各道府縣別に作付面積、收穫高等を示せば次の如し。

第四表　各府縣別粟の生產額

道府縣名	大正十二年 面積	大正十二年 收穫高	大正十二年 反當收量	大正十三年 面積	大正十三年 收穫高	大正十三年 反當收量	大正十四年 面積	大正十四年 收穫高	大正十四年 反當收量
	反	石	石	反	石	石	反	石	石
北海道	二〇、九五四	一七、五三九	〇・八三七	一七、七八六	一八、八二四	一・〇五八	一六、一一三	一八、二七六	一・一三四
青森	八三、二二三	八三、一五八	〇・九九九	七九、九三〇	六四、八七三	〇・八一三	七七、五一四	七三、七五四	〇・九五一
岩手	一〇〇、三六一	八六、九〇五	〇・八六六	八〇、二五〇	五二、三〇八	〇・六五二	七五、一一五	八〇、四一〇	一・〇七〇
宮城	三、九〇〇	二、八九二	〇・七四二	三、五三八	二、〇七八	〇・五八七	三、三四一	二、一九六	〇・六五七
秋田	二三、六六〇	一三、七二二	〇・五八〇	一九、八二七	一一、五二六	〇・五八一	一七、九三五	一〇、五七六	〇・五九〇
山形	五、二七八	三、二四	〇・六一四	四、七九五	三、〇〇二	〇・六二六	四、六四九	三、一四六	〇・六七七
福島	一一、一七〇	七、九五七	〇・七一二	一一、一八二	八、七七九	〇・七八五	九、一八七	六、八一五	〇・七四二
茨城	二四、六八八	三四、四八一	一・三九七	二三、九二五	三一、七二三	一・三八四	二三、一一三	三二、七一八	一・四八〇
栃木	六、四二五	七、九二〇	一・二三二	五、四〇二	七、八七八	一・四五八	六、〇七九	九、四六五	一・五五七
群馬	一七、九三五	一六、三四二	〇・九一一	一七、八五六	一四、九四〇	〇・八三七	一六、九九九	一四、四二四	〇・八四九
埼玉	一一、四四六	一三、九一〇	一・一二八	一〇、四二六	一一、九二三	一・一四三	九、四六三	一〇、七一一	一・一三三
千葉	一九、三八九	二三、三五一	一・一五三	一七、七二八	一九、八九二	一・一二三	一七、〇〇一	一九、一九三	一・一二九
東京	一一、一〇四	一四、四二三	一・二九九	一〇、五二三	一六、一六一	一・五三六	八、〇四七	一二、〇〇八	一・四九二

神奈川	二九、九二〇	三九、七八六	一・三三〇	二六、四三六	三五、八九九	一・三五七	二二、二四〇	三〇、五四一	一・三七三
新潟	一九、四八三	一三、二六六	〇・六八一	一七、九八〇	一〇、六五三	〇・五九二	一七、一三八	九、八九〇	〇・五七七
富山	三、四〇五	二、七〇二	〇・七九四	三、一四二	二、四六八	〇・七八五	二、八一八	二、三〇二	〇・八一七
石川	六、二七〇	四、六〇二	〇・七三三	五、六六八	四、一三七	〇・七三〇	四、七八四	三、七六八	〇・七八八
福井	五、六〇七	四、〇九〇	〇・七二九	五、二三一	三、六〇三	〇・六八九	四、九五四	四、五四九	〇・九一八
山梨	一〇、〇六八	一〇、九六三	一・〇八九	八、三二一	九、九四一	一・一九六	六、九九八	八、六六一	一・二三八
長野	二四、六七二	二六、九〇九	一・〇九〇	二〇、八四八	一九、五四八	〇・九三七	二〇、五六一	二三、八九九	一・一六二
岐阜	一一、五七〇	一〇、一四二	〇・八七六	一一、三五九	一〇、六四〇	〇・九三七	一〇、九四六	一〇、〇九九	〇・九二三
静岡	六、三四二	六、八七九	一・〇八四	五、八四一	六、五九六	一・一二九	五、六五六	六、八五〇	一・二一一
愛知	一〇、三〇二	一四、四七六	一・四〇五	九、二四六	一〇、〇七九	一・〇九〇	八、九〇二	一一、四五七	一・二八七
三重	二、七七七	二、四八七	〇・八九六	三、六三九	二、二〇三	〇・六〇五	二、四一〇	一、八九二	〇・七八五
滋賀	一、五七三	一、八六一	一・一八三	一、四二四	一、三八五	〇・九七三	一、三八三	一、三三九	〇・九六六
京都	二、一〇四	一、八七三	〇・八九〇	一、六七六	一、〇六三	〇・六三五	一、五四〇	一、二一四	〇・七八八
大阪	六三	六一	〇・九六八	五五	五二	〇・九四五	五九	五九	一・〇〇〇
兵庫	四、五七六	三、九七六	〇・八六九	三、八六八	二、九六九	〇・七六八	三、六〇四	三、〇四三	〇・八四四
奈良	七九八	九〇六	一・一三五	一、〇六四	一、一六六	一・一〇〇	四八二	五六〇	一・一六二
和歌山	九四九	七七六	〇・八一七	八二四	六七一	〇・八一四	七七五	六五五	〇・八四五
鳥取	二、一〇九	二、〇二七	〇・九六一	一、七七一	一、六五〇	〇・九三二	一、八〇六	一、七六六	〇・九七八
島根	八、九九七	一〇、三六五	一・一五二	八、四〇九	八、七四一	一・〇四〇	七、三七五	九、〇四一	一・二二六

岡山	一三、〇〇八	一五、一一四	一・一六二	一三、〇八二	七、九八六	〇・六一〇	一二、二七六	一四、五二七	一・一八三
廣島	一五、〇三〇	二〇、九九〇	一・三九七	一三、八二三	一六、一六一	一・一六九	一二、八二四	一六、三一八	一・二七二
山口	七、四四四	五、六三三	〇・七五七	六、九六六	六、三六四	〇・九一四	七、二三三	六、一九一	〇・八五七
徳島	七、七七五	九、六二二	一・二三六	七、五二三	九、一三七	一・二一五	六、九二六	九、八六五	一・四二四
香川	三、七一三	四、一四五	一・一一七	二、四一四	二、四〇六	〇・九九七	二、四五四	二、九一五	一・一八八
愛媛	一〇、二九七	九、四八六	〇・九二一	九、四四〇	八、六六六	〇・九一八	八、九七〇	九、一一〇	一・〇一六
高知	二、八八一	一、七五一	〇・六〇八	二、七六五	一、七〇七	〇・六一七	二、八三二	一、八六四	〇・六五八
福岡	三六、〇三三	五二、七一七	一・四六三	三三、五〇六	四七、七九四	一・四二六	三〇、九八九	四三、三一九	一・三九八
佐賀	九、二九五	一一、四九五	一・二三七	八、八二三	一〇、三七三	一・一七六	八、六一七	一〇、四四九	一・二一八
長崎	五八、二七六	八六、四一四	一・四八三	五四、一五三	六六、五四五	一・二二九	五五、一一三	八〇、六五五	一・四六三
熊本	二二〇、二三九	四〇九、七五三	一・八六一	二二八、〇六九	四一九、六一一	一・八四〇	二一八、三〇八	三九六、五六五	一・八一七
大分	二六、一六二	三六、〇七五	一・三七九	二九、八五七	四七、五七二	一・五九三	二九、五三〇	四二、二五五	一・四三一
宮崎	四五、六一〇	五八、五六七	一・二八四	四二、三一三	四一、六四〇	〇・九八四	四一、四七九	五三、七八八	一・二九七
鹿兒島	二一七、六六六	二九七、六六四	一・三六八	二一二、二二一	三三〇、二九三	一・五〇九	二一〇、七九七	三〇二、七四九	一・四三六
沖縄	二四、五五三	八、三〇八	〇・三三八	二三、四三三	七、七九一	〇・三三二	二三、七〇三	九、一三〇	〇・三八五
計	一、一八八、九六七	一、五〇九、七一三	一・〇三七	一、〇二七、三四一	一、四一二、四一五	〇・九九九	一、〇三〇、三三五	一、四二四、九二七	一・〇七二

道府縣名	昭和元年			昭和二年		
	面積	收穫高	反當收量	面積	收穫高	反當收量
北海道	一五、三六四反	三、四七三石	〇・八一七石	一三、六〇三反	一四、八二一石	一・〇八九石

青森	七四、六八七	七四、三四二	〇・九九五	七一、五五六	八二、二五一	一・二四九
岩手	七三、九〇〇	七二、八六〇	〇・九八六	六九、三六九	七一、〇五五	一・〇二四
宮城	三、三二八	二、〇九四	〇・六四九	三、〇八九	二、一〇二	〇・六八〇
秋田	一七、九一三	一〇、五六五	〇・五九〇	一六、五六七	九、七二四	〇・五八七
山形	四、二四四	二、七一七	〇・六四〇	三、四六二	二、一〇一	〇・六〇七
福島	九、四四五	七、七七四	〇・八二三	九、五九七	七、六五三	〇・七九七
茨城	一八、九二三	二五、二三五	一・三三三	一八、二六五	二六、二七四	一・四三八
栃木	五、九七八	七、八七八	一・三一八	五、〇六九	六、六八四	一・三一九
群馬	一五、九一五	一四、七七〇	〇・九二八	一五、五六二	一四、五六四	〇・九三六
埼玉	八、九五五	一〇、〇五四	一・一二三	八、〇二〇	九、四五三	一、一七九
千葉	一四、七三九	一六、六六四	一・一三一	一四、九〇六	一七、六五六	一、一八四
東京	五、七六四	七、三四六	一・二七四	四、七四八	六、二二六	一、三二一
神奈川	一九、六八四	二五、七五二	一・三〇八	一七、四六六	二五、八四二	一、四八〇
新潟	一六、七八五	九、六一八	〇・五七三	一五、六四八	九、二〇四	〇・五八八
富山	二、六九六	二、一一三	〇・七八三	二、五八五	二、〇六二	〇・七九八
石川	四、六七七	三、七二三	〇・七九六	四、四八四	三、七五三	〇・八三七
福井	三、六五二	三、〇五〇	〇・八三五	三、四四一	二、八九九	〇・八四二
山梨	五、一七八	六、二五一	一・二〇七	四、六七〇	五、六〇七	一・二〇一
長野	一七、三八八	一八、二六七	一・〇五一	一七、一五九	二一、八〇〇	一・二七〇

岐阜	一〇、五一三	九、八九〇	〇・九四〇	九、九一四	一〇、一三八	一・〇二三
静岡	五、六四〇	五、九一九	一・〇四九	五、六九七	七、〇一四	一・二三一
愛知	八、〇二四	一一、四六七	一・四二九	七、八二七	一一、一四四	一・四二四
三重	二、二三九	二、二九七	一・〇二六	二、二七九	二、四八一	一・〇八九
滋賀	一、二三〇	一、二〇三	〇・九八六	一、一四九	一、一三七	〇・九九〇
京都	一、三五四	一、一一〇	〇・八二〇	一、二九九	一、〇七七	〇・八二九
大阪	九八	一一二	一・一四二	八五	八四	〇・九八八
兵庫	三、四五六	三、五〇三	一・〇一三	三、七五八	三、九七六	一・〇五八
奈良	九七五	一、〇三三	一・〇五九	九八二	一、〇四七	一・〇六六
和歌山	七四〇	六五三	八八二	八一五	八一七	一・〇〇二
鳥取	一、八七七	一、九三九	一・〇三三	一、七三七	一、八六〇	一・〇七一
島根	一二、九七三	八、四五九	〇・六五二	七、〇一七	七、九三四	一・一三一
岡山	一〇、四八六	一三、九五五	一・三三一	一〇、六〇九	一三、四九一	一・二七二
廣島	一一、九四四	一七、一〇〇	一・四三二	一一、五六〇	一五、二三三	一・三一七
山口	六、七五八	六、三一五	〇・九三四	六、五四五	六、二〇八	〇・九四九
徳島	六、七〇〇	八、六七四	一・二九五	六、六九四	八、六五九	一・二九四
香川	二、六四六	二、七五八	一・〇四二	二、五九〇	二、六八五	一・〇三七
愛媛	八、七五〇	八、二三六	〇・九四一	八、四九二	八、一七三	〇・九六二
高知	二、五〇七	三、六四三	一・四五三	二、五一一	一、七〇〇	〇・六七七

福岡	二五、六二〇	三八、一一二	一・四八八	二一、六七一	三〇、九三八	一・四二八
佐賀	八、一七二	一〇、七六三	一・三一七	七、五五三	九、八六四	一・三〇六
長崎	五四、〇五六	九〇、七〇六	一・六七八	五〇、四〇八	六〇、六〇三	一・二〇三
熊本	一八二、四七八	三〇八、三〇〇	一・八九〇	一七五、〇六一	二二三、四〇〇	一・二七〇
大分	二四、四一六	三七、九三八	一・五五四	二四、一五七	三五、二四四	一・四五九
宮崎	三三、一一〇	三六、二一〇	一・一二八	三五、九三六	三八、六三九	一・〇七五
鹿児島	二〇六、〇五五	二六八、一九六	一・三三一	一九七、五四七	二一九、六八四	一・一一三
沖縄	二三、九四四	八、六八七	〇・三六三	二一、九一〇	九、五九一	〇・四三八
計	九九一、七六六	一、二四〇、七一〇	一・〇七一	九四五、〇六八	一、〇七三、五三一	一・〇六四

第四節　朝鮮に於ける栗の生産額

第五表　朝鮮各道に於ける栗の作付面積及収穫高

道別	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年	
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高
	町	石	町	石	町	石	町	石	町	石
京畿道	三〇、九二五・六	一五六、九九七	三〇、五二五・一	一五〇、三三三	三〇、五四三・一	一四四、一五七	三〇、四八五・四	一六一、三六五	三一、〇三八・六	一七一、六四〇
忠清北道	一六、七六八・六	八六、〇三九	一六、三八〇・六	八九、五六六	一六、二九七・四	八六、二四五	一六、四一八・四	一〇三、三七八	一六、七七六・三	一〇〇、八〇七
忠清南道	二、〇八六・二	一二、七〇五	一、九四〇・九	一四、四九九	一、九九六・〇	一五、〇〇五	一、九二六・一	一五、〇四八	二、〇四四・八	一三、五四一

全羅南道	三六、七六九・九	三〇三、八八六	三六、四六七・九	二六四、三四五	三七、三三一・九	三〇九、二九八	三七、八五七・六	二九八、九三九	三七、六三八・四	三〇六、七五七
全羅北道	一、九〇四・二	九、七四一	二、〇八九・八	一三、一六七	二、〇〇七・〇	一三、〇二五	二、〇四九・九	一三、八八四	二、二七六・九	一三、〇七七
慶尚北道	四一、三九〇・六	二八二、七三三	四〇、六六二・二	二四七、四三〇	四〇、三四五・三	二六四、三六六	四三、九三一・四	三三七、四三七	六三、八九九・六	四六八、〇五二
慶尚南道	二、三七八・三	二一、二七一	三、七九六・八	二一、二七七	二、二九七・七	一九、三六一	二、二三三・六	一九、三六九	二、二七一・三	一七、九〇九
黄海道	一八二、〇九九・〇	一、一〇七、七六一	一八二、〇一九・二	九〇〇、〇三六	一七九、三八五・九	八四〇、四六五	一八一、五七五・四	一、〇三二、一一九	一七七、一八三・五	一、一四二、二六一
平安南道	一三五、五九一・一	六三四、〇七七	一三五、四二八・四	九二七、八二五	一三六、五〇九・七	九一〇、一一六	一三四、六五六・三	九三一、八〇四	一三五、〇八七・六	九九六、三八八
平安北道	一二五、二七四・一	六三四、〇七七	一二五、四九三・七	六七四、八一七	一二七、九二九・二	六三二、〇七〇	一一八、二三一・三	五七八、一三九	一一八、八〇三・七	七〇四、三八〇
江原道	六九、六五七・九	四〇五、六九六	七九、〇一八・一	三七五、六七九	七八、〇一七・二	三七六、〇二三	七八、一七九・九	四〇九、四六一	七八、三三七・七	四二三、三五二
咸鏡南道	八二、五五七・一	五八七、二五一	八六、二一三・〇	五三八、三六三	八六、九六三・三	六一六、四二六	八七、一四六・九	五九一、一七三	八六、二三九・五	五一一、四八九
咸鏡北道	六七、八九〇・六	四一三、四六五	六九、一〇〇・三	五三九、五〇六	七〇、二三八・七	五六〇、四七三	六八、九八四・一	五〇二、一六二	六八、七三八・八	三八四、五三三
計	七七四、二七三・二	五、〇七七、六五七	七八九、一三六・〇	四、七五六、七四二	七八九、八五一・四	四、七七七、〇三〇	七九三、六七六・三	四、九九四、二七八	八一〇、三三六・七	五、二三三、一八六

以上の表によりて見る如く朝鮮にて粟栽培の盛んなるは北鮮地方にして未墾地の開拓と共に年々増加の傾向を示して居る、次に年度別に其の全産額を見れば次の如し。

第六表　朝鮮に於ける年別粟の生産額

年別	作付面積	收穫高	反當收量
	町	石	石
大正元年	五六五、〇二三・五	三、八一二、九八二	〇・六七五

大正二年	六四一、三〇八・三	四、五七六、一〇四	〇・七一四
同三年	六五〇、六一四・三	四、〇二四、七二三	〇・六一九
同四年	六七九、六〇二・九	四、三八三、五六三	〇・六四五
同五年	六九二、七六五・二	四、八二四、七二〇	〇・六九六
同六年	七四六、四九六・三	五、一八二、二一八	〇・六九四
同七年	七五八、二三三・四	五、六六二、九九三	〇・七四七
同八年	七八〇、六三二・五	三、八一六、二七三	〇・四八九
同九年	七七三、四〇〇・六	六、〇三六、四五二	〇・七八一
同十年	七七九、〇三七・八	五、八六二、六八五	〇・七五三
同十一年	七八五、九八五・八	五、一三八、一〇六	〇・六五三
同十二年	七七九、九三二・一	五、二九八、一五三	〇・六七九
同十三年	七七四、二七三・二	五、〇七七、六五七	〇・六五六
同十四年	七八九、一三六・〇	四、七五六、七四二	〇・六〇三
昭和元年	七八九、八五一・四	四、七七七、〇三〇	〇・六〇五
同二年	七九三、六七六・三	四、九九四、二七八	〇・六二九
同三年	八一〇、二二六・七	五、二三三、一八六	〇・六四六

以上の表に見る如く大正七年より同十年頃迄は作付面積竝に收穫高は增加し其の以後二三年間稍減少し、最近又增加の傾向を示して居る。反當收量は滿洲に比して極めて少ない。

朝鮮殊に北鮮地方の農民は高價なる米を販賣して之に代ふるに滿洲粟を輸入して居る。近來其の輸入は著しい増加を示し昭和二年度に至りて三百二十萬石と云ふ數字を示し此の結果日本內地への米穀の供給増加し我が國食糧問題上滿洲粟は重大なる役目をなして居る。

第五節　臺灣に於ける粟の生產額

第七表　臺灣に於ける粟の作付面積及び收穫高

年次	作付面積（反）	收穫高（石）	反當收量（石）
大正六年	三四、五七二	三二、三三七	〇・九三五
同七年	三〇、一九〇	二四、六四七	〇・八一九
同八年	三一、八一八	二三、九八八	〇・七五四
同九年	三一、九二四	二三、四四〇	〇・七二四
同十年	三二、三一六	一四、六〇九	〇・四五二
同十一年	三四、六九〇	一九、一八七	〇・五五三
同十二年	三七、一三二	一九、一一三	〇・五〇三
同十三年	三六、三一六	一八、九三九	〇・五五一
同十四年	二九、三四三	一五、八〇五	〇・四一五
昭和元年	二五、六九六	一三、二〇八	〇・四九二

昭和二年	二二八三五	一一、〇一四	〇・四六一
同　三年	二二、一一〇	一一、三四三	〇・四九一

以上の表に見る如く臺灣に於ける粟の生產額は年々減じて行く傾向を示して居る。今次に各州廳別に作付面積、收穫高及反當收量を示せば次の如し。

第八表　各州別粟の生產額

州別	大正十三年 作付面積	大正十三年 收穫高	大正十四年 作付面積	大正十四年 收穫高	大正十五年 作付面積	大正十五年 收穫高	昭和二年 作付面積	昭和二年 收穫高	昭和三年 作付面積	昭和三年 收穫高
	甲	石	甲	石	甲	石	甲	石	甲	石
臺北	一・〇〇	一五	一・〇〇	一五	一・〇〇	一五	一・〇〇	一五	一〇・五〇	五九
花蓮港	一八〇・〇六	一、一四六	一〇三・一九	六四九	六九・五一	四三五	八二・九〇	三七八	七三・九五	三六四
臺中	〇・三〇	二	一・九五	二	三・三二	一九	三・四二	二	〇・九〇	九
臺南	八・九〇	二六	九・九三	二〇	三・一〇	八	五・〇〇	二	二・三五	三
高雄	八〇六・九九	二、八八八	七三九・一六	二、一四三	八・〇四	二三	六・四四	一九	五・七〇	一八
臺東	二、三五〇・〇〇	一四、八一九	二、一三八・七〇	一三、九三〇	一、八二〇・六〇	一〇、二八六	一、五三三・七〇	八、八四四	一、四五三・一〇	八、五八三
澎湖	―	―	―	―	七 四・五二	二、三七七	七一九・四五	一、六八五	七〇六・三三	二、二四一
新竹	四・七四	三三	六・三五	三七	七・三〇	四五	四・〇〇	三一	七・九五	五七
計	三、三六一・九五	一八、九三九	三、〇〇〇・二八	一五、八〇五	二、六二七・三九	一三、二〇八	二、三三四・九一	一一、〇一四	二、二六〇・七八	一一、三四三

備考　一甲は〇・九七八町步に當る。

第二章　粟栽培と氣候的關係

粟は元來支那の原產なれば滿洲の氣候には最も適するものにして滿洲農產物の中で最も廣く栽培せられ又豐凶の差最も少なし。粟は多濕なるより寧ろ乾燥を好む。これ粟は大豆、高粱に比して山地又は傾斜地に栽培多きを見て其の一般を推して知るべし。

粟は氣候に適應性强く緯度の差によつて熟期の早晩適不適等少なく公主嶺地方に普通栽培せらるゝ品種は旅順にて早熟に失して收量少なしなどとのことなし。品種改良上極めて有利の作物なりと云ふべし。滿洲にては頗る高緯度の地方卽黑龍江省の北端北緯五十三度の漠河にも栽培あり、北米合衆國にては北緯四十五度、オーストラリア洲にては南緯四十五度が極限なりと稱せらる。

今滿洲の氣象の大要を述ぶれば、氣溫は第九表に示す如く夏冬の兩季長く春秋の二季極めて短かく寒暑の差が甚だし。降水量は一年大約五〇〇粍乃至六〇〇粍分布不平均にして六月下旬より八月の上旬までの二箇月間大半降水し播種期卽四、五月頃降雨なく農作物の生育を不良の狀態ならしむ點あり。濕度は又少なく蒸發量の大なる事も亦特徵の一なり。風は風向概ね一定し南西の風吹き四、五月頃の播種期に風强きも雲量少なく日照時數多く且つ夏季の高溫多雨は草丈の伸長發育に申分なく、八月下旬よりの秋冷乾燥は成熟、調製、貯藏に好適なり。粟作にとして滿

洲は絶好の土地と云ふべし。

今滿洲氣象各要素の内氣溫、降水量、濕度、蒸發量、日照時數、風速等の各表を示せば次の如し。

第九表　平均氣溫（累年平均）（攝氏）

地名	旅順	大連	營口	奉天	長春	公主嶺	熊岳城	鄭家屯
一月	(一)四・五	(一)五・一	(一)九・六	(一)一三・四	(一)一七・三	(一)一六・二	(一)八・四	(一)一五・四
二月	(一)三・〇	(一)三・五	(一)七・三	(一)九・五	(一)一三・四	(一)一〇・八	(一)四・九	(一)一一・〇
三月	一・七	一・九	(一)〇・二	(一)一・二	(一)四・四	(一)一・六	一・八	(一)二・四
四月	八・六	九・二	八・七	八・五	六・三	九・二	一三・七	七・三
五月	一四・三	一五・二	一五・四	一五・六	一四・二	一六・八	一七・六	一四・八
六月	一九・三	二〇・二	二二・二	二一・五	一九・七	二三・八	二四・八	二〇・八
七月	二三・〇	二三・六	二四・七	二四・七	二三・三	二五・三	二六・一	二四・三
八月	二四・一	二四・六	二四・三	二三・五	二一・八	二四・一	二五・七	二三・八
九月	一九・六	一九・七	一八・〇	一六・四	一四・三	一七・九	一九・五	一五・五
十月	一四・一	一三・八	一〇・九	九・二	六・五	九・七	一三・二	七・三
十一月	五・五	四・九	〇・六	(一)一・七	(一)五・〇	(一)二・二	三・〇	(一)三・七
十二月	(一)一・〇	(一)一・八	(一)七・〇	(一)一〇・一	(一)一四・二	(一)一三・〇	(一)四・七	(一)一三・七
年平均	一〇・一	一〇・三	八・三	七・〇	四・四	六・九	一〇・二	五・六

第十表　降水量（累年平均）（粍）

地名	旅順
一月	一〇・二
二月	八・三
三月	一五・六
四月	一九・二
五月	四二・四
六月	四一・二
七月	一五九・七
八月	二二七・二
九月	一〇一・九
十月	二四・九
十一月	二七・九
十二月	九・五
年	五八八・〇

大連	營口	奉天	長春	公主嶺	熊岳城	鄭家屯
一三・〇	七・八	四・三	六・七	四・九	七・四	一・九
九・六	六・五	六・五	三・二	四・三	四・七	三・九
一九・三	一九・五	一八・九	一七・一	一三・五	一八・三	一三・三
二四・六	二五・二	二八・一	二〇・二	一七・五	二四・七	一一・五
四六・六	五五・九	五八・四	五九・〇	四七・八	四三・一	三三・八
四九・九	六四・一	八七・九	一一九・八	七八・六	五五・五	六八・八
一七一・二	一六八・八	一五五・三	一九七・九	一六二・四	一四五・六	一三八・四
二一一・三	一五九・〇	一六〇・〇	一三二・八	一四三・三	一四二・三	一三四・八
一二二・七	八三・〇	八三・六	七〇・一	六三・九	七六・一	四七・二
二九・七	四四・六	三八・五	三四・一	三九・三	三九・四	二八・二
二五・四	二三・四	二六・〇	一九・五	一一・九	三〇・八	一三・六
一〇・五	五・六	六・一	六・二	四・二	八・四	一・五
六二三・六	六六二・六	六六九・五	六八六・三	五九〇・三	五九五・三	四八四・九

第十一表　濕度（累年平均）（%）

地名	旅順	大連	營口	奉天	長春	公主嶺	熊岳城	鄭家屯
一月	六六	六六	六七	六三	七一	七六	六三	七三
二月	六四	六四	六三	六〇	七〇	六九	五六	七四
三月	六三	六〇	五九	五四	五九	五七	五四	六九
四月	六二	五八	五七	五三	五三	四三	四八	五一
五月	六七	六一	五九	五七	五四	四七	五一	五二
六月	七七	七一	六六	六四	六六	五二	五七	五六
七月	八七	八三	七六	七五	七六	六六	六八	七一
八月	八五	八〇	七六	七七	七八	六八	六八	七三
九月	七四	七〇	七一	七三	七二	五八	六二	六五
十月	六九	六四	六八	六九	六六	五五	五七	六三
十一月	六四	六一	六五	六四	六七	五七	五九	七二
十二月	六三	六一	六四	六三	六九	六九	六〇	七七
年平均	七〇	六六	六六	六四	六七	六〇	五九	六六

第十二表　蒸發量（累年平均）（粍）

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
旅順	五一・三	五八・四	一〇三・三	一六三・一	二一〇・〇	一九七・二	一六八・六	一七三・六	一五九・六	一三一・八	八八・三	六三・五	一,五六五・六
大連	四六・二	五一・一	九一・八	一五七・一	二〇九・七	二〇三・九	一七一・八	一六三・〇	一四四・九	一二四・九	八二・六	五八・四	一,五〇四・四
營口	三七・三	四九・三	九二・三	一六一・八	二三一・六	二一七・〇	一九七・八	一七六・四	一四〇・八	一〇九・八	五九・一	三九・九	一,五〇二・三
奉天	三五・四	四三・八	八三・二	一六〇・五	二二五・八	二一八・一	一八五・二	一五〇・三	一二四・一	九一・三	五三・一	三七・三	一,三八八・〇
長春	二四・六	三一・三	六八・三	一三七・二	二〇八・七	一九六・九	一六五・〇	一三六・五	一二三・七	八五・三	四五・四	二六・九	一,二三八・九
公主嶺	二三・六	三八・一	八七・八	一八三・八	二四八・一	二四九・七	一八三・二	一四六・〇	一一八・六	九六・七	四八・一	二七・八	一,四五〇・四
熊岳城	三三・〇	四五・四	八一・三	一六七・〇	一九七・七	二一〇・七	一八三・三	一五一・一	一二五・三	九九・六	五〇・六	三七・七	一,三三二・六
鄭家屯	二九・二	四七・八	九九・一	二一八・六	二五七・六	二四〇・一	二一三・六	一五九・一	一二五・七	九五・七	五八・四	三三・〇	一,五六七・九

第十三表　日照時數（累年平均）（%）

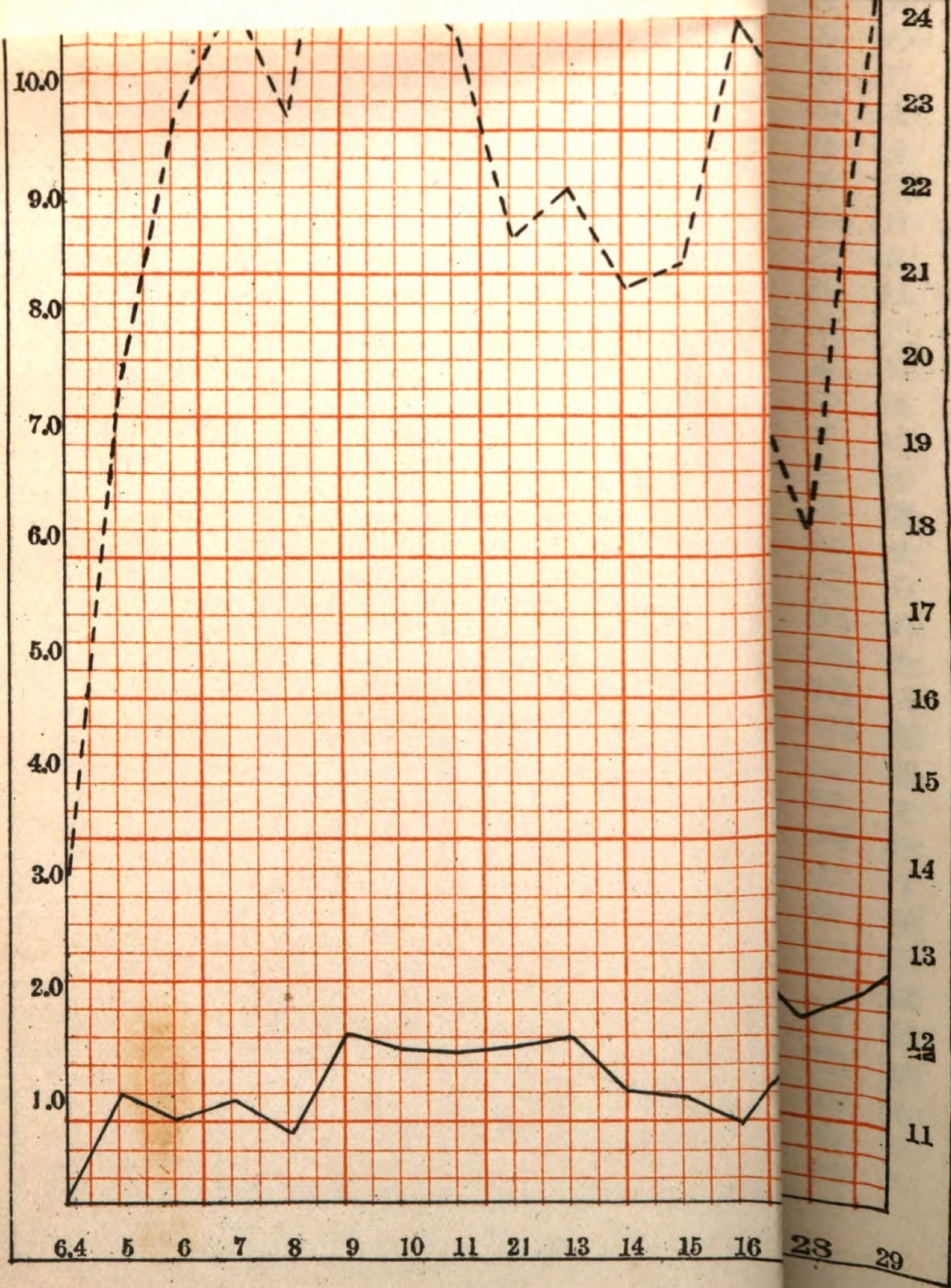
地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
旅順	六二	六八	六五	六四	六三	五九	五一	五八	六三	六九	五八	五七	六一
大連	六二	六七	六五	六四	六四	六一	五〇	五八	六三	七〇	六〇	六〇	六三
營口	七〇	七三	六九	六七	六四	六四	五八	六四	六九	七一	六六	七〇	六七

奉天	六六	七〇	六五	六一	五七	五七	五一	五六	六〇	六四	六一	六三	六〇
長春	七一	六九	六七	六〇	五七	五八	五一	五八	六四	六五	六二	六九	六二
公主嶺	五九	五六	五八	四八	四三	五〇	四三	五〇	五五	五九	五七	六九	六〇
熊岳城	六四	六六	七七	六二	五七	五八	四九	五三	六〇	七六	六〇	六三	六〇
鄭家屯	七〇	六八	六六	六四	五三	六一	五七	五六	六六	七一	六二	六二	六二

第十四表　風速度（累年平均）（秒米）

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
旅順	四・四	四・三	四・五	四・四	四・二	三・四	三・〇	二・九	三・三	三・七	四・六	四・五	三・九
大連	四・七	四・六	五・六	五・二	五・〇	四・二	四・〇	三・五	三・九	四・四	五・三	四・八	四・六
營口	三・九	三・九	四・八	五・〇	四・八	四・一	三・五	二・九	三・四	四・一	四・三	三・八	四・〇
奉天	二・五	二・七	三・五	三・八	三・七	三・〇	二・五	二・一	二・二	二・八	二・九	二・六	二・九
長春	三・九	四・二	五・〇	五・五	五・〇	四・一	三・二	二・七	三・二	三・九	四・六	四・一	四・一
公主嶺	三・一	四・三	五・七	六・六	五・八	五・四	四・二	三・六	三・七	五・二	四・四	四・四	四・七
熊岳城	三・七	四・一	四・三	四・六	四・〇	三・二	二・九	二・三	二・六	三・五	三・九	三・八	三・六
鄭家屯	三・八	四・八	六・六	七・二	六・七	六・〇	四・五	三・五	三・九	五・四	五・一	四・三	五・二

粟の栽培と氣候との關係は頗る重大なるものあれば以下節を分ちて氣溫、降水量、風、日照時數、


10.0
9.0
8.0
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
6.4 5 6 7 8 9 10 11 21 13 14 15 16 28 29

十時氣溫 -

蒸發量の各要素に就きて論ぜん。

第一節　栗作と氣溫

栗作と氣溫とは關係最も深ければ今栗の生育期間を分ちて發芽期間、發育期間、成熟期間の三期とし、此の三期間の溫度と栗收量との關係を研究せり。

一、發芽期間とは栗粒を下種して其の嫩芽地上に現はるゝ迄の間にして此の日數を發芽日數とせり。

二、發育期間とは嫩芽地上に現はれてより出穗する迄の期間にしてこの日數を發育日數とせり。

三、成熟日數とは出穗し初めてより穀實の完熟する迄の期間にしてこの間を成熟日數とせり。

四、全生育日數とは粟を播種してより完熟に至るまでの日數とす。

今以上の各生育期間中の日數と其の期間中の氣溫(最高最低の平均)及び各年度別の收量との關係を調査せるものを一表として見れば次の如し。(供試品種薄地租)

第十五表　粟の生育と氣溫との關係表（攝氏）

年度	播種日	發芽	良否	出穗	成熟	發芽 日數	發芽 溫度	發育 日數	發育 溫度	成熟 日數	成熟 溫度	全生育 日數	全生育 溫度	反當收量 收量	反當收量 順位
大正六年	五、一七 月日	六、七 月日	良	八、一三 月日	九、一八 月日	二一 日	一五・五 C	六七 日	二三・四 C	三六 日	一九・八 C	一二四 日	二一・二 C	一・八〇三 石	五


同七年	五、一〇	五、二八	同	八、二二	九、二四	一八	一三・八	七五	二一・三	四四	一八・二	一三七	一九・〇	〇・七三三	一一
同九年	五、二一	六、一八	同	八、一六	九、二六	三八	一七・一	五九	二一・六	四一	一七・二	一三八	一九・三	一・八二六	三
同十年	五、九	五、三一	不良	八、五	九、二九	一二	一四・三	七六	二〇・八	五五	二二・三	一四三	一九・九	一・二三〇	一〇
同十一年	五、一三	五、二四	良	七、三一	九、一八	一一	一三・三	六八	二三・一	四八	一九・二	一二八	一九・八	一・四二六	九
同十二年	五、一一	五、二三	同	八、一〇	九、二六	一二	一四・九	七九	二四・二	四七	二〇・二	一三八	二二・三	一・六一四	六
同十三年	五、八	五、二〇	同	八、一	九、一六	一二	一三・八	七三	二一・七	四七	二二・七	一三一	二一・三	一・四八一	八
同十四年	五、一〇	五、一九	同	八、二	九、二〇	九	一三・八	七五	二一・四	四九	二一・四	一三三	二〇・四	一・八二三	四
昭和元年	五、一一	六、二七	同	八、一六	九、二七	四七	二〇・一	五〇	二四・〇	四二	一八・九	一三九	二一・一	二・三四二	一
同二年	五、一〇	五、二六	同	八、四	九、一八	一六	一二・八	七〇	二一・八	四五	一九・〇	一三一	一九・七	二・二八四	二
同三年	五、一〇	五、二四	同	八、一	九、一七	一四	一二・一	七四	二一・四	四七	二一・三	一三五	一八・九	一・五一八	七
平均	五、一一	五、三〇		八、八	九、二三	一九	一四・七	六九	二二・一	四六	二〇・〇	一三四	二〇・二	一・六四二	

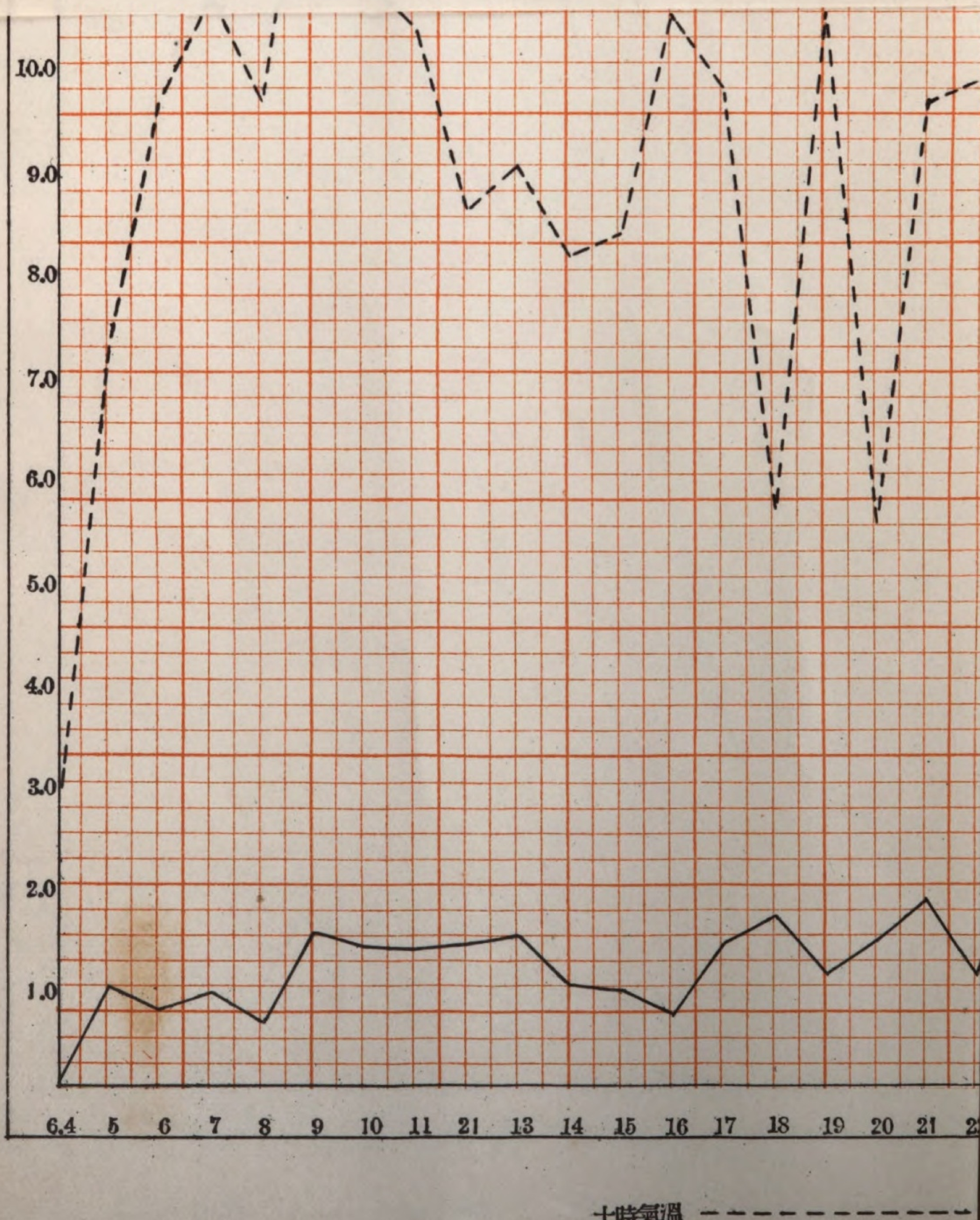
以上の表を圖示すれば第二圖の如し。今發芽日數と溫度との關係を見るに粟を播種してより發芽に至るまでの日數は早きは九日、最も遲きは四七日にして平均十九日なり、甚しき旱魃の年なる昭和元年及び大正九年を除きては大體二週間前後にて發芽す。

氣溫は最も低かりし年は昭和三年のC一二・一度にて昭和元年のC二〇・一は最も高し、平均一四度内外なり。氣溫の高低と發芽日數との關係は第二圖其の一に見るが如く大體に於て平行せる曲線を示す、卽氣溫高き年には雨なく土壤乾燥し發芽日數長し、收量は氣溫高く發芽に日數を

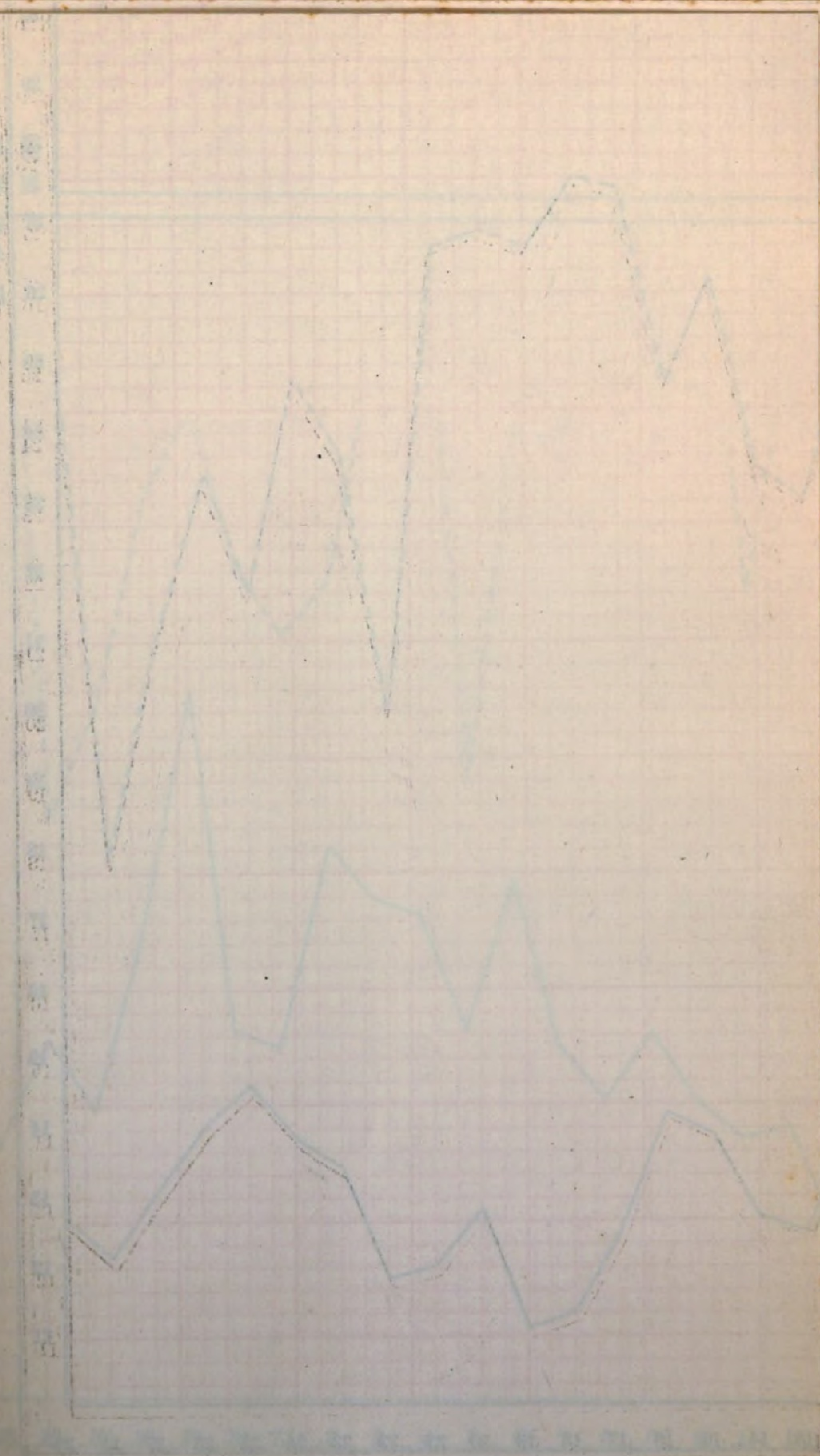
多く要せる年に良好なる傾向を示して居る。次に粟の發芽してより出穗に至る日數は平均六九日、最長七九日、最短五〇日なり。大正十二年及び昭和二年度を除いては此の期間の溫度と發育日數とは相反比例す、卽ち溫度高き時には日數短かし。この關係は發芽の際と反對なり。收量との關係を見るに溫度高く發育に要する日數短かき程收量多し、粟作に取りて最も大切なる時期にして降雨多く氣溫高く莖葉の生育旺盛なる年に豐年にして氣溫低く莖葉の發育遲々たる年には收量惡るし。次に粟の出穗してより成熟に至るまでの期間の溫度と日數との關係を見るに大正六年の例外を除いては殆んど相平行す、卽溫度高ければ成熟に長日數を要し、溫度低き年には成熟日數も亦短し、又收量との關係は大正十四年度の例外を除いては成熟間期短かく且つ此の期間の氣溫低き年に收量多く之に反する年は收量少なし、此の間の關係は高粱作の場合と反對なり。（滿洲高粱栽培の卷參照）第二圖（其の三）によつて明かなり。

最後に粟を播種してより完熟までの日數は平均一三四日にして高粱と大差なく最も早く熟せる年は大正六年の一二四日又最も成熟の後れたる年は一四三日にして大正十年なりき。全生育期間中の氣溫は大體二〇・〇C前後にして各年度による差は極めて小なりし大正六、一〇年の兩年度を除きては收量は生育日數の長き程多き傾向を有す。發芽期間、發育期間を通じて氣溫は低からんよりは高き程收量多く成熟期間だけは氣溫低き程好結果を呈す。日數は發芽及び全生育期間を通じての時には長き程收量多く發育期間及び成熟期間の二期にては前者と反對に短き程好結果を呈す。


19 20 21


10.0
9.0
8.0
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
6.4 5 6 7 8 9 10 11 21 13 14 15 16 17 18 19 20 21
十時氣溫

尚當場にて大正十四年度以降粟の發芽してより出穗までの草丈の毎日の伸長の測定調査中



尙當場にて大正十四年度以降粟の發芽してより出穗までの草丈の每日の伸長の測定調査中なるが氣溫の高低と草丈の日々の伸長とは大體正比例す、卽ち溫度急激に低下又は高騰する時には草丈の伸長は其の日より二日又は三日後に影響せられたる結果を示す。第三圖は昭和三年度の調査結果を示せるものなるが之れによつて見る如く出穗前四〇日頃より二〇日間最も伸長甚しく已に出穗し始めれば草丈の生長を停止す。

一日間の伸長の最高レコードは六月二十九日の七・七糎なり。卽莖葉の發育の最も烈しき期間に氣溫の影響を蒙ること最も甚しく莖葉相整ひ出穗に近づく頃は影響少なし。

第二節　粟作と降水量

滿洲の年雨量は第十表に見るが如く大體六〇〇粍内外なれども其の分布極めて不平均にしてこの年雨量の大半は六、七、八月の三箇月間に降水す。五月上旬粟を播種してより二週間前後にて發芽せる頃は氣溫の上昇と共に降水更らになく旱害を蒙ること屢々あり。この期間卽ち發育期間の上半期に適雨を欲すること最も大なり。

粟は四五寸に生長せる後には大豆、高粱に比して旱害に對する抵抗力大なり。今粟の生育期間中と降水量との關係を第十五表と同樣にして一表にして見れば次の如し。

第十六表　粟の生育と降水量との關係（粍）

年度	播種日（月日）	發芽（月日）	良否	出穗（月日）	成熟（月日）	發芽 日數（日）	發芽 降水量	發育 日數（日）	發育 降水量	成熟 日數（日）	成熟 降水量	全生育 日數（日）	全生育 降水量	反當收量 收量（石）	反當收量 順位
大正六年	五、一七	六、七	良	八、一三	九、一八	二一	〇・六	六七	三七四・二	三六	三四一・九	一二四	七一六・七	一・八〇三	五
同七年	五、一〇	五、二八	同	八、一一	九、二四	一八	八七・九	七五	四七五・三	四四	一四九・二	一三七	七一三・四	〇・七一三	一二
同九年	五、一一	六、一八	同	八、一六	九、二六	三八	〇・二	五九	二六八・九	四一	一三八・八	一三八	四〇七・九	一・八一六	三
同十年	五、九	五、二一	不良	八、五	九、二九	一二	六・一	七六	三二二・〇	五五	一八六・九	一四三	五一五・〇	一・二三〇	一〇
同十一年	五、一三	五、二四	良	七、三一	九、一八	一一	三一・九	六八	二二三・九	四八	一一九・六	一二八	三七五・四	一・四二六	九
同十二年	五、一一	五、二三	同	八、一〇	九、二六	一二	一二・二	七九	三九一・二	四七	二〇三・一	一三八	六〇六・四	一・六一四	六
同十三年	五、八	五、二〇	同	八、一	九、一六	一二	一六・六	七三	一六〇・八	四七	九一・三	一三一	二六八・七	一・四八一	八
同十四年	五、一〇	五、一九	同	八、二	九、二〇	九	一七・三	七五	一七二・三	四九	一八六・五	一三三	三七六・一	一・八一三	四
昭和元年	五、一一	六、二七	同	八、二六	九、二七	四七	五・一	五〇	一五八・一	四二	一六八・五	一三九	三三一・七	二・三四二	一
同二年	五、一〇	五、二六	同	八、四	九、一八	一六	二〇・九	七〇	二三五・五	四五	一〇七・四	一三一	三六三・八	二・二八四	二
同三年	五、一〇	五、二四	同	八、一	九、一七	一四	三三・四	七四	二七七・八	四七	一一九・一	一三五	四二九・三	一・五一八	七
平均	五、一一	五、三〇		八、八	九、二三	一九	二一・〇	六九	二七八・二	四六	一六四・八	一三四	四六三・九	一・六四二	一

以上の表によつて見る如く粟の發芽期間の降水量は十一箇年平均にて二一・〇粍、最も少なかりしは大正九年の〇・二粍最も多かりしは大正七年の八七・九粍なり。發芽日數と降水量との關係を見るに大正九年昭和元年の如き乾燥甚しき年には發芽に長日數を要し、雨の順調なる年には

發芽は早し。

次に發育期間に於ける降水量は粟の栽培上最も大切なる關係を有す第四圖其の二に見るが如く發育日數と降水量とは相平行せる曲線を示して居る。降水量少なければ發育日數を短かく、降水量多ければ發育日數も長し。收量との關係を見るに發育日數の短かき年換言すれば降雨の少く分布よき年に收量多きを示す。然ればも大正十一年又は十三年の如く降雨の分布惡しく且つ少なき時には收量惡るし。降雨多く氣溫低下して粟莖葉の發育遲々たる時には大正七年、十年の如く收量は少なし。粟は已に一尺以上の草丈となれば大豆、高粱等に比して旱魃に抵抗する力頗る强大なり。出穗前三、四十日頃の生育旺盛なる時に降雨連日に亙りて氣溫上昇せざる年(大正七年)には收量惡けれども之に反して此の時期に際して氣溫高く小雨にして分布良好の年には莖葉の發育頗る早く昭和元年大正九年の如く收量多し。故に粟作にとりては此の時期に多雨ならんよりは寧ろ乾燥して高溫を望むこと大なり。旣に出穗してより完熟に至る迄の期間即成熟期間の降水量は第四圖其の三に見るが如く大體に於て收量とは反對の傾向を有するも大正十一年十三年の如く乾燥烈しき年にも收量劣るを見る。日數と降水量との關係は大正六年の例外を除いては降水多き程成熟晚れ降水少なき程成熟早く且つ收量多し。全生育期間を通しては第四圖其の四に見るが如く大正六年の例外を除く外大體降雨少なき程收量多く、降雨過少にして凶作に逢ひたる年なく大正七、十年の如く多雨の年に收量惡るし。此の期間の雨量少きは昭和元年の三三二粍にして最も多きは大正六年の七一七粍平均四六四粍なり。要するに粟は大豆、高粱

に比して乾燥に堪ゆる力極めて大にして雨少なく大減收を來せる年嘗てなし。故に極く少量の雨と好分布にて足る、雨多き年に不作多きを見る。

第三節　粟作と風

滿洲の風は大陸的氣候の特徵として變化なく南西の風のみ多し。七、八、九月の粟の開花、登熟の候に暴風少なけれども四、五月の兩月には降雨の僅少と相まつて風强く圃場の乾燥甚しく發芽を害すること多く滿洲農業の一大難關たり。已に發芽せる幼植物も吹き飛ぶ土砂のために嫩葉を損傷せらるゝ年尠なからざるなり。今滿洲に於ける暴風日數を示せば次の如し。

第十七表　暴風日數（累年平均）

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
旅順	一六	一四	一六	一六	一四	七	六	四	八	一三	一七	一六	一四七
大連	二〇	一七	二三	二三	二四	一九	一五	一〇	一四	一七	二〇	二〇	二二二
營口	一四	一三	一九	二一	二〇	一四	一〇	六	一〇	一五	一七	一三	一七二
奉天	六	六	一二	一四	一三	八	四	二	三	七	八	六	八九
公主嶺	六	八	一二	一九	一六	一四	一〇	六	七	一四	一二	一〇	一三四
長春	一二	一五	二〇	二二	二〇	一六	一〇	七	九	一四	一六	一五	一七六

収量多し。

第四節　栗作と日照時數

第十三表に示す如く滿洲の日照時數は內地に比すれば可成り多く、栗作には發育成熟の二期間多日照を要求す、光線は炭素同化作用を行ふ上に缺くべからざるもので多日照の年には栗の收量多し。

第五節　栗作と蒸發量

滿洲に於ては大陸的氣候の特徵として濕度少なく蒸發量大なり。蒸發に關係あるは降雨、風、氣溫等にして氣溫高くして風の强き日に其の蒸發最も多し。第十二表に見るが如く蒸發量は四、五、六月の春季に最も多く降雨の不足も此頃に多く又風も吹き栗の發芽を害し且つ幼植物を損傷すること頗る大なり。栗の嫩葉は此の被害を被れば縱に裂け先端は四分して埃拂の如くなる。かく春季發芽發育の時期に於て降雨少なく氣溫高く、蒸發多く旱魃に襲はるゝこと頻りなれども栗は前述の如く乾燥に對して頗る抵抗力强く大豆、高粱の旱害甚しき時にも被害比較的少なし。成熟期に及びては生育期中に形成せられたる養分が莖葉より種實に向つて移行する機能は全く葉面より水分を蒸發する力に助けらるゝが故に成熟期に於ては日照時數多く空氣乾燥して水分の蒸發盛んならんことを望む。

又蒸發量多く乾燥甚しき故に子實の貯藏保存には極めて好都合なり。

第三章　栗栽培と土壤

滿洲の農耕地土性の過半は埴土又は埴質壤土にして壤土、砂土は河岸の地又は山麓の地に限らるゝ樣で礫質土は山麓の地に存するに過ぎず、古生層其の他に屬する礫質埴土或は埴質礫土等は關東州及び安奉線方面にあるも分布は極めて少なし。

滿洲の農耕地の大部分は第四紀古層、又は新層にして、洪積層は主として奉天以北の地に分布し、沖積層は奉天以南多にし。又大古層、古生層、中生層より成る耕地は其の分布狹く安奉線又は關東州管内の一部地方又は山麓土壤に限らるゝが如し。

滿洲南部の大部分を占むる遼河平地は第四紀層、洪積層及び沖積層よりなり、後者の分布は殊に廣くして鐵嶺以南は殆んど之に屬し其の表面は大低風成の黄土樣の土壤にして遼河及び其の支流の兩岸附近のみは流水の運搬せる土砂堆積し砂粒を含有すること多く從つて砂土若しくは砂質壤土となる。松花江流域の土性も亦遼河流域のものと大差なく第四紀層に屬し、多くは埴質壤土及埴土なれども前者に比し有機質の含量比較的多し。盛京省東岸及鴨綠江流域の地は土壤何れも第四紀新層に屬する埴質壤土よりなり表土の深さ三尺に達し下層土は埴土なりと云ふ。

莊河以南より關東州に至る土壤は花崗岩及び石灰岩の崩壞よりなれる埴土又は埴質壤土にして赤黄色を呈せる耕地多し、栗は重粘の土壤より排水よき壤土、又は砂質壤土に好適す。濕潤な

る埴土又は壤土を最も嫌ふ。故に中國人は粟を山地又は傾斜地に多く栽培するなり。

第一節　滿洲土壤の化學的性質

滿洲の土壤は腐埴質の含量比較的僅少なれど鹽酸に不溶解物質及び不溶解鑛物豐富なる石灰、苦土曹達の含量比較的多く且つ燐酸、加里共頗る豐富なり。今當場にて分析せる各地の土壤の乾土一〇〇分中の成分を表示すれば次の如し。

第十八表　滿洲土壤化學的性質

地名	水分	腐埴質	全窒素	硅酸	礬土	酸化鐵	酸化滿俺	石灰	苦土	硫酸	燐酸	加里	曹達	全鹽類
金州	二・一二三	〇・四五〇	〇・一〇三	七・五二三	二・三四一	三・九二〇	〇・一二三	〇・二一八	〇・五九二	〇・〇六二	〇・一〇九	〇・二〇一	〇・二八四	〇・〇三五
瓦房店(一)	二・一一三	一・一〇〇	〇・一一四	一〇・二〇五	三・五七八	二・六五〇	〇・一九〇	〇・六六一	〇・六九八	〇・〇二九	〇・〇六一	〇・一五六	〇・二六八	〇・〇九四
同(二)	三・二三〇	二・四〇〇	〇・一〇三	七・六三一	四・一一一	三・九五〇	〇・〇八〇	〇・四八〇	〇・九三五	〇・〇七一	〇・〇八九	〇・二四五	〇・二三三	〇・〇三四
熊岳城	五・四一三	一・五〇〇	〇・一〇八	一〇・四二一	五・五八一	四・六一〇	〇・二六四	〇・七三六	〇・八六四	〇・〇一八	〇・一二九	〇・四一九	〇・〇九一	〇・〇三二
白旗	七・五〇四	一・九〇〇	〇・一一三	一九・三七八	一〇・八六五	七・四五〇	〇・二五〇	〇・八七四	一・六七一	〇・〇八〇	〇・一三五	〇・七九一	〇・七六〇	〇・四〇二
大石橋	三・七八〇	一・五〇〇	〇・一〇三	一〇・一四一	九・八六一	五・〇五〇	一・二五〇	〇・四八二	一・三二六	〇・〇二七	〇・〇六九	〇・二五六	〇・三四五	〇・〇六四
湯崗子	四・四六七	三・〇〇〇	〇・一六一	八・六八〇	六・四二三	四・一三〇	〇・一四〇	〇・五四二	〇・八二六	〇・三七六	〇・一七八	〇・五二七	〇・五八二	〇・八二三
遼陽(一)	三・四六〇	三・二〇〇	〇・一四七	一〇・八五二	六・五五〇	四・七五〇	〇・三三〇	〇・二八〇	〇・四七九	〇・〇二六	〇・一五〇	〇・一二四	〇・二六七	〇・〇五一
同(二)	三・九三三	二・五〇〇	〇・一四〇	一三・二三三	四・四七六	五・五五〇	〇・一五〇	〇・七八五	一・四九三	〇・〇九一	〇・二三四	〇・二二〇	〇・一二六	〇・〇六〇

奉天(一)	三・九四七	二・二〇〇	〇・一三九	一一・一三七	六・一四四	四・五五〇	〇・二一〇	〇・九〇七	〇・五〇〇	〇・〇三〇	〇・一五五	〇・三八五	〇・一五六	〇・〇六〇
同(二)	三・九七七	一・八四〇	〇・一一三	一〇・三四四	五・二三四	三・五二〇	〇・二三〇	〇・五八九	〇・九六二	〇・〇五一	〇・一〇六	〇・二一三	〇・三四二	〇・〇五九
鐵嶺(一)	一・四四七	二・三〇〇	〇・一七一	一四・五一八	三・二六八	四・一五〇	〇・一三〇	〇・八一八	〇・九七六	〇・〇八六	〇・一三三	〇・二二三	〇・三一五	〇・二〇四
同(二)	〇・三九三	〇・一〇〇	〇・〇二四	二・四九三	一・一六六	〇・七五〇	〇・〇一〇	〇・二六〇	〇・〇三〇	〇・〇八六	〇・〇二四	〇・〇二〇	〇・〇七六	〇・〇二八
同(三)	一・七六〇	一・六〇〇	〇・〇九一	七・三七六	一・〇一三	一・五五〇	〇・一一〇	〇・三三〇	〇・五八〇	〇・〇八九	〇・〇八七	〇・三二〇	〇・二五二	〇・一五七
開原(一)	四・〇八七	二・一〇〇	〇・一四七	一〇・九一一	五・七九八	四・八五〇	〇・二一〇	〇・四八二	一・〇〇〇	〇・〇四八	〇・一〇三	〇・二二六	〇・二六〇	〇・〇五二
同(二)	二・一四八	〇・四二八	〇・〇八三	八・三五四	二・三四五	一・五二〇	〇・〇三八	〇・四五四	〇・四八二	〇・〇六九	〇・〇八五	〇・一一三	〇・一三五	〇・〇八二
四平街	三・五八一	三・六〇〇	〇・一五九	九・一八三	四・八二三	四・一二〇	〇・一〇五	〇・三九五	〇・二四五	〇・〇五四	〇・〇九八	〇・二六八	〇・一五一	〇・〇六一
公主嶺	四・八六七	三・六〇〇	〇・一五九	一三・三四四	六・九九八	四・二五〇	〇・一七〇	〇・九七四	〇・一二八	〇・〇三〇	〇・一〇三	〇・五二九	〇・二六〇	〇・〇四七
長春(一)	三・一三三	二・九五〇	〇・一九二	一三・三二六	六・二〇三	六・〇五〇	〇・四三三	〇・九二八	〇・二七一	〇・一四二	〇・一五七	〇・四四五	〇・一一四	〇・〇五六
同(二)	五・二二四	二・一四〇	〇・一三〇	一〇・二七六	七・二四三	五・二六〇	〇・一二四	〇・九一二	一・二〇一	〇・〇七二	〇・一一七	〇・二三〇	〇・二八五	〇・〇八二
營口	一・四七〇	〇・四一〇	〇・一〇〇	五・四九七	二・二五五	二・七五〇	〇・二九〇	〇・五四三	〇・八一四	〇・〇三八	〇・〇八五	〇・二七九	〇・八四四	〇・二八三
撫順	三・三六〇	四・四〇〇	〇・一二〇	九・八九二	七・四二〇	五・一五〇	〇・一五〇	〇・五四九	〇・八九六	〇・〇六一	〇・一一〇	〇・三〇一	〇・四八一	〇・〇二八
本溪湖	二・八九〇	一・三〇〇	C・二〇四	九・三一四	四・五〇一	五・二五〇	〇・二七〇	〇・二二八	〇・四三三	〇・〇九六	〇・一九九	〇・二三四	〇・一二六	〇・三五六
安東	二・九七二	三・四〇〇	〇・二〇一	九・八二三	六・八四九	五・〇七〇	〇・二九〇	〇・七四四	〇・五二四	〇・六八二	〇・三五一	〇・三八六	〇・一四九	〇・〇五五

以上の表の如く一般に腐埴質物を缺くも加里、燐酸頗る豐富又其の他の鑛物質に富み滿洲土壤は化學的には粟作に好適す、又土壤の反應は多く微鹽基性を呈し酸性を呈する土地極めて稀なり。可溶性鹽類概して多く春期乾燥期に於てはアルカリ斑なるものを各地に露出す、其の最も

甚しい地方は湯崗子附近、白旗附近及び遼河沿岸の低濕地に存在す。白旗及び湯崗子アルカリ土壤に於ける栽培試驗の結果によれば粟はこのアルカリ鹽類に對して高粱について抵抗力强き作物なり。

第二節　滿洲土壤の理學的性質

滿洲土壤の理學的性質を見るに農耕地の過半は有機質を含む事少なく土壤概して重粘にして凝聚力及び附着力に富み降雨直後耕作に便ならず。

且つ土壤一般に孔竅量に乏しく空氣の透通不良なり又容水量大ならざれば毛細管引力は比較的强大にして水を吸昇せしむること稍速かに又耕地の燐酸及び窒素の吸收力は比較的强大にして第四紀新層埴土中には特に大なり。卽ち理學的性質は化學的性質の良好なるに反し劣る狀態にありと云ふべし。

今次に各地土壤の土質、土性竝に之れが當場にて行へる洗滌分析の結果を示せば次の如し。

第十九表　滿洲土壤の理學的性質（其の一）

地名	土質	土性	原土一〇〇分中の土粒						
			一〇粍以上	一〇—八粍	八—六粍	六—四粍	石礫合計	（細土）四粍以下	（細微土）〇・〇五粍以下
金州	第四紀新層	砂質壤土	—	—	—	—	—	一〇〇・〇〇〇	九六・六二七

瓦房店(一)	第四紀新層	砂質壤土	—	—	—	—	〇・九〇二	九九・〇九八	九六・六一二
同(二)	同	壤土	—	—	—	四・〇三七	四・〇三七	九五・九六三	八三・八九八
熊岳城	同	埴土	—	—	—	—	—	100.000	九七・四三九
白旗	同	同	—	—	—	—	—	100.000	九九・六四九
大石橋	古生層	同	—	—	—	—	—	100.000	九九・九二五
湯崗子	—	—	—	—	—	—	—	100.000	九八・〇三五
遼陽(一)	第四紀新層	埴土	—	—	—	—	—	100.000	九九・五七二
同(二)	同	壤質砂土	—	—	—	—	—	100.000	九八・九二〇
奉天(一)	同	埴土	—	—	—	—	—	100.000	九九・〇三七
同(二)	第四紀古層	同	—	—	—	—	—	100.000	九六・八一三
鐵嶺(一)	太古層	同	—	—	—	—	—	100.000	九七・三三六
同(二)	第四紀新層	砂土	—	—	—	—	—	100.000	九八・一五〇
同(三)	同	壤土	—	—	—	—	—	100.000	九八・一二三
開原(一)	第四紀古層	埴土	—	—	—	—	—	100.000	九七・七〇一
同(二)	第四紀新層	壤質砂土	—	—	—	—	—	九七・八五三	九二・三二四
四平街	第四紀古層	植土	—	—	—	—	—	100.000	九五・二三〇
公主嶺	同	同	—	—	—	—	—	100.000	九八・六八九
長春(一)	同	同	—	—	—	—	—	100.000	九八・二一七
同(二)	第四紀新層	壤質埴土	—	—	—	—	—	100.000	九六・八六九

營口	同	埴土	—	—	—	—	—	一〇〇・〇〇〇	九八・九一八
撫順	同	同	—	—	—	—	—	一〇〇・〇〇〇	九七・八八〇
本溪湖	同	壤土	—	—	—	—	—	一〇〇・〇〇〇	五九・六〇〇
安東	同	埴質壤土	—	—	—	—	一・四二一	九八・五八九	九〇・二一七

尚詳細に粒徑四粍乃至一粍細土及び〇・五粍以下の細微土の一〇〇〇分中の割合を表示すれば次の如し。

第二十表　滿洲土壤の理學的性質（其の二）

地名＼粒徑	四—二粍	二—一粍	一—〇・五粍	〇・五—〇・二五粍	〇・二五—〇・一粍	〇・一—〇・〇五粍	〇・〇五—〇・〇二粍	〇・〇二粍以上	〇・五粍以下	〇・〇五粍以下
金州	一・二二〇	〇・九二二	一・二四三	一三・四二四	二六・五五八	一三・八三八	五・二三四	三七・六八三	九六・六二七	四二・八〇七
瓦房店（一）	〇・八〇九	〇・六四一	一・〇七〇	一二・〇四四	二三・四二五	一八・九三〇	一八・〇三八	二五・〇四二	九六・六一三	四三・〇八〇
同（二）	一・九二七	三・六〇一	七・〇四一	四・九四一	一三・二四七	一二・四三六	二八・六三七	二八・六三七	八七・四三〇	五七・二七四
熊岳城	〇・〇九五	一・〇八二	一・三八四	〇・三六〇	六・五八九	六・六三〇	二九・一四〇	五四・七二〇	九七・四三九	八三・八六〇
白旗	—	—	〇・三五一	〇・六〇〇	〇・八二一	二・八二五	一一・九六三	八三・四四〇	九九・六四九	九五・四〇三
大石橋	—	—	〇・〇七五	〇・三九六	一・五四四	二・三七四	三六・四八七	五九・一二五	九九・九二五	九五・六一二
湯崗子	〇・一二七	〇・三三〇	一・五〇七	一・六六七	二・二六七	一二・五二五	二四・二三七	五七・三四八	九八・〇三五	八一・五七五
遼陽（一）	〇・〇八〇	〇・二六四	〇・二六四	〇・六〇九	〇・八五二	四・六九七	四四・一九四	四九・二三〇	九九・五七二	九三・四一四
同（二）	〇・〇四九	〇・二八五	〇・七四五	四・九四一	九・三〇七	二一・〇六四	四〇・四九三	二七・一七〇	九八・九二〇	六七・六六三

奉天(一)	—	〇・二四二	〇・四二〇	一・五一四	二・二〇二	八・七九七	三三・三二二	五四・五〇二	九九・〇三七	八六・八二四
同(二)	一・二七九	〇・六九四	一・二二四	二・七八六	五・二四三	一三・四二九	三〇・一二九	四五・一二七	九六・八一三	七五・二五六
鐵嶺(一)	〇・六五三	〇・八一三	一・一七〇	一・二六六	一・八四四	一一・七九八	四一・二七五	四一・一八二	九七・三六六	八二・四五七
同(二)	—	—	一・八五〇	三三・一八四	二八・二八一	二四・五三四	五・八一三	六・三四九	九八・一五〇	二一・一六一
同(三)	—	一・〇〇〇	〇・八七七	九・六八一	四三・三一五	四・一六三	一九・七四七	二〇・九八六	九八・一三三	四〇・七三三
開原(一)	〇・八三六	〇・六七八	〇・七八四	〇・五四四	一・七八二	一五・九七四	三・一七三	四九・二三八	九七・七〇一	七九・四〇一
同(二)	一・二八二	一・一一五	三・二五二	二三・二八四	二九・二一五	一三・一〇二	一〇・六二四	一八・一二七	九二・三三四	二八・七五一
四平街	一・〇五五	一・五九〇	三・〇二五	二・五〇二	四・〇六八	五・五七八	三七・〇四一	四五・一五一	九五・二三〇	八二・一九二
公主嶺	—	〇・六三八	〇・六七三	一・八六八	一・六六四	二・二一六	七・二三〇	八五・六〇一	九八・六八九	九二・八三一
長春(一)	〇・〇四三	〇・五四二	〇・七八一	〇・二九三	〇・九四三	一三・九二五	二九・〇八一	五四・三九一	五八・二一七	八三・四七二
同(二)	一・〇四六	〇・八二九	一・二五六	二・七六八	九・五一三	一五・三四二	四一・〇〇五	二八・二四二	九六・八六九	六九・二四七
營口	〇・三九二	〇・三四四	〇・三四六	〇・四七〇	四・一〇〇	七・五六六	五八・五〇六	二八・二七六	九八・九六八	八六・七八二
撫順	〇・〇八八	〇・五二六	一・五〇六	二・一七六	四・二七五	五・〇七一	三八・六五六	四七・七〇三	九七・八八〇	八六・三五九
本溪湖	一三・三二二	一四・七三九	一三・三三九	五・七三三	六・五〇六	五・四六八	一四・二九二	二七・六〇一	五九・六〇〇	四一・八九三
安東	一・六四四	一・四八三	四・三六五	七・〇八七	一四・五一五	八・九七四	四〇・一二七	二一・八四五	九一・五〇八	六一・九七二

以上の表の如く滿洲土壤の理學的性質は有機質の缺乏のため重粘にして空氣の流通悪しく降雨後の耕耘に不便を感ずること往々あり。然れども亦重粘なるために水分の保蓄力に富み又耕地の加里、窒素、燐酸の吸收力大なれば粟作にとりて滿洲土壤は好適するものと云ふべし。

第四章　粟作の沿革

第一節　粟の原種

學　　名　Setaria Itlica
英 國 名　Italian Millet
獨 國 名　Kolben Hirse
佛 國 名　Panis ditalie
支 那 名　粟、稷、穄、粢、穀子、谷子
印 度 名　Hungu or prigungu
ペルシヤ名　arzum
露 國 名　Rycnuza
日 本 名　あは

粟の原種はゼッセン（C. gessen）氏及び其の他の學者の説によれば東洋諸國到る處に自生する狗尾草（エノコログサ）なりと云ふ。狗尾草と酷似せる御穀と稱する品種あり、豐産にはあらざれど子實大にして美味なり、これ狗尾草に最も近き栽培種なり。

この種の品種は昔より到る處支那にありしもの丶如く、靈壽縣誌に「以粟爲稷而以粟中穗如狗尾草者爲粱蓋分之誤矣」の一句あり。

次にドカンドール氏の名著「栽培植物の根源」の粟の部を見れば次の如し。



向つて右は御穀　左は狗尾草

歴史學上、語學上、植物學上の諸材料より推論して粟は支那、日本、印度には數千年前の昔より栽培されサンスクリツト語が知られてから西の方に大速力で普及して行つたものに相違なし、而してシリヤ、アラビヤ、ギリシア等にはこの栽培がないから多分ロシア又はオーストラリヤを經てスウイスの石器時代の湖上生活者の間に傳つたものとして居る。

pickering氏曰く古代エヂプトの二つの繪畫の中に粟があり而も現在埃及に於て"dokhn"の名に於て栽培せられて居ると論じて居るもこれは粟でなくて黍なり。故に古代埃及に栽培があつたと云ふのは頗る疑問とする所なりと。而してスウイスの石器時代の湖上生活者の遺跡や又は次の時代即サボイ時代の湖上生活

者の遺跡の中にも粟が存するを見る。古代ギリシヤやラテン民族は粟に就いては少しも注意をしなかつたし又少くとも彼等の云ふ數種の黍と粟を判然と說明することは不可能のことなり。現今南ヨーロッパに於ては粟の栽培は極めて稀れで希臘の如きは少しもない。而し南アジアには普通に栽培せらるゝを見る、サンスクリット語の Kungu or priyungu は粟にあてはむべき言葉であつてこの初めの方の Kungu はベンガリに僅かに殘つて居る。印度語に於てもこの作物に概當すべき言葉があると云ふ。Ainslie 氏はペルシヤ語の arzum 又はアラビヤ語の名を擧げて居るが後者のアラビヤ語の方は黍を云ふて居るのである。ヘブライ語にも粟なく埃及やアラビヤの植物學上の文獻の上にも粟は記載が見えない。依つて以上の國は粟の原產地に非ずして輸入したもので現今も或る特殊な地方にのみ栽培せられて居ると云ふ。伊太利の品種名 Italicum と云ふ標本はでたらめで又此の植物は極く稀れに栽培せられて居るのみで又野生にもない Rumphins 氏曰く、この植物はスンダ島にては野生して居るが而し優性ではない。Linnaeus が印度が原產であるといふ誤つた說を力說し且又公布したのは多分このスンダ島に野生して居ると云ふ事に基を發して居るのである。確かに粟は西印度から來て居ない、又 Rox-burgh 氏は印度に野生して居るのを見た事なしと斷言して居る。Joseph Hookers 氏の植物系統にはこの禾本科のものは現れなかつた、而して Aitchison 氏は北印度に於て僅かに栽培せられて居るのを見たと云ふて居る。Robert Brown 氏の云へるこの種に屬すと云ふ Australian の植物は他の種に屬して居るのである。Panicum italicum は日本に野生して居る少くとも種々の學者によつて germanica と稱せられる型

のものである。而して支那人は年々の儀式に用ふる五穀は自國の原産のものを用ふと考へて居る。而して Bunge 氏は北支那に於て Maximowicz 氏はアムール河の流域に於て粟殊に germanica 種型の大面積に栽培せられて居るのを見たと云ふ。ペルシヤやコーカサス山や又はヨーロッパに於てはこの植物は栽培せられたと單に植物誌に於て見るのみで往々栽培せられず投げられてゴミ堆積や路傍や荒蕪地に見るのみなりと。

故に氏は粟の原産地を支那とし紀元數千年前より栽培してあり、これがロシアを經てスウイスに到著したものと力説せり、粟の原種はヱノコロ草(狗尾草)であつて支那が原産であることには殆んど異論がない、支那全土日本に於て到る處に此の植物は野生す。

第二節　粟の名稱

支那にては太古より粟に關しては種々の文字が書かれて居たが、現今にては谷子又は穀子と書して一般に通用す。粟は種々の地方によつて種々の名稱があり「一名粢ト云フ楚人之ヲ稷ト云ヒ關中ニテ之ヲ糜トイフ」又禮記に「稷ヲ明粢ト云フ」等の記載あり。

而して粟と粱とを昔から區別して居たらしい。『本草綱目李時珍曰ク粱者良也穀之良也或云ク種粱州ヨリ出ツ或云ク粱米性凉故ニ粱ノ名ヲ得タリ、皆各已ヲ執ル見也、粱ハ卽チ粟也之ヲ周禮九穀六穀之名ニ考フルニ粱アリ粟ナシ知ルベシ。漢ヨリ以後始メテ大ニシテ毛長キ者ヲ以テ粱ト爲ス、細カニシテ毛短キ者ヲ粟ト爲ス、今則チ通呼シテ粟トナス粱ノ名反テ隱レタリ、今世俗隨ヒテ命名スルノミ、郭義恭廣志ニ解有リ粱ハ粱ニ具フ遼東赤粱之名乃チ田氏ノ命名ナリ』

ニ粟ト稱スル中之大穗長芒粗粒ニシテ紅毛、白毛、黄毛ヲ有スル三品者卽チ粱也。黄、白、青、赤、亦色ニ隨ツテ命名スルノミ、郭義恭廣志ニ解有リ粱ハ粱ニ具フ遼東赤粱之名乃チ田氏ノ命名ナリ』。

而し又粟と粱とは二物に非ずと論じた人もある『爾雅翼曰粱今之粟類古不以爲穀之名但米之有稃穀者皆稱粟今人以穀之最細而圓者爲粟則粱是其類內則曰飯黍稷稻粱白黍黄粱稰穛說者曰下言白黍則上是黄黍下言黄粱則上是白粱今粱有三種青粱穀穗有毛粒青米亦微青而細於黄白米也夏月食之極爲淸冷但以味短色惡不如如黄白粱故人少種之亦早熟而收小作餳淸白勝餘米、黄粱穗大毛長穀米俱麄於白粱而收子少不耐水旱食之香味逾於諸粱人號爲竹根黄白粱穗亦大毛多而長穀麄扁長不似粟圓米亦白而大其之香味美爲黄粱之亞古天子之飯所以有白粱黄粱者明取黄白二種耳、今人大低多種粟而少種以其損地力而收穫小耳然古無粟名則是以粱充粟今粟與粱功用亦無別明非二物也』。

日本にても昔は粱を「オホアハ」又は「オニアハ、サルアハ、シマアハ、シシクハズ」などと云へり「シシクハズ」とは穗毛深くして食害を免るゝを得との意、粟は「コアハ」と呼び又は「エノコロアハ」とも、稱する所あり。

歐米に於て german millet と稱する方のものは穗大にして刺毛多く昔支那にて粱と稱せられたるものに屬して common millet と稱するものは穗小さく刺毛短かく粟に相當す、而して italian millet と稱すれど伊太利は其の原產に非ず此の名稱の來れる理由に就きては正確なる說なけれど多分歐洲に於ては伊太利が比較的早く粟を栽培しこれを見たる歐洲の植物學者は itarian mi-

llet と稱し之れが今日まで通稱せられたるなり、

現今に於ては粟と粱と區別するもなく單に谷子と稱す。粟の精白せるものを小米と云ふ。粟にして糯を粘谷子と云ふ、粘谷子の精白せるものを小黄米と云ふ。

第五章　粟の植物學的特性及び調査成績

第一節　供試品種

當場にては大正三年以來各地より品種を採集し栽培し其の特性調査を續行し居れり、今其の取寄先及び取寄年度を示せば次の如し。

第二十一表　粟品種取寄先及び其の年度

品種名	取寄先	取寄年度
水裡站	公主嶺附近	大正三年
蓋州紅	雙臺溝	大正六年
高麗谷子B	下二臺	大正四年
黃粘谷子	雙楡樹	同
海南白	周家屯	大正六年
新臺白	新臺子	大正四年
薄地粗	小成子屯	同
大青苗壓破車	大湖眼	同
鳳尾球	廂藍旗	大正六年
長縄緊	大泉眼	大正四年
淺彩紅粘	靠山屯	同
青苗粘	熊岳城分場	大正三年
毛	熊岳城	同
鷺鷥樹	鷺鷥樹	同
紅南粃谷子	三十里堡	大正六年
御穀	安家窩棚	大正四年

糜時紅	窪子店	大正六年	猫脚	小街店	大正四年
六十日	奉天農事試驗場	大正三年	長春三號	長春	大正二年
黃	遼陽	同	長春一號	同	同
八面城	八面城	同	狗尾谷子	馬仲河	大正四年
窪裡	二十里堡	同	稽根	靠山屯	同
大斗黃	熊岳城	同	高麗谷子A	高家窩棚	同
猴腿子	窪子店	同	昌圖三號	昌圖附近	大正三年
繩緊	熊岳城	同	紅穀	遼陽	同
飯谷子	水師營	大正六年	鴨子嘴	靠山屯	大正四年
窊里青苗	熊岳城	大正三年	龍角	二十里堡	大正六年
黃毛	新臺子	大正四年	包米混	長春靰鞡草溝子	大正四年
高刀胃	大孫家臺	同	黑粘	小高麗墓子	同
釘子頭	土城子	大正六年	紅粘	公主嶺附近 三河屯	同
雙廟子	雙廟子	大正三年	柳根赤	奉天農事試驗場	大正三年
長刀把齊	小城子屯	大正四年	叩根	公主嶺	同
刀把齊	公主嶺	大正三年	紅苗谷子	李家屯	大正六年
紅刀把齊	龍母廟子	大正四年	老來變	三河屯	大正四年
牛尾把黃	靠山屯	同	龍鳳擋	唐家房	大正六年
龍爪	大湖眼	同	粘谷子	雙臺溝	同

粧子	對家屯	大正六年	北滿七五號	北滿愛河	大正十二年
大粒黃	新河口	大正四年	北滿八一號	同	同
八大葉	普蘭店	大正六年	北滿八六號	同	同
尖穗	二臺子	同	北滿八八號	同	同
毛大粒	李家店	同	北滿九〇號	同	同
打鑼棒	長店堡	同	北滿九五號	同	同
毛粘殼	九塞	同	北滿一〇三號	同	同
白砂	熊岳城	大正三年	北滿一〇四號	同	同
昌圖一號	昌圖	大正二年	北滿一〇六號	同	同
黃粘	鐵嶺	大正十四年	北滿一一一號	同	同
北滿七一號	北滿愛河	大正十二年	小穗	鐵嶺	大正十四年

第二節　粟の子實

粟の子實は穎を以つて包まる、卽ち植物學上の穎果 Karyopsis と稱するものにして假果Scheinfrucht に屬せり、穎は內稃第一苞穎、第二苞穎、第三苞穎及び花穎の五部あり、內稃を除く外三乃至五脈あり長楕圓形をなし長さは大約二乃至三粍なり。

粒は廣楕圓形又は倒卵形をなすもの多けれど稀れに狹楕圓をなすものあり、縱の表面の中央

に稜が走り他の二稜も平行して走るも短かし。今當場農藝化學科西野氏の栗を分析せる結果を示せば次の如し。

第二十二表　栗の成分表（原物100分率）（一九二六年）

品種名　項目	水分	粗脂肪	粗蛋白質	可溶性無窒素物	粗纖維	灰分
刀把齊	一〇、六〇〇	四、一〇〇	八、七八一	六六、六八九	七、一三〇	二、七〇〇
御穀	一一、二五〇	四、二五〇	九、六五九	六三、一六一	八、八八〇	二、八〇〇
蓋州紅	一〇、三五〇	四、三〇〇	九、六五九	六六、〇四一	六、六五〇	三、〇〇〇
麋時紅	九、八五〇	三、九〇〇	九、六五九	六六、五七一	六、九七〇	三、〇五〇
紅南燵谷子	九、九〇〇	三、九〇〇	一〇、五三八	六四、三六二	八、二〇〇	三、一〇〇
鴨子嘴	一〇、五五〇	四、〇五〇	一一、四一六	六一、五八四	七、八〇〇	四、六〇〇
白砂	一〇、六五〇	四、〇〇〇	一〇、五三八	六三、三六二	八、三五〇	三、一〇〇
龍爪	九、三五〇	四、〇五〇	一〇、九七七	六四、七八二	七、九九〇	二、八五〇
北滿九五號	一〇、二五〇	四、二五〇	一〇、〇九八	六三、三三二	九、〇七〇	三、〇〇〇
毛	一〇、七〇〇	三、九〇〇	九、六五九	六四、九二一	七、九二〇	二、九〇〇
北滿八一號	九、九〇〇	四、九〇〇	一一、四一六	六三、一〇四	七、七三〇	二、九五〇
鳳球尾	一〇、一五〇	四、三〇〇	八、七八一	六六、九六四	六、八五五	二、九五〇
龍角	一〇、三〇〇	四、三五〇	一〇、五三八	六三、九四七	七、七六五	三、一〇〇

水裡站	一〇、六五〇	三、九〇〇	八、七八一	六七、一四九	六、八二〇	二、七〇〇
薄地租	一〇、七〇〇	四、三五〇	九、二二〇	六五、九三〇	六、九五〇	二、八五〇
八大葉	一一、四五〇	三、九〇〇	八、七八一	六五、九九九	六、九二〇	二、九五〇
海南白	一一、〇五〇	四、一〇〇	一一、四一六	六三、九一四	六、六七〇	二、八五〇
矬子	一〇、九〇〇	四、三〇〇	八、七八一	六四、九四九	八、〇七〇	三、〇〇〇
老來變	一一、〇五〇	四、二五〇	一一、四一六	六〇、九三四	九、三五〇	三、〇〇〇
包米混	一〇、八〇〇	四、六五〇	九、六五九	六三、五四一	八、三五〇	三、〇〇〇
粘谷子	一〇、五五〇	四、〇〇〇	一〇、〇九八	六五、二四七	七、一〇五	三、〇〇〇
紅粘	一〇、二五〇	四、六〇〇	一〇、九七七	六二、五五三	八、五二〇	三、一〇〇
黑粘	一〇、二〇〇	四、三〇〇	一〇、五三八	六〇、二一二	一一、五〇〇	三、二五〇
淺彩紅粘	一〇、八五〇	四、二〇〇	八、七八一	六六、二一九	七、二五〇	二、七〇〇
黃粘谷子	一〇、五〇〇	五、二五〇	一一、四一六	六一、三〇四	八、四三〇	三、一〇〇

次に本場に於ける特性調査の結果より色澤、大小、重量、粒數等に就きて記述すれば次の如し。

一　色　澤

栗の子實の色澤は大體に於いて黃色、白色、赤褐色、黑色の四種なれど、熟度の如何により又は乾燥調製の如何によりて其の間種々色澤に變化あり、譬へば黃白色あり、濃黃色あり、乳白色あり、濃赤褐色あり、又は淡褐色等あり。今色によつて當場特性調査用品種を分てば次の如し。

白色種　　白砂外十一品種

黄色種　水裡站外四十八品種
赤褐色種　紅粘外六品種
黒色種　黒粘一品種

以上示す如く黄色なるもの最も多く此の上濃黄色をなすもの十品種あり黒色をなすものは黒粘一品種あるのみ。

二　大小

栗の子實の大小は一見其の差なきもの丶如きも實際測定せる結果著しく差あり、今之れを一千粒の重量、一瓦內の粒數、一立の重量等にて比較せば次の如し。

(イ) 本場に於て三箇年間一千粒の重量に就いて調査せる結果、最大は毛粘穀の三、五一四瓦にして新臺白、御穀等之に亞ぎ最小は北滿九五號、一〇六號にして一・七六瓦。紅粘、長春三號等之に亞いで少なし。

之によつて見れば子實の色澤の赤色又は褐色をなすものは皆一千粒の重量少なし。今一千粒によつて其の大小を大體分つ標準を示せば次の如し。

粒の大小	千粒の重量
大	二、九〇〇瓦以上
中	二、一〇〇—二、九〇〇
小	二、一〇〇以下

（ロ）一瓦重量内の粒數に就いて調査せるに最高は御穀の二九六粒、毛粘穀の三〇二粒之に亞ぎ青苗粘、新臺白等又其に亞ぐ、最小は北滿九五號、北滿七一號にして五九三粒、五八七粒なり、今之によつて卽一瓦重量中粒數の小なるものを大粒種とし粒數の多きものを以つて小粒種とする大體標準を作れば

粒の大小	一瓦内の粒數
大	三四〇粒以下
中	三四一粒―四八九粒
小	四九〇粒以上

以上二つの標準によりて大小を定めたるものを次に示せり。

1 大粒

品種名	一千粒の重量（瓦）	順位	一瓦内の粒數（粒）	順位
毛粘穀	三・五一三八	一	三〇二	二
新臺白	三・四八三三	二	三一八	四
御穀	三・三七五四	三	二九六	一
八大葉	三・一一八一	四	三二二	五
鷺鷥樹	三・一一四八	五	三三七	七

品種名	一千粒の重量	順位	一瓦内の粒數	順位
青苗粘	三・〇七〇五	六	三〇九	三
高麗谷子B	三・〇〇六八	八	三四六	八
高刀冒	三・〇四二六	七	三二七	六
蓋州紅	二・九一〇〇	一一	三三五	一〇
水裡站	二・九八三四	一〇	三四二	一一
長繩緊	二・九九三三	九	三三三	九

2　中粒

品種名	一千粒の重量	順位	一瓦内の粒數	順位
鳳球尾	瓦 二・八〇四	八	粒 三六一	一三
猫脚	二・八一五	六	三五七	一〇
鴨子嘴	二・八二一	四	三六二	一四
稭根	二・八〇九	七	三五一	四
叩根	二・八四一	三	三五八	一一
打鑼棒	二・八六二	一	△三三五	二
白砂	二・八一六	五	三五五	七
昌圖一號	二・八四七	二	三五二	五
黄粘谷子	二・七九二	九	三四九	三

黄	二・七八五	一〇	三五六	九
雙廟子	二・七四九	一二	三六〇	一二
狗尾谷子	二・七三八	一四	三五六	八
柳根赤	二・七四三	一三	三五四	六
紅苗谷子	二・七二七	一六	四〇二	三四
大粒黄	二・七六四	一一	三七八	一九
尖穗	二・七三六	一五	三七〇	一七
薄地租	二・六九二	一八	三九九	三二
毛	二・六八二	二〇	△三三二	一
紅南蛙谷子	二・六〇八	二三	三八四	二三
長刀把齊	二・六二六	二二	三六六	一五
高麗谷子A	二・六九八	一七	三八四	二二
毛大粒	二・六三一	二一	三八〇	二〇
六十日	二・五一八	三〇	三九一	二六
八面城	二・五二四	二九	三九八	二九
大斗黄	二・五五二	二六	三八三	二一
縄緊	二・五九五	二五	四〇〇	三三
飯谷子	二・五三三	二七	三六八	一六
黄毛	二・五二五	二八	三七五	一八

粘谷子	二・六八八	一九	三八八	二五
燵子	二・五九五	二四	三八六	二四
海南白	二・四六〇	三三	三九六	二八
淺彩紅粘	二・四四四	三五	三九九	三〇
窪裡	二・四七四	三二	三九九	三一
窯裡青苗	二・四八五	三一	四一四	三八
紅刀把齊	二・四五〇	三四	四〇五	三六
龍爪	二・四一八	三九	四三〇	三九
包米混	二・四四一	三六	四〇二	三五
長春一號	二・四三一	三八	△四九三	四六
北滿八六號	二・四三三	三七	△四九九	四七
大青苗壓破車	二・三六九	四一	四〇八	三七
牛尾黃把	二・三七九	四〇	四三八	四二
龍角	二・三三一	四三	三九四	二七
紅穀	二・三〇三	四五	四五一	四五
北滿八一號	二・三三五	四二	△五一三	四八
北滿一〇四號	二・三〇六	四四	△五七〇	四九
猴腿子	二・二九一	四六	四三〇	四〇
齊	二・二二〇	四八	四四五	四四

昌圖三號	二・二二九	四七	四四四	四三
龍鳳擡	二・二〇一	四九	四三五	四一

3 小粒

品種名	一千粒の重量	順位	一瓦内の粒數	順位
北滿一〇六號	一・七五二四瓦	一	五七九粒	四
北滿九五號	一・七六〇二	二	五八七	二
紅粘	一・八九〇〇	三	五二五	六
長春三號	一・九七五八	五	四七七	八
北滿七五號	二・〇三一四	六	四四七	一〇
北滿一一一號	二・〇四五一	八	四五〇	九
老來變	一・九七五六	四	四九一	七
北滿一〇三號	二・〇四二〇	七	五三二	五
北滿七一號	二・一一六七	一〇	五九三	一
黑粘	二・一〇九九	九	五八三	三

即ち右の表により見る如く(イ)及び(ロ)の方法によれば二、三の例外はあるも大體同一の結果を

得たり。北滿より取寄せたるものは殆んど全部小粒種に屬す且つ粒の褐色、紅色、黑色をなすものは皆小粒なり。

三　一穗の粒數

大正十一年及び同十四年度の二箇年間一穗の粒數の調査をなしたる其の平均を見るに最大は窪裡の八千三百九十四粒にして糜時紅、狗尾谷子、打羅棒等之に亞ぎ最小は青苗粘の三千四百七十八粒にして大青苗壓破車、御穀、北滿一〇三號、北滿一〇六號等之に亞ぐ、普通は四千五百より六千迄なり。

四　一立の重量

大正七年より昭和三年迄の間の調査によれば最も重きは長春一號の六九〇·三瓦にして最も輕きは毛粘穀の五一九·三瓦にして普通は六二五瓦内外なり。一立の重量輕きもの子實大にして重きもの子實小なる理なれど實際に九箇年間實驗せる結果によれば其の間判然なる區別なし、一千粒の重量及び一瓦内の粒數によりて大小を分けたる法と何等の關係なし、之れ一立重量を測定する人及び熟練の如何によりて差あるものと思はる。

左に一千粒の重量及一瓦内の粒數を調査せる結果と一立重量を調査せる結果とを表示すべし。

第二十三表　粟の子實調査成績表

品種名	一千粒の重量 大正十三年	一千粒の重量 大正十四年	一千粒の重量 昭和三年	一千粒の重量 平均	一瓦内 粒數	一穗の粒數 大正十一年	一穗の粒數 大正十四年	一穗の粒數 平均
水稗站	瓦 二・九五九三	瓦 三・二三九八	瓦 二・八六二〇	瓦 二・九八三四	粒 三四二	粒 四、二八八	粒 六、二五三	粒 五、二七〇
蓋州紅	二・九八二二	二・六七三八	三・〇七四〇	二・九一〇〇	三三五	四、七八九	三、八四三	四、三一六
高麗谷子B	三・〇〇五〇	二・八四一五	三・一七四〇	三・〇〇六八	三四六	二、七四七	五、五一六	四、一三一
黄粘谷子	二・八一九一	二・四八六五	三・〇六九〇	二・七九一五	三四九	三、五三五	六、二九一	四、九一三
海南白	二・三六二五	二・六六七九	二・三四九〇	二・四五九八	三九六	五、五〇七	六、二九六	五、九〇二
新臺白	三・一四九五	三・二四四三	四・〇五六〇	三・四八三三	三一八	四、〇一五	七、五九三	五、八〇四
薄地租	二・五五七五	二・九三九六	二・五七九〇	二・六九二〇	三九九	四、五三九	六、七四四	五、六四二
大青苗壓破車	二・四七六〇	二・五六三六	二・〇六八〇	二・三六九二	四〇八	二、三三七	五、五三七	三、九三三
鳳球尾	二・七五三〇	二・六八〇三	二・九七九〇	二・八〇四一	三六一	三、二一〇	九、七〇二	六、四五六
長縄緊	三・二四六三	二・九一四六	二・九一九〇	二・九九三三	三三三	三、一一七	九、一〇五	六、一一一
淺彩紅粘	二・五〇一五	二・四五一六	二・三七九〇	二・四四四〇	三九九	四、八四七	八、七〇二	六、七七五
青苗粘	三・一七六一	三・一六六四	二・八六九〇	三・〇七〇五	三〇九	三、〇四四	三、九一一	三、四七八
毛	二・八七七五	二・六四九四	二・五一九〇	二・六八二〇	三三三	三、六三三	一〇、二一三	六、九一七
鷲鷺樹	三・〇九七五	三・〇八七九	三・一五九〇	三・一一四八	三三七	四、三三九	四、五一一	四、四二五
紅南雉谷子	二・六六九一	二・六七三三	二・四七九〇	二・六〇七八	三八四	四、五〇一	五、八四九	五、一七五
御穀	三・五〇五八	三・二九一三	三・三二九〇	三・三七五四	二九六	三、一一九	四、九七六	四、〇四八
糜時紅	二・七四九二	二・七八五一	三・二七九〇	二・九三七八	三五五	五、四三九	九、六四五	七、五四二
六十日	二・六五五七	二・五〇四二	二・三九四〇	二・五一八〇	三九一	三、七三三	五、七六〇	四、七四一

黃	二・七八六〇	二・四九八七	三・〇六九〇	二・七八四六	三五六	二、九八九	六、二四九	四、六一九
八面城	二・六一三〇	二・四六九九	二・四八九〇	二・五二四〇	三九八	四、四五四	七、六一五	六、〇三五
窪裡	二・四八三〇	二・五五〇五	二・三八九〇	二・四七四二	三九九	三、二七〇	一三、五一七	八、三九四
大斗黃	二・八五三〇	二・五八三三	二・二一九〇	二・五五一八	三八三	三、三〇七	五、三三六	四、三一七
猴腿子	二・三八三三	二・二七一七	二・二一九〇	二・二九一三	四三〇	五、五五九	七、六六八	六、六一四
縄緊	二・五四〇三	二・三一四七	二・九二九〇	二・五九四七	四〇〇	三、九三三	五、九四六	四、九四〇
飯谷子	二・六六六一	二・三五九〇	二・五七四〇	二・五三三〇	三六八	三、〇七〇	一一、一九六	七、一三三
窩裡青苗	二・五六二三	二・四六二八	二・四二九〇	二・四八四七	四一四	五、七四五	九、七四八	七、七四七
黃毛	二・六〇九一	二・五〇〇五	二・四六四〇	二・五二四五	三七五	四、二五五	八、二六一	六、二五八
高刀冐	三・〇五五〇	三・一〇三九	二・九六九〇	三・〇四二六	三三七	二、九七五	八、九六八	五、九七二
釘子頭	二・七七五〇	二・三三〇三	二・四五四〇	二・五一九八	三七七	五、七〇三	七、九四二	六、八三三
雙廟子	二・七八八一	二・七一五二	二・七四四〇	二・七四九一	三六〇	三、一五六	六、八一〇	四、九八三
長刀把齊	二・七二二九	二・七七一三	二・三八四〇	二・六二六〇	三六六	四、六七三	五、一九三	四、九三三
刀把齊	二・三〇二五	二・二一九六	二・一三九〇	二・二二〇四	四四五	四、七二七	六、七〇四	五、七一六
紅刀把齊	二・五五五〇	二・四五六六	二・三三八〇	二・四五〇〇	四〇五	四、四六九	六、九八七	五、七二八
牛尾把黃	二・四五三九	二・四四〇四	二・二四四〇	二・三七九四	四三八	三、四〇三	六、三八〇	四、八九二
龍爪	二・三四七〇	二・三七四三	二・五三四〇	二・四一八四	四三〇	五、三一五	八、二八五	六、八〇〇
猫脚	二・八六一五	二・八七九四	二・七〇四〇	二・八一五〇	三五七	五、五三六	七、九九九	六、七六八
鴨子嘴	二・八二〇六	二・八四三八	二・九六九〇	二・八七七八	三六二	五、三六八	七、四七一	六、四二〇
龍角	二・二四〇〇	二・四一三七	二・三三九〇	二・三三〇九	三九四	三、二五九	八、九五八	六、一〇九
包米混	二・五〇五一	二・四四八〇	二・三六九〇	二・四四〇七	四〇二	四、三二三	五、一一三	四、七一八

黑粘	一・六六三二	二・七八七五	一・八七九〇	二・一〇九九	五八三	五、一五七	七、四三四	六、二九六
紅粘	一・九五七五	一・五一六五	二・一九六〇	一・八九〇〇	五二五	四、六八八	—	四、六八八
長春三號	二・一〇〇三	一・七一八〇	二・一〇九〇	一・九七五八	四七七	四、五六〇	八、四〇五	六、四八三
長春一號	二・二八七〇	二・三四八三	二・六五九〇	二・四三二四	四九三	四、七〇七	六、三三八	五、五二三
狗尾谷子	二・八三五〇	二・六〇一三	二・七七九〇	二・七三八四	三五六	五、五〇一	八、四〇二	六、九五二
稭根	二・九二五〇	二・六九八〇	二・八〇四〇	二・八〇九〇	三五一	五、三九九	六、〇九八	五、七四九
高麗谷子A	二・六四二三	二・八五六九	二・五九四〇	二・六九七七	三八四	五、七六七	八、六三三	七、二〇〇
柳根赤	二・八四五一	二・六九五九	二・六八九〇	二・七四三七	三五四	四、八六〇	八、九三二	六、八九六
叩根	二・八〇四〇	二・七五四七	二・九六四〇	二・八四〇九	三五八	四、二四五	八、二六五	六、二五五
紅苗谷子	二・六〇二六	二・三四九四	三・二二九〇	二・七二六七	四〇二	五、三四七	七、四九五	六、四二一
老來變	一・九八九五	一・九五八四	一・九七九〇	一・九七五六	三九一	五、二七八	六、七八三	六、〇三一
昌圖三號	二・二七〇〇	一・九五六四	二・四五九〇	二・二二八五	四四四	三、二七二	五、八五六	四、五六四
紅穀	二・二二〇〇	二・三三〇六	二・三六九〇	二・三〇三二	四五一	四、三〇七	六、三八七	五、三四七
龍鳳擋	二・三三三一	二・三二〇六	一・九五九〇	二・二〇〇九	四三五	四、一〇八	八、八五九	六、四八四
粘谷子	二・六八七六	二・五三一三	二・三〇九〇	二・五〇九三	三八八	五、五五四	八、〇〇六	六、七八〇
矬子	二・五八七〇	二・五三四八	二・六六四〇	二・五九五三	三八六	四、〇〇〇	七、九七九	五、九九〇
大粒黃	二・六五七〇	二・四七二一	三・一六四〇	二・七六四四	三七八	三、四四七	六、五三四	四、九九一
八大葉	三・一四九四	三・三二〇八	二・八八四〇	三・一一八一	三三三	三、九七七	七、四五五	五、七一六
尖穗	二・六九五〇	二・八三三五	二・六八九〇	二・七三五八	三七〇	四、七八九	七、四五五	六、一一三
毛大粒	二・六九四五	二・五七五七	二・六二四〇	二・六三二四	三八〇	三、六九一	六、一一一	四、九〇一
打鑼棒	二・九八四〇	二・七一九三	二・八八四〇	二・八六二四	三三五	五、二三五	九、三一二	七、二六九

毛粘穀	三・二〇三〇	四・二六〇五	三・〇七八〇	三・五一三八	三〇二	三、四三三	七、三八五	五、四〇九
白砂	二・八六一五	二・六六六八	二・九一九〇	二・八一五八	三五五	四、九五二	七、九二六	六、四三九
昌圖一號	二・九〇二〇	二・八六九一	二・七六九〇	二・八四六七	三五二	四、三一八	八、三〇八	六、三〇九
北滿七一號	—	二・五〇四四	一・七二九〇	二・一一六七	五九三	—	四、〇七〇	四、〇七〇
北滿七五號	—	二・〇〇三八	二・〇五九〇	二・〇三一四	四四七	—	六、六〇七	六、六〇七
北滿八一號	—	二・六九四九	一・九七四〇	二・三三四五	五一三	—	四、七三三	四、七三三
北滿八六號	—	二・八四七五	二・〇一九〇	二・四三三三	四九九	—	五、六二三	五、六二三
北滿八八號	—	二・二五〇九	一・九四九〇	二・一〇〇〇	四六八	—	四、三二八	四、三二八
北滿九〇號	—	二・二三四九	二・一〇四〇	二・一六四五	四九〇	—	六、二〇七	六、二〇七
北滿九五號	—	一・六四一三	一・八七九〇	一・七六〇二	五八七	—	五、六六五	五、六六五
北滿一〇三號	—	一・八三九九	二・二四四〇	二・〇四二〇	五三三	—	六、五七四	六、五七四
北滿一〇四號	—	二・六四三五	一・九六九〇	二・三〇六三	五七〇	—	六、四一〇	六、四一〇
北滿一〇六號	—	一・七六五八	一・七三九〇	一・七五二四	五七九	—	四、〇四六	四、〇四六
北滿一一一號	—	二・〇二六一	二・〇六四〇	二・〇四五一	四五〇	—	四、三二一	四、三二一
平均	二・六七〇六	二・五六五七	二・五五二四	二・五六七九	四〇三・七	四、二〇二・八	七〇六・五	五七〇・二

備考　一瓦内の粒數は大正十三年の五回の平均なり。

第二十四表　粟の子實一立の重量調査成績

品種名	大正七年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	平均
水裡站	六六七瓦	六二一瓦	六四〇瓦	六六五瓦	六五〇瓦	六七〇瓦	六五五瓦	六八〇瓦	六三〇瓦	六五二〇瓦

蓋州紅	五九五	五五七	六一九	五八六	六四五	五九〇	五六〇	六一〇	五九〇	五九四・七
高麗谷子B	六三〇	六二四	六四四	六六一	六五〇	六六〇	六五〇	六六〇	六五五	六四八・二
黄粘谷子	六三六	五六一	五九〇	五八二	六一〇	六二五	五二五	五九〇	五八〇	五八八・八
海南白	六一一	五三三	六〇七	五九九	六三〇	五九五	五八〇	六一五	五八五	五九四・九
新臺白	六一三	五九九	六二八	六四四	六九五	六五五	六一五	六三〇	六五五	六三七・一
薄地租	六五三	六二四	六三六	六四九	六七五	六八〇	六三〇	六六〇	六五五	六五一・三
大青苗壓破車	六三六	五八〇	六一五	六一五	六二五	六二五	五九〇	六一〇	六二五	六一三・四
鳳球尾	六一一	五四五	六四四	五五七	六二五	六一五	六〇〇	六二〇	六八〇	六一〇・八
長繩緊	六三六	五八六	六四〇	六二八	六四〇	六四〇	六二五	六一五	六〇〇	六二三・三
淺彩紅粘	六四七	六四〇	六四〇	六四九	六五〇	六六五	六二五	六五五	六三五	六四五・一
青苗粘	五四九	六七八	五四九	五二八	五七〇	五五〇	四五〇	五三五	五二五	五四八・二
毛	—	六一一	六三三	六三二	六六〇	六七五	六三〇	六四五	六二〇	六三八・二
鷺鷺樹	五四九	四二四	五三五	五三二	六六五	五四五	四八〇	五四〇	五二〇	五三二・二
紅南䅉谷子	五八八	四九五	六一五	五九〇	六二五	五九〇	五五五	五八五	五九〇	五八一・四
御穀	—	六〇六	六四四	六六一	六九五	六六五	六五〇	六六五	六六〇	六五五・八
糜時紅	六一一	五六一	六二四	五九九	六四〇	六二〇	五五五	六〇五	五七〇	五九八・三
六十日	五九〇	四七八	五九〇	五九〇	六三五	六一〇	五六〇	五九九	六〇〇	五八三・六
黄	五七四	四九一	五九〇	六〇七	六三〇	六二五	五八〇	五九〇	六一五	五八九・一
八面城	六〇一	六〇七	六一九	六二四	六五〇	六四五	六五〇	六四〇	六二〇	六二八・四

窪裡	五九七	五二八	六〇三	五九五	六三〇	五六五	五六六	五九五	五八五	五八四・九
大斗黃	六〇二	四八六	六三二	六四九	六四〇	六四五	六二〇	六五五	六一五	六一五・九
猴腿子	六〇二	五四九	六〇七	六一一	六一五	五九〇	五九五	六一五	六〇五	五九八・七
繩緊	五九八	五六一	六三三	六二四	六二五	六〇〇	五八〇	六一〇	六〇五	六〇三・九
飯谷子	六二四	五一六	六〇三	五六五	六一五	五八〇	六〇〇	五九五	五七五	五八五・九
窩裡青苗	—	五四〇	六一一	六一五	六二〇	六七〇	五五五	五八五	五七五	五九六・四
黃毛	—	五八六	六三六	六三二	六七五	六二〇	五八五	六二〇	六三〇	六二三・〇
高刀胃	—	五二八	五九五	六〇七	六二〇	六〇五	五一一	六〇五	五九五	五八三・三
釘子頭	六一九	五〇七	五八二	五九九	六一五	五九五	五六〇	六二〇	五九五	五八八・〇
雙廟子	六二四	五七〇	六四四	六四〇	六三〇	六〇五	五七五	六一五	六一八	六一三・四
長刀把齊	六四〇	六三六	六四四	六四四	六九〇	六六〇	六二〇	六六五	六二五	六四七・一
刀把齊	六六五	六二八	六六五	六五三	六七五	六六五	六五〇	六六〇	六五〇	六五六・八
紅刀把齊	六四〇	六一五	六五七	六四四	六七五	六五五	六三〇	六五五	六四五	六四六・二
牛尾把黃	六六五	六二四	六九八	六四四	六七〇	六七〇	六四五	六五五	六四〇	五六五・八
龍爪	五七六	五三三	五七〇	五八六	六一〇	五八五	五五〇	五六〇	五四〇	五六七・七
猫脚	五六一	四八二	五七四	五四五	五七五	五六〇	五二〇	五四五	五四〇	五四四・七
鴨子嘴	五五一	四九九	五六五	五六一	五五五	五七〇	五二〇	五四五	五三五	五四四・六
龍角	六〇五	四五七	六〇三	五九〇	六五〇	六二〇	五七〇	五七五	五八五	五八三・九
包米混	六二四	六一五	六一一	六〇七	六〇〇	六三五	六二〇	六四〇	六二五	六一九・二

黒粘	六二四	六六五	五九九	五九九	六五五	六一〇	六一〇	六三五	六一五	六三三・六
紅粘	六二三	五七八	六二八	六二八	六三〇	六三五	六二〇	六四〇	六一五	六二一・八
長春三號	六一一	五〇三	六二八	六二四	六五〇	六三五	六二五	六二〇	六一〇	六一一・八
長春一號	六九二	六六〇	六九八	六九八	七〇〇	七〇五	六八〇	七〇〇	六八〇	六九〇・三
狗尾谷子	六五五	五七八	六四四	六三六	六七〇	六六五	六六五	六四五	六四五	五四四・八
稭根	六五五	五六一	六五三	六三六	六七五	六五五	六一五	六七〇	六六五	六四二・八
高麗谷子A	六三四	五九五	六五三	六四四	六七〇	六五〇	五六五	六五五	六四〇	六三四・〇
柳根赤	六一五	五三二	六二四	六三二	六七五	六五〇	六一〇	六五五	六二〇	六二三・七
叩根	六五三	五八八	六二四	六六一	六七五	六五〇	六一五	六六〇	六五〇	六四一・八
紅苗谷子	五七六	四九五	五八二	五九〇	六三〇	五七五	五八〇	六〇〇	五七〇	五七七・六
老來變	六六三	六一一	六七八	六三二	六七五	六七五	六五〇	六六〇	六五〇	六五四・九
昌圖八三號	六六六	五三四	六七八	六三二	六九五	六八〇	六五〇	六七五	六四五	六五〇・六
紅穀	五八七	五一六	六一一	五九〇	六五〇	六〇五	五五五	五七〇	五八五	五八五・四
龍鳳擋	六一一	五七〇	六四九	六二八	六四〇	五九〇	六一五	六一〇	五八五	六一〇・九
粘谷子	五三八	四二四	五四〇	五五三	五八五	五三五	五一〇	五五〇	五二〇	五二八・三
稚子	五八五	五七〇	六一七	六一一	六〇〇	六〇〇	五九五	六二五	五九〇	五九九・二
大粒黄	六四九	五九九	六七八	六三二	六七〇	六五〇	六三〇	六三五	六四〇	六四二・六
八大葉	六三一	五〇五	六一一	六一五	六五〇	五九〇	五七〇	五六五	五七〇	五八九・七
尖穗	六三二	六三六	六四四	六三二	六二五	六三〇	五七〇	六二五	六〇五	六二三・一

毛大粒	五七〇	四四五	五七四	五四〇	五七五	五七〇	五八五	六〇五	六一〇	五六三・八
打羅棒	六四四	五四九	六三六	六三六	六四〇	六二五	五九五	六二〇	六〇五	六一六・七
毛粘穀	五八二	四〇六	五四〇	五一二	五七〇	五三五	四四五	五四〇	五四五	五一九・三
白砂	六二六	五五七	六三六	六五七	六五〇	六四〇	六〇〇	六三五	六三〇	六二五・七
昌圖一號	五八八	五九五	六三二	六二四	六二五	六三〇	五九〇	六二五	五八五	六一〇・四
北滿七一號	|	|	|	|	五五〇	五七五	五七五	五七〇	五五〇	五七四・〇
北滿七五號	|	|	|	|	六二五	六八〇	六六五	六七〇	六二五	六五三・〇
北滿八一號	|	|	|	|	六二五	六七五	六七〇	六七五	六二〇	六五三・〇
北滿八六號	|	|	|	|	|	六七〇	六七〇	六六〇	六二五	六五六・三
北滿八八號	|	|	|	|	六五〇	六七〇	六六〇	六七五	六三〇	六五七・〇
北滿九〇號	|	|	|	|	六五〇	六七五	六六五	六六〇	六一〇	六五二・〇
北滿九五號	|	|	|	|	五五〇	五九五	五九五	六一〇	五六五	五八三・〇
北滿一〇三號	|	|	|	|	六二五	六四〇	六二〇	六五〇	五八五	六二四・〇
北滿一〇四號	|	|	|	|	六〇〇	六三五	六三〇	六六〇	六一〇	六二七・〇
北滿一〇六號	|	|	|	|	六二〇	六三〇	六三〇	六三〇	五八五	六一九・〇
北滿一一一號	|	|	|	|	六二五	六五五	六一〇	六四五	六二五	六三二・〇
平均	六一五・四	五五七・七	六二〇・四	六二三・四	六二七・三	六二六・〇	五九六・九	六三一・八	六〇八・七	六一一・三

次に栗の子實の發芽の適溫、適濕に關しては目下研究中なるも今當試驗場に於て栗の子實の年齡と發芽との關係を調査研究せるものを示せば次の如し。

第二十五表　發芽試驗成績表（昭和三年度）

品種名	種子生産年度別	一日目	二日目	三日目	四日目	五日目	六日目	七日目	八日目	九日目	十日目	發芽率	發芽勢	平均發芽期間	發芽率退步減合
薄地租	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇%	〇%	〇日	一〇〇%
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	一四	四	二	—	—	—	—	—	—	—	二〇	二〇	一・四〇	八〇
	大正十二年	—	五	二	—	—	—	—	—	—	—	七	七	一・二九	九三
	大正十三年	一	六六	二五	六	—	—	—	—	—	—	九八	九二	二・三七	二
	大正十四年	一七	二七	一〇	—	—	—	—	—	—	—	五四	五四	一・八五	四六
	昭和元年	三七	一五	一	—	—	—	—	—	—	—	七三	七三	一・三三	二七
	昭和二年	—	九八	一	—	—	—	—	—	—	—	九九	九九	一・〇一	一
龍鳳擋	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	一	九九
	大正十二年	—	一	—	—	四	—	—	—	—	—	五	一	三・四〇	九五
	大正十三年	—	三三	四〇	一三	一	一	—	—	—	—	八八	八六	一・八三	一二
	大正十四年	八	一三	一四	一四	六	一	—	—	—	—	五六	三五	三・〇〇	四四
	昭和元年	四七	三五	三	三	—	—	—	—	—	—	八八	八五	一・五五	一二

	昭和二年	三	七三	二三	—	一	—	—	—	—	—	一〇〇	九九	二・二三	〇
八大葉	大正六年	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	一・〇〇	九九
	大正七年	—	一五	—	—	—	—	—	—	—	—	一五	一五	一・〇〇	八五
	大正九年	一三	五	六	—	二	—	—	—	—	—	二六	二四	一・九六	七四
	大正十二年	—	三	二	—	四	—	—	—	—	—	九	五	二・一一	九一
	大正十三年	三	六六	一五	二	三	—	—	—	—	—	八九	八四	二・二八	一一
	大正十四年	一八	一八	—	二	—	二	—	—	—	—	四〇	三六	一・八五	六〇
	昭和元年	五一	一五	七	一	—	—	—	—	—	—	七六	七五	一・三九	二四
	昭和二年	—	九三	五	—	—	—	—	—	—	—	九八	九八	一・一〇	二
牛尾把黄	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	一	九九
	大正十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正十三年	—	八	二三	一八	三	九	—	—	—	—	七〇	六一	二・六一	三〇
	大正十四年	一五	二三	五	四	二	二	二	—	—	—	五三	四三	二・四一	四七
	昭和元年	六九	九	二	—	—	—	—	—	—	—	八〇	八〇	一・一六	二〇
	昭和二年	二	九五	—	—	—	—	—	—	—	—	九七	九七	一・九八	三
	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇

御穀	大正七年	一	六	—	—	—	—	—	—	—	—	七	七	一・八六	九三
	大正九年	—	一七	一四	四	三	—	—	—	—	—	三八	三五	一・八二	六二
	大正十二年	—	五	八	—	四	—	—	—	—	—	一二	八	三・〇八	八八
	大正十三年	二	七四	一二	二	一	—	—	—	—	—	九一	八八	二・一八	九
	大正十四年	二五	一二	—	—	—	三	一	—	—	—	四一	三七	一・六一	五九
	昭和元年	六七	一七	一	一	—	—	—	—	—	—	八六	八五	一・二五	一四
	昭和二年	—	九九	一	—	—	—	—	—	—	—	一〇〇	一〇〇	一・〇一	〇
蓋州紅	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	二	二	一・四〇	九八
	大正九年	二	—	三	—	—	—	—	—	—	—	五	五	一・六〇	九五
	大正十二年	—	—	二	—	二	—	—	—	—	—	四	二	二・〇〇	九六
	大正十三年	—	八〇	一一	二	四	—	—	—	—	—	九七	九三	一・一八	三
	大正十四年	一〇	二三	五	六	—	一	—	—	—	—	四五	三八	二・二四	五五
	昭和元年	一二	一五	二	六	—	—	—	—	—	—	三五	二九	二・〇五	六五
	昭和二年	四	八九	六	—	—	—	—	—	—	—	九九	九九	二・〇二	一
長	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	六	—	—	—	—	—	—	—	—	六	六	一	九四
	大正九年	一三	七	三	—	—	—	—	—	—	—	二三	二三	一・七七	七七

品種	年次														
縄緊	大正十二年	—	—	一	—	二	—	—	—	—	—	三	一	二・三三	九七
	大正十三年	—	六一	一七	四	五	—	—	—	—	—	八七	八二	一・四六	一三
	大正十四年	—	二	二	—	四	—	—	—	—	—	八	四	二・七五	九二
	昭和元年	五九	二七	一	一	二	—	—	—	—	—	九〇	八七	一・四四	一〇
	昭和二年	二	九五	三三	—	—	—	—	—	—	—	一〇〇	一〇〇	一・九八	〇
猴腿子	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	一	九八
	大正九年	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六	六	一	九四
	大正十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正十三年	—	六〇	一三	二	四	—	—	—	—	—	八八	八四	一・四九	一三
	大正十四年	一	七	一	七	二	一	二	—	—	—	二二	九	三・五二	七九
	昭和元年	一七	三五	九	一	四	—	—	—	—	—	六六	六一	二・二五	三四
	昭和二年	—	六〇	三四	—	一	—	—	—	—	—	九五	九四	一・二九	五
新臺	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正十三年	二	三〇	八	四	六	一	—	—	—	—	五一	四〇	二・七一	四九

白	大正十四年	—	五	二	一	一	—	—	—	—	—	九	七	一・七八	九一
	昭和元年	一五	一七	一〇	二	五	—	—	—	—	—	四九	四二	二・二九	五一
	昭和二年	—	九八	—	—	—	—	—	—	—	—	九八	九八	一	二
淺彩紅粘	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	四	一	—	一	—	—	—	—	—	—	六	六	一・六七	九四
	大正九年	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	一	九八
	大正十二年	一	—	一	—	一	—	—	—	—	—	三	二	三・〇〇	九七
	大正十三年	—	三七	二	三	四	一	—	—	—	—	七六	七二	一・四三	二四
	大正十四年	七	一〇	三	二	—	一	—	—	—	—	二三	二〇	二・一七	七七
	昭和元年	六五	二六	三	—	—	—	—	—	—	—	九四	九四	一・四二	六
	昭和二年	二	八六	一〇	—	—	—	—	—	—	—	九八	九八	二・〇八	二
黄粘谷子	大正六年	—	一	—	二	—	—	—	—	—	—	三	三	二・三三	九七
	大正七年	六	一四	二	五	—	—	—	—	—	—	二七	三三	二・五八	七三
	大正九年	—	四	一〇	六	一	—	—	—	—	—	二二	二〇	二・一九	七九
	大正十二年	—	二	—	—	一	—	—	—	—	—	三	二	三・三三	九七
	大正十三年	—	七三	一〇	三	三	一	—	—	—	—	八九	八五	一・三三	一一
	大正十四年	二三	二六	七	二	—	—	—	—	—	—	五五	四七	一・八五	四五
	昭和元年	七五	七	一	一	—	—	—	—	—	—	八四	八三	一・一三	一六

區分	年次														
	昭和二年	三	八八	五	—	—	—	—	—	—	—	九六	九六	二・〇三	四
黒粘	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	二	四	四	三	—	—	—	—	—	一三	一九	一・九五	七八
	大正九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正十二年	—	三	五	—	二	—	—	—	—	—	一九	一七	一・五八	八一
	大正十三年	三	三六	四一	七	四	—	—	—	—	—	九一	八七	二・六八	九
	大正十四年	一〇	二八	二	一	—	—	—	—	—	—	五一	五〇	一・六九	四九
	昭和元年	四七	二六	七	一	三	一	—	—	—	—	八五	八〇	一・七一	一五
	昭和二年	六	八六	七	—	—	—	—	—	—	—	九九	九九	二・〇一	一
叩根	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正十二年	—	—	二	—	三	—	—	—	—	—	五	二	二・二〇	九五
	大正十三年	—	四五	一三	八	六	—	—	—	—	—	九一	八五	一・七二	九
	大正十四年	一〇	六	—	四	—	一	—	—	—	—	二一	一六	二・一〇	七九
	昭和元年	四三	二八	三	二	一	—	—	—	—	—	七七	七四	一・五七	二三
	昭和二年	一	九三	四	—	—	—	—	—	—	—	九八	九八	二・三一	二
	大正六年	一	—	二	—	—	—	—	—	—	—	三	三	二・三三	九七

水裡站	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正十二年	—	—	—	—	三	—	—	—	—	—	三	三	一	九七
	大正十三年	—	六三	三〇	七	—	—	—	—	—	—	一〇〇	一〇〇	一・四四	〇
	大正十四年	五	一五	一四	七	四	二	—	—	—	—	四七	三四	二・九一	五三
	昭和元年	三九	三二	三	三	二	—	—	—	—	—	七六	七三	一・六九	二三
	昭和二年	—	九七	—	—	—	—	—	—	—	—	九七	九七	一	三
白砂	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正十二年	—	五	一	—	二	—	—	—	—	—	八	六	一・八八	九二
	大正十三年	—	五〇	二六	八	七	一	—	—	—	—	九四	八六	一・七三	六
	大正十四年	九	五	四	一	一	—	—	—	—	—	一〇	一八	二・〇〇	八〇
	昭和元年	五四	二二	二	八	—	—	—	—	—	—	八五	七七	一・五八	五
	昭和二年	七	八八	四	—	一	—	—	—	—	—	一〇〇	九九	二・二二	〇
刀…	大正六年	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	一	一	一	九九
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	四	六	二	—	—	—	—	—	—	—	三	三	一・八三	八八

品種	年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
把齊	大正十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正十四年	—	一八	一	七	四	一	—	—	—	—	三一	一九	二・〇〇	六九
	昭和元年	三	三九	二	四	三	—	—	—	—	—	七〇	六三	一・九七	三〇
	昭和二年	—	九七	三	—	—	—	—	—	—	—	九八	九八	一・〇二	二
昌圖三號	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	一五	一	三	三	—	—	—	—	—	—	三一	一九	一・七七	七八
	大正十二年	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	一	九八
	大正十三年	—	三三	一〇	一八	二	—	—	—	—	—	八一	七〇	一・六七	一九
	大正十四年	一八	二六	一	二	一	—	—	—	—	—	四八	四五	一・八七	五二
	昭和元年	七六	一六	—	二	一	—	—	—	—	—	九七	九四	一・二八	三
	昭和二年	—	一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇〇	一〇〇	—	〇
青苗	大正六年	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	一	九九
	大正七年	二	三	—	—	—	—	—	—	—	—	一四	一四	一・四〇	八六
	大正九年	一五	—	—	—	一	—	—	—	—	—	二六	二五	一・二五	七四
	大正十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正十三年	一	二六	三	三〇	一〇	一	—	—	—	—	九一	五〇	二・六六	九

粘	大正十四年	七	—	二	—	—	—	—	—	—	—	九	九	一・四四	九一
	昭和元年	五一	一五	五	四	—	—	—	—	—	—	八五	八一	一・五五	五
	昭和二年	五	八五	七	一	—	—	—	—	—	—	九八	九七	二・四八	二
八面城	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大正九年	一	—	四	—	—	—	—	—	—	—	五	五	一・一六	九五
	大正十二年	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	一	九八
	大正十三年	—	四五	一七	三	五	—	—	—	—	—	七九	七四	一・七二	三
	大正十四年	六	三	九	二	—	—	—	—	—	—	二九	二七	二・二五	七二
	昭和元年	六〇	二四	二	二	一	一	—	—	—	—	九〇	八六	一・四七	一〇
	昭和二年	三〇	七〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇〇	一〇〇	二・〇〇	〇
鷺鷲樹	大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇	〇	〇	一〇〇
	大正七年	一	一五	二	—	—	—	—	—	—	—	一八	一八	二・〇六	八二
	大正九年	一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一五	一五	一	八五
	大正十二年	一四	一〇	八	—	一	—	—	—	—	—	三三	三二	一・九一	六七
	大正十三年	二	五〇	三〇	四	六	—	—	—	—	—	九二	八二	二・七四	八
	大正十四年	七	一	—	—	—	—	—	—	—	—	八	八	一・一三	九二
	昭和元年	二八	一五	二	一	—	—	—	—	—	—	四六	四五	一・四八	五四

	昭和二年	三	八〇	一四	一	|	|	|	|	|	|	九八	九七	二・一三	二
大斗黄	大正六年	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
	大正七年	|	六	六	七	|	|	|	|	|	|	一九	一九	二・〇五	八一
	大正九年	一八	三	三	|	一	|	|	|	|	|	二五	二四	一・五一	七三
	大正十二年	|	九	|	|	|	|	|	|	|	|	九	九	一・〇〇	九一
	大正十三年	|	二三	四四	九	五	一	|	|	|	|	八一	七五	二・〇〇	一九
	大正十四年	一三	一三	|	五	三	一	|	|	|	|	三五	二六	二・二〇	六五
	昭和元年	三四	二五	五	|	三	|	|	|	|	|	六七	六四	一・七〇	三三
	昭和二年	|	九四	三	|	|	|	|	|	|	|	九七	九七	一・〇三	三
窪裡青苗	大正六年	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一	一	一	九九
	大正七年	一	|	二	四	|	|	|	|	|	|	一六	三	三・一三	九四
	大正九年	三	一四	七	|	|	|	|	|	|	|	二四	二四	二・二九	七六
	大正十二年	|	一〇	一	|	|	|	|	|	|	|	二	二	一・〇九	八九
	大正十三年	二	五〇	六	七	一六	|	|	|	|	|	八一	五八	二・八一	一九
	大正十四年	一	|	|	二	一	一	|	|	|	|	五	一	四・〇〇	九五
	昭和元年	五四	一八	二	二	二	|	|	|	|	|	七八	七四	一・四六	二三
	昭和二年	三	九七	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一〇〇	一・九七	〇

右の結果を倂一括して示せば次の如し。

第二十六表　發芽試驗成績表（發芽率）

品種名	大正六年	大正七年	大正九年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年
薄地租	〇%	—%	二〇%	七%	九八%	五四%	七三%	九九%
龍鳳揺	—	—	一	五	八八	五六	八八	一〇〇
八大葉	—	一五	二六	九	八九	四〇	七六	九八
牛尾把黄	〇	—	一	—	七〇	五三	八〇	九七
御穀	〇	七	二八	一二	九一	四一	八六	一〇〇
蓋州紅	—	二	五	四	九七	四五	三五	九九
長縄緊	—	六	二三	三	八七	八	九〇	一〇〇
猴腿子	—	—	六	〇	八八	二一	六六	九五
新臺白	—	—	—	—	五一	九	四九	九八
淺彩紅粘	—	六	二	三	七六	二三	九一	九八
黄粘谷子	三	一七	二一	三	八九	五五	八四	九六
黒粘	—	一三	一九	—	九一	五一	八五	九九
叩根	—	—	—	五	九一	二一	七七	九八

水裡站	三	—	〇	三	一〇〇	四七	七八	九七
白砂	〇	—	—	八	九四	二〇	八五	一〇〇
刀把齊	一	—	一二	〇	—	三一	七〇	九八
昌圖三號	—	—	一三	二	八二	四八	九七	一〇〇
青苗粘	一	一四	二六	—	九一	九	八五	九八
八面城	一	—	五	二	七九	二九	九〇	一〇〇
鷺鷲樹	〇	一八	一五	三三	九二	八	四六	九八
大斗黄	—	一九	二五	九	八二	二五	六七	九七
窪裡青苗	一	一六	二四	一一	八二	五	七八	一〇〇
平均	〇·九	一三·二	一五·一	七·三	八六	三五·五	七六·二	九八·四

以上の成績によつて見るが如く滿洲は種子の發芽年齢長く五箇年前のもの尙七％、八箇年前のものは一五％、十箇年前のものは一二％の發芽率を有して居る。かく發芽年齢の長きは滿洲の氣候の乾燥せる結果にして且つ又年度によつて其の發芽率の異なるは其の年々の氣候殊に收穫調製貯藏に至るまでの乾濕によつて異なるものにして此の關係に就きては目下研究中に就き不日發表する所あるべし。

唯栗の種子は內地にあつては二箇年、朝鮮に於ては三箇年の壽命と稱せらるに滿洲にあつては十箇年前にして尙一二％以上の發芽率を有するは種子壽命の長きに驚くに足るべし。

第三節 粟の穗の調査

粟の穗は複總狀花序にして主梗に輪生せる側枝を生じ更に多くの側枝に分枝す。分枝の先端には小穗互生す。小穗梗の根元に剌毛生じ長さ凡そ一〇ミリ内外なり、この小穗群は條列をなす、其の條列は六條最も多く八條之に亞ぎ、十條のものも數種あり。不規則なるもの又は條列をなさざるものも稀に見當る。穗の形は紡錘形をなし先端尖るもの、圓筒形をなすもの及び不定形をなすもの丶三種に大體分たる。今次に各品種の穗の長さ及び穗の重量を測定せる成績を表にして示せば次の如し。

第二十七表 穗長調査成績

品種名＼年度別	大正七年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	平均
水稉站	糎 二三・二	糎 二九・三	糎 二八・〇	糎 三六・九	糎 三〇・八	糎 二七・五	糎 三一・八	糎 三五・八	糎 四〇・五	糎 三四・七	糎 三一・八五
蓋州紅	二二・二	二三・八	二四・〇	三四・四	二四・七	二三・一	二四・五	二七・三	三〇・四	三〇・四	二五・二八
高麗谷子B	二三・六	—	一九・〇	二三・六	二五・〇	二〇・九	二一・四	二一・八	二八・一	二七・三	二三・四二
黄粘谷子	二九・二	—	三〇・〇	二四・七	三三・〇	二七・〇	二六・七	三三・九	三六・五	三五・九	三〇・八七
海南白	一九・七	—	二四・〇	二三・四	二三・〇	二一・四	二三・六	二一・七	二七・六	二八・八	二三・四七
新臺白	二七・七	—	二七・〇	二六・〇	三一・二	二三・二	二五・七	二六・七	三〇・八	三〇・一	二七・六〇

薄地租	三五・九	—	三一・〇	三八・六	三七・〇	三〇・四	二八・七	三一・一	四一・五	三四・八	三四・三三
大青苗歴破車	三四・八	—	三〇・〇	三三・四	三七・七	三一・四	三〇・六	三三・九	四〇・二	三八・〇	三四・三三
鳳球尾	二四・四	二五・三	一九・〇	二四・七	二六・三	三三・〇	二四・九	二六・七	三〇・九	三一・二	二五・五四
長縄緊	三三・一	三一・八	二九・〇	三一・九	三六・八	三三・一	三一・三	三〇・〇	四二・五	三九・〇	三三・八五
淺彩紅粘	二四・一	—	二〇・〇	二三・七	二五・〇	二〇・一	二四・一	二四・二	二九・七	二九・七	二四・五一
青苗粘	二四・六	—	二四・〇	三〇・八	二三・九	二三・三	二〇・七	二六・九	三四・四	二七・八	二六・一五
毛	—	三一・〇	三三・〇	三四・三	三三・九	三四・七	三〇・一	三六・八	四六・七	三八・八	三五・四八
鷺鷺樹	二三・四	—	二五・〇	—	二四・四	二一・七	二六・八	二五・八	三〇・八	三〇・八	二六・〇八
紅南烇谷子	一八・五	二三・六	二一・〇	二三・四	二三・二	一九・三	二〇・九	二一・七	二六・六	二七・一	二二・五三
御穀	—	一五・八	一五・〇	一六・五	一八・五	一六・六	一八・八	一八・二	二四・三	二四・五	一八・七〇
糜時紅	一八・三	—	—	一九・三	二三・〇	一八・九	二一・六	二一・〇	二三・八	二八・四	二一・六七
六十日	二一・一	—	二〇・〇	二三・三	二四・八	二〇・五	二四・八	二五・〇	三一・一	二八・四	二四・三三
黄	二〇・六	—	二三・〇	一八・二	二三・六	一九・七	二一・九	二八・八	二五・二	二七・七	二三・九七
八面城	二三・二	一八・八	一八・〇	一九・八	二一・三	二〇・三	二三・三	二五・三	二七・九	二六・九	二三・四八
窪裡	一八・一	—	二七・〇	二三・四	—	二三・九	二四・九	三〇・五	三一・四	二八・一	二五・九一
大斗黄	二一・六	二九・〇	二三・〇	二三・七	二五・四	二三・二	二六・五	二七・一	三〇・九	三一・六	二六・〇〇
猴腿子	二〇・一	二四・六	二五・〇	二五・二	二四・六	二六・〇	二九・六	二七・一	三〇・六	二九・四	二六・二三
縄緊	二三・四	二一・〇	一九・〇	二一・〇	二〇・九	一九・一	一五・八	二六・二	二六・四	二七・三	三一・〇一
飯谷子	一九・四	—	二三・〇	二三・一	二一・四	二一・九	二三・六	二〇・八	二六・三	二六・八	三一・七〇

渋裡青苗	—	—	一九・〇	一七・七	一九・三	一七・八	一八・七	一九・二	二三・四	二三・七	一九・八五
黄毛	—	—	二二・〇	一九・八	二五・五	二一・〇	二六・〇	二六・七	二九・六	二八・〇	二四・八二
高刀胃	—	—	二五・〇	二三・五	二五・三	二四・六	二六・五	二七・四	二七・五	三一・五	二六・四一
釘子頭	一八・八	—	二三・〇	二〇・七	—	一九・八	二三・一	二六・七	二六・〇	二七・八	二三・一一
雙廟子	二〇・一	—	二〇・〇	二〇・三	二一・〇	二〇・〇	二〇・九	二〇・七	二七・〇	二三・一	二一・五七
長刀把齊	二七・五	—	二三・〇	二四・七	二九・六	二四・六	二六・五	二七・六	二八・八	二七・三	二六・六二
刀把齊	一七・三	一九・二	一八・〇	二〇・〇	二一・九	一八・二	一九・七	一九・七	二五・四	二六・〇	二〇・六四
紅刀把齊	二三・二	—	一八・〇	二三・五	二三・〇	二三・三	二三・七	二五・四	二八・八	二六・八	二三・九七
牛尾把黄	二三・四	—	一九・〇	二七・九	二一・〇	二一・〇	一九・六	二三・九	二六・〇	二七・二	二三・二二
龍爪	二八・七	—	三〇・〇	三四・一	三一・四	二八・九	三三・六	三三・五	三八・四	三三・四	三二・五五
猫脚	二七・四	—	二五・〇	三〇・二	二六・二	一四・七	二九・一	二八・四	三一・〇	三〇・六	二六・九五
鴨子嘴	二六・一	—	二五・〇	三〇・〇	二八・五	一四・一	二九・五	三一・九	三三・一	三〇・一	二七・五九
龍角	一六・二	—	一八・〇	一八・三	一八・四	一六・二	一五・四	一六・八	三一・一	一九・二	一七・八四
包米混	—	—	二三・〇	二一・二	—	二一・七	二四・一	二八・七	二八・四	二九・三	二五・四八
黒粘	二一・六	—	二一・〇	二四・九	二一・〇	二一・七	一三・一	二四・三	二八・六	二八・三	二三・九四
紅粘	一九・八	—	一八・〇	一八・八	一九・二	一八・六	一八・七	二〇・九	二六・八	二四・八	二〇・六二
長春三號	二〇・二	二一・一	一八・〇	二〇・五	二一・〇	一八・九	二一・二	一九・八	二四・九	二七・一	二一・三七
長春一號	二三・三	—	二三・〇	二五・四	二四・九	二三・六	二三・八	二五・〇	二七・三	二八・九	二四・八〇
狗尾谷子	三二・一	二八・五	三一・〇	三五・八	三三・八	一六・二	三〇・〇	三一・五	三四・一	三四・九	三〇・八九

豬根	三三・六	—	二八・〇	三四・五	三一・八	二九・〇	三〇・三	三四・四	三七・九	三六・〇	三一・八三
高麗谷子A	二九・〇	二三・〇	二四・〇	二六・二	二七・五	二六・四	二七・一	二八・二	三一・二	三一・九	二七・四五
柳根赤	二四・六	—	二三・〇	二〇・九	二二・〇	二〇・六	二三・五	二二・三	二四・五	二八・四	二三・三二
叩根	三〇・〇	—	二八・〇	三七・〇	三七・四	二六・四	三五・〇	三三・一	三二・九	三八・七	三三・一七
紅苗谷子	二一・〇	—	二三・〇	二二・七	二三・一	二〇・三	二二・〇	二六・一	二七・三	二九・一	二三・八四
老來變	二五・二	—	二六・〇	三〇・四	二七・三	一六・八	二五・五	二八・六	三三・八	三〇・一	二七・〇八
昌圖三號	一八・八	一六・一	一五・〇	一五・六	一八・三	一四・八	一四・六	二〇・〇	三〇・二	一八・五	一八・一九
紅穀	二〇・八	一九・五	二〇・〇	—	二〇・二	二二・七	一九・六	二六・〇	二四・八	二二・九	二一・八三
龍鳳擋	二一・八	—	二三・〇	二一・三	二三・七	一五・〇	二三・九	二三・〇	二五・七	二八・九	二三・七〇
粘谷子	二一・〇	—	二六・〇	二五・九	—	二二・八	三一・〇	三一・〇	二八・五	三五・五	二七・七一
粧子	一九・〇	二三・七	二三・〇	二三・七	二三・九	一八・五	二一・五	二〇・五	二五・八	二八・七	二三・七三
大粒黃	二八・九	二六・五	二五・〇	—	三一・八	二七・一	二八・九	二七・八	三〇・〇	三一・六	二三・六三
八大葉	二〇・八	二三・三	二三・〇	二〇・三	二五・八	二〇・六	二四・六	二三・六	二八・二	三一・二	二四・〇四
尖穗	二二・五	—	二二・〇	二三・三	—	二二・六	二二・二	二六・八	二七・二	三〇・八	二四・六八
毛大粒	二三・五	—	二〇・〇	二五・五	二七・八	二四・八	二八・〇	三〇・七	二五・六	三三・〇	二六・四三
打鑼棒	二三・九	二四・〇	二六・〇	二八・四	二三・八	二三・八	二四・一	二六・九	二五・七	三〇・〇	二五・六六
毛粘穀	二二・七	—	二六・〇	二五・二	二四・一	二五・三	二五・八	三一・五	二八・五	二七・〇	二六・二三
白砂	二四・二	—	二九・〇	二五・三	二七・〇	二四・八	二三・八	二四・五	二八・四	二七・六	二六・〇七
昌圖一號	二六・六	二五・二	二五・三	二五・九	二七・五	二四・七	二八・八	三一・六	二〇・九	三〇・一	二六・七六

北滿七一號	―	―	―	―	―	二六・七	二六・六	二八・六	二九・八	二七・八	二七・九〇
北滿七五號	―	―	―	―	―	二三・一	二五・五	二七・八	三〇・七	二八・九	二七・二〇
北滿八一號	―	―	―	―	―	二一・一	二五・八	二四・七	二四・七	二七・九	二四・八四
北滿八六號	―	―	―	―	―	二九・四	二五・一	二六・一	二九・九	三〇・〇	二八・二〇
北滿八八號	―	―	―	―	―	二六・七	二四・六	二五・〇	二六・三	二九・七	二六・四六
北滿九〇號	―	―	―	―	―	二四・九	二四・六	二八・〇	二九・〇	二九・八	二七・二六
北滿九五號	―	―	―	―	―	三二・三	二七・〇	三二・四	三八・一	三三・二	三二・四〇
北滿一〇三號	―	―	―	―	―	二三・六	二〇・六	二五・八	二六・九	二七・一	二四・八〇
北滿一〇四號	―	―	―	―	―	二〇・六	一七・四	二一・九	二三・五	二五・一	二一・七〇
北滿一〇六號	―	―	―	―	―	二一・三	一八・〇	二六・三	二三・九	二三・八	二三・四四
北滿一一一號	―	―	―	―	―	二六・一	二八・五	二〇・〇	三二・九	三一・五	二七・八〇
黃粘	―	―	―	―	―	―	―	二七・五	二五・一	二六・六	二六・四〇
小穗	―	―	―	―	―	―	―	二九・三	二七・〇	二三・六	二九・六三

以上の表によりて見るが如く最も長きは毛の三五・三六糎にして薄地租、大青苗歴破車等之に亞ぎ、最も短きは龍角の一七・八五糎にして昌圖三號、御穀、大斗黃等之に亞いで短かし。普通は二三糎又は二六糎位の長さなり。

第二十八表　粟一穗の重量調査成績

品種名＼年度別	大正七年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	平均
	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩
水稗站	八・九三	一三・二四	一三・四六	二〇・四〇	一七・六三	一三・四〇	二〇・八〇	二三・九〇	三二・六〇	二三・二〇	一八・五六
蓋州紅	一六・九五	一三・五三	二〇・九六	一六・一三	一七・三三	一八・六〇	一八・二〇	二三・四〇	三二・二〇	二三・八〇	一九・八〇
高麗谷子B	一八・八三	一一・七四	八・四四	一二・五三	二一・五六	一二・七〇	一九・一〇	一八・九八	二五・四〇	一九・七〇	一六・九〇
黄粘谷子	二三・八四	一四・八九	一四・四八	一四・五五	一七・三三	一三・二〇	一九・三〇	二三・六三	二四・四〇	二〇・四〇	一八・四〇
海南白	一一・八九	一四・四八	一八・〇四	一九・〇九	一六・五〇	一五・五〇	二四・五〇	二〇・二五	二一・三〇	二三・九〇	一八・五五
新臺白	二三・七四	一四・三〇	一四・八九	一五・七一	一八・〇〇	一二・二〇	二〇・七〇	一八・一〇	二三・九〇	二三・一〇	一八・四六
薄地租	二三・九三	一六・九五	一二・三四	一六・五〇	一七・五一	一四・五〇	一七・七〇	二三・一九	二八・〇〇	二一・一〇	一九・〇七
大青苗壓破車	二三・六九	一八・七一	一〇・五四	一二・九四	一八・四五	一二・七〇	一九・二〇	二四・〇三	二八・三〇	二三・〇〇	一九・〇六
鳳球尾	一九・一六	一三・一三	一七・三四	一八・四九	一六・八四	一三・七〇	二一・〇〇	二一・六六	二六・四〇	二三・五〇	一九・〇二
長繩緊	二一・一五	一四・八五	一二・一一	一三・〇四	一六・九五	一四・一〇	一八・七〇	一九・八〇	二八・七〇	一九・七〇	一七・八一
淺彩紅粘	一九・二八	一三・六五	八・九六	一三・〇九	一七・九三	一〇・八〇	一六・三〇	二〇・五二	二五・七〇	二〇・七〇	一六・六九
青苗粘	一五・四五	一〇・二〇	一九・六九	一五・〇〇	一七・六三	一五・二〇	一九・九〇	一七・五四	二九・〇〇	一九・六〇	一七・九二
毛	―	一四・六六	一七・一四	一七・三六	一九・九一	二三・四〇	二〇・〇〇	二三・二九	三四・一〇	二三・二〇	二一・二四
鷲鷺樹	一五・一一	一一・一八	一九・六一	一四・三三	一八・六四	一三・三〇	二三・九〇	一八・一〇	二八・二〇	二〇・八〇	一八・二三
紅南粃谷子	一三・五四	一四・四〇	一四・八五	一六・五〇	二〇・二二	一五・六〇	二三・六〇	一九・〇二	二八・〇〇	二五・〇〇	一八・九七
御穀	―	一三・三五	一三・四五	一三・六五	一七・一四	一六・二〇	二一・三〇	一九・七三	二四・四〇	二一・七〇	一七・七七
糜時紅	一三・二〇	一三・三八	一四・七四	一三・九〇	一一・二九	一三・二〇	二三・七〇	二〇・一八	二三・七〇	二三・二〇	一六・四五

六十日	一三・四六	一〇・七三	一〇・九九	一三・三五	一六・八八	一四・二〇	二四・〇〇	二二・八四	二五・九〇	一九・四〇	一六・一八
黄	一三・六一	一二・九八	一一・七〇	一一・八九	一五・四九	一六・五〇	二三・五〇	一六・〇〇	二七・七〇	二三・二〇	一七・一六
八面城	一四・五一	一三・五〇	一二・九四	一三・四六	一八・七一	一七・四〇	二四・一〇	一七・三四	二三・〇〇	一八・四〇	一七・二四
窪裡	一一・五五	一四・七〇	一九・三九	一〇・九五	—	一八・八〇	二五・一〇	二三・四〇	三〇・七〇	一五・九〇	一八・九四
大斗黄	一六・四六	一二・七九	九・九八	一四・七〇	一七・〇三	一五・二〇	二三・三〇	二〇・四〇	二三・一〇	一九・八〇	一七・一八
猴腿子	一〇・六九	一四・二九	一三・〇九	一四・七四	二〇・八五	一九・九〇	三〇・二〇	一九・三七	二四・三〇	一七・八〇	一八・五二
繩緊	一八・七二	一〇・〇二	一二・七九	一六・三九	一五・二六	一三・九〇	一七・二〇	一七・六五	二四・九〇	二三・〇〇	一六・九八
飯谷子	一三・八八	一四・四四	一五・二三	一四・〇三	一五・七一	一五・〇〇	二五・〇〇	一六・六〇	二三・二〇	一八・二〇	一七・二三
疏裡青苗	—	一二・六〇	一四・九三	一四・五九	一八・二六	一七・六〇	二三・四〇	一九・九五	二五・八〇	二三・二〇	一八・七〇
黄毛	—	一二・一五	一七・六三	一三・〇八	一五・七一	一四・九〇	二六・二〇	一九・七二	二七・一〇	二一・四〇	一八・五四
高刀胄	—	一三・〇五	一〇・九九	一三・二八	一七・五五	一六・八〇	二七・五〇	二〇・二五	二一・七〇	二四・八〇	一八・四三
釘子頭	一五・六〇	一二・一九	一七・一〇	一三・六〇	—	一四・四〇	二七・一〇	二〇・四四	二四・一〇	一九・八〇	一八・一五
雙廍子	一一・九六	一三・八四	一八・〇〇	一四・八一	一六・六九	一六・七〇	二三・八〇	二三・五六	二五・八〇	一八・九〇	一八・二二
長刀把齊	一九・二三	一二・一五	一〇・四三	一一・五九	一四・七〇	一四・一〇	二一・七〇	一九・一八	二三・四〇	一八・五〇	一六・三九
刀把齊	九・六八	一二・七二	一〇・五八	一一・六六	一六・四三	八・三〇	二〇・一〇	一七・五一	一八・四〇	一九・七〇	一四・五一
紅刀把齊	一九・〇二	一三・三一	一〇・八〇	一二・二三	一九・八四	一七・〇〇	二一・〇〇	一九・七五	二一・二〇	二〇・六〇	一七・四七
牛尾把黄	一八・一九	一三・六〇	一一・二五	一二・一九	一五・五六	一二・四〇	一七・一〇	一七・二三	一八・七〇	二一・〇〇	一五・六二
龍爪	一六・六五	一四・六六	一三・四九	一四・五五	一八・一五	一四・三〇	二四・八〇	二三・五〇	二九・三〇	二四・〇〇	一九・三五
猫脚	一九・二三	一五・二三	一七・〇六	一五・三〇	一五・五六	一六・二〇	二四・一〇	二三・五八	二七・六〇	一九・七〇	一九・二五

鴨子嘴	一八・六四	一四・九六	一四・三六	一七・一八	一九・九一	一五・一〇	二五・九〇	二四・六七	二九・七〇	二〇・〇〇	二〇・〇四
龍角	一一・九三	六・四九	三・四九	一〇・五八	一六・六一	一一・〇〇	一六・九〇	二二・八五	一八・〇〇	一三・六〇	一三・〇五
包米混	—	一一・四四	一四・二一	一六・四六	—	一一・一〇	一三・二〇	一八・〇七	一六・五〇	一六・八〇	一四・七二
黑粘	一五・七五	一二・九四	一〇・九九	一二・二三	一六・四六	一三・三〇	二〇・四〇	一六・〇二	二三・三〇	一七・五〇	一五・九〇
紅粘	一六・五〇	一三・〇二	一三・三八	一二・八六	一三・四六	一一・〇〇	二〇・六〇	一七・四二	二五・一〇	一七・八〇	一六・〇二
長春三號	一五・八三	一四・一四	九・九八	一〇・九五	一三・九五	一一・九〇	二〇・七〇	一七・二二	二〇・七〇	一九・四〇	一五・四八
長春一號	一三・六九	一一・八一	一六・八〇	一一・六三	一六・五四	一一・七〇	一九・四〇	一九・五一	二一・九〇	一八・六〇	一六・一六
狗尾谷子	二〇・八五	九・六〇	一〇・六五	一六・二〇	一七・一八	一四・九〇	二三・二〇	二〇・五一	二四・五〇	一八・一〇	一七・五七
稭根	二一・六八	一一・二五	一五・五六	一七・三三	一六・六五	一八・八〇	二三・二〇	一九・三八	二九・五〇	二一・一〇	一九・四五
高麗谷子A	三三・〇九	一一・八九	一一・〇六	一六・三九	二一・七九	一四・四〇	二三・一〇	一七・六四	二五・八〇	二〇・一〇	一八・三三
柳根赤	一六・八〇	一〇・三五	一六・八〇	一二・九八	一三・五八	一一・一〇	二一・四〇	一九・五二	二一・三〇	二〇・四〇	一六・四二
叩根	一八・三〇	一二・七一	九・一五	一七・五五	一七・九六	一〇・二〇	二四・一〇	一九・六五	二〇・〇〇	二三・〇〇	一七・二六
紅苗谷子	一八・〇八	一六・六一	一八・二六	二一・七九	二八・六五	一五・七〇	二六・九〇	二四・八八	二八・一〇	一九・七〇	二一・八七
老來變	一六・二〇	一三・二〇	一一・一四	一五・五三	一六・八八	一三・一〇	一六・九〇	一八・五一	一九・六〇	一八・三〇	一五・九四
昌圖三號	二一・四〇	九・〇四	八・三三	一〇・七三	一三・一三	九・五〇	一五・八〇	一二・三八	二四・七〇	一二・三〇	一二・七三
紅穀	一九・八四	一〇・三五	一二・四五	一五・一五	一三・七六	一五・一〇	一七・三〇	一七・三五	一八・一〇	一六・一〇	一五・五五
龍鳳播	一六・五〇	一三・二〇	一四・三六	一四・〇六	一七・二五	一一・六〇	二四・一〇	二〇・〇四	二三・五〇	二四・〇〇	一七・八六
粘谷子	七・八八	一〇・六一	一四・七〇	九・四五	—	一五・五〇	二四・八〇	二二・六一	一六・四〇	二四・九〇	一六・三二
粧子	一〇・三五	一二・七九	一五・九八	一五・六四	一八・二六	一一・四〇	二四・二〇	一九・九四	二〇・五〇	二〇・三〇	一六・九四

大粒黄	一九・五〇	一一・五五	八・七四	一三・六九	一五・〇四	一一・九〇	一九・七〇	一九・三二	一七・三〇	一七・六〇	一五・四三
八大葉	一五・六四	一一・〇六	一五・一五	一三・二八	一七・二五	一一・八〇	二四・六〇	一七・三三	一六・四〇	一七・九〇	一六・〇三
尖穂	一六・〇五	一〇・六九	一〇・五四	一四・三六	—	一四・九〇	一九・四〇	一四・〇三	一五・八〇	二一・〇〇	一五・二〇
毛大粒	一二・九〇	一三・六五	一二・三四	一〇・三一	一三・四三	一一・三〇	一七・九〇	一九・〇七	一三・四〇	一八・八〇	一四・三二
打鑼棒	一六・三九	一六・三二	一八・六四	二三・四三	一九・〇九	二三・六〇	二九・七〇	二一・四二	二三・二〇	二〇・七〇	二〇・九五
毛粘穀	一四・八九	一一・八五	一八・三四	一三・一〇	一二・九〇	一四・七〇	一九・四〇	一六・五〇	一七・九〇	一七・〇〇	一五・六六
白砂	一五・〇四	一三・六九	一三・三九	一七・六三	一七・六六	一七・五〇	二〇・〇〇	一七・〇三	二二・〇〇	一五・〇〇	一六・八九
昌圖一號	一九・三九	一三・七九	一四・三三	一五・六〇	一五・三四	一一・八〇	二六・七〇	二〇・七七	一八・五〇	二〇・〇〇	一七・五〇
北滿七一號	—	—	—	—	—	一五・〇〇	二六・三〇	二三・二四	二〇・一〇	一四・七〇	一九・八七
北滿七五號	—	—	—	—	—	一三・五〇	一四・六〇	二〇・一五	一七・〇〇	一六・六〇	一六・三七
北滿八一號	—	—	—	—	—	一三・五〇	一四・三〇	一五・四七	一一・五〇	一三・五〇	一三・六五
北滿八六號	—	—	—	—	—	一〇・七〇	一一・八〇	一四・八四	一一・四〇	一三・一〇	一二・三七
北滿八八號	—	—	—	—	—	一〇・三〇	一四・七〇	一七・一九	一三・四〇	一四・五〇	一四・〇二
北滿九〇號	—	—	—	—	—	九・五〇	一五・〇〇	一七・八一	一四・六〇	一二・八〇	一三・九四
北滿九五號	—	—	—	—	—	八・四〇	一六・六〇	二一・八五	二三・〇〇	一三・六〇	一六・四九
北滿一〇三號	—	—	—	—	—	一一・八〇	一五・九〇	一七・九五	一五・九〇	一四・七〇	一五・二五
北滿一〇四號	—	—	—	—	—	一一・五〇	一八・四〇	二三・二二	二一・〇〇	一七・二〇	一八・二四
北滿一〇六號	—	—	—	—	—	一三・三〇	一九・四〇	一七・八五	二一・九〇	一六・五〇	一七・七九
北滿一一一號	—	—	—	—	—	一四・五〇	一三・九〇	一九・一三	一九・四〇	一六・六〇	一六・七一

黄粘	—	—	—	—	—	—	—	一八・三三	二一・七〇	一八・九〇	一九・七二
小穂	—	—	—	—	—	—	—	一七・六〇	一四・〇〇	一九・六〇	一七・〇六

右の成績に見るが如く最も重量大なるは紅苗谷子の二一・八七瓦にして毛及び打鑼棒之に亞ぎ最も輕きは昌圖三號、北滿八六號等なり平均一七―一九瓦内外なり。上の表にも見るが如く年度の豐凶によりて一穗の大小重量に著しき差あり。

次に主軸に對生する小穗群の一穗に附着する數及び其の小穗群の粒數及び長さ幅及刺毛の長さを測定せるものを示せば次の如し。

第二十九表　小穗群及刺毛の調査成績

品種名	小穗群 長さ	小穗群 幅	小穗群 附著數	小穗群 一群の粒數	刺毛の長さ
水裡粘	粍 一九・七	粍 九・九	個 一〇七・六	粒 一一七・八	粍 一二・五一
蓋州紅	一六・四	一一・六	九一・四	一〇〇・六	八・一九
高麗谷子B	一四・九	九・七	七二・八	七七・四	九・四五
黄粘谷子	一八・七	九・二	九一・六	一二九・一	九・一二
海南白	一四・〇	八・七	七八・二	七二・二	五・二九
新臺白	一八・四	一三・一	九二・二	八九・八	一〇・二三
薄地租	一八・八	九・五	一一六・〇	七五・七	一〇・七五

大青苗壓破車	二三・八	一〇・三	一一一・八	九三・一	一一・二一
鳳球尾	一九・六	一一・七	九八・二	九五・六	九・八二
長繩緊	一三・一	八・三	一二八・四	六八・〇	八・五九
淺彩紅粘	二四・二	一〇・六	七六・二	一三六・四	九・八九
青苗粘	一一・〇	八・八	九一・八	六三・七	八・一〇
毛	二〇・二	一〇・四	一二五・〇	九九・三	一一・一八
鶯鷺樹	一二・〇	一一・三	八二・〇	五五・四	八・〇二
紅南矬谷子	一四・九	一〇・三	七九・四	八六・三	五・四一
御穀	一三・五	八・九	一四七・六	三六・三	一二・五四
糜時紅	一六・五	一〇・一	五三・六	一〇三・六	五・四五
六十日	一七・五	一一・七	八〇・八	九二・七	八・九四
黃	一一・五	八・八	八九・六	五三・九	八・三七
八面城	一〇・三	一〇・七	七五・八	一〇五・四	八・七二
窪裡	二六・二	一三・三	八九・〇	一三四・八	八・九二
大斗黃	二八・三	一二・三	六九・六	九一・三	一一・六八
猴腿子	二〇・一	一二・六	八一・八	一一〇・九	七・五六
繩緊	一三・七	一〇・九	八五・八	九三・七	六・五二
飯谷子	一八・三	一一・三	七〇・六	八八・二	六・八〇
窩里青苗	一六・三	一四・六	七四・四	一一三・〇	六・二〇

黄毛	一七・〇	九・二	八三・六	九〇・二	五・四二
高刀胃	一四・三	一一・四	一〇二・六	六六・二	九・三二
釘子頭	一八・五	一一・二	七〇・八	一一七・四	七・〇三
雙廟子	一七・九	一四・〇	七六・六	九二・八	九・一八
長刀把齊	一八・四	一〇・〇	四八・六	一二五・六	一一・八九
刀把齊	二〇・六	一〇・九	七〇・〇	九四・二	八・八三
紅刀把齊	二五・六	一一・八	五三・八	一二二・六	九・二七
牛尾把黄	三〇・一	一〇・六	六八・六	一二二・七	九・二九
龍十爪	一四・四	八・六	一五三・四	五四・六	八・五六
猫脚	一四・二	九・一	七七・八	五八・三	八・二九
鴨子嘴	二四・三	一一・七	一五〇・四	一〇六・五	八・二一
龍角	四七・三	一四・四	一五・六	二四八・一	六・六二
包米混	二二・二	一〇・二	八四・六	八一・六	七・五〇
黒粘	一七・五	八・七	六九・二	一一六・五	八・八四
紅粘	一八・三	一〇・〇	五八・四	一四六・六	六・九七
長春三號	一五・六	八・九	六四・五	六四・五	七・九三
長春一號	二三・三	八・五	七八・〇	一〇一・三	八・六二
狗尾谷子	一五・三	一〇・三	一〇一・二	九二・八	一〇・九〇
稭根	一六・三	一〇・〇	九二・四	八三・八	一〇・六三

高麗谷子A	一四・八	九・一	九四・四	八七・一	九・八一
柳根赤	一九・一	一一・八	七九・二	八八・九	六・三一
叩根	一五・六	九・一	九五・〇	七〇・一	九・八九
紅苗谷子	二五・八	一六・三	六一・五	二一六・六	五・七〇
老來變	一五・二	八・四	九五・八	八〇・七	八・七〇
昌圖三號	一五・五	一〇・〇	六七・八	七一・九	九・三二
紅穀	二四・三	一二・三	八三・〇	八九・五	一〇・四七
龍鳳擋	一七・二	一二・九	六九・五	九七・三	六・〇三
粘谷子	二一・三	一一・九	八九・八	一三〇・六	六・八六
穇子	一八・〇	一〇・〇	八八・二	八五・九	九・八二
大粒黄	一五・九	九・〇	九四・四	七四・七	九・五五
八大葉	一五・九	一一・二	八七・〇	八一・四	七・八九
尖穗	一五・三	九・九	八〇・六	六八・四	五・八一
毛大粒	一四・九	八・五	八一・六	四三・四	九・五九
打鑼棒	一六・七	一一・三	七四・四	一〇三・八	一〇・〇一
毛粘穀	一二・五	九・六	九九・二	七五・三	八・六五
白砂	一七・八	九・八	七八・〇	九二・四	八・九一
昌圖一號	一六・七	一二・二	七六・〇	九六・一	八・五五
北滿七一號	二二・九	一一・四	八七・六	一四五・一	七・一八

北満七五號	一七・二	八・二	八三・二	九八・九	八・九八
北満八一號	一一・二	七・二	九〇・六	六四・三	七・五三
北満八六號	一三・〇	七・五	九九・〇	七二・六	八・〇八
北満八八號	一六・四	八・一	九〇・〇	八六・六	八・二九
北満九〇號	一八・三	七・九	八二・二	七二・六	八・六七
北満九五號	一七・一	一〇・一	八五・〇	七〇・七	六・八七
北満一〇三號	一五・八	八・六	一一〇・五	八九・六	六・九二
北満一〇四號	一九・八	一〇・七	七七・四	一三九・九	五・七八
北満一〇六號	一七・九	九・八	八四・四	一二〇・八	六・五五

備考

一　小穗は大正十三、四年の調査一〇〇個體の平均なり。

二　剌毛の長さは大正十三、四年昭和二、三年四箇年調査の平均なり。

以上の成績に見るが如く小穗群の長の大は牛尾把黄の三〇粍より小は八面城の一〇・三粍まであり普通は一六乃至一八粍なり、幅は紅苗谷子、宓里青苗等の特に大なるものあれど特別に小なるものもなく一〇粍内外のもの最も多し。この長さ一六粍幅一〇粍内外の小穗群の主軸に附着する個體數は龍爪、鴨子嘴又は御穀等の特に多きものあれど一般に八五内外にして六條八條又は十條をなして居るが整然とつくものと不規則に着くものとあり。又は捩轉して居るものあり、先端に行くにつれて形は小となるが故に本調査にては一穗の中腹の所をとり調査に供せり。

一個の小穗群の粒數を見るに普通は九〇粒内外なれど紅粘、淺彩紅粘等の如く一三〇—一四六粒あるものあり。最小は御穀、毛大粒の如く三六—四三粒なり。次に刺毛の長さは品種によつて差あり。最も長き部に入るものは一二粍以上にして水裡站、御穀、大斗黄、長力把齊等なり、最短は六粍以下にして海南白、紅南熋谷子、糜時紅、黄毛等にして八—九粍のもの最も普通なり。

第四節　粟の葉の調査

粟の葉の數の少きは十枚多きは十五枚、普通十三、四枚にして形は線狀披針形にして幅二・七〇糎、長さ三五糎を普通とし先端は尖り兩面粗糙にして上面には白色又は薄紫色の長毛を疎生す。葉鞘は白短毛を蒙り且つ其の頂部の兩面には氈毛を密生し長さ一七、八糎あり上節より上に達す。

葉の色は大體綠色なるも之れを細かに分てば濃、中、淡の三つあり、又葉肉も厚、中、薄の三つに分たる。葉質にも剛、中、軟の三つに分たる。この葉質軟かにして稈又軟かなるものは馬糧に最も歡迎せらる。葉舌、葉耳にも赤、白、黄、紫、淡紅、濃紅の六種あり淡紅及び黄なるもの最も多し。

又粟を播種し發芽して嫩葉を生ぜる時其の葉又は葉緣は白、紅、紫、綠等の色を呈す。中央紅色にして緣綠のものもあり各品種の一特徵にして嫩葉の時純雜を判定する資ともなるものなり。

次に粟の葉の長さと幅を調査せるものを示せば次の如し。

第三十表　粟の葉の調査（六箇年平均）

品種名	葉長（糎）	葉幅（糎）	葉色	葉質	葉耳色	葉舌色	葉毛の多少	葉肉
水裡站	三八・二	二・六五	濃緑	剛	赤	赤	少	厚
蓋州紅	三三・四	二・七八	緑	同	同	淡黄	同	同
高麗谷子B	三一・三	二・三七	同	同	白	同	同	同
黄粘谷子	三八・九	二・七六	濃緑	同	同	同	同	同
海南白	三三・一	二・六九	同	同	紅	同	多	同
新臺白	三六・〇	二・六五	緑	軟	淡紅	同	少	同
薄地租	四〇・四	二・六八	淡緑	同	白	同	同	同
大青苗壓破車	三九・五	二・七七	緑	中	同	同	同	中
鳳球尾	三三・七	二・四四	同	同	紅	同	中	薄
長繩緊	三四・六	二・四七	同	軟	同	同	少	同
淺彩紅粘	三三・九	二・四三	同	剛	白	同	同	中
青苗粘	三九・七	二・六七	淡緑	軟	同	同	同	薄
毛苗	三六・〇	二・五九	同	剛	紫	淡紫	同	厚
鷺鷥樹	三七・三	二・六八	同	同	白	黄	中	同
紅南燵谷子	三三・二	二・七四	同	同	紫	同	多	薄
御穀	三三・二	二・三〇	緑	同	淡紅	同	少	厚

糜時紅	三一・六	二・五三	同	同	同	同	同
六十日	三六・三	二・六三	淡緑	中	白	同	同	薄
黄	三九・八	二・七四	緑	同	同	同	同	同
八面城	三三・五	二・五九	淡緑	同	淡紅	同	同	中
窪裡	三四・一	二・八七	同	軟	白	同	多	同
大斗黄	三五・三	二・六七	緑	同	同	同	少	薄
猴腿子	三五・七	二・八一	同	同	同	同	多	同
縄緊	三二・二	二・六四	淡緑	同	淡紅	同	少	同
飯谷子	三六・〇	二・五七	同	同	白	同	同	同
窩裡青苗	三三・六	二・五七	同	同	紅	同	同	同
黄毛	三八・二	二・七九	緑	同	白	同	同	同
高刀胃	四二・八	二・九一	淡緑	同	同	同	同	中
釘子頭	三六・六	二・七一	同	同	同	同	同	薄
雙廟子	四〇・四	二・九六	同	同	同	同	中	中
長刀把齊	三四・八	二・六六	緑	同	同	同	少	同
刀把齊	三〇・〇	二・六六	同	同	同	同	同	薄
紅刀把齊	三〇・五	二・六九	同	同	紅	同	多	中
牛尾把黄	三三・一	二・四四	淡緑	同	同	紅	同	同
龍爪	三九・四	二・三七	同	同	白	黄	少	薄

猫脚	二四・八	二・五八	綠	軟	白	黃	少	薄
鴨子嘴	二七・〇	二・六五	同	同	同	同	同	同
龍角	二八・一	二・四三	濃綠	同	同	同	同	同
包米混	三一・六	二・三九	淡綠	同	紅	紅	同	中
黑粘	三三・三	二・三五	紫綠	同	濃紅	濃紅	多	同
紅粘	三一・二	二・六一	同	中	同	同	中	同
長春三號	三一・七	二・六五	同	同	同	同	多	同
長春一號	三一・七	二・二七	同	同	同	同	同	同
狗尾谷子	三六・二	二・三〇	同	軟	同	同	少	薄
稽根	三六・二	二・四六	同	同	同	同	同	中
高麗谷子A	三五・二	二・六一	同	中	同	同	同	厚
柳根赤	三六・九	二・六三	綠	同	紅	紅	中	中
叩根	三五・七	二・四九	同	同	濃紅	濃紅	少	厚
紅苗谷子	三七・九	二・六九	濃綠	剛	同	同	同	中
老來變	三三・一	二・五八	紫綠	同	同	同	同	同
昌圖三號	三一・〇	二・四〇	綠	中	紅	紅	同	薄
紅穀	二九・四	二・六四	淡綠	同	白	黃	中	厚
龍鳳擋	三三・〇	二・五七	綠	剛	同	同	少	同
粘谷子	三九・二	二・六三	紫綠	同	紅	紅	多	同

毬子	三一・〇	二・六八	紅緑	同	同	同	同	同
大粒黄	三一・五	二・六三	淡緑	同	白	黄	同	同
八大葉	三一・四	二・五五	同	同	同	同	少	同
尖穂	三一・九	二・六八	同	同	同	同	中	同
毛大粒	三七・六	二・八四	同	同	同	同	多	同
打羅棒	三五・二	二・八七	同	同	淡紅	同	同	同
毛粘穀	三八・五	二・五四	同	中	白	同	少	同
白砂	三五・四	二・三一	緑	剛	同	同	同	同
昌圖一號	三六・八	二・七一	同	同	同	同	同	同
北滿七一號	三四・四	二・八一	濃緑	同	淡紅	同	多	同
北滿七五號	三一・二	二・四四	淡緑	剛	白	同	同	同
北滿八一號	三〇・七	二・五九	紅緑	中	淡紅	濃紅	同	中
北滿八六號	二八・〇	二・三三	同	同	濃紅	同	少	薄
北滿八八號	二七・三	二・五五	淡緑	同	白	黄	多	厚
北滿九〇號	三一・四	二・七三	紅緑	剛	濃紅	濃紅	中	同
北滿九五號	三七・一	二・七九	同	同	同	同	少	同
北滿一〇三號	三一・七	二・七六	同	同	同	同	多	同
北滿一〇四號	三三・八	二・六六	緑	同	同	同	中	同
北滿一〇六號	三一・六	二・七五	同	中	紅	白	少	同

北滿一一一號	三八	二・六九	濃緑	軟	白	白	中	薄
黄粘	三五・五	二・六三	緑	剛	紅	紅	同	厚
小穂	三五・二	二・七三	同	同	同	同	少	同

右の成績により見るが如く葉長は品種によりて其の差甚しく高刀胃の四二・八糎最も長く薄地租、青苗粘、雙廟子等之に亞ぎ最も短かきは北滿八八號の二七・三糎にして北滿八六號及び龍角等之に亞ぐ、最大、最小の差一五・五糎なり。葉の幅は各品種によりて著しき差を認めず、普通二・六糎内外なり、幅の最も廣きは雙廟子の三・〇糎にして狹きは長春一號、御穀の二・三〇糎にして其の最大、最小の差〇・七糎にして葉長に比し極めて少なし。

第五節　粟の稈調査

粟の稈は役畜の飼料とし缺くべからざるものにして農民は草丈高く且つ軟かきものを望む事大なり。

粟の草丈は平均一・五―一・六米内外にして分蘖は一本より十本まであれど一本分蘖するもの最も多數を占め二本三本と云ふ順序となり九本、十本は稀れなり。一本の稈重は一五瓦内外を普通とす。各節の上節間は最も長く二八糎位、それ以上十一節位までは殆んど等長にして九・五糎内外、十二節より根元までの節間は五糎位なり。今草丈一本の稈重(親穗)各節間の長さ及び分蘖數との調査を以下順次に示せば次の如し。

第三十一表　粟の草丈調査成績表

品種名	大正七年	大正九年		大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	平均
水裡站	*一・四〇二	*一・九五三	*—	*一・八二〇	*一・七三〇	*一・六八一	*一・六九八	*一・八二五	*一・八八二	*一・七三四	*一・七四六
蓋州紅	一・五四二	一・六七八	—	一・七五〇	一・四七〇	一・五八一	一・五一三	一・六六六	一・七〇九	一・六五九	一・六一九
高麗谷子B	一・一七六	—	一・四四〇	一・六八〇	一・二七〇	一・五〇四	一・四五七	一・五九〇	一・六四五	一・五一四	一・四七五
黄粘谷子	一・二四二	—	一・五八〇	一・九三〇	一・六〇〇	一・七四一	一・六九九	一・七二五	一・八八四	一・七一五	一・六八〇
海南白	一・四一七	—	一・四二〇	一・七六〇	一・三七〇	一・五九一	一・五二七	一・六七八	一・五八九	一・六五二	一・五五六
新臺白	一・二〇七	—	一・三五〇	一・七八〇	一・四〇〇	一・四八九	一・五一八	一・五九一	一・五七四	一・五七〇	一・四九八
薄地租	一・四〇九	—	一・四三〇	二・〇五〇	一・四八〇	一・五八一	一・五二八	一・五六七	一・五二三	一・六〇九	一・五七四
大青苗壓破車	一・三五八	—	一・三四〇	一・七三〇	一・四二〇	一・四四七	一・四三〇	一・四五七	一・四六二	一・四九一	一・四五九
鳳球尾	一・四二四	一・六〇三	—	一・七八〇	一・四八〇	一・四五四	一・四九九	一・五八二	一・六三六	一・六二〇	一・五六四
長縄緊	一・三一一	一・七四八	—	一・九〇〇	一・四四〇	一・五七〇	一・五五九	一・五一五	一・七一一	一・六九〇	一・六〇五
淺彩紅粘	一・二七一	—	一・四三〇	一・六七〇	一・四七〇	一・四九一	一・五七一	一・五八六	一・六三三	一・六〇八	一・五二六
青苗粘	一・三一六	—	一・五六〇	一・七三〇	一・七〇〇	一・七八〇	一・六八二	一・七七六	一・八九四	一・七四四	一・六八五
毛	—	一・七八〇	—	一・九一〇	一・六八〇	一・七二四	一・六七一	一・六八三	一・八七八	一・七五七	一・七六〇
鷺鷺樹	一・三八四	—	—	一・九八〇	一・七〇〇	一・五二三	一・五九八	一・七一二	一・八六五	一・七六八	一・六九一
紅南煙谷子	一・三九五	一・五七〇	一・三九〇	二・一三〇	一・三六〇	一・五二四	一・四五九	一・五四一	一・五六九	一・五一〇	一・五四四
御穀	—	一・三三八	—	一・五八〇	一・二八〇	一・三八二	一・三五八	一・三五三	一・五四四	一・四二〇	一・四〇七

糜時紅	一・三三三	—	一・三一〇	一・七六〇	一・二七〇	一・四三五	一・四六六	一・五五五	一・六九四	一・五八五	一・四九〇
六十日	一・二六一	—	一・四六〇	二・一二〇	一・四七〇	一・七一二	一・五五八	一・九二二	一・九三三	一・七九四	一・六九二
黄	一・二一六	—	一・四五〇	一・八五〇	一・三八〇	一・六六六	一・四七九	一・七二六	一・七九〇	一・六八六	一・五八三
八面城	一・四一三	一・四六八	—	一・六二〇	一・二八〇	一・五〇三	一・四六三	一・六三六	一・六七五	一・七〇七	一・五二九
窪裡	一・四六一	—	一・五六〇	一・七〇〇	—	一・五二七	一・一一三	一・五七一	一・四四九	一・五二四	一・四九〇
大斗黄	一・三九六	一・六七〇	—	一・八五〇	一・三八〇	一・五七五	一・四二五	一・五九一	一・六六七	一・七五九	一・五九〇
猴腿子	一・四一一	一・五六六	—	一・八五〇	一・三九〇	一・五五九	一・四一六	一・五八八	一・五四六	一・五四二	一・五四一
縄緊	一・六五四	一・四三〇	—	一・八二〇	一・四〇〇	一・四九一	一・二三六	一・六六九	一・七八六	一・六九八	一・五六五
飯谷子	一・四六四	—	一・三八〇	一・八七〇	一・四三〇	一・五三七	一・四六〇	一・四八四	一・六二〇	一・五二四	一・五三〇
窯裡青苗	—	—	一・四九〇	一・九〇〇	一・六二〇	一・六八六	一・五七〇	一・七〇三	一・八三五	一・七六〇	一・六九五
黄毛	—	—	一・四一〇	一・八五〇	一・四七〇	一・六八五	一・五五〇	一・七二三	一・七七四	一・七八五	一・六五六
高刀冒	—	—	一・四二〇	一・八五〇	一・五五〇	一・六二八	一・五六一	一・六九〇	一・八〇六	一・七六〇	一・六五八
釘子頭	一・三六八	—	一・三四〇	一・八〇〇	—	一・四二四	一・五六三	一・七〇七	一・七八一	一・六四二	一・五八八
雙廟子	一・二四一	—	一・三三〇	一・八〇〇	一・三一〇	一・五八〇	一・四八九	一・五六三	一・六六五	一・六〇五	一・五一八
長刀把齊	一・三三五	—	一・三六〇	一・七三〇	一・三八〇	一・五五六	一・四八五	一・五四六	一・六五七	一・五九八	一・五一五
刀把齊	一・二一三	一・四六三	—	一・六八〇	一・二六〇	一・四三二	一・三七七	一・四五〇	一・五五八	一・五八〇	一・四四五
紅刀把齊	一・四〇二	—	一・四一〇	一・九六〇	一・五五〇	一・五六四	一・六一七	一・六一五	一・七一〇	一・六九六	一・六二四
牛尾把黄	一・二三四	—	一・三〇〇	一・八〇〇	一・三四〇	一・四五三	一・四三六	一・四二八	一・五六二	一・五九八	一・四六一
龍爪	一・三一七	—	一・四五〇	二・一二〇	一・四八〇	一・七一四	一・八一六	一・七二三	一・七七〇	一・七七四	一・六八五

猫脚	一・三〇四	—	一・五二〇	二・〇四〇	一・四二〇	一・五七二	一・七三一	一・六七〇	一・七四八	一・六九七	一・六三四
鴨子嘴	一・二三一	—	一・四八〇	一・九八〇	一・四九〇	一・三四四	一・七七五	一・七五二	一・七三〇	一・七一九	一・六二一
龍角	一・二九二	—	一・二五〇	一・七三〇	一・二九〇	一・二四四	一・二八四	一・四二五	一・三九七	一・三四六	一・三五一
包米混	—	—	一・二〇〇	一・五八〇	—	一・三九七	一・三八一	一・四四三	一・四七一	一・四六五	一・四一四
黑粘	一・三六六	—	一・三八〇	一・七五〇	一・三七〇	一・六五九	一・四九一	一・五九九	一・六五七	一・七二一	一・五五五
紅粘	一・三〇八	—	一・三九〇	一・七三〇	一・三八〇	一・四四二	一・四六七	一・五三四	一・七一〇	一・六六五	一・五一四
長春三號	一・二八三	一・五六一	一・三八〇	一・七四〇	一・三〇〇	一・四三三	一・四七二	一・四三三	一・五三二	一・六一九	一・四七四
長春一號	一・三〇三	—	一・三三〇	一・八八〇	一・四二〇	一・六七五	一・六二八	一・六三四	一・七一四	一・八一三	一・六〇〇
狗尾谷子	一・四四二	—	—	二・〇〇〇	一・六二〇	一・五七九	一・六七〇	一・七〇二	一・七二九	一・七七二	一・六八九
稭根	一・四一六	一・五六五	—	一・九六〇	一・四五〇	一・六二二	一・六四三	一・七二〇	一・七五六	一・七二三	一・六四九
高麗谷子A	一・三三〇	—	—	一・八五〇	一・五八〇	一・八六四	一・六〇一	一・七五六	一・七八六	一・七二七	一・六八七
柳根赤	一・三一六	一・四八〇	一・三六〇	一・七五〇	一・四二〇	一・四六七	一・五三五	一・六七七	一・六三三	一・六一七	一・五二四
叩根	一・四六〇	—	一・四四〇	二・〇一〇	一・六八〇	一・五五二	一・五八〇	一・八二七	一・七七八	一・七七四	一・六七八
紅苗谷子	一・四二〇	—	一・二七〇	一・六二〇	一・五八〇	一・五二四	一・五一〇	一・五五二	一・六二一	一・五四六	一・五一四
老來變	一・五五二	—	一・五〇〇	二・一三〇	一・六九〇	一・九六〇	一・七四五	一・八三四	一・九二四	一・九五九	一・八二〇
昌圖三號	一・〇八八	一・〇八〇	—	一・六七〇	一・二七〇	一・三五五	一・二四六	一・四二〇	一・五五五	一・三三九	一・三三六
紅穀	一・四二八	一・五一五	—	一・九二〇	一・六五〇	一・六二七	一・六五六	一・八七三	一・八四三	一・七一八	一・六九二
龍鳳擋	一・五〇八	—	一・二八〇	一・六三〇	一・四四〇	一・六七三	一・四八九	一・五三八	一・六三二	一・五一九	一・五二三
粘谷子	一・五六〇	—	一・三四〇	一・七六〇	—	一・七二三	一・六五〇	一・七八八	一・七一七	一・六二一	一・六四四

糯子	一・二七〇	一・四三七	—	一・八四〇	一・四一〇	一・六四〇	一・二六五	一・四九五	一・四三七	一・四〇〇	一・四三三
大粒黄	一・四五九	一・六六五	—	一・八五〇	一・六〇〇	一・六三四	一・六六九	二・一五九	一・七二三	一・七〇三	一・七一七
八大葉	一・三八八	一・三四六	—	一・八六〇	一・四四〇	一・五一七	一・四三六	一・五五八	一・五四〇	一・五〇二	一・五〇九
尖穗	一・六六五	—	一・三一〇	一・九一〇	—	一・六九六	一・三五二	一・八四三	一・七五〇	一・七四五	一・六五九
毛大粒	一・四七九	—	一・二八〇	一・六六〇	一・四一〇	一・五六五	一・四一〇	一・六四二	一・四〇八	一・五五二	一・四九〇
打鑼棒	一・四七四	一・五八〇	—	一・九五〇	一・五四〇	一・七三八	一・六三二	一・六九四	一・六二二	一・六一四	一・六四九
毛粘穀	一・六四七	—	一・四八〇	一・七九〇	一・六〇〇	一・八四五	一・七三八	一・九九七	一・七八九	一・七七三	一・七四〇
白砂	一・二六二	—	一・四〇〇	一・八九〇	一・五七〇	一・四八三	一・五〇八	一・六八四	一・六六一	一・六三三	一・五六六
昌圖一號	一・二二六	一・七三三	—	一・七九〇	一・四〇〇	一・五八五	一・五二八	一・八四四	一・六七四	一・六五二	一・六〇一
北滿七五號	—	—	—	—	—	一・四〇四	一・五三五	一・六〇二	一・五三六	一・五五二	一・五二六
北滿八一號	—	—	—	—	—	一・四六六	一・五九八	一・五七五	一・六〇三	一・六六五	一・五八一
北滿八六號	—	—	—	—	—	一・四四八	一・三〇一	一・四七五	一・四八二	一・五七三	一・四五六
北滿八八號	—	—	—	—	—	一・五八五	一・六〇六	一・五六五	一・五九八	一・六一六	一・五九五
北滿九〇號	—	—	—	—	—	一・七〇八	一・六二九	一・七五七	一・六五四	一・七一七	一・六九三
北滿九五號	—	—	—	—	—	一・四六二	一・五八三	一・五一五	一・五九九	一・六五八	一・五六三
北滿一〇三號	—	—	—	—	—	一・四七九	一・六一一	一・五四五	一・七一五	一・六五〇	一・六〇〇
北滿一〇四號	—	—	—	—	—	一・三六四	一・六三六	一・五四八	一・五四三	一・六〇八	一・五四〇
北滿一〇六號	—	—	—	—	—	一・四四八	一・五七三	一・六〇四	一・五九五	一・六〇〇	一・五六四
北滿一一一號	—	—	—	—	—	一・六〇六	一・六四一	一・五三四	一・六六六	一・六九三	一・六二八

北滿七一號	—	—	—	—	—	一・六五九	一・五七六	一・五八三	一・五二五	一・五〇七	一・五七〇
黄粘	—	—	—	—	—	—	—	一・七二七	一・五二三	一・五二五	一・五九二
小穗	—	—	—	—	—	—	—	一・六六七	一・六五九	一・六八八	一・六七二

右の成績によりて見るが如く最も草丈高きは老來變の一・八一米にして又最小は昌圖三號の一・二三六米なり、普通は一・五—一・七米の間なり。

第三十二表　粟一本の桿重調査成績表

品種名	大正七年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	平均
	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦
水裡站	一一・四四	一三・一六	一四・九六	一八・〇〇	一八・四九	一一・四〇	二一・一〇	二九・五〇	二七・〇〇	二一・六〇	一八・六七
蓋州紅	一四・五九	九・九八	一三・五四	一四・二一	一二・六四	一三・〇〇	二〇・一〇	二三・〇七	二六・三〇	二三・二〇	一六・九六
高麗谷子B	一〇・八八	一三・二四	一〇・四三	一一・〇六	一三・九九	九・六〇	一六・三〇	二〇・一九	二一・八〇	一八・三〇	一四・五八
黄粘谷子	一七・〇〇	一三・一三	一七・七四	一七・四〇	一八・〇〇	一八・七〇	二三・七〇	二五・一六	三〇・一〇	二三・一〇	二〇・二〇
海南白	一二・六四	一四・四四	一五・一〇	一八・四五	一五・七九	一三・七〇	二三・八〇	二六・〇〇	二五・七〇	二六・三〇	一九・一四
新臺白	一四・八三	八・二一	一〇・五〇	一三・〇四	一三・〇五	八・一〇	一七・三〇	一八・二九	一九・四〇	一七・四〇	一三・九〇
薄地租	一八・九八	一〇・二四	一一・五九	一三・八〇	一三・三五	一一・三〇	一八・一〇	二八・一九	二六・〇〇	二〇・七〇	一七・一三
大青苗壓破車	一七・二九	九・七一	九・六〇	一一・〇六	一三・四六	八・八〇	一八・九〇	二四・五八	二五・七〇	一九・三〇	一五・八四
鳳球尾	一三・二〇	八・九六	一二・一一	一二・六八	一〇・四六	九・八〇	一七・九〇	二〇・一四	二四・三〇	二〇・七〇	一五・〇三

長縄緊	一六・〇九	一〇・一三	一二・八〇	一三・四六	一四・七八	一二・六〇	二一・三〇	二二・五九	二八・一〇	二三・〇〇	一七・四九
淺彩紅粘	一六・二九	八・九六	一〇・二〇	一三・〇八	一五・一九	一〇・二〇	一九・〇〇	二〇・八二	二六・八〇	二〇・一〇	一五・九六
青苗粘	一六・一三	一二・九四	一八・三四	一九・二三	一七・八九	一八・二〇	二四・七〇	二八・一九	三六・一〇	二五・六〇	二一・七三
毛白	—	一〇・八四	一六・四六	一五・七五	一七・二一	一六・七〇	二一・九〇	二四・三〇	三二・六〇	二三・四〇	一九・九〇
鷲鷲樹	一五・七五	一三・五〇	二〇・二九	一八・九〇	一七・八一	一七・〇〇	二六・一〇	二五・六一	三六・一〇	二七・三〇	二一・八四
江南甦谷子	一三・四一	九・六四	一一・四〇	一三・三一	一三・九九	一〇・三〇	二三・〇〇	二一・五六	二六・七〇	二三・五〇	一六・四八
御穀子	—	六・八六	九・三四	九・九四	一〇・五四	八・五〇	一七・五〇	一六・五四	三二・七〇	一八・八〇	一三・四一
糜時紅	一二・六四	九・〇〇	一二・七五	一四・一八	一三・六四	一〇・二〇	一七・五〇	二三・九二	二五・七〇	二五・六〇	一六・四一
六十日	一六・五四	一〇・八九	一七・一〇	二〇・二五	一五・七五	一五・六〇	二四・七〇	二八・一九	三一・九〇	二七・四〇	二〇・八三
黄	一六・〇一	一二・五六	一六・九九	一四・八一	一三・八八	一六・六〇	二一・二〇	二〇・三四	三〇・四〇	二四・九〇	一八・七七
八面城	一一・七四	六・三九	一〇・九一	一三・〇〇	一一・六六	一九・八〇	一八・五〇	一八・一五	二三・四〇	二一・三〇	一五・三九
窪裡	一二・二四	九・九〇	一二・〇八	一二・二〇	—	一三・五〇	二〇・三〇	二四・九〇	二八・二〇	一九・三〇	一六・八六
大斗黄	一五・九〇	一〇・二八	一〇・九一	一四・五一	一四・五五	一三・六〇	二〇・七〇	二〇・五三	二四・二〇	二二・四〇	一六・六六
猴腿子	一一・九九	九・二六	九・八六	一一・八九	一二・六〇	一二・三〇	二三・三〇	二一・五一	二四・三〇	一九・三〇	一五・六三
縄緊	一八・四一	八・八五	一一・二五	一四・七〇	一四・四〇	一一・七〇	一五・三〇	二〇・七〇	二四・〇〇	二一・二〇	一六・〇五
飯谷子	一三・五八	一〇・九九	一三・二四	一四・八一	一三・六五	一一・一〇	二三・七〇	一八・二三	二四・六〇	一八・三〇	一六・一二
㳄裡青苗	—	一〇・四三	一五・四一	一六・六五	一六・五四	一六・一〇	二一・〇〇	二六・八一	三〇・二〇	二四・一〇	一九・六九
黄毛	—	九・四五	一七・八九	一三・八八	一五・四五	一三・一〇	二三・九〇	二七・七二	二九・三〇	二三・九〇	一九・二九
高刀胃	—	八・七四	一六・一三	一三・八八	一三・九一	一三・一〇	二三・九〇	二三・〇二	二六・二〇	二五・三〇	一八・〇二

釘子頭	一三・九二	九・三八	一六・〇九	一五・三〇	—	一二・九〇	二六・三〇	二六・八三	二五・二〇	二三・九〇	一八・七六
雙廟子	一四・〇七	九・二八	一三・八四	一三・九九	一三・〇一	一一・三〇	二一・四〇	二五・六二	二六・一〇	二一・三〇	一六・九九
長刀把齊	一五・二〇	七・五〇	一〇・四三	一三・六五	一四・二五	一二・八〇	二一・五〇	二三・二四	二四・二〇	一九・八〇	一六・一六
刀把齊	一一・五九	七・五〇	一〇・三九	一二・九八	一二・三八	一二・〇〇	一九・〇〇	二三・一三	二一・六〇	二一・〇〇	一五・一六
紅刀把齊	一四・七八	七・六一	九・七五	一一・四〇	一三・三九	一二・一〇	一九・二〇	二〇・三〇	二二・二〇	一九・七〇	一五・〇三
牛尾把黃	一三・三一	六・三一	九・六〇	一一・三三	一一・四四	九・九〇	一五・八〇	一六・七三	一八・九〇	二〇・七〇	一三・四〇
龍爪	一四・七〇	一〇・一三	一六・八四	一七・二九	一三・二四	一五・一〇	二六・三〇	二六・八一	二九・二〇	二三・七〇	一九・三二
猫脚	一三・七三	一〇・六一	一四・三三	一七・三六	一三・三九	一五・〇〇	二三・一〇	二五・一一	三一・三〇	二〇・二〇	一八・四一
鴨子嘴	一三・六九	一一・〇三	一五・三四	一八・四一	一五・五六	一二・九〇	二三・八〇	二八・〇八	二九 〇〇	二一・六〇	一八・九四
龍角	一〇・二〇	七・〇一	一一・八九	一四・七八	一三・〇九	九・八〇	一六・〇〇	一六・六七	二〇・〇〇	一九・八〇	一三・九二
包米混	—	六・〇八	九・八三	九・三〇	一六・九〇	一三・六〇	一五・七二	一五・三〇	一五・二〇	一四・九〇	一一・六八
黑粘	一四・五九	八・四四	一二・四一	一三・〇一	一一・九六	一三・四〇	二一・七〇	二二・六五	二三・二〇	二三・四〇	一六・三八
紅粘	一五・〇八	一〇・〇九	一三・一五	一一・八九	九・九四	一〇・三〇	二三・〇〇	二一・七七	二二・二〇	一九・七〇	一五・六一
長春三號	一三・一三	九・〇〇	一〇・九九	一一・一〇	一一・七四	八・四〇	二〇・八〇	一九・八六	二〇・九〇	一九・九〇	一四・五八
長春一號	一二・四五	六・二〇	一二・二三	一二・六〇	一三・五四	一一・六〇	二〇・四〇	二二・四六	二〇・八〇	二一・七〇	一五・四〇
狗尾谷子	一一・七四	六・二四	一三・四六	一五・七九	一四・四〇	一一・七〇	二〇・七〇	二一・八〇	二四・二〇	二一・四〇	一六・一三
稽根	一六・八〇	八・二九	一四・五九	一六・二〇	一二・九〇	一一・五〇	二〇・四〇	二三・〇七	二五・一〇	二三・一〇	一七・一〇
高麗谷子A	一三・八〇	六・三八	一一・五九	一四・八九	一五・二六	一二・三〇	二一・三〇	二六・九一	二七・一〇	二三・一〇	一七・二五
柳根赤	一六・四二	九・三八	一三・五〇	一三・八〇	八・二九	九・九〇	二一・三〇	二三・三三	二三・五〇	二三・七〇	一六・一〇

長縄緊	一六・〇九	一〇・一三	一三・八〇	一三・四六	一四・七八	一三・六〇	二一・三〇	二三・五九	二八・一〇	二三・〇〇	一七・四九
淺彩紅粘	一六・二九	八・九六	一〇・二〇	一三・〇八	一五・一九	一〇・二〇	一九・〇〇	二〇・八二	二六・八〇	二〇・一〇	一五・九六
青苗粘	一六・一三	一三・九四	一八・三四	一九・二三	一七・八九	一八・二〇	二四・七〇	二八・一九	三六・一〇	二五・六〇	二一・七三
毛白	—	一〇・八四	一六・四六	一五・七五	一七・二一	一六・七〇	二一・九〇	二四・三〇	三三・六〇	二三・四〇	一九・九〇
鷺鷥樹	一五・七五	一三・五〇	二〇・二九	一八・九〇	一七・八一	一七・〇〇	二六・一〇	二五・六一	三六・一〇	二七・三〇	二一・八四
江南矬谷子	一三・四一	九・六四	一一・四〇	一三・三一	一三・九九	一〇・三〇	二三・〇〇	二一・五六	二六・七〇	二三・五〇	一六・四八
御穀	—	六・八六	九・三四	九・九四	一〇・五四	八・五〇	一七・五〇	一六・五四	三一・七〇	一八・八〇	一三・四一
糜時紅	一三・六四	九・〇〇	一三・七五	一四・一八	一三・六四	一〇・二〇	一七・五〇	二三・九二	二五・七〇	二五・六〇	一六・四一
六十日	一六・五四	一〇・八九	一七・一〇	二〇・二五	一五・七五	一五・六〇	二四・七〇	二八・一九	三一・九〇	二七・四〇	二〇・八三
黄	一六・〇一	一三・五六	一六・九九	一四・八一	一三・八八	一六・六〇	二一・二〇	二〇・三四	三〇・四〇	二四・九〇	一八・七七
八面城	一一・七四	六・三九	一〇・九一	一三・〇〇	一一・六六	一九・八〇	一八・五〇	一八・一五	二三・四〇	二一・三〇	一五・三九
窪裡	一三・二四	九・九〇	一三・〇八	一三・三〇	—	一三・五〇	二〇・三〇	二四・九〇	二八・二〇	一九・三〇	一六・八六
大斗黄	一五・九〇	一〇・二八	一〇・九一	一四・五一	一四・五五	一三・六〇	二〇・七〇	二〇・五三	二四・二〇	二三・四〇	一六・六六
猴腿子	一一・九九	九・二六	九・八六	一一・八九	一三・六〇	一三・三〇	二三・三〇	二一・五一	二四・三〇	一九・三〇	一五・八三
縄緊	一八・四一	八・八五	一一・二五	一四・七〇	一四・四〇	一一・七〇	一五・三〇	二〇・七〇	二四・〇〇	二一・二〇	一六・〇五
飯谷子	一三・五八	一〇・九九	一三・二四	一四・八一	一三・六五	一一・一〇	二三・七〇	一八・二三	二四・六〇	一八・三〇	一六・一三
窩裡青苗	—	一〇・四三	一五・四一	一六・六五	一六・五四	一六・一〇	二一・〇〇	二六・八一	三〇・二〇	二四・一〇	一九・六九
黄毛	—	九・四五	一七・八九	一三・八八	一五・四五	一三・一〇	二三・九〇	二七・七二	二九・三〇	二三・九〇	一九・二九
高刀胃	—	八・七四	一六・一三	一三・八八	一三・九一	一三・一〇	二三・九〇	二三・〇三	二六・二〇	二五・三〇	一八・〇三

釘子頭	一三・九二	九・三八	一六・〇九	一五・三〇	―	一二・九〇	二六・三〇	二六・八三	二五・二〇	二三・九〇	一八・七六
雙廟子	一四・〇七	九・二八	一三・八四	一三・九九	一三・〇一	一一・三〇	二一・四〇	二五・六二	二六・一〇	二一・三〇	一六・九九
長刀把齊	一五・二〇	七・五〇	一〇・四三	一三・六五	一四・二五	一二・八〇	二一・五〇	二二・二四	二四・三〇	一九・八〇	一六・一六
刀把齊	一一・五九	七・五〇	一〇・三九	一二・九八	一二・三八	一二・〇〇	一九・〇〇	二三・一二	二一・六〇	二一・〇〇	一五・一六
紅刀把齊	一四・七八	七・六一	九・七五	一一・四〇	一三・三九	一二・一〇	一九・二〇	二〇・二〇	二三・二〇	一九・七〇	一五・〇三
牛尾把黃	一三・三一	六・三一	九・六〇	一一・三三	一一・四四	九・九〇	一五・八〇	一六・七三	一八・九〇	二〇・七〇	一三・四〇
龍爪	一四・七〇	一〇・一三	一六・八四	一七・二九	一三・二四	一五・一〇	二六・三〇	二六・八一	二九・二〇	二三・七〇	一九・三二
猫脚	一三・七三	一〇・六一	一四・三三	一七・三六	一三・三九	一五・〇〇	二三・一〇	二五・一一	三一・三〇	二〇・二〇	一八・四一
鴨子嘴	一三・六九	一一・〇三	一五・三四	一八・四一	一五・五六	一二・九〇	二三・八〇	二八・〇八	二九・〇〇	二一・六〇	一八・九四
龍角	一〇・二〇	七・〇一	一一・八九	一四・七八	一三・〇九	九・八〇	一六・〇〇	一六・六七	二〇・〇〇	一九・八〇	一三・九二
包米混	―	六・〇八	九・八三	九・三〇	一六・九〇	一三・六〇	一五・七二	一五・三〇	一五・二〇	一四・九〇	一一・六八
黑粘	一四・五九	八・四四	一三・四一	一三・〇一	一一・九六	一三・四〇	二一・七〇	二二・六五	二三・二〇	二二・四〇	一六・三八
紅粘	一五・〇八	一〇・〇九	一三・一五	一一・八九	九・九四	一〇・三〇	二三・〇〇	二一・七七	二二・二〇	一九・七〇	一五・六一
長春三號	一三・一三	九・〇〇	一〇・九九	一一・一〇	一一・七四	八・四〇	二〇・八〇	一九・八六	二〇・九〇	一九・九〇	一四・五八
長春一號	一三・四五	六・二〇	一三・二三	一三・六〇	一三・五四	一一・六〇	二〇・四〇	二二・四六	二〇・八〇	二一・七〇	一五・四〇
狗尾谷子	一一・七四	六・二四	一三・四六	一五・七九	一四・四〇	一一・七〇	二〇・七〇	二一・八〇	二四・一〇	二一・四〇	一六・一三
稽根	一六・八〇	八・二九	一四・五九	一六・二〇	一三・九〇	一一・五〇	二〇・四〇	二三・〇七	二五・一〇	二二・一〇	一七・一〇
高麗谷子A	一三・八〇	六・三八	一一・五九	一四・八九	一五・二六	一二・三〇	二一・二〇	二六・九一	二七・一〇	二三・一〇	一七・二五
柳根赤	一六・四二	九・三八	一三・五〇	一三・八〇	八・二九	九・九〇	二一・二〇	二三・三三	二二・五〇	二二・七〇	一六・一〇

叩根	一四・八五	九・七一	一一・七〇	一四・七四	一四・九六	九・八〇	二〇・八〇	二七・二一	二四・九〇	二三・三〇	一七・二〇
紅苗谷子	一四・九六	九・八六	一四・二九	一七・五一	一六・一三	一二・一〇	二四・七〇	二六・五三	二七・五〇	二一・一〇	一八・四七
老來變	一六・九九	一〇・五八	一三・〇五	二〇・七〇	一七・一四	一八・四〇	二一・三〇	二八・七五	三三・四〇	二四・三〇	一九・三六
昌圖三號	八・八八	四・八八	六・二八	八・九三	九・三〇	七・九〇	一一・八〇	一一・七九	二三・六〇	一一・九〇	一〇・五三
紅穀	二〇・九六	一〇・九一	一七・二五	一九・七六	二一・一一	一一・四〇	二四・二〇	三〇・六〇	三四・四〇	三〇・七〇	二一・一三
龍鳳擋	一四・六九	八・一四	一三・三六	一一・七〇	一三・八四	一五・三〇	一九・四〇	二〇・八九	二五・〇〇	二一・二〇	一六・二七
粘谷子	一二・四三	一一・二五	一五・〇〇	一五・二三	—	一七・〇〇	二六・二〇	二九・八二	二六・六〇	二八・三〇	二〇・二〇
矬子	九・七一	七・〇五	九・九八	一一・五九	一〇・五四	八・四〇	一七・四〇	一八・一八	二〇・七〇	一七・九〇	一三・一五
大粒黃	一六・〇九	九・〇八	一〇・四六	一二・二三	一七・〇三	一六・一〇	二〇・五〇	二五・九三	三一・八〇	二三・九〇	一八・二二
八大葉	一二・一五	八・一四	一五・三四	一三・八八	一三・八〇	一六・六〇	一九・〇〇	一九・五三	二三・五〇	一九・五〇	一六・一四
尖穗	一六・九五	九・五三	一三・四二	一五・一九	—	一三・三〇	一九・七〇	二〇・六四	二二・三〇	二五・〇〇	一七・三四
毛大粒	一二・三四	一〇・一三	一一・二一	一二・〇八	一〇・八四	一〇・三〇	一六・六〇	二〇・六七	一七・九〇	一五・七〇	一三・七八
打鑼棒	一四・九六	一〇・五四	一六・四三	一七・五九	一五・八〇	一四・四〇	二三・八〇	二五・三〇	二三・九〇	二一・八〇	一八・四五
毛粘穀	一六・二四	一四・七八	一七・八九	一七・四八	一五・三八	一九・七〇	二四・三〇	二五・九一	二九・五〇	二三・〇〇	二〇・四二
白砂	一三・八四	九・八六	一二・九四	一二・九四	一三・八四	一〇・五〇	一八・二〇	二三・六九	二三・八〇	一七・一〇	一五・四七
昌圖一號	一三・九八	八・四〇	一三・八〇	一四・一四	一三・三一	一四・一〇	二一・八〇	二四・五八	一五・五〇	二一・四〇	一六・一〇
北滿七一號	—	—	—	—	—	一一・〇〇	一九・九〇	二〇・二七	一八・九〇	一三・八〇	一六・七七
北滿七五號	—	—	—	—	—	八・三〇	一三・七〇	一九・〇三	一九・三〇	一六・六〇	一五・三八
北滿八一號	—	—	—	—	—	一一・九〇	一五・八〇	一四・二九	一四・四〇	一七・一〇	一四・七〇

北満八六號	—	—	—	—	—	八・七〇	一四・五〇	一三・三四	二六・四〇	一五・一〇	一五・六一
北満八八號	—	—	—	—	—	九・五〇	一五・二〇	一五・三九	一六・二〇	一七・〇〇	一四・六八
北満九〇號	—	—	—	—	—	一一・九〇	一七・四〇	一八・二三	一八・七〇	一八・〇〇	一六・八五
北満九五號	—	—	—	—	—	八・九〇	一三・一〇	一五・八〇	一五・六〇	一五・四〇	一三・七六
北満一〇三號	—	—	—	—	—	一一・五〇	一八・六〇	一五・〇二	一六・八〇	一七・三〇	一五・八四
北満一〇四號	—	—	—	—	—	九・一〇	一八・二〇	一九・六八	一九・五〇	一八・五〇	一七・〇〇
北満一〇六號	—	—	—	—	—	一一・六〇	一九・九〇	二一・五九	二一・八〇	一八・七〇	一八・七三
北満一一一號	—	—	—	—	—	一一・六〇	一七・六〇	二〇・三〇	二三・九〇	二〇・六〇	一八・八〇
黄粘	—	—	—	—	—	—	—	一九・三二	二三・七〇	二〇・八〇	二一・二七
小穂	—	—	—	—	—	—	—	二〇・六八	二一・〇〇	二一・九〇	二一・一九

以上の成績に見るが如く最も重きは紅穀の二一・一三瓦にして鷲鷲樹、青苗粘等之に亜ぎ最も收量少きは昌圖三號の一〇・五三瓦にして包米混、牛尾把黄等之に亜いで少なし。最も普通なるは一五―一八瓦内外なり。

第三十三表　粟各節間の長さ調査成績表

品種名＼節數	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八
水稗站	二九・〇糎	八・〇糎	一四・〇糎	九・〇糎	一〇・〇糎	八・〇糎	一六・〇糎	一五・〇糎	一〇・〇糎	一二・〇糎	六・〇糎	二・〇糎	二・〇糎	二・〇糎	二・〇糎	—糎	—糎	—糎

叩根	一四・八五	九・七一	一一・七〇	一四・七四	一四・九六	九・八〇	二〇・八〇	二七・二二	二四・九〇	二三・三〇	一七・二〇
紅苗谷子	一四・九六	九・八六	一四・二九	一七・五一	一六・一三	一二・一〇	二四・七〇	二六・五三	二七・五〇	二一・一〇	一八・四七
老來變	一六・九九	一〇・五八	一三・〇五	二〇・七〇	一七・一四	一八・四〇	二一・三〇	二八・七五	二三・四〇	二四・三〇	一九・三六
昌圖三號	八・八八	四・八八	六・二八	八・九三	九・三〇	七・九〇	一一・八〇	一一・七九	二三・六〇	一一・九〇	一〇・五三
紅穀	二〇・九六	一〇・九一	一七・二五	一九・七六	二一・一一	一一・四〇	二四・二〇	三〇・六〇	三四・四〇	三〇・七〇	二二・一三
龍鳳擋	一四・六九	八・一四	一三・五六	一一・七〇	一三・八四	一五・三〇	一九・四〇	二〇・八九	二五・〇〇	二一・二〇	一六・二七
粘谷子	一二・四三	一一・二五	一五・〇〇	一五・二三	—	一七・〇〇	二六・二〇	二九・八二	二六・六〇	二八・三〇	二〇・二〇
矬子	九・七一	七・〇五	九・九八	一一・五九	一〇・五四	八・四〇	一七・四〇	一八・一八	二〇・七〇	一七・九〇	一三・一五
大粒黄	一六・〇九	九・〇八	一〇・四六	一二・二三	一七・〇三	一六・一〇	二〇・五〇	二五・九三	三一・八〇	二二・九〇	一八・二二
八大葉	一三・一五	八・二四	一五・三四	一三・八八	一三・八〇	一六・六〇	一九・〇〇	一九・五三	二三・五〇	一九・五〇	一六・一四
尖穗	一六・九五	九・五三	一三・四二	一五・一九	—	一三・三〇	一九・七〇	二〇・六四	二二・三〇	二五・〇〇	一七・三四
毛大粒	一三・三四	一〇・一三	一一・二一	一三・〇八	一〇・八四	一〇・三〇	一六・六〇	二〇・六七	一七・九〇	一五・七〇	一三・七八
打鑼棒	一四・九六	一〇・五四	一六・四三	一七・五九	一五・八〇	一四・四〇	二三・八〇	二五・三〇	二三・九〇	二一・八〇	一八・四五
毛粘穀	一六・二四	一四・七八	一七・八九	一七・四八	一五・三八	一九・七〇	二四・三〇	二五・九一	二九・五〇	二三・〇〇	二〇・四二
白砂	一三・八四	九・八六	一二・九四	一二・九四	一三・八四	一〇・五〇	一八・二〇	二三・六九	三三・八〇	一七・一〇	一五・四七
昌圖一號	一三・九八	八・四〇	一三・八〇	一四・一四	一三・三一	一四・一〇	二一・八〇	二四・五八	一五・五〇	二一・四〇	一六・一〇
北滿七一號	—	—	—	—	—	一一・〇〇	一九・九〇	二〇・二七	一八・九〇	一三・八〇	一六・七七
北滿七五號	—	—	—	—	—	八・三〇	一三・七〇	一九・〇二	一九・三〇	一六・六〇	一五・三八
北滿八一號	—	—	—	—	—	一一・九〇	一五・八〇	一四・二九	一四・四〇	一七・一〇	一四・七〇

北満八六號	—	—	—	—	—	八・七〇	一四・三〇	一三・三四	二六・四〇	一五・一〇	一五・六二
北満八八號	—	—	—	—	—	九・三〇	一五・三〇	一五・三九	一六・二〇	一七・〇〇	一四・六八
北満九〇號	—	—	—	—	—	一一・九〇	一七・四〇	一八・二三	一八・七〇	一八・〇〇	一六・八五
北満九五號	—	—	—	—	—	八・九〇	一三・一〇	一五・八〇	一五・六〇	一五・四〇	一三・七六
北満一〇三號	—	—	—	—	—	一一・三〇	一八・六〇	一五・〇二	一六・八〇	一七・三〇	一五・八四
北満一〇四號	—	—	—	—	—	九・一〇	一八・二〇	一九・六八	一九・三〇	一八・三〇	一七・〇〇
北満一〇六號	—	—	—	—	—	一一・六〇	一九・九〇	二一・五九	二一・八〇	一八・七〇	一八・七二
北満一一一號	—	—	—	—	—	一一・六〇	一七・六〇	二〇・三〇	二三・九〇	二〇・六〇	一八・八〇
黄粘	—	—	—	—	—	—	—	一九・三二	二三・七〇	二〇・八〇	二一・二七
小穂	—	—	—	—	—	—	—	二〇・六八	二一・〇〇	二一・九〇	二一・一九

以上の成績に見るが如く最も重きは紅穀の二一・一三瓦にして鷲鷺樹、青苗粘等之に亞ぎ最も收量少きは昌圖三號の一〇・五三瓦にして包米混、牛尾把黄等之に亞いで少なし。最も普通なるは一五―一八瓦内外なり。

第三十三表　粟各節間の長さ調査成績表

品種名＼節數	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八
水稗站	二九・〇糎	八・〇糎	一四・〇糎	九・〇糎	一〇・〇糎	八・〇糎	一六・〇糎	一五・〇糎	一〇・〇糎	一三・〇糎	六・〇糎	二・〇糎	三・〇糎	二・〇糎	二・〇糎	—糎	—糎	—糎

蓋州紅	二八・〇	八・〇	五・〇	一六・〇	一〇・〇	一三・〇	七・〇	六・〇	一二・〇	八・〇	一〇・〇	八・〇	七・〇	七・〇	五・〇	三・〇	一・〇	—
高麗谷子B	一九・〇	一〇・〇	八・〇	一一・〇	一〇・〇	一一・〇	一一・〇	八・〇	一〇・〇	九・〇	一二・〇	八・〇	二・〇	四・〇	二・〇	五・〇	—	—
黄粘谷子	四一・〇	一二・〇	一二・〇	一三・〇	一〇・〇	五・〇	一六・〇	五・〇	一〇・〇	一二・〇	六・〇	二・〇	一〇・〇	五・〇	一一・〇	—	—	—
海南白	三二・〇	五・〇	八・〇	九・〇	六・〇	一三・〇	八・〇	九・〇	一〇・〇	八・〇	九・〇	一一・〇	八・〇	五・〇	二・〇	八・〇	四・〇	三・〇
新臺白	三二・〇	一三・〇	九・〇	一一・〇	八・〇	九・〇	八・〇	六・〇	一〇・〇	七・〇	一〇・〇	三・〇	六・〇	三・〇	六・〇	六・〇	—	—
薄地租	二四・〇	一二・〇	一〇・〇	一一・〇	九・〇	一二・〇	九・〇	九・〇	九・〇	一〇・〇	五・〇	一〇・〇	七・〇	二・〇	八・〇	一七・〇	—	—
大青苗壓破車	二五・〇	一〇・〇	九・〇	七・〇	八・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	八・〇	八・〇	七・〇	一・〇	四・〇	二・〇	七・〇	八・〇	—
鳳球尾	二五・〇	六・〇	五・〇	一一・〇	九・〇	九・〇	一二・〇	八・〇	五・〇	八・〇	七・〇	一四・〇	一二・〇	一四・〇	一・〇	一・〇	—	—
長縄緊	二八・〇	一〇・〇	一一・〇	九・〇	一二・〇	八・〇	一〇・〇	一一・〇	七・〇	一一・〇	九・〇	八・〇	四・〇	四・〇	一二・〇	六・〇	四・〇	—
淺彩紅粘	三三・〇	一〇・〇	九・〇	九・〇	一〇・〇	九・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	一四・〇	二・〇	五・〇	一・〇	五・〇	四・〇	—	—
青苗粘	三五・〇	一一・〇	六・〇	七・〇	一〇・〇	一四・〇	七・〇	一〇・〇	八・〇	八・〇	七・〇	五・〇	六・〇	四・〇	七・〇	五・〇	—	—
毛	二七・〇	一一・〇	九・〇	一二・〇	九・〇	一〇・〇	一一・〇	一〇・〇	一二・〇	八・〇	九・〇	五・〇	五・〇	四・〇	四・〇	三・〇	九・〇	—
鷺鷥樹	三六・〇	九・〇	一四・〇	七・〇	八・〇	九・〇	一〇・〇	八・〇	一三・〇	八・〇	一七・〇	九・〇	六・〇	七・〇	四・〇	四・〇	五・〇	—
紅南矬谷子	二七・〇	九・〇	七・〇	八・〇	八・〇	九・〇	九・〇	九・〇	八・〇	一三・〇	九・〇	六・〇	九・〇	八・〇	三・〇	六・〇	二・〇	一・〇
御穀	二五・〇	九・〇	一三・〇	一〇・〇	一〇・〇	八・〇	六・〇	六・〇	九・〇	一一・〇	一七・〇	六・〇	三・〇	三・〇	三・〇	四・〇	—	—
糜時紅	二〇・〇	九・〇	九・〇	七・〇	一〇・〇	一五・〇	六・〇	一一・〇	五・〇	一二・〇	四・〇	五・〇	一三・〇	一三・〇	五・〇	四・〇	五・〇	三・〇
六十日	一八・〇	九・〇	一二・〇	一二・〇	一一・〇	八・〇	九・〇	一四・〇	一一・〇	一・四〇	一二・〇	一一・〇	八・〇	一二・〇	一二・〇	四・〇	三・〇	三・〇
黄	二七・〇	五・〇	九・〇	九・〇	一二・〇	八・〇	一三・〇	一一・〇	八・〇	一一・〇	一七・〇	一二・〇	七・〇	三・〇	五・〇	二・〇	五・〇	四・〇
八面城	二九・〇	一一・〇	九・〇	一一・〇	一二・〇	七・〇	七・〇	一四・〇	六・〇	七・〇	七・〇	七・〇	六・〇	五・〇	三・〇	三・〇	—	—

筐裡	二五.〇	九.〇	八.〇	一一.〇	一二.〇	七.〇	五.〇	一六.〇	六.〇	八.〇	八.〇	九.〇	五.〇	五.〇	四.〇	六.〇	五.〇	—
大斗黄	二八.〇	一一.〇	一一.〇	一〇.〇	一二.〇	八.〇	一一.〇	九.〇	一〇.〇	一二.〇	九.〇	八.〇	五.〇	四.〇	三.〇	八.〇	—	—
猴腿子	三四.〇	八.〇	一一.〇	一一.〇	九.〇	八.〇	九.〇	七.〇	一〇.〇	八.〇	五.〇	九.〇	五.〇	一〇.〇	一四.〇	—	—	—
繩緊	二七.〇	一二.〇	一〇.〇	八.〇	一二.〇	九.〇	八.〇	一〇.〇	九.〇	一〇.〇	一〇.〇	一二.〇	四.〇	六.〇	四.〇	二.〇	三.〇	—
飯谷子	二七.〇	一〇.〇	八.〇	一一.〇	八.〇	七.〇	一四.〇	七.〇	一三.〇	一四.〇	一一.〇	一五.〇	一〇.〇	九.〇	二.〇	—	—	—
岱里青苗	二三.〇	一三.〇	七.〇	八.〇	八.〇	一二.〇	一一.〇	八.〇	八.〇	一一.〇	一三.〇	六.〇	八.〇	一一.〇	八.〇	七.〇	三.〇	四.〇
黄毛	二七.〇	一〇.〇	一〇.〇	九.〇	九.〇	一〇.〇	六.〇	一三.〇	九.〇	一一.〇	一一.〇	八.〇	一〇.〇	五.〇	六.〇	五.〇	三.〇	四.〇
高刀胃	三二.〇	一〇.〇	一〇.〇	一〇.〇	一〇.〇	一五.〇	四.〇	六.〇	八.〇	一三.〇	八.〇	一二.〇	一三.〇	二.〇	三.〇	一.〇	四.〇	—
釘子頭	二八.〇	一〇.〇	七.〇	一二.〇	九.〇	一〇.〇	一一.〇	八.〇	一一.〇	九.〇	六.〇	一〇.〇	五.〇	六.〇	五.〇	五.〇	二.〇	一.二
雙廟子	二七.〇	一〇.〇	七.〇	一二.〇	七.〇	一三.〇	九.〇	一三.〇	八.〇	一六.〇	二.〇	一二.〇	七.〇	六.〇	二.〇	七.〇	六.〇	—
長刀把齊	三〇.〇	一〇.〇	八.〇	八.〇	四.〇	一〇.〇	一二.〇	一一.〇	八.〇	八.〇	七.〇	八.〇	二.〇	五.〇	九.〇	—	—	—
刀把齊	三二.〇	一二.〇	一一.〇	八.〇	九.〇	一一.〇	九.〇	八.〇	一一.〇	一〇.〇	一〇.〇	八.〇	二.〇	五.〇	六.〇	二.〇	—	—
紅刀把齊	三四.〇	八.〇	一〇.〇	一一.〇	九.〇	一〇.〇	七.〇	一一.〇	九.〇	一一.〇	一〇.〇	七.〇	一三.〇	一〇.〇	三.〇	四.〇	—	—
牛尾把黄	二六.〇	一一.〇	一四.〇	七.〇	一二.〇	一二.〇	一二.〇	九.〇	一二.〇	一一.〇	九.〇	六.〇	五.〇	二.〇	一.〇	—	—	—
龍爪	二八.〇	八.〇	一〇.〇	一二.〇	一四.〇	一三.〇	九.〇	一三.〇	九.〇	一七.〇	一二.〇	八.〇	七.〇	三.〇	四.〇	五.〇	三.〇	二.〇
猫脚	三〇.〇	八.〇	一一.〇	一六.〇	五.〇	一一.〇	一二.〇	一〇.〇	一一.〇	九.〇	一二.〇	七.〇	六.〇	六.〇	七.〇	六.〇	一.〇	二.〇
鴨子嘴	二九.〇	一〇〇	一一.〇	一二.〇	一二.〇	九.〇	九.〇	一二.〇	一二.〇	一三.〇	八.〇	七.〇	七.〇	六.〇	六.〇	五.〇	二.〇	—
龍角	二五.〇	九.〇	九.〇	九.〇	八.〇	七.〇	一四.四	一〇.〇	七.〇	一〇.〇	一〇.〇	七.〇	九.〇	六.〇	一〇.〇	一.〇	五.〇	二.〇
包米混	二四.〇	九.〇	一二.〇	一〇.〇	九.〇	九.〇	一一.〇	一〇.〇	六.〇	一〇.〇	三.〇	五.〇	五.〇	二.〇	二.〇	—	—	—

黒粘	二三・〇	一三・〇	一一・〇	一〇・〇	八・〇	八・〇	一〇・〇	七・〇	八・〇	一〇・〇	六・〇	六・〇	九・〇	六・〇	三・〇	—	—	—
紅粘	二一・〇	一一・〇	一三・〇	一一・〇	一〇・〇	一二・〇	一〇・〇	一七・〇	一〇・〇	一一・〇	六・〇	一〇・〇	一三・〇	一・〇	—	—	—	—
長春三號	二六・〇	八・〇	一七・〇	一〇・〇	一七・〇	一一・〇	一一・〇	一三・〇	一三・〇	八・〇	七・〇	七・〇	四・〇	五・〇	—	—	—	—
長春一號	二六・〇	一三・〇	一三・〇	一一・〇	一〇・〇	一七・〇	一三・〇	六・〇	九・〇	一三・〇	一九・〇	二・〇	三・〇	七・〇	三・〇	二・〇	—	—
狗尾谷子	三〇・〇	一〇・〇	九・〇	一三・〇	九・〇	一三・〇	九・〇	一三・〇	一四・〇	七・〇	八・〇	一一・〇	二・〇	七・〇	五・〇	二・〇	—	—
稽根	二九・〇	一〇・〇	一〇・〇	八・〇	一三・〇	一一・〇	九・〇	八・〇	一〇・〇	九・〇	一〇・〇	八・〇	七・〇	二・〇	七・〇	六・〇	四・〇	—
高麗谷子A	三二・〇	一〇・〇	八・〇	九・〇	一三・〇	一〇・〇	一〇・〇	九・〇	一三・〇	一一・〇	八・〇	五・〇	九・〇	二・〇	四・〇	三・〇	五・〇	二・〇
柳根赤	二二・〇	九・〇	八・〇	八・〇	八・〇	一一・〇	九・〇	一〇・〇	一〇・〇	六・〇	四・〇	八・〇	九・〇	七・〇	五・〇	五・〇	五・〇	三・〇
叩根	三三・〇	一一・〇	八・〇	一一・〇	九・〇	一〇・〇	一三・〇	七・〇	一四・〇	五・〇	一三・〇	七・〇	一三・〇	四・〇	五・〇	一・〇	四・〇	—
紅苗谷子	二四・〇	七・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	六・〇	九・〇	一三・〇	六・〇	九・〇	一〇・〇	七・〇	六・〇	七・〇	六・〇	八・〇	—
老來變	二六・〇	一一・〇	一五・〇	一三・〇	一〇・〇	九・〇	一四・〇	一〇・〇	一三・〇	八・〇	一〇・〇	九・〇	九・〇	一一・〇	一一・〇	二・〇	—	—
昌圖三號	二六・〇	一五・〇	八・〇	一一・〇	一五・〇	一四・〇	九・〇	八・〇	四・〇	一一・〇	九・〇	二・〇	五・〇	一〇・〇	一・〇	一・〇	—	—
紅穀	二七・〇	八・〇	九・〇	一〇・〇	一三・〇	九・〇	一〇・〇	七・〇	一四・〇	九・〇	七・〇	一三・〇	八・〇	一〇・〇	八・〇	八・〇	六・〇	—
龍鳳擋	二五・〇	一〇・〇	五・〇	一三・〇	一一・〇	一三・〇	八・〇	七・〇	七・〇	八・〇	九・〇	一〇・〇	二・〇	六・〇	四・〇	五・〇	—	—
粘谷子	二五・〇	六・〇	八・〇	八・〇	八・〇	七・〇	八・〇	一〇・〇	八・〇	六・〇	六・〇	一一・〇	七・〇	四・〇	八・〇	一七・〇	二・〇	二・〇
雉子	二一・〇	五・〇	九・〇	一六・〇	三・〇	九・〇	一三・〇	一〇・〇	八・〇	九・〇	一五・〇	八・〇	一三・〇	一三・〇	四・〇	三・〇	—	—
大粒黃	三〇・〇	九・〇	一三・〇	一〇・〇	八・〇	八・〇	一〇・〇	一三・〇	一四・〇	八・〇	八・〇	七・〇	六・〇	四・〇	三・〇	五・〇	—	—
八大葉	二四・〇	八・〇	一〇・〇	一一・〇	七・〇	一〇・〇	一一・〇	六・〇	一一・〇	九・〇	八・〇	七・〇	一一・〇	三・〇	四・〇	三・〇	四・〇	四・〇
尖穗	三一・〇	一〇・〇	一三・〇	八・〇	九・〇	一三・〇	九・〇	一一・〇	一〇・〇	七・〇	一〇・〇	九・〇	三・〇	一五・〇	三・〇	八・〇	—	—

毛大粒	三二・〇	一二・〇	一〇・〇	九・〇	五・〇	一〇・〇	八・〇	六・〇	八・〇	九・〇	一〇・〇	七・〇	四・〇	三・〇	三・〇	五・〇	二・〇	―
打鑼棒	二八・〇	七・〇	八・〇	一〇・〇	八・〇	一一・〇	八・〇	一〇・〇	一〇・〇	一二・〇	九・〇	八・〇	八・〇	五・〇	七・〇	五・〇	八・〇	二・〇
毛粘穀	二五・〇	八・〇	七・〇	四・〇	七・〇	一一・〇	一三・〇	一一・〇	四・〇	九・〇	一〇・〇	一〇・〇	五・〇	九・〇	六・〇	九・〇	―	―
白砂	三一・〇	九・〇	一一・〇	一四・〇	八・〇	一三・〇	一〇・〇	九・〇	一一・〇	一〇・〇	七・〇	五・〇	六・〇	一一・〇	二・〇	四・〇	五・〇	―
昌圖一號	三二・〇	一三・〇	八・〇	八・〇	一五・〇	一三・〇	一一・〇	一七・〇	四・〇	四・〇	二・〇	七・〇	七・〇	四・〇	四・〇	五・〇	四・〇	―
平均	二七・九	九・六	九・七	一〇・二	九・五	一〇・二	九・七	九・八	九・四	九・七	九・五	七・八	六・七	五・九	五・二	五・一	四・二	二・六

以上六十三品種の平均に見るが如く第一節間のみ頗る長く二八糎位あり、以下十一節まで大體九・五糎内外十二節より二三節は六・五糎内外以下根元までは漸次短かくなり最後の節は三糎內外なり。

次に粟の分蘖を大正十年より十四年迄五箇年間抹間三寸に間引きて栽培せるものを取りて調査せる結果を示せば次の如し。

第三十四表　粟の分蘖調査成績表

品種名	一本	二本	三本	四本	五本	六本	七本	八本	九本	十本
	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
水稗站	三一〇・五	七九・八	二八・〇	八・〇	四・〇	―	―	―	―	―
蓋州紅	二〇一・八	六三・六	三五・八	一一・五	三・五	一・〇	―	―	―	―
高麗谷子B	一六九・二	一〇五・四	八四・八	三六・〇	二二・〇	五・五	四・〇	―	二・〇	―

黄粘谷子	三二四・八	四七・六	二五・六	二二・五	一・五	一・〇	—	—	—	—
海南白	一九四・二	九五・八	三三・〇	七・〇	二・五	—	—	—	—	—
新嚢白	一七三・二	八一・〇	七九・四	四六・八	二六・〇	一七・五	三・〇	四・〇	—	—
薄地粗	二七四・八	一〇九・八	七四・八	二八・二	一〇・二	二・〇	—	—	—	—
大青苗壓破車	二五七・八	一三三・二	八二・四	三二・八	一五・五	三・〇	—	—	—	—
鳳球尾	二四八・八	六〇・三	三二・五	一〇・七	三・五	一・〇	—	—	—	—
長縄緊	二三三・四	八五・八	八二・六	四八・七五	一八・〇	一〇・〇	二・〇	—	—	—
淺彩紅粘	二四九・六	八九・六	七四・四	三二・八	一三・〇	四・〇	一・〇	一・〇	—	—
青苗粘	二四六・八	七〇・三	四二・八	一四・七	七・〇	二・〇	—	—	—	—
毛	二七二・〇	五七・六	三五・五	一〇・五	八・〇	七・〇	一・〇	一・〇	—	—
鶯鷺樹	二四八・八	五五・〇	三一・八	七・三	一三・〇	四・〇	一・〇	—	—	—
紅南粳谷子	一五〇・二	一〇一・二	九一・〇	三六・〇	八・三	二・三	三・〇	一・〇	—	—
御穀	一五七・〇	六五・八	七四・〇	七四・〇	六七・〇	二三・三	一一・五	三・五	一・〇	一・〇
糜時紅	一七六・〇	八二・〇	五〇・〇	一四・〇	三・〇	一・〇	—	—	—	—
六十日	二七〇・〇	五七・三	四三・五	三二・三	一三・〇	三・五	一・〇	—	—	—
黄	一七二・三	五八・〇	六〇・三	四三・〇	一六・〇	一四・〇	三・〇	一・〇	—	—
八面城	二一一・〇	七三・八	六二・六	四二・六	一一・二	六・七	八・〇	二・五	一・〇	—
窪裡	一〇七・七五	八〇・〇	六〇・〇	一三・七	七・〇	二・〇	一・〇	—	—	—
大斗黄	二一三・二	六八・二	六六・八	六一・三	三四・五	一〇・〇	三・八	—	—	—

猴腿子	一二八・〇	八六・八	五九・六	二六・〇	八・五	一・五	二・〇	—	—	—
繩緊	一二六・六	七一・二	七〇・〇	四二・八	一四・八	四・八	六・〇	三・〇	二・〇	—
飯谷子	一四二・五	七九・三	五〇・三	三三・三	一四・〇	八・〇	二・〇	一・〇	一・〇	—
窟里青苗	一九五・六	八六・八	七六・四	三三・六	一六・三	五・三	二・〇	—	三・〇	—
黃毛	一一八・四	八八・〇	八三・〇	三六・八	五・〇	一・〇	—	—	—	—
高刀胃	一六六・〇	四九・〇	七四・八	三七・六	一四・五	一〇・〇	一・〇	一・〇	—	—
釘子頭	二四一・〇	八一・四	五〇・七	一〇・五	三・〇	—	—	一・〇	—	—
雙廟子	二〇一・〇	八二・四	九四・六	三三・八	一六・八	三・七	一・五	二・〇	一・〇	—
長刀把齊	一九九・四	六〇・〇	七二・二	五二・五	一九・〇	七・五	一・八	二・〇	—	—
刀把齊	二三〇・八	八七・六	七二・四	四一・二	一九・四	六・三	二・三	—	—	—
紅刀把齊	二八〇・八	八七・〇	五九・六	三四・八	一四・八	四・五	三・〇	一・〇	—	—
龍爪	二四三・五	八四・二	六三・五	二一・五	九・〇	六・〇	—	—	—	—
牛尾把黃	二〇〇・六	七五・八	七六・八	五七・二	四八・八	二七・三	四・五	一二・〇	二・〇	三・〇
猫脚	二五四・五	六四・二五	五二・〇	一七・七	七・〇	二・〇	二・〇	—	—	—
鴨子嘴	二五四・二	六九・六	五〇・〇	八・三	四・〇	一・〇	—	—	—	—
龍角	一六五・五	六五・三	六六・八	六七・三	四〇・七	五・八	七・〇	一・〇	一・〇	一・〇
包米混	二二一・五	八〇・八	六〇・六	二三・八	八・〇	六・〇	一・〇	一・〇	—	—
黑粘	二三〇・八	七五・八	一〇七・八	一一・〇	一〇・六	三・五	—	—	—	—
紅粘	二七一・八	六八・〇	四四・六	一八・〇	九・〇	三・〇	一・〇	—	—	—

長春三號	二七三・八	七六・四	七六・三	八・〇	三・〇	―	―	―	―	―
長春一號	三三八・三	七〇・三	四三・八	一五・〇	七・〇	三・〇	一・〇	―	―	―
狗尾谷子	二五一・〇	七五・三	六八・八	四〇・〇	一六・三	五・〇	三・五	―	―	―
稭根	二四六・八	六三・八	六七・三	二四・〇	一〇・〇	三・〇	―	―	―	―
高麗谷子A	二〇九・四	八三・八	八五・三	四〇・七	一四・三	八・八	五・五	―	―	一・〇
柳根赤	二三〇・六	九八・四	六三・四	二八・六	八・八	三・七	二・五	―	―	―
叩根	二八四・八	八二・三	六〇・八	二九・〇	五・〇	二・〇	―	―	―	―
紅苗谷子	二四七・〇	六五・六	二七・二	一一・三	四・〇	四・〇	二・〇	一・〇	一・〇	一・〇
老來變	三二二・五	八三・五	六七・〇	四一・五	二一・七	五・三	五・〇	一・〇	―	一・〇
昌圖三號	一五四・八	六五・〇	八一・八	七七・八	五六・六	二七・八	一七・三	六・三	三・八	五・七
紅穀	二一一・〇	八〇・〇	五三・八	三三・〇	一三・八	四・八	三・〇	―	一・〇	―
龍鳳擋	一七七・六	一〇三・四	八三・六	二四・四	七・八	―	―	―	―	―
粘谷子	二〇五・八	七六・〇	二六・〇	六・三	三・五	三・〇	―	―	―	―
糙子	二三六・二	七九・四	五五・二	二〇・二	七・八	五・〇	二・五	―	―	―
大粒黃	二〇四・八	一二三・六	八五・〇	四〇・二	一四・四	四・〇	一・〇	三・〇	―	―
八大葉	一五五・五	六三・三	六二・〇	三五・〇	一八・三	二・五	一・〇	―	―	―
尖穗	一三九・二	七三・四	七一・八	二〇・七	五・七	一・三	―	一・〇	―	―
毛大粒	二〇六・八	五七・三	三五・五	一六・〇	七・三	五・七	四・五	―	―	―
打鑼棒	一五七・六	五四・二	六四・八	二一・五	六・〇	七・〇	一・〇	―	―	―

毛粘穀	一七四・三	五六・八	三六・八	二五・七	二二・〇	五・〇	—	—	—
白砂	一七〇・〇	八八・八	七八・八	五三・四	一九・六	一四・三	九・〇	五・〇	二・〇
昌圖一號	一四八・五	四二・三	五〇・三	二八・〇	一〇・〇	—	—	—	—
北滿七一號	一五三・〇	五一・五	二五・五	六・五	四・〇	—	—	—	—
北滿七五號	三一六・〇	九九・〇	六九・〇	四三・五	一四・五	六・〇	二・〇	一・〇	一・〇
北滿八一號	二四一・五	七六・五	九六・〇	四九・五	二八・〇	五・五	一・〇	—	五・〇
北滿八六號	一五九・〇	四九・〇	五六・〇	二四・五	五・〇	三・五	三・〇	二・〇	—
北滿八八號	二〇九・〇	一〇二・〇	八九・五	五〇・五	一九・五	一・〇	一・〇	—	—
北滿九〇號	二三〇・〇	七七・〇	七六・五	四六・〇	二三・〇	三・五	五・〇	一・〇	一・〇
北滿九五號	三七四・五	六四・〇	二三・〇	四・〇	—	—	—	—	—
北滿一〇三號	四五二・〇	五八・〇	二四・五	一六・〇	二・〇	一・〇	一・〇	—	—
北滿一〇四號	三五二・五	六三・五	三七・五	一四・〇	七・五	三・二	—	—	—
北滿一〇六號	四一五・〇	六九・五	二七・五	二・〇	一・〇	—	—	—	—
北滿一一一號	三三二・五	九三・五	八一・〇	四一・五	七・〇	二・〇	三・〇	—	—

備考　五箇年平均なれど北滿產のものは三箇年平均なり。

以上の表に見るが如く大體一本に分蘖するもの最も多く二本三本は七〇內外、四本五本分蘖するものは四〇―五〇位、六本七本分蘖するものは急に少くなり、七本八本九本分蘖するものは稀れなり。

品種別に見れば一本分蘖するものは北滿一〇三號最も多く、二本分蘖に於ては大青苗壓破車最も多く、三本分蘖に於ては黑粘最も多し。

第六節　粟の分類

目下滿洲に栽培せられる粟は穀子又は谷子と通稱して居るも太古は粱と粟とに分けられたることは第四章第一節に之を記述せり、品種の分類に至りては未だ試みられたるものなし。今當場にて分類せる處を記する前に既に不完全ながら分類せられたるものを擧ぐれば次の如し。

一　**Koernicke** (1885)

1　setaria itaria maximum.

穗大にして粗垂下す、此は刺毛の短いものと長いものとの二變種に分たる。aino-millet, german millet, Golpen Wonder Millet, Siberian Millet

2　Setaria italica moharium.

穗は短かく密にして直立す、又は僅かに垂下す。これも又刺毛の長いのと短い品種との二つに分たる。Hungarian Millet これに屬す。

二　**Bailey** (1912)

1　var stramineofrūcta Bailey

これ German Millet 又は Golden Wonder Millet と稱するものにして果穀黃色にして穗は甚だ

大外緣は波狀をなすものあり刺毛の色一定せず。

2 var rubrofructa Bailey

これ Siberirn anp Turkestan Millet と稱するものにして果穀の色は帯紅色又は橙色をなし、刺毛は紫色をなす。

3 var nigrafructa Bailey

これ Hungarian grass と稱するものにして果穀の色紫色若しくは殆んど黒色に近く穗は密にして長さ三吋以下刺毛の色暗褐色なり。

三 **Frear (1924)**

氏は粟を比較的詳しく分類して居る。今原文の儘を書せば次の如し。

Heads small, uniform, compact, seeds yellowish to black with usually a large percentage very dark, beards brown or purple..........Hungarian Millet

Heads large, more or less open, seeds more or less bunched.

Heads long, slender, very open, lax, drooping; seeds groups very distinct...........Aino Millet.

Heads shorter and plumber, busny, erect or slightiy drooping; seed groups indistinct.

Seeds **yellow**:

Profusely bearded; medium large heads.

Heads large, seeds small, seed groups more distinct,—German Millet.

Heads small, seeds large, seed groups less distinct 1/2,—Common Millet
Sparingly bearded, heads very large,—Golden Wonder Millet.
Seeds red or pink……………………Siberian Millet

右の分類を説明すれば Hungarian Millet とは穗が小さく密にして子實は黑色刺毛の色は褐色又は紫色であつて當場の黑粘は之に相當す Aino millet とは一名 Japanese foxtail とも云ふ愛奴（アイヌ）の粟の意にして日本に栽培せられて居るもの丶大部分は之に屬し穗大にして長く粟の優良品種は主として之に屬す。German Millet は穗大にして圓味を帶び粒小さく刺毛極めて多く小穗群の整然とついて粒の黃色なるものを云ふ。Common Millet は穗小さく粒は大にして小穗群は不規則について居る粒黃色のものを云ふて居る穗は German Millet よりは少し細長い。Golden Wonder Millet とは穗は細く極めて長く刺毛は短い。滿洲の細緊、長細緊又は叩根などと云ふのと同樣なり。Siberian Millet とは穗は短くぶつちりとして居て粒は赤色又は紅色のものを云ふ。

以上三つの分類に見るに比較的詳しく分類して居る、フレーアー氏のによつても之れを完全のものと決して稱すること能はず、まだ〳〵この分類に加はらざるものが多くある、よつて著者は數年の特性調査の結果より次の如き分類をなせり。之れ未だ研究中にして完全のものとは稱するを得ざるも先づ豫報として之を掲げたり。他日之を訂正して發表するの時あるべし。

第三十五表　粟の分類（一九三〇）

A　紡錘形種　穗の先端尖り紡錘の如し。

I　大穗　穗長二七―三七糎にして頗る大、下垂す。

i　粒黃色

a　刺毛極めて長く一〇・〇―一三・〇粍、小穗群のつき方疎にして穗幅大なり……………………1薄地租

b　刺毛の長さ中位にして八・〇粍內外、小穗群のつき方疎にして穗幅小なり……………………2長繩緊

2　粒黃白色

a　刺毛長く一〇・〇粍內外

i　穗幅大にして粒大なり……………………3新臺白

ii　穗幅頗る小にして下垂す……………………4叩根

3　粒赤褐色

a　刺毛短く六・五粍內外小穗群の着方疎、莖葉赤紫色……………………5北滿九五號

II　中穗　穗長二五―三〇糎、穗は下垂す。

1　粒黃色

a　刺毛長く九・〇―一〇・〇粍……………………6毛大粒

b　刺毛の長さ中位七・〇―九・〇粍……………………7包米混

3 粒濃黄色

a 刺毛長く九・〇―一〇・〇粍内外、莖葉赤紫色……18 長 春 一 號

4 粒赤褐色

a 刺毛長く一〇・〇粍内外、穂幅太く先端少し尖る……19 紅 穀

b 刺毛の長さ中位七・〇―八・〇粍莖葉赤紫色……20 紅 粘

5 粒黒紫色

a 刺毛の長さ中位にして八・〇―九・〇粍、莖葉黒紫色……21 黒 粘

B 圓筒形 穂は太く棒狀をなし先端尖らず。

I 大穂 穂長二五―二八糎内外

1 粒黄色

a 刺毛長く一二・〇粍内外、穂は先端の方太し……22 大 斗 黄

b 刺毛の長さ中位八・〇―九・〇粍……23 高 刀 冑

c 刺毛短くして五・〇―六・〇粍穂は先端太し……24 黄 毛

2 粒黄白色

a 刺毛中位にして八・〇粍内外、穂は棒狀なり……25 小 穂 白

II 中穂 穂長二三糎内外

1 粒黄色

a　刺毛中位にして七・五―八・五粍內外、穗は太く棒狀をなす…………26　蓋洲紅

b　刺毛中位にして八・〇―九・〇粍內外、穗は先端頗る太し…………27　牛尾把黃

c　刺毛短く六・五粍內外、穗幅大なり…………28　繩緊

2　粒濃黃色

a　刺毛の長さ中位八・〇粍內外、穗幅は先端太し…………29　紅刀把齊

b　刺毛短く五・〇粍內外穗は太く、莖葉赤紫色…………30　紅苗谷子

3　粒黃白色

a　刺毛長さ中位七・五粍內外、穗は棒狀をなす…………31　六十日

III　小穗　穗長二〇糎內外

1　粒黃色

a　刺毛の長さ中位七・〇―九・〇粍、穗幅は先端太し…………32　刀把齊

b　刺毛短く五・〇―六・〇粍、太く棒狀なり…………33　龍風揣

2　粒黃白色

a　刺毛頗る長く一三粍內外、穗幅太く、小穗のつき方密なり…………34　御穀

b　刺毛の長さ中位八・〇―九・〇粍穗は棒狀をなす…………35　雙廟子

3　粒赤褐色

a　刺毛の長さ中位八・〇粍內外、莖葉赤紫色…………36　長春三號

b 刺毛短く五・五—六・五粍内外、莖葉赤紫色……37 北滿一〇六號

C 異形種

I 龍爪形 穗長三〇糎内外、穗の¼位の所の先端は二分し、その分枝は更に三—四分して恰も龍の爪の如き形狀をなす。

1 粒黄色刺毛の長さ八・〇粍内外……38 龍爪

II 鴨子嘴形 穗長二七糎内外、穗の先端は¼の所より五糎位の長さに二分し恰も鴨の嘴の如し。

1 粒黄色刺毛の長さ中位にして八粍内外……39 鴨子嘴

III 龍角形 穗は一七糎の長さに穗軸の元より四—六箇に分枝せるものよりなる。

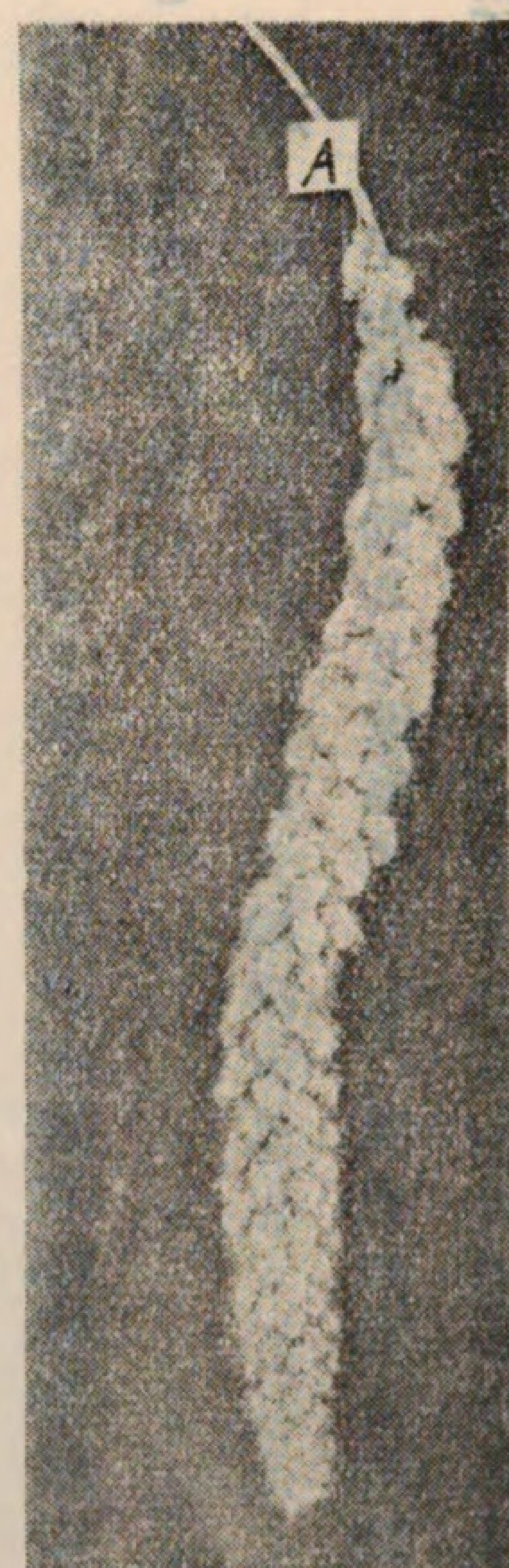
1 粒黄色刺毛六・五粍内外、分枝の小穗のつき方疎なり……40 龍角

第七節 粟品種の解說

南滿洲に栽培せらるゝ粟の品種の內第八節の分類に記載せる品種及び重要なる品種の解說をなせば次の如し。

一 薄地租（粳）

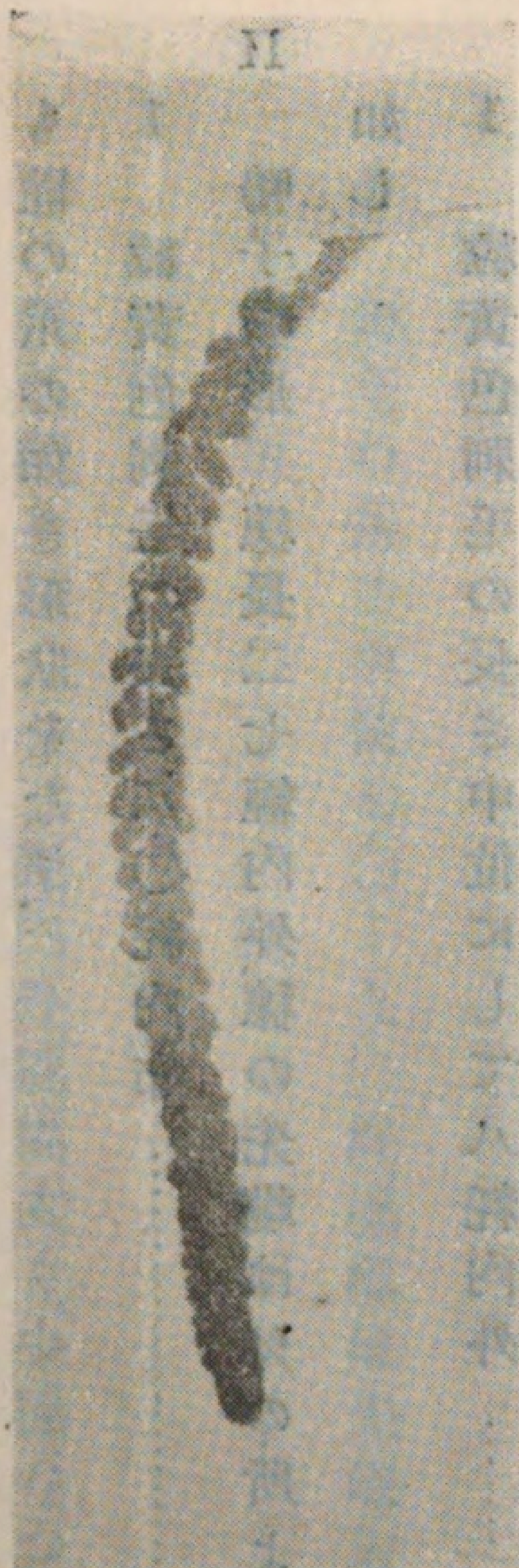
大正四年小城子屯より採集せるもの、穗極めて大にして如何なる瘠薄なる土地にても租稅を納付するに足るだけの收量ありとの意なり。一穗の長さ三四・三三糎にして頗る長大、一穗の重量



十箇年平均十九瓦にして重き部に入る。葉長頗る長く一穗の粒數五六四二粒、護頴は黄色、子實の大きさは中粒、一千粒の重量二・六九二瓦、一立重量六六〇瓦十二箇年の平均陌當收量二・〇三八瓩にして收量多く優良品種の一たり。薄地租と同一型に屬する品種は皆收量よく大青苗壓破車、水裡站、稭根、毛、樺甸黄等なり。

二　長縄緊（粳）

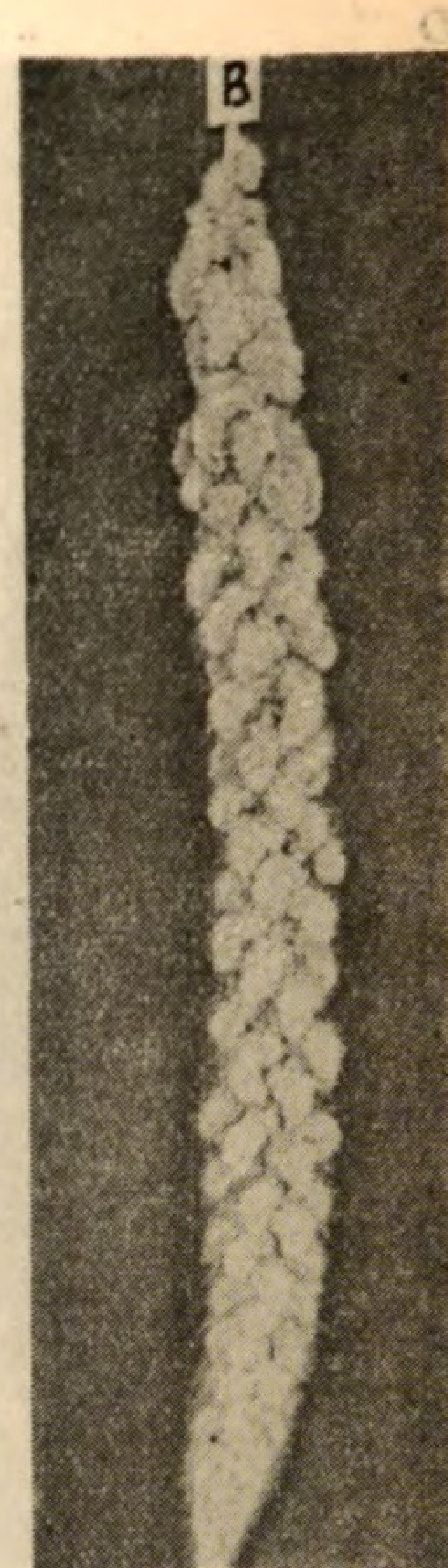
大正四年大泉眼より取寄せたるもの穗長三三・九糎にして穗幅細き割合に穗は頗る長し。剛毛



は中位にして八粍内外小穗群列は明瞭を缺く。一穗の重量は一七・八瓦、草丈は一・六一米、一本の稈重は一七・五瓦、一千粒の重量は二・九九三瓦、一穗の粒數は六一一一粒、一立重量六二三・三瓦にして中粒の部に入る。粒の色は黄色、葉の大さも中位緑色にして軟かなり。五箇年平均陌當收量一・七六四瓩にして中熟種なり。

三　新臺白（粳）

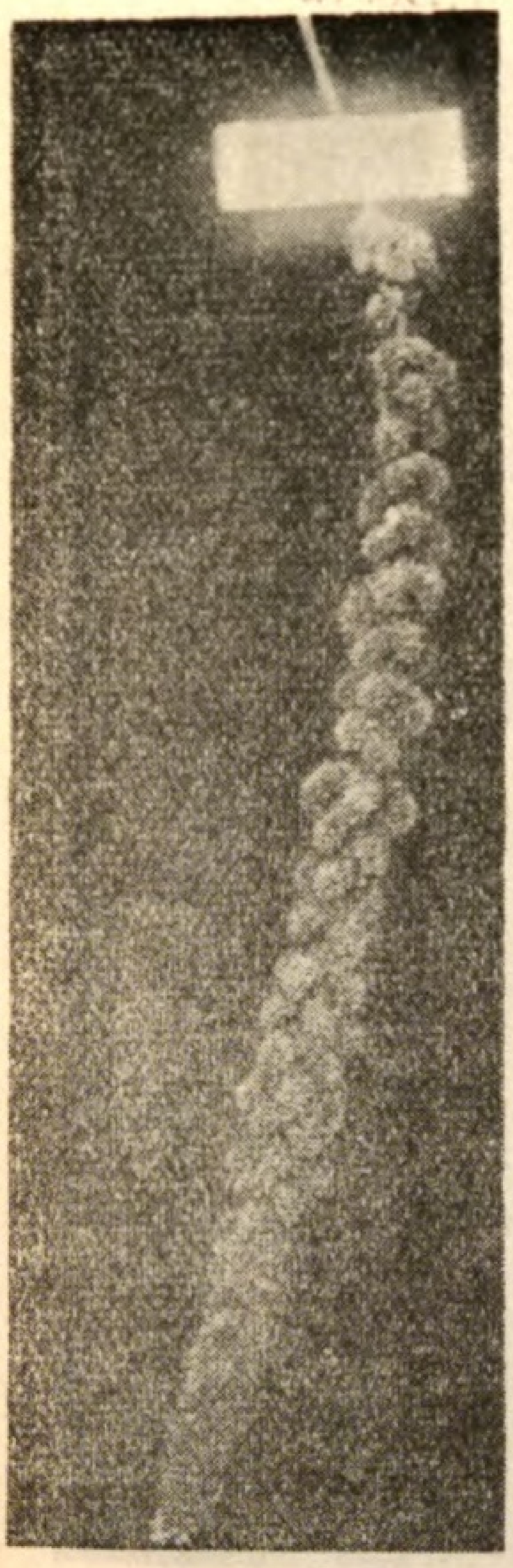
大正四年新臺子にて採集せるものにして穗は紡錘形をなし先端僅かに尖り穗長く二七・五糎



內外、穗重一八・五瓦にして重く、草丈は一・五米にして稍低し、一本の稈重は從つて一四瓦內外にして輕し、一千粒の重量は三・五瓦にして最も重し、一立重量六四〇瓦、一穗の粒數五、八〇四粒にして多し、粒の色は黃白、芒は濃黃色、脫穀は容易、粒は大粒なり。陌當五箇年間平均二・八五八石にして品種試驗中最も優良の成績を示し、將來有望の品種なり。

四　叩根（粳）

大正三年公主嶺地方にて採集せるもの穗長くたれて根を叩くとの意味の品種名なり。穗は細



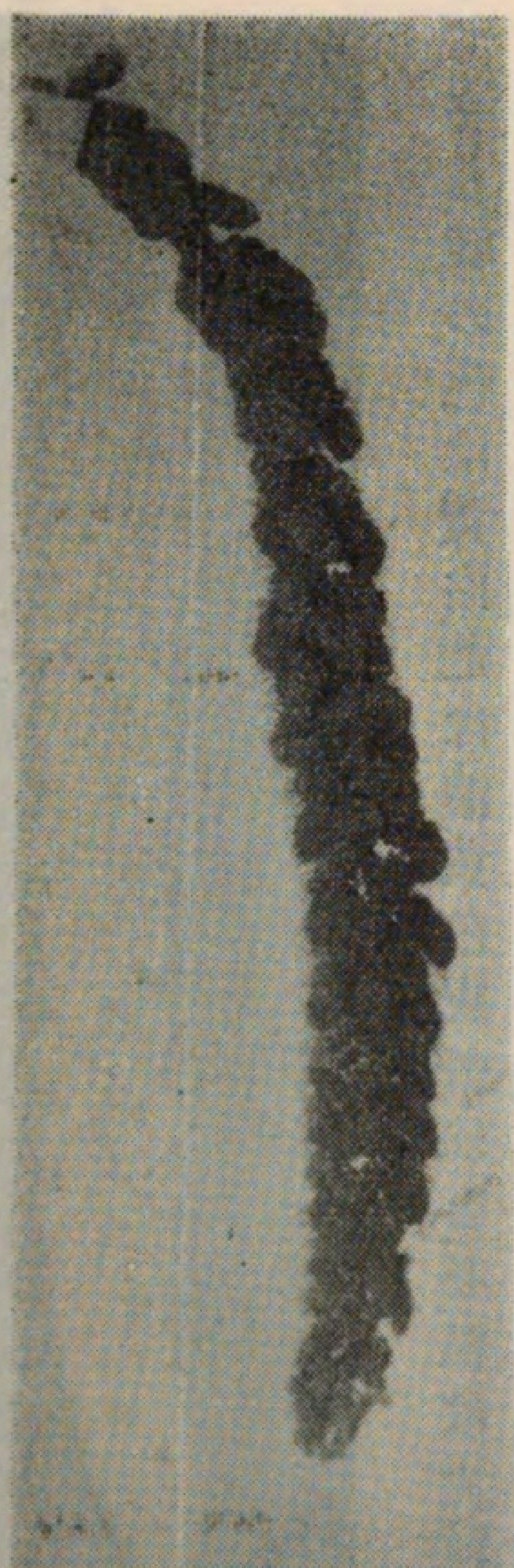
く極めて長く三〇糎、穗重一八瓦、草丈一・六八米にして高し。一本の稈重一七・二瓦、一千粒の重量二・八瓦にして重き部に入る。一立重量六五〇瓦、一穗の粒數六、二五五粒にして多し、穗軸は紫色をなし、護穎も紫色を呈す、粒色は中粒の大にして黃白色葉は綠色なるも葉耳及び葉舌は濃紅色を呈す、七箇年平均反當收量一・四五九石にして收量優良の部に入る。

五　北滿九五號（粳）



大正十二年北滿愛河より送付を受けたるものにして細く長い穗を有し小穗群が不緊密について居る。穗軸は紫黑色、護穎は赤褐色、芒は長く濃褐色、子實は赤褐色にして小粒なり。穗長は長く三二糎、穗重は中位にして一六・五瓦内外、草丈一・五四米莖葉赤褐色、一本の稈重は輕くして一三・二瓦、一千粒の重量は一・七六瓦、一立重量は中位にして五九〇瓦内外、一穗の粒數は五、六六五粒、早熟種なり。

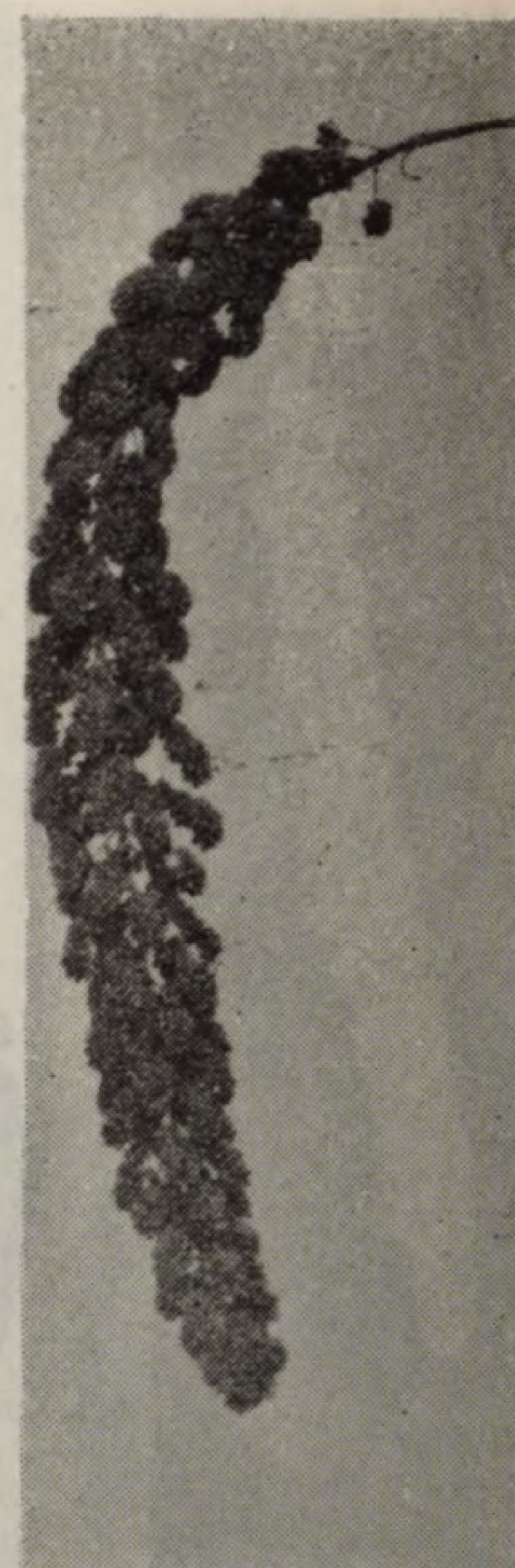
六　毛大粒（粳）



大正六年李家店にて採集せるものにして穗は紡錘形にして穗長二六・四糎、穗重一四・三一瓦、草丈は一・四九米にして低く、一本の稈重は一三・七八瓦、一千粒の重量は二・六三一四瓦にして中粒の部に入る。一立の重量五六三・八瓦、一穗の粒數は四、九〇一粒にして小き方なり、子實は黄色中熟種なり。

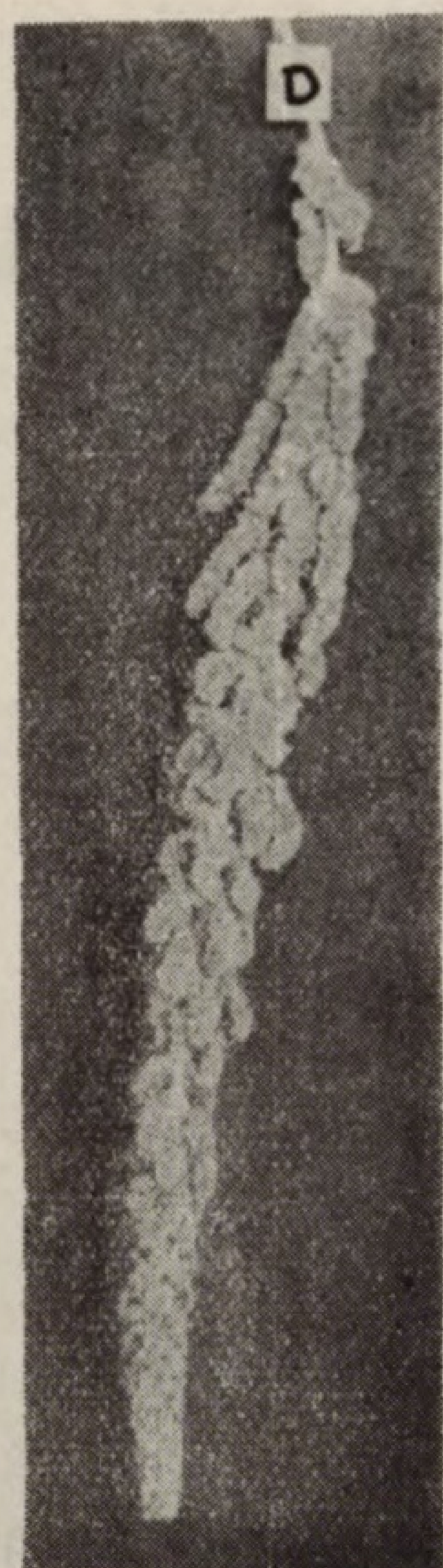
七　包米混　(粳)

大正四年長春附近に於て採集せるものにして穗は紡錘形をなし穗長中位にて二五·五糎、小穗群のつき方疎なれば穗重輕く一四·七瓦、草丈は一、四一四米、一本の稈重輕く一一·五瓦、一千粒の重量は二·四四〇七瓦、一立重量は六一九·六瓦、一穗の粒數四、七一八粒にして少なき方なり。粒は黄色、葉は淡綠にして軟かく葉幅及葉長共に小さし。熟期早く全生育日數一一九日位なり。



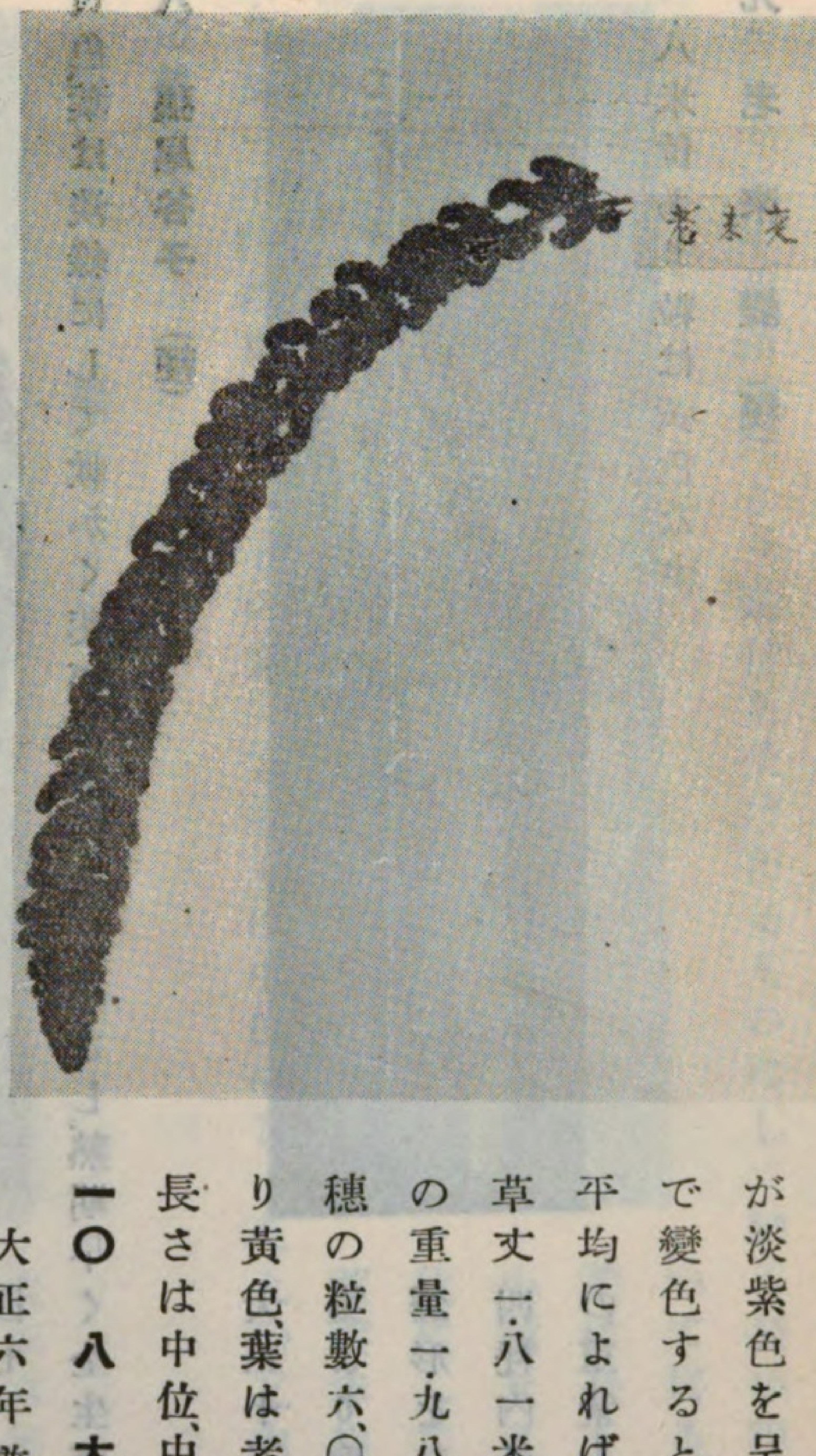
八　猿尾谷子　(粳)

大正十五年吉林省樺甸縣韓家の試作場より取寄せたるものにして穗は紡錘形をなし中穗、二五糎內外、刺毛短く四粍內外小穗のつき方疎にして一穗の重量も輕く一五瓦內外、草丈は高く一·八米位あり、粒は黄色なり。



九　老來變　(粳)

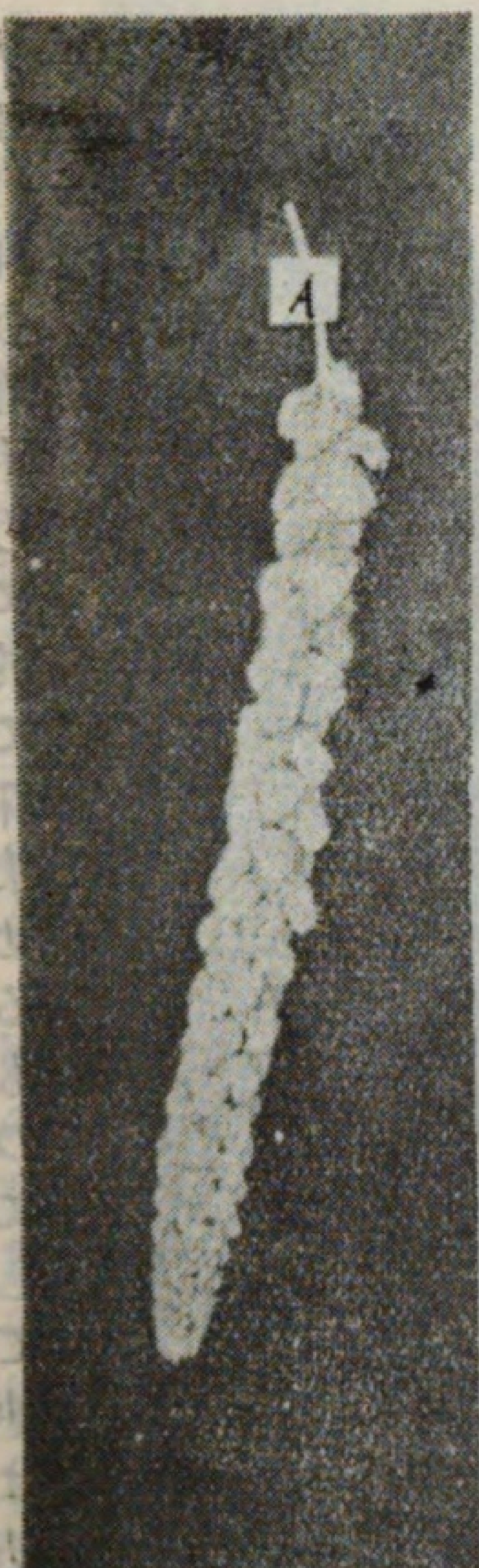
大正四年三河屯より採種せるもの。穗大にして長く刺毛の長さ八粍內外にして中位、小穗群は



七條をなして居る。出穗するに及んで莖葉が淡紫色を呈して來る故老來するに及んで變色するとの意味の品種名なり。十箇年平均によれば穗長二七・一糎、穗重一五・九瓦、草丈一・八一米、一本の稈重一九・四瓦、一千粒の重量一・九八瓦、一立の重量六五四・九瓦、一穗の粒數六、〇三一粒にして小粒の部に入り黄色、葉は老來するに及んで紫色を呈し、長さは中位、中熟種なり。

一〇八　大葉（粳）

大正六年普蘭店にて採集せるもの。穗形紡錘形をなし長さ二四・〇糎、一穗の重量一六瓦にして輕き方なり。草丈は一・四八米にして低く、一本の稈重は一六瓦、一千粒の重量は三・一二瓦にして大粒の部に入る。一立の重量は五九〇瓦、

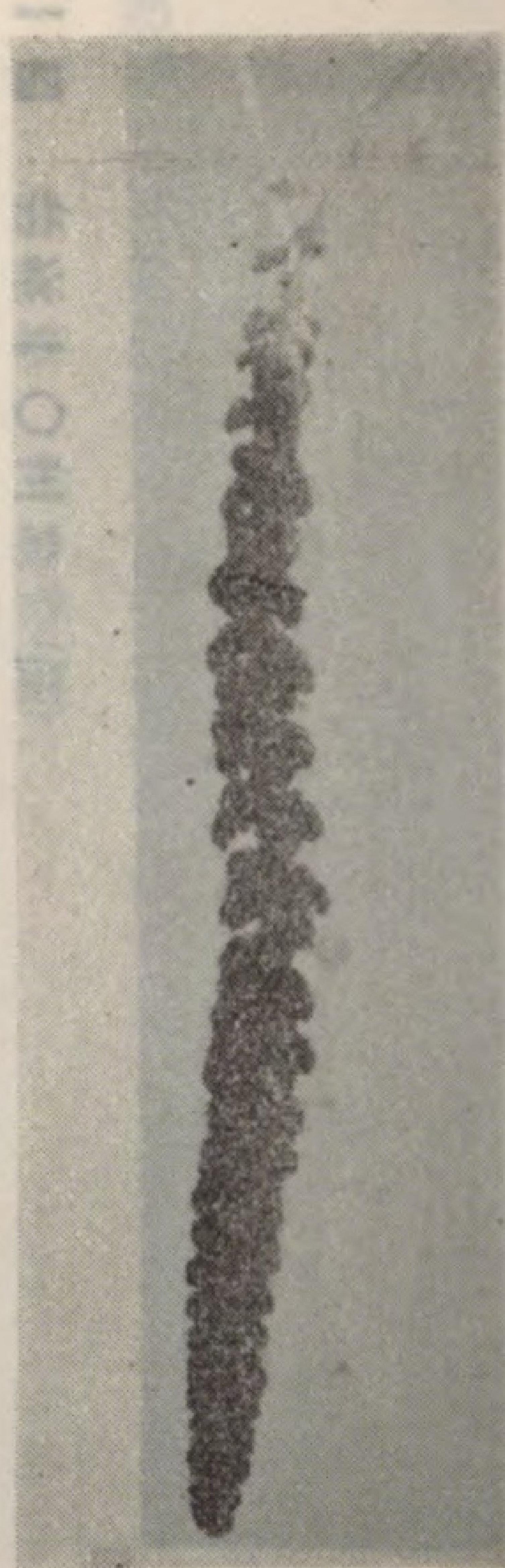


一穗の粒數は五、七一六粒、粒色は濃黄色、葉長三一・四糎、葉幅二・五五糎、反當收量七箇年平均一・五五五

四石にして普通の收量たり。

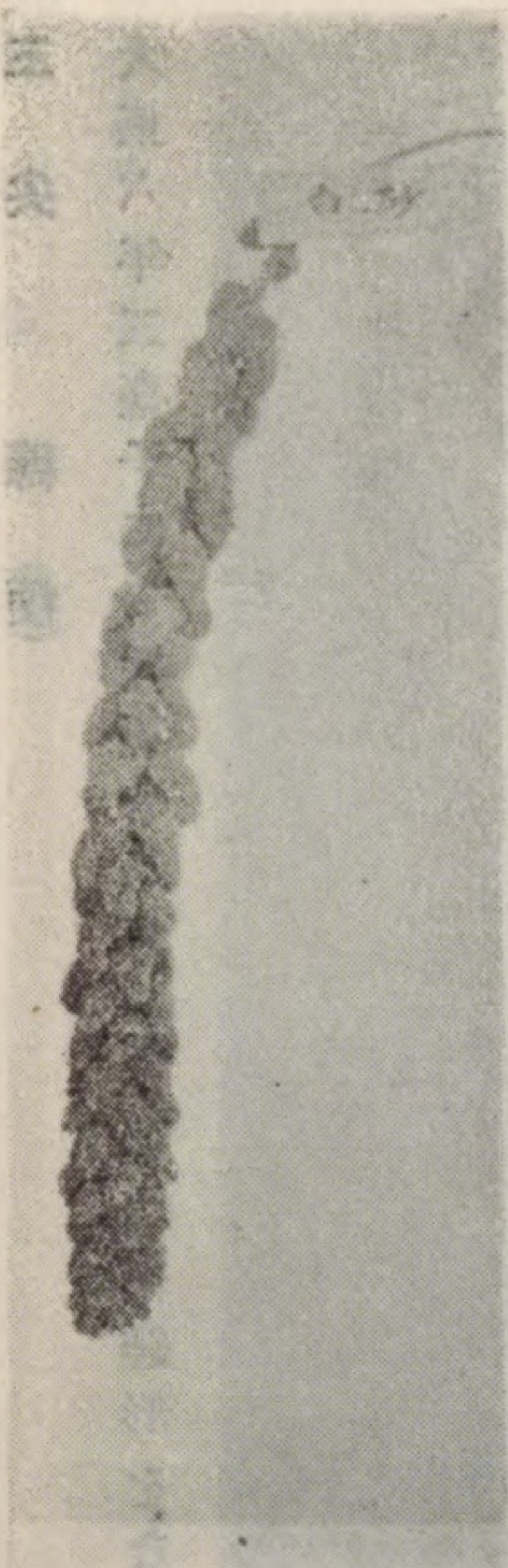
一一　大　粒　黃（粳）

大正四年新河口より採種せるもの、穗は幅が廣く先端尖つて居る。穗長二四糎內外刺毛極めて長く九・六粍、穗重一五・五瓦、草丈は一・七二米にして高し。一本の稈重は一八・四瓦、一千粒の重量は二・七六四瓦にして中粒の內の大粒の部に入る。一立重量六四二・六瓦、一穗の粒數は四、九九一粒にして少なく粒は黃色、小穗群は八條をなして穗軸について居る。中熟種なり。



一二　白　砂（粳）

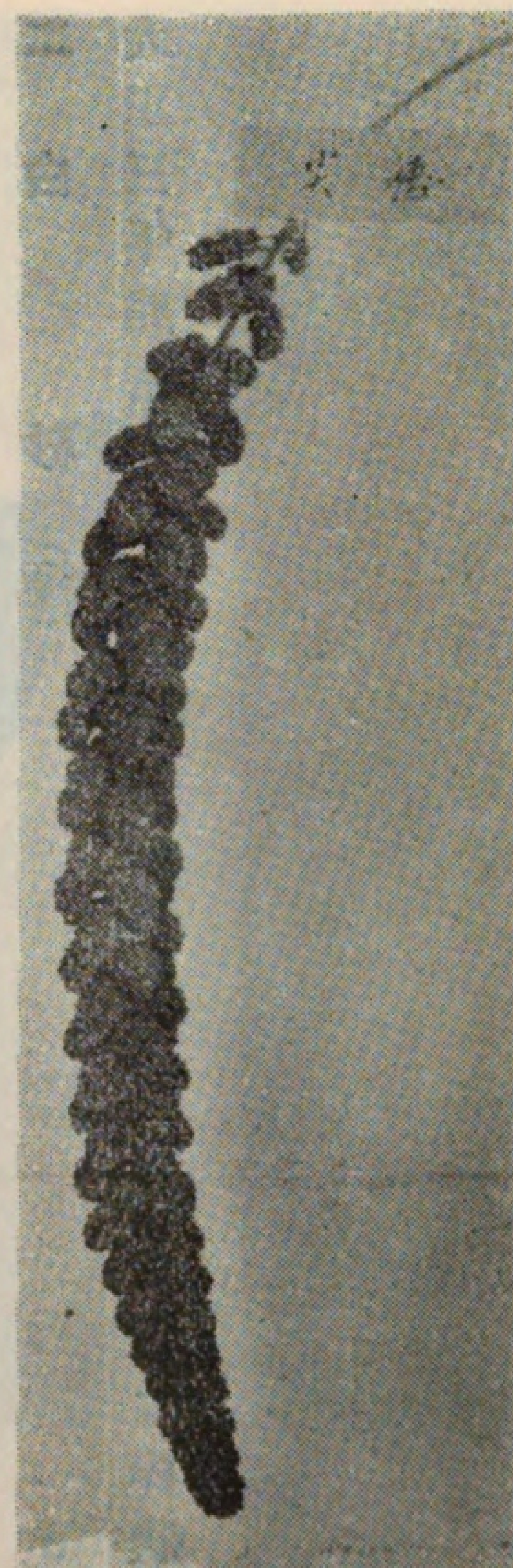
大正三年熊岳城より取寄せたるものにして穗は棒狀をなして先端だけ尖つて居る。穗長二六糎內外、穗重一六・九瓦、草丈は一・五六米、一本の稈重は一五・六瓦、一千粒の重量二・八一六瓦、一立の重量六三〇瓦、一穗內の粒數は六、四三九粒にして普通なり。粒黃白色、刺毛の長さ中位にして七・〇—九・〇粍中熟にして反當九箇年平均一・三六五石にして收量普通なり。此と同一の型に入られ



る品種は、鴬鷺樹、青苗粘、打羅棒等なり。

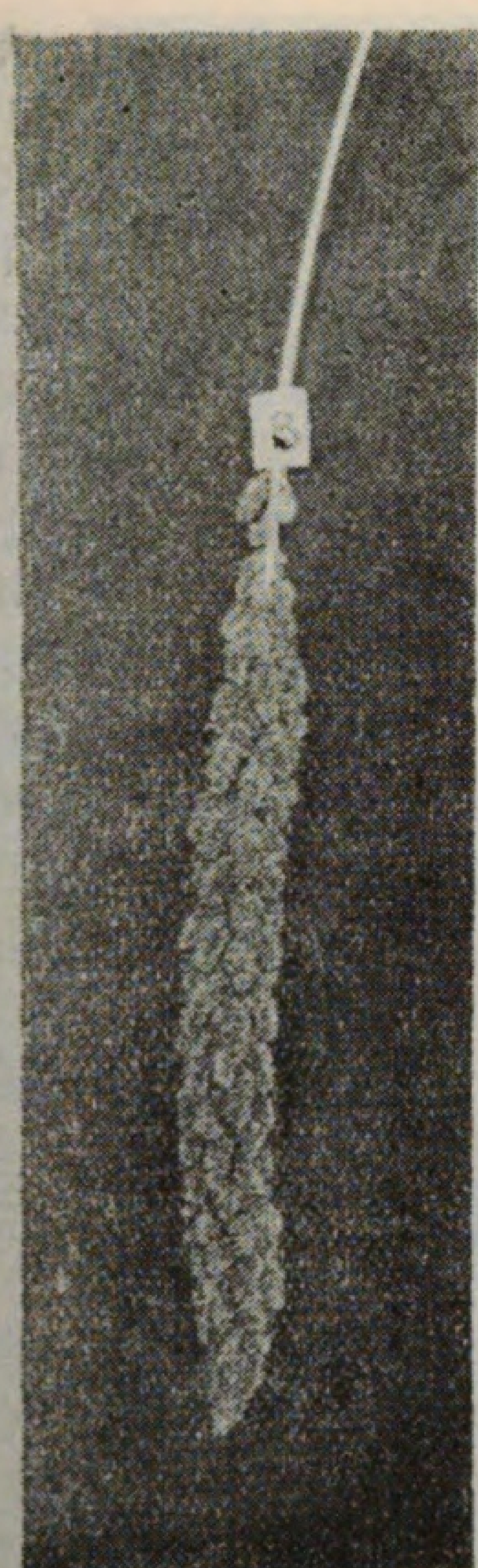
一三　尖　穗　(粳)

大正六年二臺子にて採集せるもの。穗形は紡錘形をなし先端著しく尖る。穗長二五糎内外、一穗の重量一五・五瓦にして輕し。刺毛短く五・八粍、草丈は一・六六米にして高き方なり。一本の稈重一七・二瓦にして重さ中位、一千粒の重量二・七三六瓦にして中粒、一立重量六二二瓦、一穗の粒數は六、一二二粒、粒色は黄白色、葉は淡綠にして葉長二二糎、葉幅二・七糎なり。



一四　北滿一〇三號　(粳)

大正十二年北滿より送付し來れるものにして穗は紡錘形をなし。小穗群は疎につき。穗長二五糎内外、一穗の重量輕く一五・五瓦、草丈一・六六米、一本の稈重一六瓦内外、一千粒の重量輕く二・〇瓦、一立重量六三〇瓦、子實褐色、刺毛の長さ六・五粍内外、莖葉淡紫色を呈す、熟期は早い。



一五　淺彩紅粘　(糯)

大正四年龔山屯にて採集せるもの。穗長短く二四糎内外、穗重一六・七瓦、草丈は低く一・五三米、一



本の稈重は一六瓦、一千粒の重量二・四〇瓦にして中粒、一立重量六五〇瓦、一穗の粒數六、七七五粒にして刺毛の長さ中位で九・八粍、穗幅は廣し。葉長三三・九糎、葉幅二・四三糎にして葉は小さし。

熟期は中熟にて反當七箇年平均一・五八五石なり。

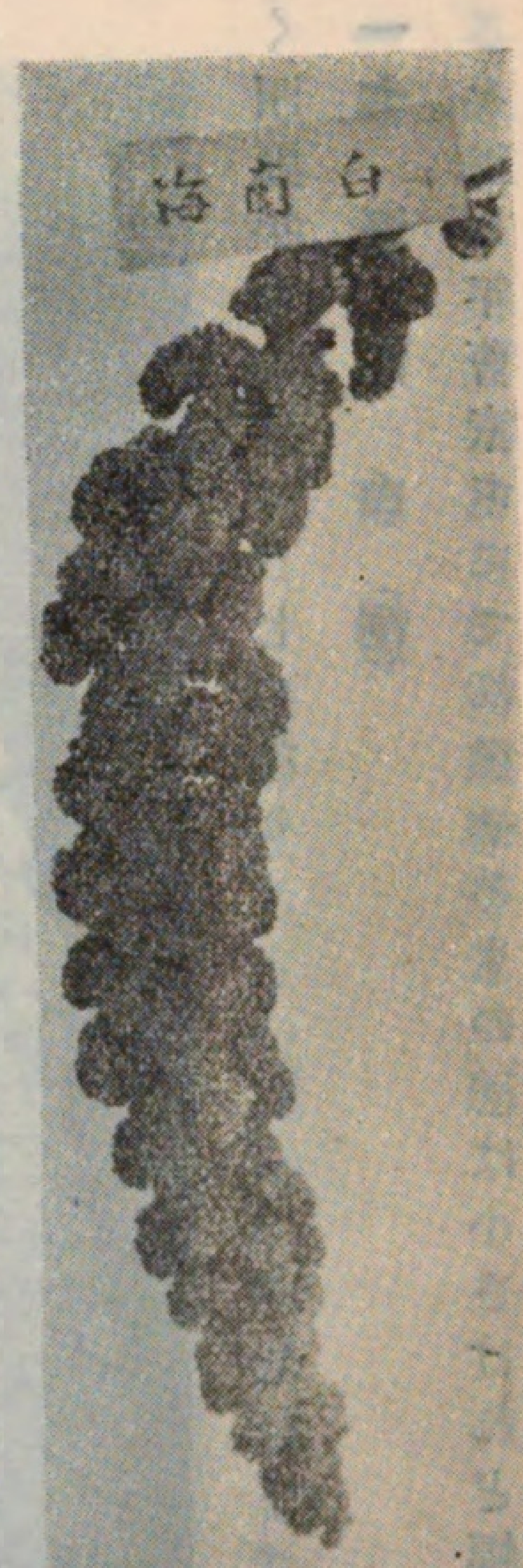
一六　柳根赤　(粳)

大正三年奉天農事試驗場より取寄せたるもの。穗は小さく紡錘形をなし長さ二三・三糎、一穗重量一六・四瓦、刺毛短かく六・三粍、草丈は一、五二四米、一本の稈重は一六・一〇瓦、一千粒の重量は二・七四三瓦にして中粒、一立重量六二四瓦、一穗の粒數は六、八九六粒、子實黃色、莖葉赤紫色、收量惡く四箇年平均〇・七六七石なり。



一七　海南白　(粳)

大正六年曹家屯にて採種せるもの。穗は小さけれど幅廣く三・一六糎、長さ二三・五糎、刺毛極めて



短かく五・〇粍内外、一穗重量稍重く一八・六瓦、草丈一・五六米、一本の稈重一九・一〇瓦にして重き方なり。一千粒の重量二・四六瓦、一立重量五九五瓦、一穗の粒數五・九〇二粒にして子實黃白色にして中粒なり。葉長三二・一糎、葉幅二・六九糎にして濃綠色を呈し、稍早熟種なり。

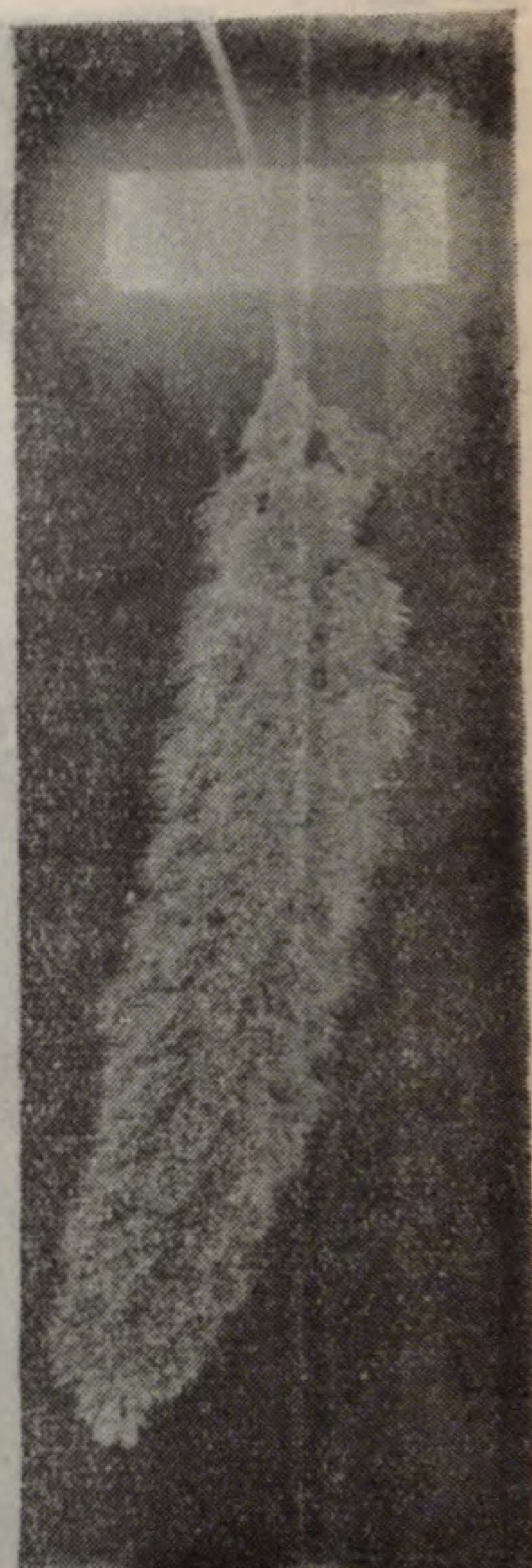
一八　長春一號　（粳）

大正二年長春にて採集せるもの。穗は小形の紡錘形にして二四・八糎、穗幅三・〇一糎、一穗の重量一六・二瓦、草丈一・六〇米にして中位、一本の稈重一五・四瓦、一千粒の重量二・四三一四瓦にして中粒、一立重量六九〇瓦、一穗の粒數五、五二三粒にして子實濃黃色、刺毛長く八・六粍、莖葉赤紫色、熟期は早き方なり。



一九　紅　穀　（粳）

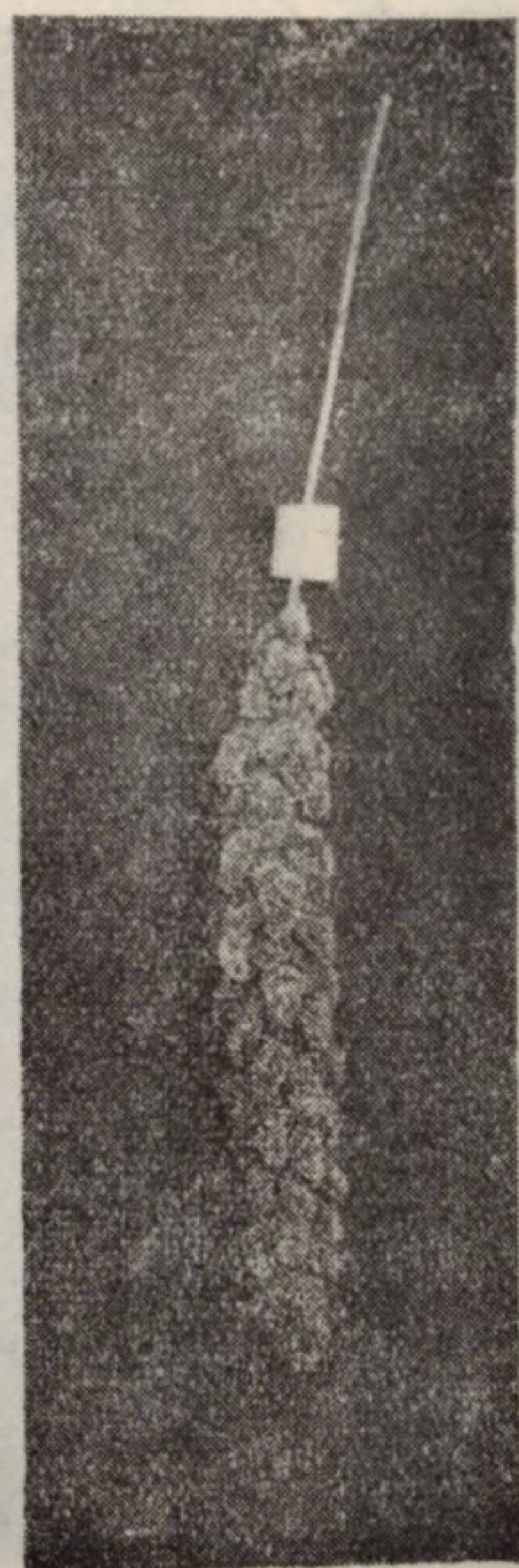
大正三年遼陽より取寄せたるものにして穗は紡維形にして小形、穗長二二・七糎、穗幅は廣く三・二糎、一穗の重量輕く一五・五瓦、草丈は高く一・六九米、一本の稈重頗る重く二二・一瓦、一千粒の重量



二・三〇三二瓦にて中粒、一立重量五八五・四瓦、一穂の粒數五、三四七粒にして子實赤褐色をなし、莖葉淡綠色、葉長二九・四糎葉幅二・六糎にして葉は小さし。

二〇　紅　粘（糯）

大正四年三河屯に於て採集せるもの。穂は先端僅かに尖り、小形にして穂長二〇・六糎、穂幅二・九糎、一穂重量一六瓦、草丈一、五一四米にして低し、一本の稈重は一五・六瓦、一千粒の重量は二・一九六瓦にして中粒の内の小粒の部に入る。一立重量六四〇瓦、一穂の粒數四、六八八粒にして子實赤褐色、莖葉赤紫色、刺毛の長さ六・九粍にして中位なり。





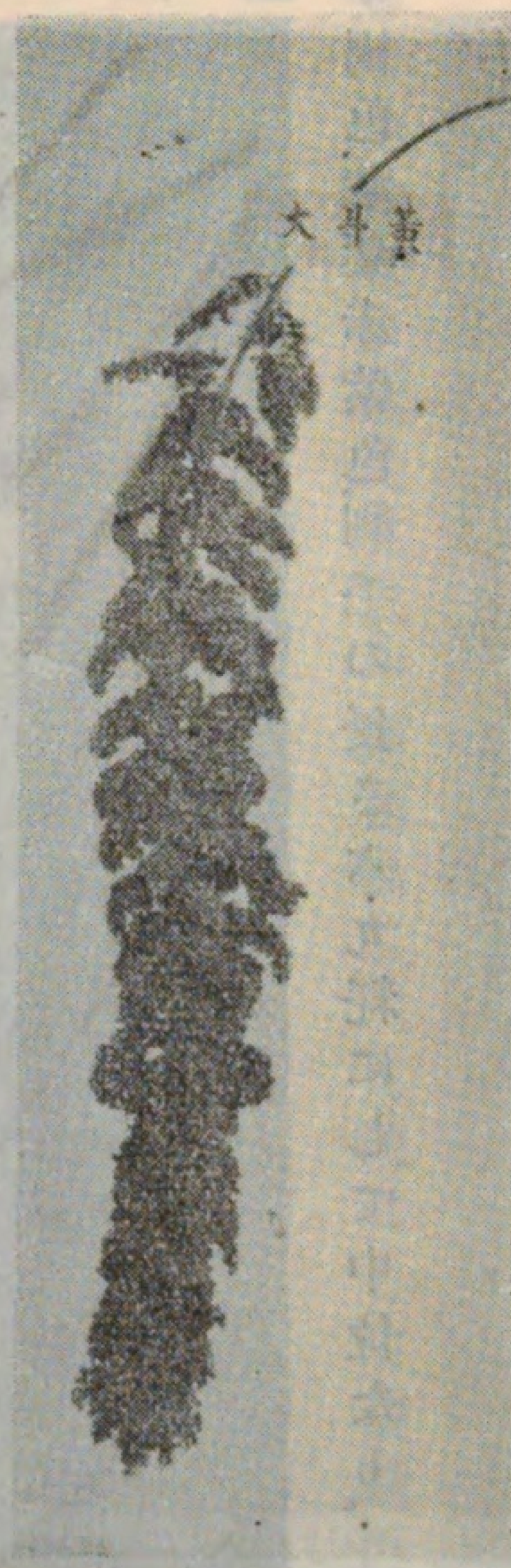
二一　黒　粘（糯）

大正四年小高麗墓子にて採集せるものにして穂長二三糎にして短く先端僅かに尖る。穂幅は三・〇糎にて稍太し、一穂重量一五・九〇瓦、草丈は一五六

米にて普通、一本の稈重は一六・四瓦、一千粒の重量は二・一一瓦にて小粒の方なり。一穂の粒數は六、二九六粒、一立重量は六二二四瓦、莖葉黒紫色、反當四箇年平均一・六三石なり。

二二　大斗黄（粳）

大正三年熊岳城より取寄せたるものにして穂は圓筒形をなし大にして二六糎、穂幅は太くして三・五糎、一穂の重量一七・二二瓦、草丈は一・五九米、一本の稈重は一六・七瓦、一千粒の重量二・五五二瓦、一穂の粒數少く四、三一七粒、一立重量六一五・九瓦、子實の色黄色にして葉長三五・三糎、葉幅二・七糎、莖葉軟かなり。反當五箇年平均一・二〇五石にして收量下位にあり。



二三　高刀胃（粳）



大正四年大孫家臺より採集せるもの。穂は圓筒形をなし、長さ二六・四糎、幅二・八糎、一穂の重量一八・四瓦、草丈一・六六米、一本の稈重一八・〇瓦一千粒の重量三・〇四瓦にして大粒の部に入る。一穂の粒數五、九七二粒、一立重量は五八三・三瓦にして輕し。粒色黄色、刺毛九・三粍、熟期は中熟の部に

入る、葉は頗る大なり。

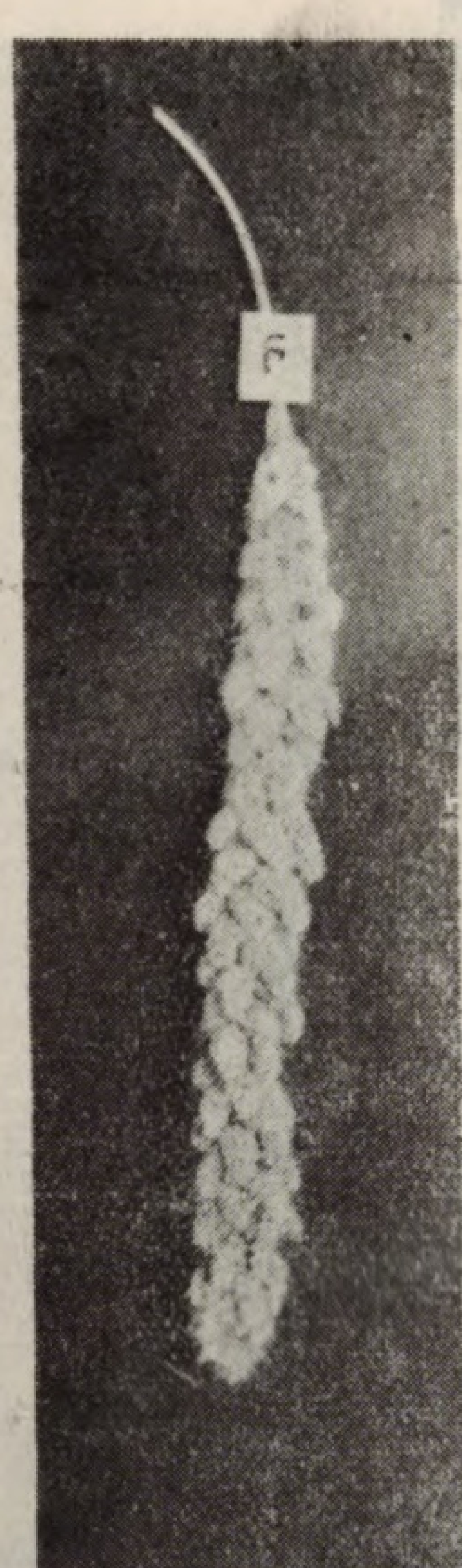
二四　黄　毛（粳）

大正四年新臺子にて採集せるものにして穗は圓筒形をなし先端太く、穗幅三・〇糎にして稍廣く、一穗の重量は一八・五瓦、草丈は一・六六米にて普通、一本の稈重は一九・三瓦、一千粒の重量は二・五二五瓦、一穗の粒數は六、二五八粒、一立重量六二三・〇瓦、粒は黄色、刺毛極めて短かく五・四粍内外、葉長は長く葉幅は普通なり。



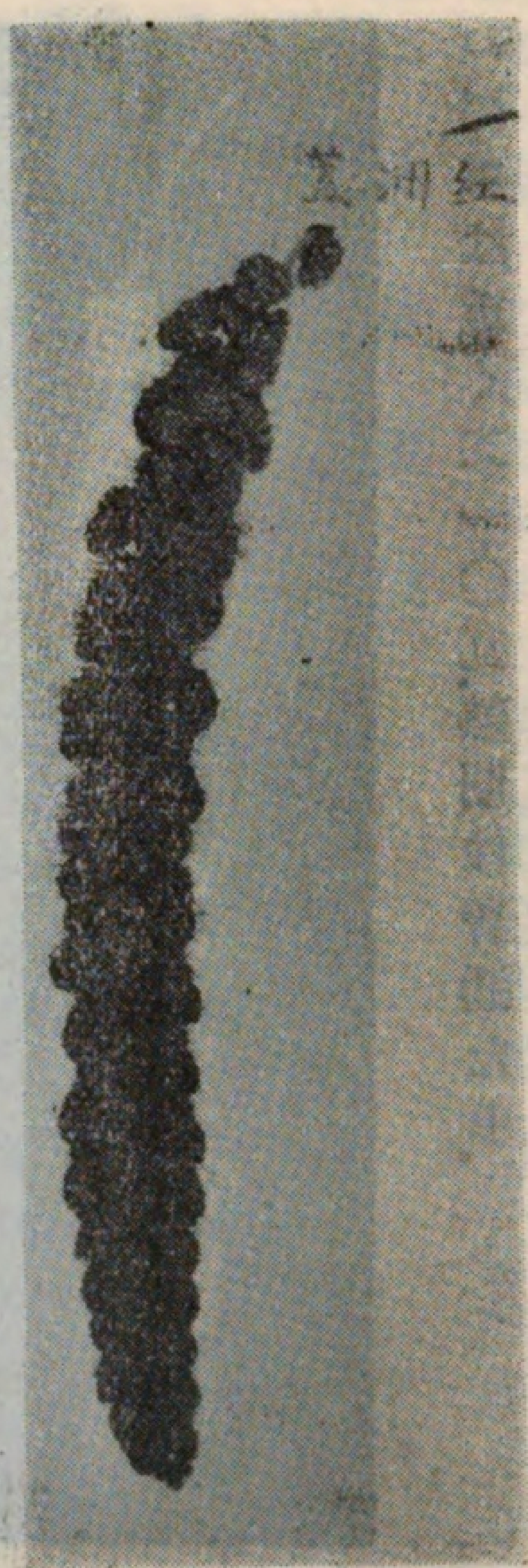
二五　小　穗　白（粳）

大正十四年昌圖にて採集せるもの穗は棒狀をなし長さ二八糎内外、穗幅細く二・五七糎、一穗の重量、一七・五瓦、一千粒の重量二・六一七瓦、一立の重量六〇〇瓦、草丈は普通にして一・六五米、一本の稈重は重く二一・〇瓦、熟期は普通なり。



二六　蓋　洲　紅（粳）

大正六年雙臺溝にて採集せるもの。穗形圓筒形をなし、長さ二五・三糎、幅二糎、一穗の重量一九・八



瓦、草丈一・六二米、一本の稈重量一六・九六瓦、一千粒の重量三・九一瓦にて稍重く、一穗内の粒數四、三一六粒、一立の重量六五二・〇瓦、粒色は黄色、刺毛の長さ中位にして七・五—八・五粍、葉長三二・四糎、葉幅二・七八糎、反當四箇年平均一・九四三石にして收量佳良なり。

二七　牛尾把黄（粳）

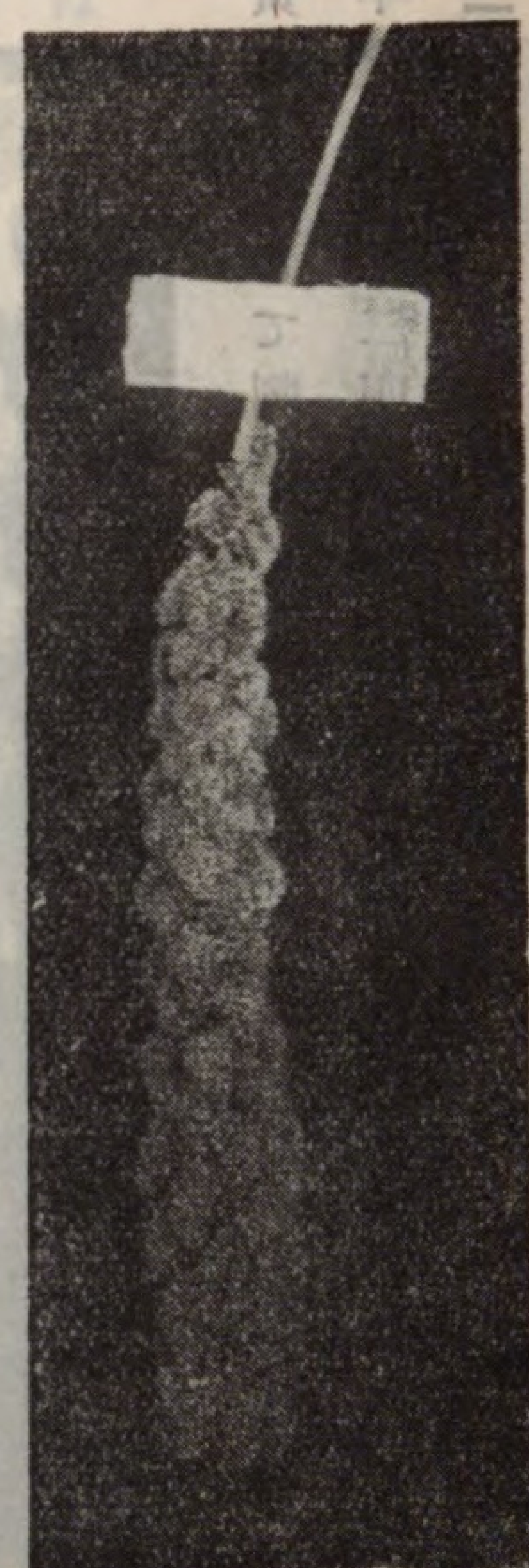
大正四年靠山屯に於て採集せるもの。穗形は牛の尾に似たりとの意味の品種名なり、穗長二三・



二糎、穗幅三・〇八糎にて先端に行くに從つて太し。一穗の重量一五・六瓦、草丈は低く一・四六米、一本の稈重は頗る輕るく一・三四瓦、一千粒の重量は二・三八瓦、一種の粒數は四、八九二粒、刺毛の長さ中位にして九・二九粍なり、葉長三三・一糎、葉幅二・四四糎にして小さし、反當七箇年平均一・七九六石にして收量優良なり。

二八　縄緊（粳）

大正三年熊岳城より取寄せたるもの。穂は圓筒形をなし長さ二二・〇糎、幅稍廣く三・〇二糎、一穂



の重量一七瓦、草丈は一・五七米にて普通なり。一本の稈重は一六稈、一千粒の重量は二・五九五瓦、一穂内の粒數は四、九四〇粒にして一立の重量は六〇三・九瓦、粒色は黄にして刺毛短かく六・五粍、葉長三二・二糎、葉幅二・六四糎にして小さき方なり。反當二箇年平均一・四三五石なり。

二九　紅刀把齊　（粳）

大正四年龍母廟子にて採種せるもの。穂は圓筒形にして長さ二四・〇糎、穂幅は太くして三・四七



糎、一穂の重量一七・四七瓦、草丈は一・六一四米にて普通なり。一本の稈重一五・〇三瓦、一千粒の重量二・四五〇〇瓦にて中粒、一穂内の粒數五、七二八粒、一立重量は六四六・二瓦、子實は濃黄色、刺毛の長さ八・〇粍、穂は先端太し。葉長三〇・五糎、葉幅二・六九糎にて長さの割合に幅は廣し。

三〇　紅苗谷子　（粳）

大正六年李家屯にて採集せるもの。穂形圓筒形をなし長さ二三・八四糎、幅廣くして三・五三糎、一



穂の重量二一・八七瓦にして重量最も大なり。草丈は一・五一四米、一本の稈重は一八・四七瓦、一千粒の重量は二・七二六・七瓦、一穂内の粒數は六、四二一粒、一立重量五七七・六瓦、粒は濃黄色にして刺毛短く五・〇粍内外、莖葉赤紫色、葉長三七・九糎、葉幅二・六九糎、熟期は中熟のをそき方なり。

三一　六十日　(粳)



大正三年奉天農事試驗場より取寄せたるものにして穂は圓筒形をなし。穂長中位二四・三三糎、穂幅三・〇一糎、一穂の重量輕く一六・一八瓦内外、草丈一・六九二米、一本の稈重二〇・八三瓦にして重し。一千粒の重量二・五一八・〇瓦にして普通、一穂の粒數四、七四一粒、一立重量五八三・六瓦、粒は黄白色にして刺毛の長さ中位七五粍内外、莖葉淡綠にして葉長三六・三糎、葉幅二・六三糎、反當四箇年平均〇・九二四石にして收量不良なり。

三二　刀把齊　(粳)

大正三年公主嶺附近に於て採種せるもの。穂形刀の柄に似たりとの意味の品種名なり。穂長二



〇・六糎、一穂の重量一四・五瓦にて軽き方なり。草丈は一・四五米にして低し、一本の稈重一五・一六瓦、一千粒の重量二・二二〇瓦、一穂の粒數は五、七一六粒、一立重量六五六・八瓦にて重き方なり。粒は黄色、刺毛中位にして八・八三粍葉長三〇・〇糎葉幅二・六六糎にして葉長は短かし。反當七箇年平均一・四〇二石にて收量は普通なり。

三三　龍鳳擋　（粳）



大正六年唐家房にて採種せるもの。穗形は圓筒形にて穗長二二・七〇糎、一穂の重量一七・九瓦、草丈は一・五二二米にて普通、一本の稈重一六・三瓦、一千粒の重量二・二〇〇九瓦、一穂の粒數六、四八四粒、一立重量六一一瓦にて中粒、黄色、刺毛短く六・〇三粍、葉長三三・〇糎、葉幅二・五七糎、熟期は中熟、反當七箇年平均一・六七二石にして收量は可良の部に入る。

三四　御　穀　（粳）

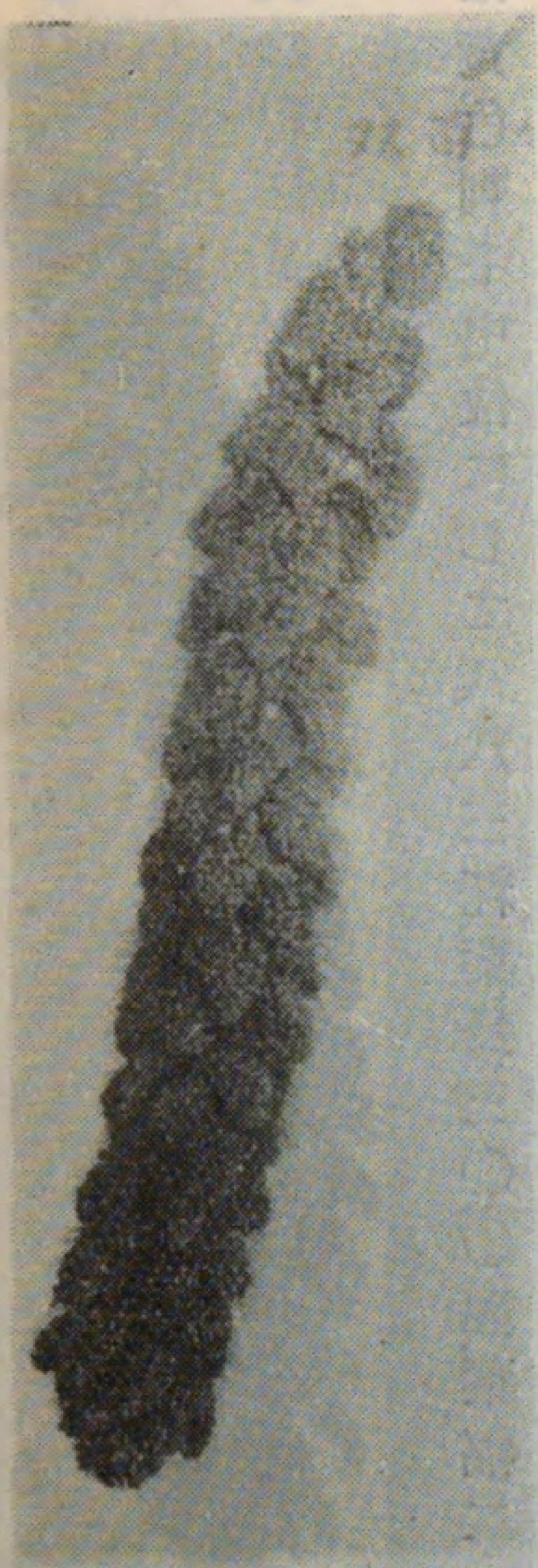
大正四年公主嶺附近にて採種せるもの。原種イノコロ草に酷似す。昔清朝の帝政時代には宮廷

の食糧には全部此の品種を使用し一般農民の耕作を嚴禁せりと謂はる。されば今も尙此の品種の栽培は極めて少し。其の品種名も亦御穀と稱したるものと云ふべし。穗長は短かく一八・七〇糎、



一穗の重量一七・七七瓦、草丈は一・四〇七米にして低き方なり。一本の稈重一三・四一瓦、一千粒の重量三・三七五・四瓦一立重量六五五・八瓦にして最も大粒の部に入る。一穗內の粒數四、〇四八粒にて少き方なり。粒は黃白色、刺毛頗る長く一三粍以上、穗は正しき八條をなして小穗群がついて居る。葉長三二・二糎葉幅二・三〇糎、中熟にして最近五箇年平均反當收量一石六斗五升九合にして收量は中位にあり。

三五　雙　廟　子　(粳)



大正三年雙廟子にて採集せるもの。穗は圓筒形をなし、小形にして穗長二一・五七糎、一穗の重量一八・二一瓦、草丈は一・五一八米、一本の稈重一七瓦內外、一千粒の重量二・七四九・一瓦、一穗內の粒數四、九八三粒、一立重量六一三・四瓦、粒は黃白色、刺毛の長さ中位にして七・〇粍內外、葉の長さ四〇・

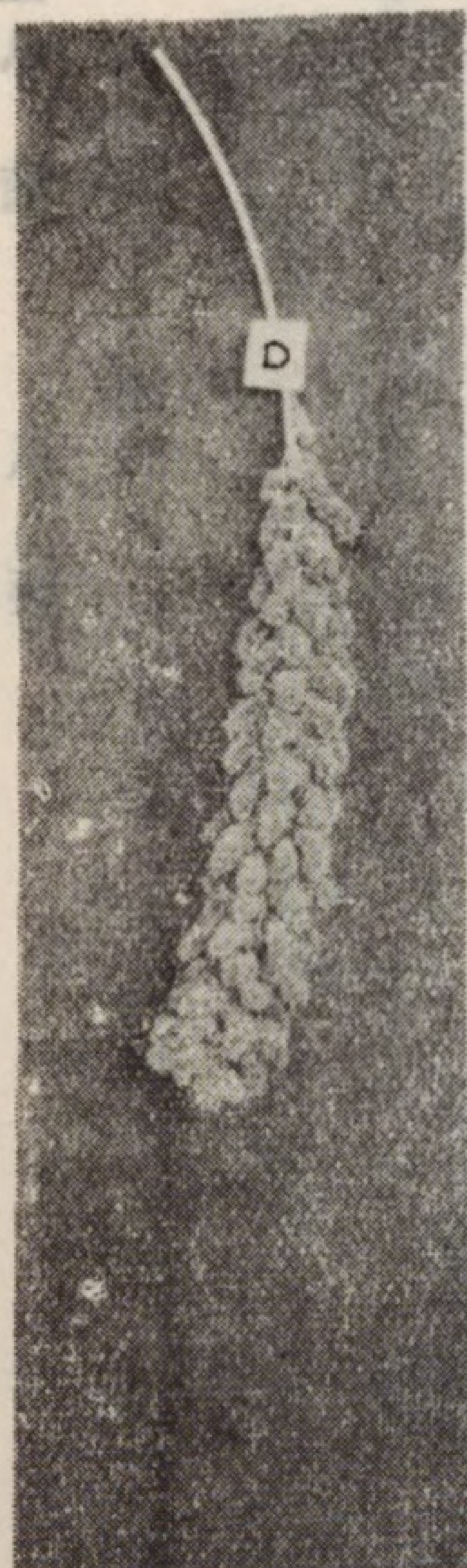
四糎、幅二・九六糎、收量極めて惡く三箇年の平均收量僅に七斗六合なり。

三六　長春三號（粳）



大正三年長春附近にて採集せるもの。穗は圓筒形をなし、小形にして穗長二〇糎内外、穗幅二・七糎、一穗の重量一五・四八瓦、草丈一・四七四米にして低し、一本の稈重一四・五八瓦、一千粒の重量一・九七六瓦、一穗内の粒數六、四八三粒、一立重量六一一・八瓦にして小粒の部に入る。粒は赤褐色にして刺毛の長さ八・〇粍内外、莖葉赤紫色をなす、葉長三二・七糎、葉幅二・六五糎、中熟種なり。

三七　北滿一〇六號（粳）

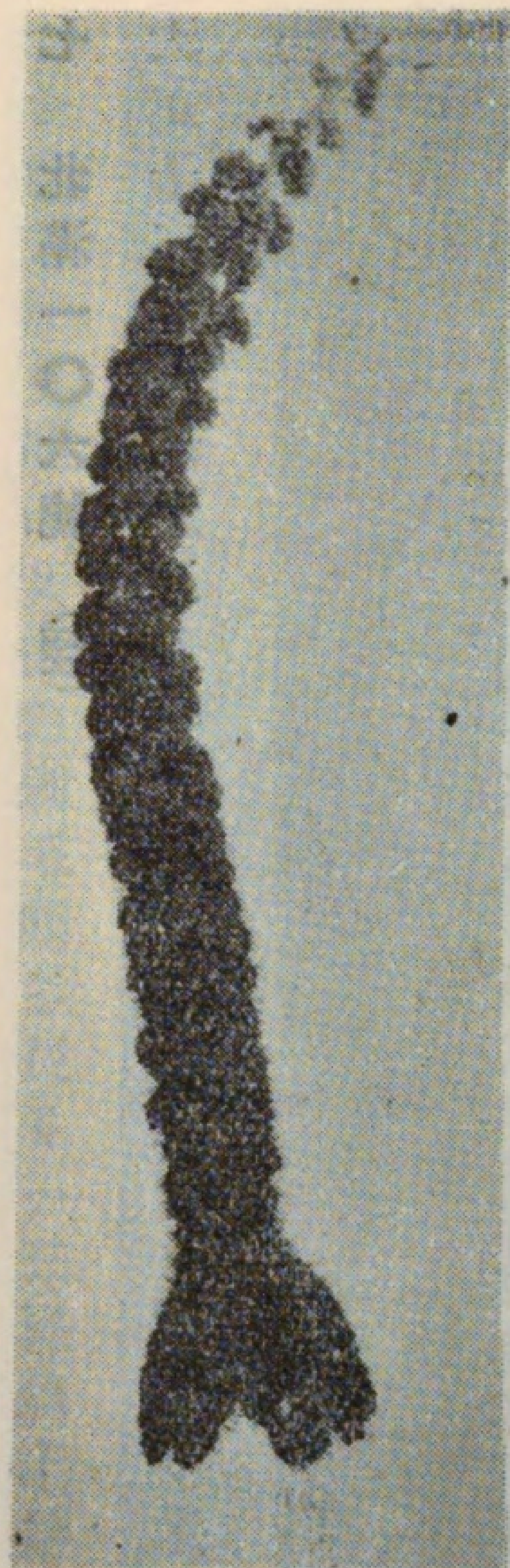


大正十二年北滿愛河農事試驗場長ボイコフ氏より送付を受けたるものにして穗は圓筒形、小形にして穗長二二・四四糎、一穗の重量一七・八瓦、草丈一・五六四米、一本の稈重一八・七二瓦にして重き方なり。一千粒の重量一・七五二四瓦にして、一穗内の粒數四、〇四六粒、一立重量六一九・〇瓦にして小粒の部に入る。粒は赤褐色にして莖葉は赤紫色を呈す、葉長三一・六糎、葉幅二・七五糎、早熟

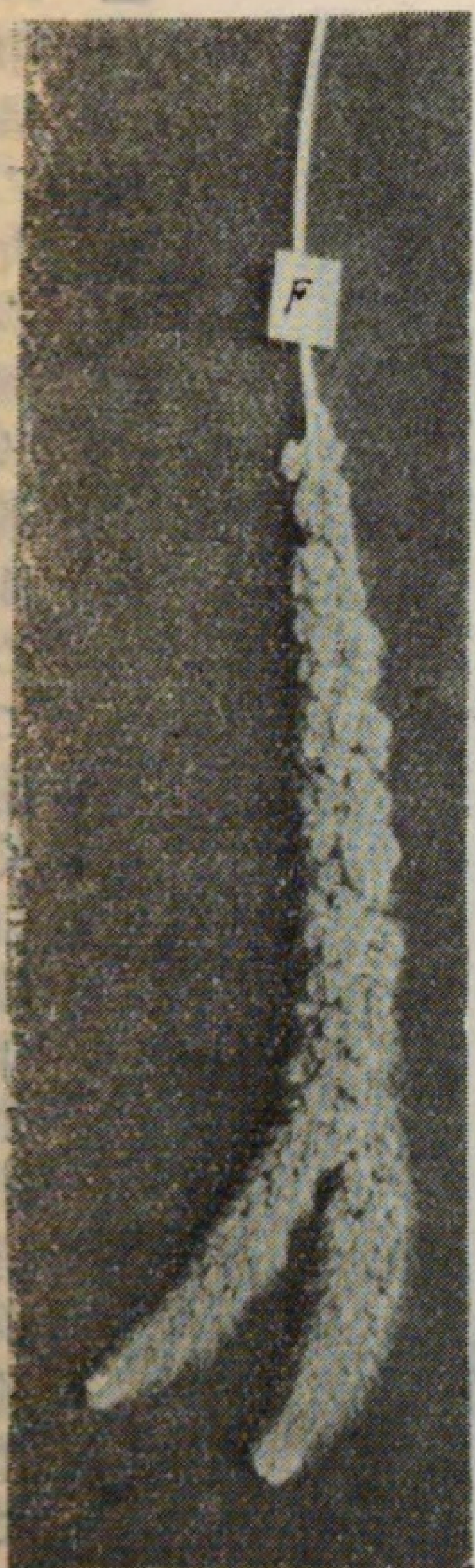
の方なり。

三八　龍　爪　（粳）

大正四年大湖眼には採集せるもの穂は異形にして先端は二分し更に三―四分して恰も龍の爪に似たる形を呈す。穂長三二・六糎、一穂の重量一九・三四瓦、草丈一・六九米にして高き方なり。一本の稈重一九・三二瓦にして重し、一千粒の重量二・四一八四瓦、一穂の粒數六八〇〇粒、一立重量五六七・七瓦、粒黄色刺、毛の長さ中位にして八・〇粍、小穂のつき方密なり。葉長三九・四糎、葉幅二・三七糎、淡緑にして軟かなり。反當四箇年平均一石一斗二升三合にして收量悪るし。これと同種異名なるものに猫脚あり。



三九　鴨　子　嘴　（粳）



大正四年鼻山屯にて採集せるもの。穂は全長三〇糎内外、其の先端¼位の所より圖の如く二分し恰も鴨の嘴の如き狀態なり。穂長二七糎内外、一穂の重量二・〇〇四瓦、草丈一・六一一米、一本の

稈重一八・九四瓦にして重し。一千粒の重量二・八七七八瓦、一穗內の粒數六、四二〇粒、一粒重量五四四・六瓦にして大粒の方なり、粒は黃色、刺毛の長さ中位にして八粍內外、小穗のつき方極めて密なり。葉長三七・〇糎、葉幅二・六五糎、綠色にして軟かなり。

四〇　龍　角

大正六年二十里堡に於て採集せるもの。穗は一七糎の長さに穗軸の元より四—六個に分枝せ



るものよりなる。一穗の重量一三・〇五穗、草丈一・三五一米にして低し、一本の稈重一三・九二瓦にて輕し、一千粒の重量二・三三一瓦、一穗內の粒數六、一〇九粒、一立重量五八三・九瓦にて中粒の部に入る。粒は黃色、刺毛短かく六・五粍內外、小穗のつき方疎なり、葉長短かく二八・一糎、葉幅二・四二糎、濃綠にして軟かなり、熟期は稍をそき方なり。珍らしき品種として注目せらる。

第六章　粟品種の分布の狀況

第一節　粟品種分布調査

滿洲に於ける粟の品種分布の狀況調査は本場に於ては大正三年以來種々の困難と危險とを冒して續行し居れり。今日までの調査結果を記載すれば次の如し。

地方名	品種名	特性　粳又は糯	特性　早中晩	特性　主なる特徴	調査者	調査年度
關東州內水師營地方	飯穀	粳	早	草丈三尺六寸、穗長六寸五分、收量二石。	久武兼靜	大正六年
	紅粘穀	糯			同	同
同　三澗堡地方	釘頭子	粳	早	草丈三尺四寸、穗長三寸六分、穗の先端太く釘の如き形狀をなす。	同	同
同　周家屯地方	同	同	同	同	同	同
	海南白	同	中	草丈二尺五寸、穗長四寸、海南卽山東より來りし白き粟の意。	同	同
同　雙臺溝附近	釘頭子	同	早		同	同
	蓋州紅	同	同	草丈三尺、穗長三寸八分、蓋州より來りし紅粟と云ふ意なり。	同	同
同　營城子地方	釘頭子	同	同		同	同
同　劉家店地方	龍鳳擡	同	同	草丈三尺六寸、穗長四寸五分、飯として味よし。穗の形鳳凰の尾毛に似たり。	同	同

	釘頭子	同	同		同	同
	蹬子	同	中	草丈三尺二寸、穗長四寸三分草丈低きため此の名あり。	同	同
	老虎蹄子	同			同	同
	毛粘	糯			同	同
	紅粘	同			同	同
	黃粘	同			同	同
同亮甲店地方	釘頭子	粳	早		同	同
	龍鳳擋	同	同		同	同
	大粒白	同			同	同
同華家店地方	龍鳳擋	同	早		同	同
	毛穀	同	中	草丈三尺四寸、穗長六寸、穗に芒多きを以って此の名あり。	同	同
同粉皮墻地方	龍鳳擋	同	早		同	同
	糜時紅	同	同	草丈三尺五寸、穗長三寸五分、糜子の熟する時早くも熟するが故に此の名あり。	同	同
同窩子店地方	同	同	同	同	同	同
	猴腿子	同	中	草丈三尺八寸、穗長五寸、穗形猿の腿に似たり。稈は飼料として良好なりと。	同	同
	龍鳳擋	同	早		同	同
	八大葉	同	中		同	同
同貔子窩地方	龍鳳擋	同	早	草丈四尺二寸、穗長五寸四分、八枚の葉を生ずる故に此の名あり。	同	同
	八大葉	同	中		同	同

關東州内唐家房地方	八大葉	粳	中		久武兼靜	大正六年
	大粒黄	同	同	草丈三尺四寸、穂長六寸、大粒にて黄色なるが故なり。	同	同
	臥石牛	同	同	草丈三尺六寸、穂長三寸六分、穂形手の臥したるが如き状態なりと云ふ。	同	同
同長山寺地方	釘頭子	同	早		同	同
	龍鳳擋	同	同		同	同
同龍口地方	釘頭子	同	同		同	同
	龍鳳擋	同	同		同	同
	八大葉	同	中		同	同
同長店堡地方	大鑼棒	同	同	草丈三尺五寸、穂長七寸五分、穂形鑼を打つ棒に似たり。	同	同
	釘頭子	同			同	同
	江南蹚	同			同	同
同普蘭店地方	龍鳳擋	同	早		同	同
	八大葉	同	中		同	同
瓦房店附近李家店	毛大粒	同	早	草丈四尺、穂長六寸五分、穂に毛多く大粒なるを以てなり。	同	同
	刀把齊	同	同	草丈三尺八寸、穂長五寸二分、鎌刀の把に似たるが故なり。	同	同
同前二十里堡	毛穀	同	中	草丈三尺二寸、穂長六寸五分、穂に毛を多く有するが故なり。	同	同
	窪裏	同	早	草丈三尺、穂長五寸二分、窪地にも堪へて生育すと云ふ。	同	同
	龍角	同	中	草丈三尺三寸、穂長七寸、穂の形龍の形に似たり。	同	同
	子密齊	同	同	草丈三尺五寸、穂長五寸七分。	同	同

	龍爪	同	同		同	同
復州地方	窪裏	早	同		同	同
	刀把齊	同	同		同	同
	八大葉	中	同		同	同
熊岳城地方李官村	大頭黄	同	同		同	同
	窪裏	同	同		同	同
同廂藍旗	大頭黄	同	晩	草丈四尺一寸、穂長五寸、穂黄色にして尖端太きが故に此の名あり、	同	同
	鳳球尾	同	早	草丈三尺五寸、穂長四寸五分、穂形鳳の尾羽に似たるを以つてなり。	同	同
	白砂	同	同	草丈四尺、穂長五寸六分、粒白砂の如し。	同	同
	縄緊	糯	同	草丈三尺七寸、穂長五寸八分、穂形縄の如く緊れるを以つてなり、	同	同
	紅粘穀	同	同		同	同
熊岳城	青苗粘	同	晩	草丈高く莖軟かなり。	熊岳城分場	大正三年
	毛	粳	中	草丈中位、穂は毛深きを以つて此の名あり。	同	同
	大斗黄	同	同		同	同
	縄緊	糯	早	草丈中位、穂の形縄の如し。	同	同
	窊裡青苗	粳	中	草丈高し、穂の形太き棒状なり。	同	同
	白砂	同	同	粒白きこさ白砂の如しさ。	同	同
大石橋地方	刀把齊	同	早		管原政治 久松徳三郎	大正六年
	毛穀	同	同		太田瑞穂	大正十二年

白旗地方	紫稈粘	糯	中	稈は紫色を呈す。	管原政治 久松德三郎	大正六年
	白砂	粳	早		同	同
遼陽地方	紅粘	糯	晩	草丈矮生、穗は赭紅色なり。	同	同
	白砂	粳	早		同	同
	老來變	糯	晩	幼苗は紫紅色を呈するも成熟と共に白色となる。	同	同
	毛	粳	中	剌毛長し。	同	同
	大錦穗兒	同	早	草丈高く長穗なり。	同	同
	龍爪	糯	晩	穗の先端分れ龍の爪の如し。	同	同
	黄	粳	中		遼陽地方事務所	大正三年
	紅殼	同	同		同	同
	黄殼子	同	同	中穗先端鈍圓なり。淡黄色を呈し短芒を有す。	久松德三郎	大正六年
	刀把齊	同	同	黄殼にして穗先は齊一なり。黄色刀把齊なり。	同	同
	同	同	早	小穗短大、白粒にして殼皮は稍灰色を呈す。	同	同
	紅粘殼	糯	中	中穗にして先端尖銳、長毛を有し、子粒は赤褐色なり。	同	同
	猫脚殼	同	同	細長穗にして白粒大圓なり、穗先稍分裂する故此の名あり。	同	同
	大猫脚殼	同	同	一名龍爪殼にして先端猫脚狀に分裂するを以つて此の名あり。白粒肥大。	同	同
	龍爪殼	同	早	小穗發達して個々分裂する故此の名あり、黄粒、黄毛なり。	同	同
	毛殼	粳	同	短大黄穗にして長黄毛を有し病蟲害を蒙ることなしと。	同	同
	同	同	中	猫尾巴殼とも稱し、長穗の白砂なり、白粒、黄毛にして稍長し。	同	同

	搭拉黃	同	早	中穗にして穗先稍鈍圓、黃穗なり。粒は豐圓短毛を有す。	同	同
	六十天還家	同	同	白砂に酷似し極早生なり。黃大粒にして豐圓なり。	同	同
	錢串子	同	中	大穗、小穗、發達して個々區別し得、黃粒にして豐圓、黃毛を有す。	同	同
	白粒轂	糯	同	穗は短大白粒にして短毛を有す。淡黃なり、小穗の發達稍著し。	同	同
	大白轂	粳	同	大長穗にして黃色の長毛を有す。粒豐圓なり。	同	同
	紅水裡站	同	同	細長穗にして轂皮初めは紫赤色を呈すれども老熟するさ共に白變す、白粒にして長毛あり。	同	同
	白水裡站	同	早	長稈、穗は細長にして先端尖る。白粒にして極短毛。	同	同
	灌兒轂	同	中	中穗、轂皮稍黑灰色にして黃粒、黃毛なり、老來變に酷似す。	同	同
沙河地方	搭拉黃	同	極早	中穗にして粒は豐圓短毛を有す。穗先稍鈍圓なり。	同	同
	白沙	同	中	莖の色は帶白色にして穗は稍々細長く先端は鈍し。	太田瑞穗	大正十二年
	黃谷子	同	同		同	同
	紅粘	糯	同		同	同
奉天地方	小金黃	粳	早	幼苗は紅色なれども老熟すれば白莖さなり芒は紫紅にして穗形短大なり。	久松德三郎	大正六年
	紅苗粘	糯	同		同	同
	黃谷子	粳		莖は黃、白色にして穗の太さ中等、先端は鈍し、稃及粒は。	太田瑞穗	大正十二年
	紅苗粘	糯		粒は淡赤紫色にして穗は稍々小、先端鈍し、稃は赤褐色なり。	同	同
	黃	粳			同	同
安奉線石橋子地方	白砂	同	中		村松榮	昭和二年
	小粒白砂	同	同		同	同

安奉線本溪湖地方	黄谷子	粳	早		村松榮	昭和二年
	粘谷子	糯	中		同	同
	紅穀谷子	同	早		同	同
	黄谷子	粳	中		稲田袈裟義	大正四年
	白砂	同	同		同	同
	小紅苗	同	同		村越信夫	大正十二年
	老來變	同	同		村松榮	昭和二年
	白砂	同	同		同	同
	粘谷子	糯	晩		同	同
同鷄冠山	紅粘穀	同	中		同	同
	白砂、	粳	早		同	同
同連山關	白谷子	同	同		稲田袈裟義	大正四年
	黄谷子	同	中	稈は長くして耕馬の飼料に適す。	同	同
	紅粘	糯	同		村越信夫	大正十二年
	白砂	粳	早		同	同
	黄谷子	同	中		同	同
	紅苗谷子	糯	早		村松榮	昭和二年
	白砂	粳	同		同	同
	黄谷子	同	中		同	同

同橋頭	白砂	粳	早		同	同
	老來變	同	中		同	同
	紅粘谷子	糯	同		同	同
	刀把齊	粳	同		同	同
同湯山城	黄谷子	同	同		稲田袈裟義	大正四年
	白谷子	同	同		同	同
	紅谷子	同	同		同	同
	白沙谷子	同	早		同	同
	大粒黄	同	中	粒大にして黄色なり。	村松榮	昭和二年
	龍爪	糯	同	穂の先端分れ恰も龍の爪の如しと。	同	同
	白砂	粳	同		同	同
	青苗谷子	同	同	莖は青緑色をなして稈は馬糧によしと。	同	同
	紅穀谷子	同	早		同	同
同鳳凰城	白砂谷子	同	同		稲田袈裟義	大正四年
	飯谷子	同	中	黄谷子と同じ。	同	同
	狼把穂	同	同	穂形狼尾に似たりと。	同	同
	粘	糯			村越信夫	大正十二年
	黄谷子	粳			同	同
	白砂	同	早		村松榮	昭和二年

安奉線 五龍背	刀把齊	粳	中		村松榮	昭和二年
	白砂	同	早		同	同
	老來變	同	中		同	同
	紅穀谷子	同	同		同	同
同 安東地方	白砂	同	同		村越信夫	大正十二年
	粘	糯	同		同	同
	刀把齊	粳	中		村松榮	昭和二年
	黄粘谷子	糯	同		同	同
蘇家屯地方	黄谷子	粳	同		太田瑞穂	大正十二年
	白谷子	同	同		同	同
	紅粘谷子	糯	同		村松榮	昭和二年
	黄谷子	粳	同		同	同
	白砂	同	同		同	同
	同	同	同		同	同
鐵嶺地方	同	同			久武兼靜	大正十二年
	龍爪	同			同	同
	紅粘	糯			同	同
	鴨子嘴	同			同	同
	白砂	粳	中		村松榮	大正十四年

地方	品種名	粳糯	早晩	摘要	報告者	年
	紅谷子	粳	中		同	同
	龍爪	同	同		同	同
	黄	同	同		同	同
	紅粘	糯	同		同	同
	黄粘	同	同		同	同
	御穀	同	同		同	同
開原地方	大粒黄	粳	同	粟の原種イノコロ草に似たる一種にして美味なり。	久武榮靜	大正十二年
	白砂	同	同		同	同
	叩根	同	同	穂頗る長くして垂れ、其の先端根を叩くの意なり。	同	同
	大青苗	同	晩		同	同
	刀把齊	同	中		同	同
	紅粘	糯	同		同	同
	老來變	粳	同		同	同
	尖頭	同	同	穂少しく黑味を帶び穂先尖つて居る。	村松榮	大正十四年
	黄谷子	同	同		同	同
	薄地租	同	同		同	同
昌圖地方	大青苗	同	同		久武榮靜	大正十二年
	老來變	同	同		同	同
	露水紅	同	早	稃の色紅色。	同	同

	白砂	粳	中		村松榮	大正十四年
	短杆黄	同	同	草丈低き黄粒の粟の意なり。	同	同
	挫把子	同	同	草丈低き粟の意なり。	同	同
	小青苗	同	同		同	同
	大粒黄	同	同		同	同
雙廟子地方	矬把子	同	同		久武兼静	大正十二年
	老來變	同	同		同	同
	白砂	同	同		同	同
	短杆黄	同	同		村松榮	大正十四年
	刀把齊	同	同		同	同
	黄谷子	同	同		同	同
	薄地租	同	同		同	同
四平街地方	白砂	同	同		同	大正十二年
	黄粘	糯	同		同	同
	大粒黄	粳	同		同	同
鄭家屯地方	刀把齊	同	同		同	同
	白砂	同	同		同	同
	毛[illegible]	同	同	刺毛頗る長し、黄粒。	同	同
	白毛皮黄	同	同	粒黄色にして刺毛は黄白色なり。	同	同

	紅粟	同	同		同	同
	黄谷子	粳	同		同	同
	高稞粘	糯	早	稈は赤色にして穂も亦紅色を呈す、熟期早し。	同	同
公主嶺地方	刀把齊	粳	中	早熟、種は太く短かく其の形狀鎌の柄に似たり。	久武兼靜	大正四年
	薄地租	同	早	早熟、穂大にして如何なる瘠薄の地にも適應し得ると云ふ。	同	同
	老來變	同	同	早熟、苗の時紫褐色なるも生長するにつれ黄綠色に變ず。	同	同
	大青苗	同	同	苗の時青綠色を呈する故此の名起る。	同	同
	紅粘穀	糯	中	穂皮紅色なるを以て此の名起る、栽培少し、莖葉紫褐色。	同	同
	黄粘穀	同	同	穂皮黄色なるを以つて此の名あり。	同	同
	毛大粒	粳	早	穂に刺毛多く粒黄色なりと。	同	同
	淺彩紅粘	糯	中	莖葉穂色紅色を呈するも紅粘に比して稍薄きが故に此の名あり。	同	同
	鴨子嘴	粳	同	穂の先端は二つに分れ家鴨の嘴に似たり。	同	同
	叩根	同	同	穂長く成熟に連れて根元に至るの意、飯として美味なり。	同	同
	御穀	同	早	穂形イノコログサの如し、往昔、皇室の御料に奉りたるものなり。	同	同
	大青苗 壓破車	同	中	收量多く收穫の際、車を壓碎するとの意。稈は馬糧によしと。	同	同
	繩緊	同	同	穂長く緊密にして、其の形狀繩に似たるを以つて此の名あり。	同	同
	龍脚	糯	同	穂の先端分れ龍の脚の如き形をなす。	同	同
	大粒黄	粳	早	粒大にして黄色、芒長し。	同	同
	紅刀把齊	同	中	刀把齊と同形なるも莖葉紫紅色なり。	同	同

吉林長春間	白砂	粳	中	粒白砂に似たるを以つて此の名あり、栽培廣し。	久武兼靜	大正四年
	黑粘	糯	早	種皮黑色莖葉又紫黑色なり。	同	同
	黃	粳	同	稈強高。	宮島信太郎	大正十年
	白	同	中	莖稈中位、中熟、粒白色なり。	同	同
	毛	同	同	莖稈弱し、芒多し。	同	同
	紅粘	糯		稈高く強し、蟲害多しと。	同	同
	黃粘	同		稈強く高し、品質中等。	同	同
	錢串	粳		稈の高さ中位、品質中等なり。	同	同
	鴨嘴	同		穗の先端は鴨の嘴の如し。	同	同
	刀把齊	同		草丈中位、品質中等、穗形鎌の柄に似たり。	同	同
	水來站	同		草丈高く強し、品質中等、水害に逢ふても變質せずと云ふ。	同	同
	包米混	同	早	極めて早熟にして包米乳熟の時に成熟すと云ふ。	同	同
吉林省樺甸縣	拘根	糯		脫粒し易しい。	同	同
	哇牛腿	粳		穗の形牛の腿の如しの意。	澁木菊藏	大正十五年
	薄地租	同		穗は極めて大にして薄瘠の土地にも栽培し得。	同	同
	紅粘谷子	粳		莖葉は紅色をなす。	同	同
	長繩緊	粳		繩の長い樣な形をして居る。	同	同
	老來變	同			同	同
	長鴨子嘴	糯		穗形、鴨の嘴の如き形をなし、且つ長し。	同	同

	鴨子嘴站	同		前者よりは穗形小さし	同	同
	白砂	粳			同	同
濛江地方	大粒黄	同		粒黄色にして大なり。	太田瑞穗	昭和二年
	紅稃兒	同		粒紅色。	同	同
吉林省敦化地方 額穆地方	白谷子	同		粒小さく粒白色なり。	村松榮	同
	黄谷子	同		粒黄色、豊產なり。	同	同
	飯谷子	同		粒黄色にして美味なり。	同	同
	黄粘谷子	糯			同	同
	粘谷子	同		粒紅色なり。	同	同
	老來變	粳			同	同
	刀把齊	同			同	同
	白粘	糯		粒白色にして光澤あり。	同	同
	紅粘谷子	同		子實及び稃共に紅色なり。	同	同
	鴨子嘴	同		穗の先端二つに分れ鴨の嘴の如し。	同	同
	白砂	粳			同	同
	青苗粘	糯		莖稈高く軟にして馬糧によしさ。	同	同

第二節　粟の出廻狀況

第一項　滿洲粟の主要散地と鐵道に依る出廻狀況

滿洲粟の從來朝鮮向の主なる仕出地は南は蓋平、海城地方より京奉沿線各地奉天、昌圖、四平街、長春等主として南滿產のものなりしが近年に至り漸次北滿產粟の輸入增加を見るに至れり。滿洲に於ける粟出廻季節を概觀するに粟收穫後の十二月より出初め翌年四月迄を粟出廻りの盛期となして居る、之れを一箇年を通じて繁忙期と爲し七月より十二月の六箇月間が閑散期と稱することを得。

粟取扱噸數月別累年表（自四月 至三月）（單位噸）

年次＼月別	四月	五月	六月	七月	八月
大正十年	一八、九二三	二〇、一七五	一四、五八三	七、六二七	三、二八一
大正十一年	三八、六九九	二六、一一〇	一三、八五五	一三、三二六	九、一一八
大正十二年	三一、六三八	三〇、八一八	二五、八九六	二三、四〇〇	二九、七四四
大正十三年	四一、〇三四	三三、〇三四	二五、八四九	一七、八八四	一三、七九九
大正十四年	六四、七九六	四三、〇三八	二七、九〇〇	二四、八二一	一三、六一九
昭和元年	七九、五五九	五三、一三九	四〇、一三三	二八、六八三	二〇、八五六
昭和二年	一〇三、二〇三	四八、八八九	五三、一八六	二一、四〇六	一九、六四七

	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年
九月	一、五三九	四、二一九	七、五七八	七、四七	七、二五四	一〇、二八八	一一、五九三
十月	二、七四七	三、三六〇	二、五八四	四、三三九	七、六九三	一〇、五三六	五、二五九
十一月	五、一四七	四、七八八	五、〇八五	一三、六五九	一三、七八五	一五、九一三	七、三〇五
十二月	六、二九二	七、二六二	一〇、九二八	二五、四六一	二四、九九八	三一、七七五	一七、六一三
一月	一三、六三〇	八、四六七	二九、九五六	四〇、七六四	三九、二五二	四六、五〇六	二三、七五七
二月	一四、九三五	一九、六三九	三三、〇四八	三一、〇八九	四五、〇三三	四二、二九三	四八、二四三
三月	三二、七九七	三二、二九九	四八、二六九	六〇、八七九	六二、〇四七	九一、四六二	六八、〇三七
合計	一四〇、六六五	一八〇、〇四二	二七八、九四五	三一三、二五八	三七四、二三六	四七一、一一三	四二八、一三七

次に滿洲に於ける栗の出廻數量如何を滿鐵の輸送統計に依つて見ると次の如し。

主要各驛栗發送數量累年表（自四月至三月）（單位噸）

驛名＼年次	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年
大石橋	一八〇	一八七	四一九	一、三三八	一、一一四	三六九	二、〇一二
營口	二三三	五二	八九四	六三八	二〇八	二三六	四八六
海城	八、三三九	八、一三〇	一五、五七一	一一、一六六	一一、八一五	一四、五四四	一〇、七九五
遼陽	一六、六一八	一〇、七六一	一五、九四八	一五、四七八	一四、〇一七	二六、七三五	一五、七一六
奉天	一、七〇一	四、七六六	五〇、三〇四	五五、四三一	一三、九一八	一一、六二五	四一、五六七

鐵嶺	五、三二八	七、七八六	一五、九六一	二〇、六九八	二四、九五一	四〇、六〇九	三五、三五八
開原	三、七一五	一、九九四	四、二八九	四、四五四	四、一一七	五、九一一	九、〇〇〇
昌圖	二二、〇三六	二〇、七六四	二九、一五二	三一、九七四	三一、七七八	三一、六九三	二四、六七一
雙廟子	一、六五七	二、八五〇	四、〇二三	五、二三七	五、二〇四	四、一三一	三、四二〇
四平街	一六、六一九	三〇、六七四	三四、九七〇	六〇、〇二五	六八、二三七	九八、七三六	八七、六五八
公主嶺	一、九四二	一、五六三	三、五二五	二、一四二	一、一一〇	八〇一	三、五三九
范家屯	八、二二九	七、七六五	二、九四二	二、〇八三	二、五九一	一、〇二一	六、一〇一
長春	二八、三五九	四五、五三一	一九、二一七	一一、七三五	四四、六八四	二七、一九一	二一、八四二
沙河鎭	四〇	一、〇六三	一一、二六九	七、〇三七	三、一五四	五、〇四七	二、六六四
其他各驛	八、五六八	七、九八一	一八、六四五	一九、五〇七	一四、三三三	一六、一五〇	一九、一九九
小計	一一三、四三四	一五一、八六七	一三七、一三九	二四九、八三三	二四一、一一二	二六四、七八九	二八四、〇三八
吉長線	二、七六〇	三、〇四二	一、一五六	四、二四六	一三、四七四	二五、六四六	三五、〇四三
四洮線	一三、九九九	一三、一四二	四六、六三五	四八、八一四	四一、五二八	六八、六〇八	三四、四五三
東支線	一〇、四七二	一一、九九一	四、〇二五	一〇、三六五	八一、二一三	九二、〇七八	七四、四七二
總計	一四〇、六六五	一八〇、〇四二	一七〇、九四四	三一三、二五八	三七六、三三六	四七一、一三三	四二八、一三七

次に吉長線、四洮線、東支線の各主要市場に於ける粟發送狀況を見れば次表の如し。

吉長線發仕向地別粟數量累年表（單位噸）

發著驛＼年次	大正十四年 大連	大正十四年 營口	大正十四年 安東	大正十四年 其他各驛	大正十四年 朝鮮線	大正十四年 合計	昭和元年 大連	昭和元年 營口	昭和元年 安東	昭和元年 其他各驛	昭和元年 朝鮮線	昭和元年 合計	昭和二年 大連	昭和二年 營口	昭和二年 安東	昭和二年 其他各驛	昭和二年 朝鮮線	昭和二年 合計
卡倫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六六	六六	—	—	—	—	六六	六六
下九臺	—	—	三三	—	—	三三	—	三三	—	九九	一八、五七九	一八、七一一	—	—	—	三三	二二、四四〇	二二、四七三
樺皮廠	—	—	—	—	一〇、五二七	一〇、五二七	—	三三	—	六六	二、五〇五	二、六〇四	—	—	—	—	四、五二一	四、五二一
孤店子	—	—	—	—	—	—	七	—	—	—	一三二	一三九	—	—	—	—	七二六	七二六
九站	—	—	—	—	—	—	—	六七	—	九九	三、二〇一	三、三六七	—	—	—	—	五、一四五	五、一四五
吉林	—	—	—	—	一、九一四	一、九一四	—	六六	六六	三三	五九四	七五九	—	—	—	三三	二、〇七九	二、一一一
合計	—	—	三三	—	一二、四四一	一二、四七四	七	一九九	六六	二九七	二五、〇七七	二五、六四六	—	—	—	六六	三四、九七七	三五、〇四三

四洮線發仕向地方別粟數量累年表（單位噸）

發著驛＼年次	大正十四年 大連	大正十四年 營口	大正十四年 安東及沙河鎭	大正十四年 其他各驛線	大正十四年 朝鮮	大正十四年 合計	昭和元年 大連	昭和元年 營口	昭和元年 安東及沙河鎭	昭和元年 其他各驛線	昭和元年 朝鮮	昭和元年 合計	昭和二年 大連	昭和二年 營口	昭和二年 安東及沙河鎭	昭和二年 其他各驛線	昭和二年 朝鮮	昭和二年 合計
八面城	三三一	三三	一九八	—	二、〇八二	二、五四三	三一九	三三	二六四	一、〇四一	二、〇一三	三、六七〇	一六五	三四	三二六	二七五	三、六四一	四、四四一
傅家屯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八七	—	八七
三江口	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五	—	五	—	—	—	—	三二	三三

鄭家屯	三、〇六七	一三七	—	—	一、〇八九	四、二九三	二、七二四	二〇〇	一、五八四	七六六	四六二	五、七三六	一、〇三三	二三一	四二九	三四二	六二七	二、六五二
計	三、二九八	一七〇	一九八	—	三、一七〇	六、八三六	三、〇四三	二三三	一、八四八	一、八二三	三、四七五	九、四二二	一、一八八	三六五	七六五	七〇四	四、二九二	七、二一四
茂林	—	—	—	—	—	—	三三	—	—	二三五	—	二六八	—	—	六六	一八〇	—	二四六
三林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七二	—	七二	—	—	—	—	—	—
衙門臺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三四	—	三四	一九八	—	—	八	—	二〇六
太平川	五一九	二	—	—	—	五二一	六四一	五八	八八一	四〇一	—	一、九八一	九九	—	七三七	一五五	六六	一、〇五七
邊昭	六六	—	—	—	—	六六	一三三	七	三〇〇	二九二	—	七三一	三三	—	一九八	六二	—	二九三
開通	二、二二四	五九	三三	—	一、〇二四	三、三四〇	一、九九四	一八	七八三	二、〇八五	一六五	五、〇四五	六二七	—	六九五	一、四二三	一三二	二、八六六
洮南	三、八二八	九四	六一九	—	一三二	四、六七三	一〇、〇〇四	二、二一一	一六、七一九	六、七二一	二、〇三八	三七、六八三	一、四一九	八一	八、八〇一	三、〇八八	一、五一八	一四、九〇七
計	六、六三七	一五五	六五二	—	一、一五六	八、六〇〇	一二、八〇四	二、二九四	一八、六八三	九、八三〇	二、二〇三	四五、八一四	二、三七六	八一	一〇、四九七	四、九〇五	一、七一六	一九、五七六
大罕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二五	—	二五	—	—	—	—	—	—
大林	九九	—	—	—	—	九九	二五	二	三三	二二七	九九	三八六	九九	三三	三三	八三	三三	二八一
錢家店	二三	—	—	—	—	二三	—	三三	—	四五六	—	四八九	三三	三四	一六五	一四二	—	三七四
通遼	二、八〇八	四七	三三	—	一、六〇五	四、四九三	三、〇五六	一三六	一、二七七	三、九三七	四、〇七七	一二、四八三	九九〇	一六五	六七四	一、五一九	三、六六三	七、〇一一
計	二、九三〇	四七	三三	—	一、六〇五	四、六一五	三、〇八一	一七一	一、三一〇	四、六四五	四、一七六	一三、三八三	一、一二二	二三二	八七二	一、七四四	三、六九六	七、六六六
合計	一二、七四三	三七二	八八三	—	五、九三一	二〇、〇五一	一八、九二八	二、六九八	二一、八四一	一六、二八七	八、八五四	六八、六〇八	四、六八六	五七八	一二、一三三	七、三五三	九、七〇四	三四、四五三

東支線發南下數量累年表

發驛	著驛	大正十四年 大連	營口	安東	其他各驛	計	昭和元年 大連	營口	安東	其他各驛	計	昭和二年 大連	營口	安東	其他各驛	計
哈爾濱管區		二九七	六六	六、三三六	四二九	七、一二八	六六	—	七、一九四	六六	七、三二六	三三	—	七、一九五	—	七、二二八
西部線	齊々哈爾	—	—	一、〇二二	一三三	一、一五五	六六	—	三三〇	—	三九六	—	—	二九七	—	二九七
	小河子	—	—	一、八一五	一九八	二、〇一三	二九七	—	三、二〇一	—	三、四九八	三六三	—	六、三〇三	—	六、六六六
	安達	八、〇五二	—	一一、六一六	二、二四四	二一、九一二	三、〇七九	—	二二、六九四	二〇四	二五、九七七	一、〇五六	—	二〇、二九五	—	二一、三五一
	宋	六二七	—	八五八	二六四	一、七四九	二三一	—	一、四五二	—	一、六八三	三三	—	一、〇八九	六六	一、一八八
	蒙古	二、四〇九	一、〇八九	二三、一九九	九、〇四二	三五、七三九	四六二	三三〇	四一、二五〇	一九八	四二、二四〇	四九五	—	二三、一九九	一三二	二三、八二六
	對青山	六六	—	一六五	一六五	三九六	三三	三三	一、三五三	—	一、四一九	—	—	一、三五三	六六	一、四一九
	其他各驛	—	—	六六	—	六六	六六	—	四二九	—	四九五	三三	—	一、一二二	—	一、一五五
	計	二一、一五四	一、〇八九	三八、七四二	一三、〇四五	六三、〇三〇	三、二三四	三六三	七一、七〇九	四〇二	七五、七〇八	一、九八〇	—	五三、六五八	二六四	五五、九〇二
東部線	阿什河	—	—	九九	六六	一六五	—	—	二三一	—	二三一	—	—	三三	—	三三
	一面坡	—	—	—	三三	三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	其他各驛	—	—	三三	—	三三	—	—	—	三三	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	一三二	九九	二三一	三三	—	二三一	—	二六四	—	—	三三	—	三三

南部	五家	—	—	—	三三	三三	—	—	九九	—	九九	—	—	—	—	—
	廟城堡	一、三八六	九九	八五八	三、九六〇	六、三〇三	四二九	—	五二五	三三	五、五七七	三三	一六五	四、六八六	九九	四、九八三
	蔡家溝	三三	—	—	六六	九九	—	—	一六五	—	一六五	—	—	六六	—	六六
	三叉河	一、九八〇	—	三三	一六五	二、一七八	七九二	—	五九四	—	一、三八六	一、八一五	—	一、五五一	三三	三、三九九
	陶賴昭	一三二	—	三三	六六	三三一	一九八	—	三六二	—	五六一	三三	—	八二五	—	八五九
	老少溝及松花江	八九一	—	九九	二三一	一、三三一	一三三	三三	五六一	九九	八二五	一六五	—	二六四	一、〇四六	一、四七五
	窰門	七五九	—	—	—	七五九	九九	—	六六	三	一六六	六六	—	三六三	—	四二九
線	其他各驛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一三二	—	一三二
	計	五、一八一	九九	一、〇二三	四、五二一	一〇、八二四	一、六五〇	三三	六、九六三	一三二	八、七七九	二、一一二	一六五	七、八八七	一、一四五	一一、三〇九
合計		一六、六三二	一、二五四	四六、二三三	一七、〇九四	八一、二一三	四、九八三	三九六	八六、〇九七	六〇一	九二、〇七八	四、一三五	一六五	六八、七四〇	一、四四二	七四、四七二

東支鐵道の南下狀態は大體前表の如くなるが更に東行狀態を見るに次の如し。

東支線發東行粟數量表（單位噸）

年次	昭和元年			昭和二年		
發驛＼期別	上半期	下半期	合計	上半期	下半期	合計
哈爾濱管區	一、一六七	三七一	一、五三八	五一三	五八	五七一
齊々哈爾	三、五六八	二、一二三	五、六九一	一、六九五	四八三	二、一七八

西部線 小河子	安達	宋	蒙古	對青山	其他各驛	計
二、七九八	三、六二九	一六五	三、四一六	一九	二、三三八	一五、九三三
五、〇六二	一、三三五	二一八	八六三	九〇	二、二〇四	一一、八九五
七、八六〇	四、九六四	三八三	四、二七九	一〇九	四、五四二	二七、八二八
三、一一六	二、七二二	九〇	二、一一六	六六	二、五五六	一三、三六〇
二、四〇八	一、九五八	五二六	七〇三	七二	三、四八三	九、六六三
五、五二四	四、六七九	六一六	二、八一九	一三八	六、〇三九	二一、九九三

東部線 阿什河	小九站	烏吉密	烏吉密河	一面坡	ヤブロニヤ	牡丹江	磨刀石	穆林	馬橋河	其他各驛	計
一八	—	一四八	三三二	九二	—	一三八	—	—	二七三	一八	一、〇一九
三六	—	—	—	七二	—	—	—	四五	五四	一〇九	三一六
五四	—	一四八	三三二	一六四	—	一三八	—	四五	三二七	一二七	一、三三五
四〇	—	—	—	一八	一八	—	—	三四	—	六五八	七二八
一八	—	—	—	—	—	一八	—	二二	五五	一五五	二六八
五八	—	—	—	一八	一八	一八	—	五六	五五	八一三	九九六

南部線	五家	—	—	—	—	—	—
	雙城堡	三七	—	三七	—	—	—
	蔡家溝	—	—	—	—	—	—
	三叉河	一二七	—	一二七	—	—	—
	寛城子	—	—	—	—	—	—
	其他各驛	—	—	—	—	—	—
	計	一六四	—	一六四	—	—	—
合計		一八、二八三	三、五八二	三〇、八六五	一三、六〇一	九、九五九	二二、五六〇

東支線東、南行數量比較（噸）

		大正十一年 數量	大正十一年 百分比	大正十二年 數量	大正十二年 百分比	大正十三年 數量	大正十三年 百分比	大正十四年 數量	大正十四年 百分比	昭和元年 數量	昭和元年 百分比	昭和二年 數量	昭和二年 百分比
東行	上半期	—	—	—	—	—	—	—	—	一八、二八一	—	一三、六〇一	—
	下半期	—	—	—	—	—	—	—	—	一二、五八四	—	九、九五九	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇、八六五	一三	二三、五六〇	—
	出廻年度	—	—	—	—	—	—	一八、二八一	一五	二三、〇五九	—	—	—
南	上半期	一七、六一七	—	八、五三六	—	—	—	五七、六三一	—	五九、六〇八	—	四〇、六五六	—

行	下半期	四、二三〇	—	三八	—	一五、五九二	—	四二、一六二	—	三八、五九四	—	—	—
	計	二、八四七	—	八、五六四	—	一五、五九二	—	九九、七九三	—	九八、二〇三	七七	—	—
	出廻年度	三、七五六	—	三八	—	七三、二三三	—	一〇一、七七〇	八五	九三、二六五	—	—	—
計	合計	二、八四七	—	九、五六四	—	一五、五九二	—	九九、七九三	—	一三九、〇六七	一〇〇	—	—
	出廻年度	三、七五六	—	三八	—	七三、二三三	—	一二〇、〇五一	一〇〇	一一六、三三四	—	—	—

備考　南行數量中には長春打切りを含む。
東行數量中大正十四年迄は他作物を包含せるを以て詳細不明なり。

第二節　輸移出の概況

滿洲粟の輸移出入の狀況は稅關管轄の關係上之を南滿地方(大連、營口、安東の三港を含む)北滿地方(愛琿、哈爾濱稅關管內を含む)間島地方(琿春、龍井村海關管內を含む)の三區に分ち北支那貿易年報により、其の數量を示せば次の如し。

滿洲粟輸移出數量累年表(單位擔)

經由地 / 年次	南滿地方	北滿地方	間島地方	合計
大正十一年	八三八、五五三	七二一、六三八	一五六、〇二六	一、〇六七、二一七

大正十一年	二、一四一、九八五	五五九、一七八	一五五、五八〇	二、八五六、七四三
大正十二年	二、八〇六、四〇三	九五、九五八	一五一、三八一	三、〇五三、七四二
大正十三年	三、九七五、八三七	一四、一一六	五三、五七七	四、〇四三、五三〇
大正十四年	四、二五四、七七七	二五四、七二六	二六、五六四	四、五三六、〇六七
昭和元年	五、二九六、五五六	五〇〇、一三一	三八六、六〇七	六、一八三、二九四
昭和二年	六、〇五九、三一五	四九三、八〇五	三四一、八七六	六、八九四、九九六

更に南滿三港に於ける輸移出の趨勢を見るに大正六年來急激なる增加を示し最近の輸移出額は昭和二年度中約六百萬餘擔にして其の金額は二千九百八十萬兩を超過す。之れを仕出港別に見れば六割七分は安東の輸出であつて殘り二割八分は大連、五分は營口より輸出さる。

尙ほ之が仕向地は朝鮮向のもの全輸出額の七割を占め殘三割は支那及日本に仕向けられて居る、從つて安東より朝鮮輸出數量は昭和二年度中に就いて此れを見るに五百六十五萬擔餘を占め全數量の九割九分以上に當る、今安東の夫れを大正六年の約三十萬擔に比較すれば殆んど十八倍を示し、大連輸出は朝鮮、日本、歐洲、亞米利加及支那向なるが支那向八割餘を占め營口からのものは悉く支那向と云ふを得べく今此れを北支那貿易年報に依つて示せば次の如し。

南滿三港輸移出粟仕向國別累年表（單位擔）

年次	大連			安東			營口			合計
	外國向	支那向	小計	外國向	支那向	小計	外國向	支那向	小計	
大正十年	三八、一三三	三五三、八八四	三九二、〇一七	一三〇、二八三	四、三四〇	一三四、六二三	八三五	三二一、〇七八	三二一、九一三	八三八、五五三
大正十一年	一一四、一五五	四七九、九三八	五九四、〇九三	一、四四六、〇六六	九一	一、四四六、一五七	二、四四一	九九、二九四	一〇一、七三五	二、一四一、九八五
大正十二年	一七四、〇三九	一四〇、二一〇	三一四、二四九	二、三八〇、一五八	—	二、三八〇、一五八	四、六七五	一〇七、三二一	一一一、九九六	二、八〇六、四〇三
大正十三年	一六二、八九七	一一、五三三	一七四、四三〇	三、二九六、八二九	三〇	三、二九六、八五九	一〇、四一一	四九四、一三七	五〇四、五四八	三、九七五、八三七
大正十四年	一一四、六二六	一九七、六二八	三一二、二五四	三、八四九、八二八	—	三、八四九、八二八	八、七七四	八三、九二一	九二、六九五	四、二五四、七七七
昭和元年	一〇一、五一二	六六二、九二〇	七六四、四三二	四、三九八、一七一	八、七四二	四、四〇六、九一三	二一、三九六	一〇三、九一五	一二五、三一一	五、二九六、五五六
昭和二年	一五一、六〇三	一四八、八三一	三〇〇、四三三	五、六五二、五七七	五七	五、六五二、六三四	七二、七二〇	一八、五三三	九一、二五三	六、〇四四、三二〇

右表の如く粟の輸移出額は年に依り多少の増減あると雖も大勢は逐年増加を示す。而して前表輸出高中九割九分は朝鮮仕向と見るを得べく之を仕向國別に詳記すれば次表の如し。

南滿三港輸移出粟外國向數量累年表（單位擔）

港名	年次 ／ 仕向地	日本	朝鮮	歐洲	北米合衆國	合計
大	大正十二年	七九、二一七	七〇、八七〇	二、一一一	二一、八四一	一七四、〇三九
	大正十三年	一二八、八二三	三二、七五八	三三	一、二八四	一六二、八九七

連	大正十四年	八九,三五五	二五,二七一	—	—	一一四,六二六
	昭和元年	五六,四三三	四四,七六四	二	三三三	一〇一,五三二
	昭和二年	七六,二九一	六九,一八五	三,一八九	二,九三七	一五一,六〇二
安東	大正十二年	一,〇五九	二,三七九,〇九九	—	—	二,三八〇,一五八
	大正十三年	一八九	三,二九六,六四〇	—	—	三,二九六,八二九
	大正十四年	—	三,八四九,八二八	—	—	三,八四九,八二八
	昭和元年	—	四,三九八,一七一	—	—	四,三九八,一七一
	昭和二年	六〇一	五,六五一,九七六	—	—	五,六五二,五七七
營口	大正十二年	四,六七五	—	—	—	四,六七五
	大正十三年	一〇,四一一	—	—	—	一〇,四一一
	大正十四年	八,七七四	—	—	—	八,七七四
	昭和元年	二一,二九六	—	—	—	二一,二九六
	昭和二年	七二,七二〇	—	—	—	七二,七二〇
合計	大正十二年	八四,九五一	二,四四九,九六九	二,一一一	二,八四一	二,五五八,八七三
	大正十三年	一三九,四二三	三,三二九,三九八	三三	一,二六四	三,四七〇,一三七
	大正十四年	九八,一二九	三,八七五,〇九九	—	—	三,九七三,二二八
	昭和元年	七七,七一九	四,四四二,九三五	二	三三三	四,五二〇,九七九

昭和二年	一四九、六二三	五、七三二、一六二	三、一八九	二、九三七	五、八七六、八九九

最近大連港よりする朝鮮向數量の減退せるは安東經由陸送品の增加せるに依るものにして試みに安東に於ける徑路別朝鮮仕向數量を見れば次の如し。

安東に於ける徑路別朝鮮向數量（單位擔）

年別＼徑路	海路	陸路 安東より	陸路 通過	計
大正十三年	五八、五一五	二一三、七五八	三、〇二四、三六七	三、二九六、六四〇
大正十四年	五四、九二八	二〇三、三五四	三、五九一、五四六	三、八四九、八二八
昭和元年	五〇、五八七	二六五、〇九三	四、〇八二、四九一	四、三九八、一七一
昭和二年	四九、七七三	一四九、二二六	五、四五二、九七七	五、六五一、九七六

北滿地方よりの粟輸移出狀況を見るに輸出徑路は松花江の水運に依るもの滿洲里、綏芬河、愛琿を經由するものなるが松花江水運に依る對外卽ち對露貿易は大正十三年以後露籍船の航江禁止せられてより絕然の狀態なり。而して仕向地は露領沿海州地方西比利亞、露領黑龍江沿岸、支那黑龍江沿岸を主とし其他各地方に於ける下層農民の食料に供せらる。

北滿より輸移出された粟の數量及價額を年度別に示せば次の如し。

哈爾濱税關管內輸移出粟數量及價額累年比較（單位 擔 海關兩）

種別＼年次	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
數量	六七七、七八九	九五、九五八	一四、一一六	二三四、七二六	五〇〇、一三一
價額	一、三四八、四三六	一六六、三七一	三五、五三一	六四四、四五六	一、三〇五、三七九

昭和元年哈爾濱税關管內輸移出粟仕向國別表（單位 擔 海關兩）

露西亞太平洋沿岸 數量	露西亞太平洋沿岸 價額	露西亞西比利亞 數量	露西亞西比利亞 價額	支那領黑龍江沿岸 數量	支那領黑龍江沿岸 價額	合計 數量	合計 價額
四八五、三八三	一、二六六、八四九	二九八	七七七	一四、四五〇	三七、七五三	五〇〇、一三一	一、三〇五、三七九

備考　愛琿は大正十三年以後皆無なり。

次に間島地方の粟輸出狀況を見るに輸出徑路は琿春及龍井村であるが、其の仕向地は朝鮮及露領であつて其の數量を年度別に示せば次の如し。

間島地方粟輸移出量累年表（北支那貿易年報 單位 擔）

年次 ＼ 地名	琿春	龍井村	合計
大正四年	一四〇	一六、五三三	一六、六七三
大正五年	七、九七五	九、六一五	一七、五九〇
大正六年	四〇、九四八	三九、一一〇	八〇、〇五八
大正七年	二八、二九九	八七、四二八	一一五、七二七
大正八年	一四、三四九	二九、五五八	四三、九〇七
大正九年	一六、五二六	六七、八三〇	八四、三五六
大正十年	一九、二八二	一三六、七四四	一五六、〇二六
大正十一年	一一、九九三	一四三、五八七	一五五、五八〇
大正十二年	八、九三〇	一四二、四五一	一五一、三八一
大正十三年	五、〇二二	四八、五五五	五三、五七七
大正十四年	一、八〇四	二四、七六〇	二六、五六四
昭和元年	二四、〇七八	三六二、五二九	三八六、六〇七

更に浦鹽港に於ける輸出狀況を見るに後章輸入徑路の項に於て詳記せるが如く大正十二年以來北滿粟が徑路を浦鹽に採りて朝鮮及其他へ輸送せらるゝもの比較的多く前年皆惡なりしに對し大正十二年以後激增し逐年增加の傾向を辿り居ることは特に注目に値す。最近三箇年間の狀況を表示すれば次の如し。

浦鹽港輸出栗數量仕向國別表（單位噸）

國別＼年次	大正十四年	昭和元年	昭和二年
日本內地	四、四二二	七、二四二	六、六七三
朝鮮	一一、一七八	一九、七六一	一五、三五〇
支那	二一八	三、八六五	一九八
其他諸國	—	—	—
合計	一五、八一八	三〇、八六九	二二、二二一

備考　昭和二年度は十月迄とす。

浦鹽港輸出栗仕向地別數量表（單位噸）

仕向地＼年次		大正十四年	昭和元年	昭和二年
日本內地	横濱	二六	一〇九	一二六
	神戸	三六四	九三九	三四一
	大阪	五五	—	三
	名古屋	三八二	八一〇	一、一五三
	武豐	一、四四〇	四、七四三	四、四〇二
	四日市	七二	—	六四
朝鮮	釜山	六九八	四、六九四	五、四二三
	元山	一〇、三三六	一五、〇六七	九、九二七
	其他	二五四	—	—
	合計	一一、一七八	一九、七六一	一五、三五〇
支那	天津	—	一、三二四	—

清水	—	—	一三二
門司	三六六	—	一〇五
敦賀	三〇九	五五九	二一九
青森	—	八四	一一三
其他	一、三七九	—	—
合計	四、四二三	七、二四三	六、六七三
青島	—	一六〇	—
上海	二八	二、三七一	一九八
合計	二八	三、八六五	一九八
總計	一五、八一八	三〇、八六九	二三、二二一

第七章　粟の栽培法

第一節　栽培

第一項　鋤耕法

粟の耕鋤法は地方によりて著しく其の方法を異にす、これを分ちて大體三種にするを得べし。

一、春季粟耕鋤と同時に播種作業をなし他に耕鋤をなさず奉天附近より以北全部之を行ふ、この際施肥を要せず。

二、春期粟播種前一回圃場を耕鋤す、蓋平附近より以北奉天附近まで又は安奉線の各地方に行はる。

三、秋季作物收穫後作物根の除去を行ひたる後耕鋤し置き翌春播種作業と同時に耕鋤す、蓋平以南より關東州全部この方法行はる。

第一

奉天以北の南滿洲及北滿洲にては前述の如く秋季又は春季播種に先立つて土地を膨軟にするため耕鋤すること全然なし耕鋤と播種と同時に行ふ、今其の播種作業を述ぶれば馬又は騾二頭に壞把(農具の部參照)を牽かしめて前年の壠臺(畦)の中央を割り作條を作りつゝ進み其の直後

に一人下種兒的と種するもの點葫蘆と云ふ播種期を持ちて播種し且つ下種したる土を踏みつけ鎭壓しつゝ進む、其の下種兒的の直後に覆拉子的一人あり、壞把の後方に麻繩を以て結着せる覆土器拉子を用ひ土を覆ひ尙ほ覆土せる上を鎭壓して進むものなり、斯の如く播種作業は行進と共に遂行せられ工程頗る大にして速力の大なる馬匹を使用する時には一日二天地半(日本の一町五反步)は難事に非ず、普通は一日二天地(一町二反步)を播種す、播種當日又は翌日木製の輥子(ローラー)を驢に牽かしめて鎭壓す。乾燥の烈しき地方にては石の輥子を以つて鎭壓するなり。

第二

蓋平附近より以北遼陽附近迄の地方に於ては前述の如く春季播種に先だち一回耕鋤をなし鍚犁により畦を立て播種を待つなり、卽ち春季粟播種前大約一箇月餘、前作物根を鎬頭にて除去し犁丈にて前年の壠臺を鋤き割りて舊壠溝に畦立をなす、而して適當なる雨濕を得るやこの新壠臺の中央を劐子と稱する鏟の左右兩角を廝きて其の中を狹めたる犁を用ひ鋤き割りて耕鋤と同時に播種すること壞把の時と同樣なり施肥はこの播種の際に行ふ其の工程は一日二天地(日本の一町二反步)を播種するを得、尙この際は圃場は稍々平坦となるなり、此の地方山岳地を除きては壞把を使用する者稀なり。

第三

前述の耕鋤法と異なる點は每年畦と溝とを變更することにして前の春期一回壞把にてやる際には畦と溝とを變更することなく前年度と同一の畦に播種することゝなる。

關東州及び南滿洲蓋平以南に於ては特別の事情なき限り秋季作物收穫後作物根を鎬頭(農具の部參照)等にて除去し舊壟溝に畦を立てゝ新壟臺となし翌春の播種を待つ、翌春四月下旬又は五月上旬播種の際にはこの新壟臺の中央を劃子(壞把は稀れなり)にて鋤き割りて下種すること第二の場合と同様なり、關東州内にて石の輥子にて鎭壓する者多し。

滿洲に於ては大體前述の如く三様の耕鋤法行はるれども亦特殊なる耕鋤法行はる地方あり、大石橋地方の如きは春季播種に先立つて耕鋤するに當りて舊壟溝を犂丈にて耕耘して舊壟臺に培土し置き播種時期にはこの培土せる舊壟臺の中央より種犂にて鋤き割りて下種するのが行はれ他地方と趣きを異にせり、又白音多來の如き砂質にて乾燥の烈しき地方に於ては前年の壟臺を中央より鋤き割りて其の出來たる溝に下種し其の直後金屬製の輪の形をなせる拉子にて覆土す、鎭壓は鷄蛋磙子と稱する石製の大きな卵形のローラーにてなす、以上二箇所の播種法は毎年同一の畦に播種することゝなるなり、又粟の播種には反地行はる地方極めて稀れなれども山岳多き安奉線地方(安東より連山關、橋頭地方まで)は一般に行はること多し、反地(飜地)とは耕鋤と同時に畦立を行ふの方法にして犂剜子と稱する一種の撥土板を附着したる犂を用ひ一往復を以て一條の畦を形成するものなり。

故に一日の工程は壞把鏵子を用ふる時の半分にして六反歩を耕鋤するに止まる、これこの地方は山地に耕地多く傾斜地をも耕作するにより土砂の崩壞圃場水分の保蓄よりかく初めより反地により畦立をするものなるべし。

第二項　粟の播種

滿洲在來の粟の播種法は條播による、條播とは點葫蘆と稱する一種の播種器(農具の部參照)を用ひて下種する方法なり。粟の播種期は南北によりて一定せざれども概ね四月下旬後より五月十日迄であり、然れども其の天候の乾濕或は其の地方の主要作物輪作の關係等により多少遲速あり又地方によりて大豆を先に播種し高粱、粟之に次ぐ地方あり、又は高粱、粟を先にして大豆之に次ぐことあり、然れども之れ絕對的に非ずして往々其の年の天候に左右せられ其の順序の變更することあり、例へば播種順序大豆、高粱、粟の地方と雖も其の年の天候、降水少なく乾燥甚しき時には粟、高粱を先に播種し大豆は雨濕を待つて之を播種するを普通とす。

今左に各地に於ける粟の播種期及び播種作物の順序の大體を表示せん。

地名	播種期	播種作物の順序
旅順	四月下旬	玉蜀黍、粟、高粱、大豆
水師營	同	同
大連	同	同
金州	同	同
普蘭店	同	同

の部參照)等にて除去し舊壠溝に畦を立てゝ新壠臺となし翌春の播種を待つ、翌春四月下旬又は五月上旬播種の際にはこの新壠臺の中央を劐子(壞把は稀れなり)にて鋤き割りて下種すること第二の場合と同様なり、關東州內にて石の輥子にて鎭壓する者多し。

關東州及び南滿洲蓋平以南に於ては特別の事情なき限り秋季作物收穫後作物根を鎬頭(農具

滿洲に於ては大體前述の如く三様の耕鋤法行はるれども亦特殊なる耕鋤法行はる地方あり、大石橋地方の如きは春季播種に先立つて耕鋤するに當りて舊壠溝を犂丈にて耕耘して舊壠臺に培土し置き播種時期にはこの培土せる舊壠臺の中央より種犂にて鋤き割りて下種するのが行はれ他地方と趣きを異にせり、又白音多來の如き砂質にて乾燥の烈しき地方に於ては前年の壠臺を中央より鋤き割りて其の出來たる溝に下種し其の直後金屬製の輪の形をなせる拉子にて覆土す、鎭壓は鷄蛋磙子と稱する石製の大きな卵形のローラーにてなす、以上二箇所の播種法は毎年同一の畦に播種することゝなるなり、又粟の播種には反地行はる地方極めて稀れなれども山岳多き安奉線地方(安東より連山關、橋頭地方まで)は一般に行はること多し、反地(飜地)とは耕鋤と同時に畦立を行ふの方法にして犂剜子と稱する一種の撥土板を附着したる犂を用ひ一往復を以て一條の畦を形成するものなり。

故に一日の工程は壞把鏵子を用ふる時の半分にして六反歩を耕鋤するに止まる、これこの地方は山地に耕地多く傾斜地をも耕作するにより土砂の崩壞圃場水分の保蓄よりかく初めより反地により畦立をするものなるべし。

第二項　粟の播種

滿洲在來の粟の播種法は條播による、條播とは點葫蘆と稱する一種の播種器（農具の部參照）を用ひて下種する方法なり。粟の播種期は南北によりて一定せざれども概ね四月下旬後より五月十日迄であり、然れども其の天候の乾濕或は其の地方の主要作物輪作の關係等により多少遲速あり又地方によりて大豆を先に播種し高粱、粟之に次ぐ地方あり、又は高粱、粟を先にして大豆之に次ぐことあり、然れども之れ絕對的に非ずして往々其の年の天候に左右せられ其の順序の變更することあり、例へば播種順序大豆、高粱、粟の地方と雖も其の年の天候、降水少なく乾燥甚しき時には粟、高粱を先に播種し大豆は雨濕を待つて之を播種するを普通とす。

今左に各地に於ける粟の播種期及び播種作物の順序の大體を表示せん。

地名	播種期	播種作物の順序
旅順	四月下旬	玉蜀黍、粟、高粱、大豆
水師營	同	同
大連	同	同
金州	同	同
普蘭店	同	同

三十里堡	四月下旬	玉蜀黍、粟、高粱、大豆
瓦房店	同	高粱、粟、大豆、玉蜀黍
得利寺	同	同
熊岳城	四月下旬より五月上旬	大豆、高粱、粟
蓋平	五月上旬又五月中旬	同
大石橋	同	同
海城	同	同
營口	同	同
鞍山	同	高粱、大豆、粟
遼陽	五月上旬又は中旬	同
煙臺	五月上旬	同
十里河	同	同
沙河	同	大豆、高粱、粟
蘇家屯	五月中旬	同
奉天	同	同
鐵嶺	同	同
開原	同	同
昌圖	同	同
雙廟子	同	同

四平街	同	同
郭家店	同	同
公主嶺	同	同
長春	同	同
吉林	同	同
鄭家屯	同	同
本溪湖	同	粟、高粱、大豆
橋頭	同	同
連山關	同	同
鳳凰城	同	同
五龍背	同	同
湯山城	同	粟、玉蜀黍、高粱、大豆
鷄冠山	同	粟、高粱、大豆
蛤蟆塘	同	粟、玉蜀黍、高粱、大豆

次に播種量は土地の良否乾濕播種法の如何、地方又は個人の習慣等によりて差あり、土壤乾燥に失する年には例年に比して深播きとし且つ播種量を増加し之に反し播種期に雨多く土壤過濕に陥りたる時には淺播とし播種量も少くするを普通とするなり、滿洲各地にての粟の播種量は概ね日本の一反歩當七合にして一陌當にては八瓩なり、而して農家は前述の如く諸種の狀態

を參酌して播種量を増減すること多く其の老練にして乾燥地農業に適切なる播種法をなし居るは感嘆の至りなり。

第三項　施　肥

滿洲に於ては粟に施肥する地方と施肥せざる地方とあり奉天以北の滿洲各地にては連年施肥することなし、併し關東州及遼陽以南及安奉線沿線地方に於ては毎年施肥するを見る。

滿洲に於て施用せらるゝ肥料は主に家畜の排泄物及び少量の豆粕、油粕等にして人造肥料の如き施用は全然なし粟の栽培に施用せらるゝは一般に土糞なり、土糞とは人糞尿又は家畜の排泄物に土壤を混じて腐熟せしめたるものにして各作物に施用するは殆んど全部之なり。

今左に肥料の運搬及び施肥期に就き記述すれば次の如し。

一　肥料を圃場に運搬するには秫稭籠と稱する高粱稈を以て編みたる籠にて周圍を圍みたる馬車を使用す、之を糞車と云ふ馬車は一般に三、四頭の馬又は騾に曳かしむ、一糞車に積載する量は平均一百五十貫内外にして之を圃場に置く時は先づ糞車は畑の一側より約五、六畦を數へたる所を壠(畦)に沿ひて進み約十歩内外を隔てゝ六、七箇所宛に下す、此の下せる肥料の山は其地方又は各農家の習慣によりて異なれども高さ二尺内外、直徑三尺位にして之を俗に堆と云ふ肥料を運搬する時期も地方によりて異なる、秋季作物收穫後耕鋤する地方にてはこの耕鋤後又は翌春運搬し來るなり、又春季には耕鋤前未だ地表の融解せざる前に於てす、これ地表

融解し初むる時は馬車の通行困難にして肥料運搬に不便なるがためなり、又關東州内及び安奉線に於けるが如き山岳多き地方の畑地に在りては肥料の運搬に馬車を使用し得ず馬又は牛の背によることとあり。

二 施肥法 施肥法を分ちて二種とす、撒糞(或は揚糞)律糞(或は濾糞)是れなり、撒糞は圃場に堆積したる肥料を全面に撒布する方法にして是に依る時は勞力を節減し得れども有效窒素分を消散せしむる缺點あり、該法を行ふには鐵銑又は木掀と稱する農具を用ひて圃場に堆積せる肥料を掬ひ厚薄なき樣全面に撒布す、然る時は肥料は多く畦間に落ちて恰も連肥したる狀を呈するなり、この揚糞は肥料の豐富なる地方に專ら行はる。

律糞とは日本内地に於ける條溝内に連肥する方法と同一にして普通馬にて運搬し來れる肥料を一一畦又は一二畦の間隔を以て堆積し置きたるものを更に五乃至六畦宛に左右に等分し之を糞筐と稱する柳條製の籠に入れ適宜に搖り動かしながら條溝内に連肥するものなり。粟播種前土地を膨軟ならしめるために耕鋤する前述の地方は其の耕鋤の際律糞によつて施用せられたる肥料を土壤内に鋤きこむものなり。

施肥量は各地方により又は土地の良否により或は前作物の種類によりて變化あるは當然なり。

三 土糞の成分 土糞の成分により又製造各戸により相異ること甚しく其の平均成分等を知ること困難なり、而して土糞は取扱ひの關係上施肥の際には殆んど風乾體をなせども運搬期

に於ては水分を含有すること多く、前述の施肥量は盡く運搬の際の重量を以て現はせるものなり、今運搬當時の水分を含有するものとしての成分表によりて直に施用三要素を計算することは誤差甚しき故運搬期に於ける水分量を大凡三〇%として之を換算する時は次の如し。

第三十五表　土糞成分表　(公主嶺農事試驗場分析)

地名		有機質 %	全窒素 %	アンモニア態窒素 %	全燐酸 %	加里 %
金州	一	三・八四五	〇・二六七	〇・〇二四	〇・三六三	〇・四二二
	二	七・五二二	〇・二四四	〇・〇二八	一・〇九三	〇・三八七
	三	六・八一四	〇・四三五	〇・〇六六	〇・二一九	〇・二五三
瓦房店	一	六・五一九	〇・四一〇	〇・〇七六	〇・二九八	〇・三〇六
	二	四・八八六	〇・〇九八	〇・〇一八	〇・三一一	〇・五一八
熊岳城	一	五・五六六	〇・一五六	〇・〇一一	〇・三九一	〇・四七三
	二	四・八七一	〇・〇六七	〇・〇一一	〇・五七〇	〇・六二七
蓋平		六・七七九	〇・一四六	〇・〇一一	〇・一八四	一・〇九三
大石橋		六・九九四	〇・五七三	〇・〇八二	〇・三一〇	〇・六七四
牛家屯	一	九・八八四	〇・五九五	〇・〇一五	〇・二三八	〇・五八六
	二	一一・七七四	〇・六五九	〇・〇九〇	〇・三三九	〇・六七四

遼陽	一	五・七三七	〇・二七六	〇・〇一一	〇・九〇四	〇・三七九
	二	六・二三三	〇・五六七	〇・〇二六	〇・八八九	〇・七一八
鐵嶺	一	六・九三六	〇・二三九	〇・〇二一	〇・三〇四	〇・五二七
	二	五・〇〇三	〇・二六九	〇・〇一八	一・一五〇	〇・四六八
開原		七・三八四	一・〇〇一	〇・〇二四	一・四四四	〇・四一九

今本場に於て生産せる土糞の成分を掲ぐれば次の如し。

水分	全有機質	全窒素	揮發性窒素	不揮發性アンモニア態窒素	全燐酸	水溶性燐酸	枸櫞酸アンモニアに溶解せる燐酸	不溶性燐酸	加里
二七、六一二	一四、〇三四	〇・六二九	〇・〇五四	〇・〇二六	〇・四二五	〇・〇六三	〇・二〇一	〇・一六一	〇・七六〇

以上の分析表によりて見るに三要素平均含量は大約窒素〇・三五三、燐酸〇・四八九、加里〇・四六三にして窒素最も少く燐酸加里は大差なし、而して窒素は前述の如く主として有機態窒素よりなり其の性質遲效性にして燐酸は溶解性燐酸割合に多きを以て其の肥效大なるべく加里も相當の肥效を上げ得るは明かなれば土糞は速效性窒素を幾分補給する時は完全肥料と謂ふを得べし。

土糞は斯くの如く直接肥料として完全に近かきものなる外に間接の效果としては土壤の理學的性質を改善するの效あり、現在滿洲農業の現狀より見て土糞は極めて重要にして缺くべか

らざるものと云ふべし。

第四項　輪作法

粟は高粱と同樣連作に堪ゆる力極めて强きものなるも圃場地力の維持上又は作物の管理他作物輪作の關係上大豆、粟、玉蜀黍、陸稻等と輪作をなすを普通とす、現今滿洲に行はるゝ輪作法は肥沃なる土地には三年輪作を行ひ瘠薄の度を加ふるに伴ひて輪作の年數を增加するを常とす今滿洲各地に於ける輪作法を示せば次の如し。

第三十六表　滿洲各地の輪作

地方名		第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	
金州	一	玉蜀黍(施)	高粱(施)	大豆(無)			施は施肥 無は無肥
	二	同	粟(施)	高粱(施)			
	三	同	同	同	大豆(無)		
周水子	一	同	同	同			
	二	大豆(無)	高粱(施)	粟(施)			
瓦房店	一	玉蜀黍(施)	同	同	大豆(無)		
	二	同	大豆(無)	高粱(施)	粟(施)		

熊岳城	一	高粱(施)	粟(施)	大豆(無)	玉蜀黍(施)		
	二	大豆(無)	高粱(施)	粟(施)			
蓋平	一	高粱(施)	粟(施)	玉蜀黍(施)			
	二	同	同	大豆(無)			
大石橋	一	大豆(無)	高粱(施)	粟(施)			
	二	高粱(施)	大豆(無)	高粱(施)	粟(施)	大豆(施)	
海城		同	高粱(施)	大豆(施)又は粟(施)			
營口	一	同	大豆(無)	粟(施)	大豆(無)	高粱(施)	
	二	同(施又は無)	高粱(施)	大豆(無)			
遼陽		高粱(施)	粟(施)	同	高粱(施)		大豆には隔年施肥す
奉天	一	同	大豆(無)	粟(無又は施)	同	大豆(無)	
	二	同	高粱(施又は無)	大豆(無)	粟又は高粱(施)		
	三	同	大豆(無)	粟(無又は施)			
鐵嶺	一	同	同	高粱(無)	高粱(施)	大豆(無)	
	二	粟(無又は施)	同	高粱(施)	大豆(無)		
	三	大豆(無)	高粱(無)	粟(施)			
開原		同	同	粟(無)			
四平街		同	同	同			
	一	同	同	同			

公主嶺	二	大豆(無)	高粱(無)	黍又は稗(無)		
	三	高粱(無)	大豆(施)	粟(無)		
	四	陸稻(施)	同	高粱(無)	粟(無)	
	五	大豆(施)	玉蜀黍(無)	同	同	
	六	同	大豆(施)	同	同	
長春	一	同	高粱(無)	粟(無)		
	二	同	同			
本溪湖	一	同	高粱(施)	同	玉蜀黍(施)	
	二	同	同	同		
	三	同	粟(無)	高粱(施)		
	四	同	同			
橋頭	一	同	高粱(施)	同	粟(無)	大豆(施)
	二	同	同	粟(無)		
連山關	一	玉蜀黍(施)	大豆(施)			
	二	大豆(施)	高粱(施)	同		
鳳凰城	一	粟(無)	同	玉蜀黍(施)	大豆(施)	
	二	玉蜀黍(施)	大豆(施)			
鷄冠山	一	大豆(施)	玉蜀黍(施)			
	二	高粱(施)	粟(無)	大豆(施)		

五龍背	一	玉蜀黍(施)	大豆(施)				
湯山城	一	同	稗(無)				
湯山城	二	大豆(施)	玉蜀黍(施)				
石橋子		同	高粱(施)	粟(無)			
蘇家屯	一	同	高粱(無)	高粱(施)	粟(無)		
蘇家屯	二	同	同	粟(無)			
新民		同	高粱(施)	同			
錦州		同	同	同	棉(施)		
吉林	一	粟(無)	小麥(施)	大豆(施)	稗(無)		吉林省にては二、三年に一回施肥するのみ
吉林	二	同	煙草(施)	同	玉蜀黍(無)	粟(無)	
吉林	三	玉蜀黍(無)	大豆(施)	高粱(無)	粟(無)		
吉林	四	大豆(施)	粟(無)	玉蜀黍(施)			
吉林	五	粟(無)	小麥(施)	大豆(施)	高粱(無)		
鄭家屯	一	大豆(施)	高粱(無)	粟(無)			

第五項　管理

一　除草及び間引

除草は鏟草又は鏟地と稱す、其の方法は各種作物とも殆んど同一なり、一般に丁寧にして殊に

粟の栽培に在りては一本の雜草だに存せしめざる樣注意すべきなり。

除草機は吾が草刈鎌即ち「ホー」に類似せるものにして鋤頭(農具の部參照)と稱し柄と刄とは角度小にして刄は鋭きが故、草を刈るに宜しく除草用としては最も良好なるものなり、本邦製の草刈鎌或は外國製「ホー」に比して實用上に於て遙かに優秀なりと斷言しても可なり。

除草法は畦間を進みつゝ鋤頭を以つて雜草を其の根元より刈り去るなり、而して本邦の草刈鎌を用ふる時と異なり、腰を使ふこと少なく能率增進し疲勞少なし、中國人は刄を斜にして叩き或は曳きて草を芟除すること甚だ巧みにして且つ頗る迅速なり、除草回數は生育期間の長短、雜草の多少、勞力の關係、土地の高低等によりて變化するものなりと雖も大體各地方大差なし、安奉線の各地方に於ては例外に少なく二回なれど他の地方は三、四回の除草を見る。

粟は播種してより二週間位にして發芽し草丈一、二寸伸長の頃第一回の除草をなし傍ら第一回の間引をなすなり。五月上旬播種の地方に於ては播種後二十日餘の五月下旬又は六月上旬第一回の除草と間引とをなし更に二週間位を經て第二回の除草と間引とを行ふ、第一回の間引は密植に過ぐる部分及び不良苗を除去し第二回目の間引は生育良好なるものを殘し適當の間隔を保たしめて第三回目の除草は六月中旬頃より六月下旬迄なれど北方にては七月上旬に及ぶ。

二　中耕及び培土

中耕は鏟地(或は趟地、鋤地)と云ひ培土は被壟と云ふ、兩者は同時に行はるものにして俗に單に

鏟地と云ふ、鏟地は除草直後行はることあれども四、五日後して行はるゝを常とす、これ除草後根元を日光に晒し且つ除草せる雜草を枯死せしめんためなり。

普通犂丈は馬二頭に曳かしめ壠溝内を耕す、溝の土は左右に分かれて作物根を覆土さするが故に中耕と同時に培土をも行ふ理なり、併し第一回の鏟地に際しては粟尚幼稚にして覆土淺きを要するの際には犂は其の鏵(鏵子)の兩角を缺きたる所謂剗子と稱するものにして中耕を行ふことあり。最後の中耕培土に當りては犂先の上面に利鐺頭と稱する撥土板を附することあり、鑄鐵製にして山形をなし其の角頂は鏵の先端と同方向に向ひ着す、南滿洲北部地方にては高粱稈等を長さ一尺內外徑二寸位に適宜束ねたる草把と稱するものを犂丈の撥土板の位置に犂の方向に直角に附着し利鐺頭の代用とすることあり共に土壤を良く左右に分け粟根に充分覆土するを得、中耕培土の回數は普通二回なれど三回行ふ地方も亦多し、四回行ふ地方は安奉線地方の如く山岳地に見らるるのみにて稀なり。

第六項　收穫及び調製

粟完熟する時は先づ鎌を以て根元二、三寸を殘して刈り周圍五、六尺位の一束となし粟稈を以て之を縛す、此の束を梱と云ひ束とすることを梱上と稱す、梱は五乃至十を一纏として穗を上に交互に立て掛け乾燥追熟せしむ、斯くして十日又は二十日を經て馬車、馬背、掉筐(擔笊)等により脫穀場に運び來り適當の位置に推積し置くものなり。

粟の收穫期は滿洲の各地によりて多少の遲速あれども大抵九月上旬より九月下旬迄なれど其の年の氣候の乾濕又は氣溫の高低等によりて多少の變化は免れざるなり。

次に滿洲在來の調製場は先づ農家各自の住宅に近き圃場或は其他の作業に適當たる地點或は廣き屋敷を有するものは其の一部を選び粟の收穫に先たち豫め地均を施して平坦にし其の上を馬騾等に曳かしめたる石製ローラー(石頭磙子)を以て丁寧に鎭壓し地表乾燥に過ぐる時は屢々撒水して更に縱横にローラーを操縱して鎭壓に努む、此の作業を數日間時々繰り返す時は遂に漆喰を施せるが如く固まる、斯くして出來上りたるものは支那人の所謂場院或は場園と稱する脫殼場なり收穫せられたる作物は粟に限らず全部此の所にて脫粒調製す圃場より運搬し來れる粟はこの場院内に圓形に敷き擴げ小形の馬騾一乃至二頭に石頭磙子(石製ローラー)を曳かしめ脫粒す度々木叉子と稱する木製のフオークを以て粟の稈を反轉し完全に脫粒せしむるなり、而して大部分脫粒するに至れば穗殼は木叉子又は竹耙子(竹製熊手)又は木耙子(木製レーキ)等を使用して掻き集め脫粒せる粒は賞板を以て一、二箇所に耙集し、木揚𣚻(木製ショベル)にて空中高く投げ上げ風力によりて種實と稃、塵芥、土砂等と選別す、脫粒の際連枷を以つてローラーの作業を補助するものあり。又は連枷を單用して脫粒するものあれど此れは稀れなり。

第二節　貯藏及び搬出

脫殼終るや穀物は直に市場に出すことあれども多くは貯藏す、滿洲農民の穀物貯藏法に種々

あり(一)屋內に貯藏するもの(二)は戶外に囤と稱するものを造りて此の內に入れるもの(三)は倉子(土壁子)と稱する一種の穀物倉庫に貯藏するもの(四)は吉林省內に於て見るものにして深さ五尺橫五尺縱四尺位の大なる木箱に入れるものなり、第一の方法は家屋內の一隅に炕上なる時は高粱蓆子(高粱の稿稈を以つて製したる蓆)を敷き若し土間なる時は木材又は粟稈等を適宜の厚さに擴げて濕氣を防除したる上に蓆子を敷き此の處に堆積す、周圍に摺子と稱する高粱の稈を以つて製したる細長き帶狀の蓆にて適宜の大きさに圓形の圍を作り其の內に穀物を入れる、卽ち小なる囤なり。

第二の方法は屋外囤を作りて貯藏するもの。第三の方法は倉子(土壁子)と云ふ一種穀物倉庫內に貯藏するものなり。以上の貯藏法中囤積は最も普通に行はるゝ方法にして支那人特有の穀物倉庫にして建築費の低廉、構造の簡單、收容力の大なるものなれば滿洲の如き乾燥する所に於ては安全にして且つ便利なるものとす今左に其の構造及び建築費に就き述ぶれば次の如し。

1　材　料

囤積の材料は頗る簡單にして且つ安價なる物のみなり其の主要なるもの左の如し。

一、高　梁　稈　是れは防濕の目的のために底部に敷くに用ふ。

二、摺　　　子　此のものは高粱稈にて編みたる幅八、九寸長さ八、九十尺の細長き帶狀のアンペラにして最も主要なる材料にて囤の外壁を造るに用ふる。

三、ア　ン　ペ　ラ　高粱稈製にして幅五尺、長一丈二尺位を普通とし底部に敷くに用ふる。

四、煉瓦或は石塊　基礎を築くに用ふる。
五、丸　　太　底部の枕木と爲す。
六、篾　　籮　柳條製の籠にして小形の囤の底部に使用す。

2　囤の構造及び築造費

一、小形囤(屋內用)　是れは屋內貯藏用或は穀物商の店頭に小賣用の穀物を入れ置くに適す其の構造は土間或は炕上に、煉瓦或は石塊等にて基礎を築き其の上に篾籮を置きアンペラ二枚を十字形に敷き摺子を篾籮の內壁に沿ふて巻き一方の緣を篾籮に麻絲或は高粱稈を以つて固定し其の中へ穀物を入れ量を增加するに從ひ摺子を巻き上ぐるなり、小形のものは直徑三尺高さ三尺位にして二石內外を貯藏するに足る、摺子の巻き方は幅九寸なれば其の半分卽四寸五分を內部に巻き込み半分を上に出し而して穀物の增減に從つて自由に巻上げ巻き戻すものなり、使用年限五、六年とす。

今五十石を貯藏する小形囤子を大正十五年十一月公主嶺相場によりて築造するに要する費用次の如し。

材料	數量	價格	金票	備考
高粱稈	五〇束	元 二・〇〇〇	円 〇・三〇〇	塊算率　六・七〇
アンペラ	六枚	一二・〇〇〇	一・七九〇	

摺子	四巻	一六・〇〇〇	二・三九〇
麻絲	一斤	〇・七〇〇	〇・一〇四
敷石	一〇〇〇斤	五・〇〇〇	〇・七五〇
敷木		六・〇〇〇	〇・九〇〇
苦力	二人	四・〇〇〇	〇・六〇〇（特別の技術を要する故高價なり）
計		四五・七〇〇	六・八三〇

二、大形囤　是れは庭內又は野積場に造るものにして三百乃至五百石を貯藏するに足るものなり玆には三百五十石卽ち三車積のものを例に採らんとす其の築造法は先ず適當の地に石塊丸太等にて基礎を造り其の上に圓形に高粱稈を一尺許りの厚さに敷き更に其の上にアンペラを八枚敷き、アンペラの先端は圓形に卷き上げ內壁より摺子を卷き上ぐること小形囤に於けると同じ唯摺子の三分の二は內部に隱れ外部に現はるゝは三分の一位にして所々小杭を以つて止めたる點を異にするのみ。

囤內に穀物を充實し終ればアンペラにて覆をなし其の上に高粱稈、葦等にて屋根を葺きて雨露を凌ぐ其の使用年限五、六年なり、今五百五十石を貯藏し得る大形の囤子の築造費を大正十五年十一月公主嶺相場によりて計算せるに次の如し。

（高二十一尺、幅二十尺）

種目	數量	價格 奉票	價格 金票	備考
高粱稈	一〇〇〇束	四〇・〇〇元	五・九七〇円	換算率　六・七〇
アンペラ	三九枚	六〇・〇〇	八・九六〇	
摺子	四〇巻	一六〇・〇〇	二三・八八〇	
引止用縄	五斤	三・五〇	〇・五二〇	
數石	一〇〇〇〇斤	五〇・〇〇	七・四六〇	
數木		六〇・〇〇	八・九六〇	
苦力	二〇人	四〇・〇〇	五・九七〇	
計		四一三・五〇	六一・七二〇	

第三の倉子(寫眞版參照)は庭內或は野積場の高燥なる土地を選び圓形に木柱を組み高粱稈にて其の側壁及び屋根を作り側壁は其の內外より泥土を塗り以つて濕氣を防ぐ用に當て上部には傘狀の屋根を葺く中央より稍上部に二尺乃至三尺の方形又は短形の一箇の小窓を付け前より梯子を懸けて穀物の出納をなす、倉子の太さは普通のものは徑一間半乃至二間、高さ一間半內外なり。

高粱を市場に出すには麻袋子と稱する麻布製の袋か口袋子と云ふ木綿製の袋に入れ馬車に積載して運搬す。土地凍結して通行に便たる關係上冬季間に散集するもの多し、麻袋子は其の口

を縫合する時は日本桝七斗内外を包容す、口袋子は日本桝六斗内外を入れるを得るなり。

第三節 精白

精白機は碾子と云ふ石製の平圓板と「ローラー」とより成り「ローラー」は板上の中央に立てたる棒を中心として廻轉す、碾子を据え附けある室を碾房と稱し、此の中央部に石製の平圓板を据え其の周圍を一小驢が「ローラー」を洩きて旋廻し得る如くす、この平圓板は碾板と稱し、直徑四、五尺乃至七、八尺厚さ五寸乃至一尺あり、質堅固なる石を粗削となせるものなり、下部には石灰土等を盛りて床となし其の上に安置す、板面の高さは地上約二尺内外あり「ローラー」は碾砣子と云ひ長さ一尺五寸乃至二尺直徑一尺五寸内外にして碾板の半徑より稍短きを要す、石質堅牢にして重量大なるものを以つて製せらる、其の中軸に沿ひて細き孔を穿ち之に木桿を貫く此の木桿の一端は碾板の中央に立てたる棒に麻繩、針線、木等を以つて輪形になし、此を連絡し、他の一端は碾板の周圍を廻る驢に依つて曳かしめ板の中央に立てたる棒の周圍を回轉すると同時に碾砣子の回轉する如く裝置す、碾子を挽く作業を堆碾子と云ひ粟の際には堆谷子と稱す。

今當場に於て施行したる精白試驗を記述すれば次の如し、而して精白用として精撰せる粟をとり碾盤上に敷き擴げ碾砣子の回轉を始む、此の作業を約四十分間反覆する時は精白作業を終るなり、故に此の際砣子の進行を止め碾盤上より糠及び粟の混合したる儘簸箕にとりて風撰を行ふことと二回にして精白粟と糠とを分離す。今其の結果を表示するに次の如し。

品種名 ＼ 項目	原料 重量（瓩）	原料 容量（立）	精白粟 重量（瓩）	精白粟 容量（立）	碎精白粟 重量（瓩）	碎精白粟 容量（立）	糠 重量（瓩）	糠 容量（立）	精白歩合 重量（%）	精白歩合 容量（%）	一立重量（瓦） 粟	一立重量（瓦） 精白粟	一立重量（瓦） 碎粟	一立重量（瓦） 糠	所要時間（分）
薄地租	一一・八五〇	一七・八一九	八・七一五	一一・一〇二	〇・三一〇	〇・四八	二・四八〇	八・八六	七三・五四	六二・三〇	六六五	七八五	六五〇	二八〇	三八
叩根	一三・一五〇	一八・六九二	八・八六五	一一・二二一	〇・六三〇	〇・九〇	二・五三五	八・八九	七二・九六	六〇・〇三	六五〇	七九〇	七〇〇	二八五	四九
水裡站	一一・七五〇	一七・六六九	九・二三〇	一一・六一〇	〇・四三〇	〇・六二	二・〇六〇	七・七七	七八・五五	六五・七一	六六五	七九五	六五〇	二六五	四二
白砂	一一・七〇〇	一八・二八一	八・九四〇	一一・三一三	〇・二八五	〇・五五	一・九九〇	六・八六	七六・四一	六一・八八	六四〇	七九〇	七〇〇	二九〇	二八
蓋州紅	一〇・九〇〇	一八・三一九	七・五六五	六・九四〇	〇・六六〇	一・〇二	二・三〇〇	八・六八	六九・四〇	三八・四八	五九五	七七〇	六五〇	二六五	三三
長縄緊	一一・三〇〇	一七・九九三	七・六一五	九・五七九	〇・六一〇	〇・九四	二・四一〇	八・〇三	六七・三九	五三・二四	六二八	七九五	六五〇	三〇〇	二八
八大葉	一一・一〇〇	一八・一九六	七・八八五	九・九八一	〇・七一五	一・一〇	二・三五〇	八・二五	七一・〇四	五四・八五	六一〇	七九〇	六五〇	二八五	二五
牛尾把黄	一三・二〇〇	一七・九四一	八・六五〇	一一・〇一九	〇・八四五	一・三〇	二・二〇〇	八・一五	七〇・九〇	六一・四二	六八〇	七八五	六五〇	二七〇	五四
浅彩紅粘	一三・〇五〇	一八・一七四	八・七六五	一一・〇九四	〇・四六〇	〇・六六	二・三一〇	八・一一	七二・七四	六一・〇四	六六三	七九〇	七〇〇	二八五	四八
御穀	一三・二〇〇	一八・二六三	八・三九〇	一〇・六二〇	〇・七四五	一・〇六	二・八二五	九・四一	六八・七七	五八・一五	六六八	七九〇	七〇〇	三〇〇	四四
猴腿子	一一・一〇〇	一八・四〇七	八・二三五	一〇・四七七	〇・四三五	〇・六七	二・一九〇	七・八二	七四・一〇	五六・九二	六〇三	七八五	六五〇	二八〇	二八
黒粘	一一・七〇〇	一八・四二五	八・三三五	一〇・八九五	〇・三四五	〇・五三	二・五四九	七・二七	七一・二四	五九・一三	六三五	七六五	六五〇	三五〇	六五
新臺白	一一・八五〇	一八・四二九	八・七九五	一一・二〇三	〇・六五五	一・〇一	二・二三五	八・二八	七四・三三	六〇・七九	六四三	七八五	六五〇	二七〇	三七
龍鳳擋	一〇・九〇〇	一八・〇七六	七・七八五	九・九一七	〇・七六五	一・〇九	二・二一五	八・五二	七一・四二	五四・八六	六〇三	七八五	七〇〇	二六〇	二三
刀把齊	一三・四五〇	一八・五五四	九・五一五	一三・〇四四	〇・五四〇	〇・七二	二・三二五	八・六一	七六・四三	六四・九一	六七二	七九〇	七五〇	二七〇	五〇
平均	一一・六八〇	一四・八八二	八・四八五	九・八六八	〇・五六九	〇・八四三	二・三三一	八・二三	七二・六一	五八・二五	六四一	七八〇	六七三	二八四	三九

以上表示せるが如く粟品種の異なるに其の精白步合に於ても差異あるを認めり而して粟一斗の精白所要時間に於ても品種に依り大小の長短あれども一回分の精白時間は大約四十分間位にして一日の作業時間を九時間と見做せば其の工程驢一頭曳にて一石三斗內外の精白を見る。然るに驢二頭を使用し午前午後交代にて曳かしむるとせば一日一石五斗內外の精白は難事に非ずと云ふ。

第四節　農　具

粟栽培に使用せられる各種農具を概說すれば次の如し。

一　犂　丈

犂丈は鋤墾、中耕、培土等其の用途甚だ廣く滿洲に於ける農具中の最も主要なるものなり、之を分ちて下述の四種とす。

大犂丈、種犂(反犂)鋤犂、小耘犂之れなり、大犂は專ら新開墾地方に用ふる犂にして開墾若しくは開墾後間もなき土地に使用す、犂體大にして全體の構造最も堅牢なり、種犂は大犂に比較し小形にして南部地方にて作畦に用ひられ鋤犂は尙小型たり、而して中耕培土に專ら使用せらるるが又南部地方にては播種の際に用ふ、小耘犂は蔬菜栽培に主として使用せられるなり。

二　鎬　頭

鎬頭は錯頭とも書し我國に於ける金鍬中の唐鍬に類するものにして耕鋤、中耕、培土栽植、採掘、

肥料の切替等種々な作業に之を使用す。

滿洲に於ては土地の鋤墾は殆んど犁によりてなされ鎬頭は小地積の場合か圃場にある作物根茱掘取の場合に使用せらる。

三　鐵　銑

鐵銑は又鐵鍬とも稱し土地の掘起、土糞製造、肥料撒布、肥料、土砂等の馬車に積込み等に使用せらる、我國の金鍬に類し、鏟板の全體錬鐵製なり、其の表面は内部に向ひ稍窪み先端少しく幅廣く且つ僅に前方に彎曲せり。

四　木頭輥子

木頭輥子は木製の「ローラー」にして專ら高粱播種後の鎭壓を行ふに用ふるものにして其の構造は滑面をなせる、木製の圓壔に框を架し驢、馬、騾をして之を畦上に曳かしむるものなり、輥子の用材は楡木、樺木、古木等にして就中楡木を用ひたるもの多し。

五　石頭磙子

石頭磙子には脫穀用及び鎭壓用の二種あり。

(イ)　鎭壓用石頭磙子

其の形狀は木頭輥子と同じく石製平滑面をなせる圓壔と其の廻轉を助くるため附したる框とよりなり、大小種々あり其の石材は中國人の俗に白石頭、小豆石、青石頭等と稱し、花崗岩、閃綠岩の類なり。

（ロ）脱殼用石頭磙子

其の名稱鎭壓用石頭磙子と同一なるため之を區別するため打揚磙子と呼ぶことあり、其の構造及び用材は前者と等しきも唯其の圓壔石の面には縱に目を荒く刻み其の一端より他の一端に次第に太くし牽引の際には細き方を内側として圓形の廻轉に便ならしむるなり。

六　壊把

壊把は滿洲北部地方にて粟、高粱等を播種する場合に用ふるものにして前年の壠臺を鋤割りて溝を造り之に下種する所謂壊種に使用する器にして其の構造は木製の框に壊把心子と稱する鏟を有する柄を架したるものなり。

前端の一角には扶把若くは手把杆子と稱する木杆あり使用者は片手に之を把持して壊把體の安定を保ち又は其の運動を支配す、壊把心子は鑄鐵製にして木葉形をなし其の後端に柄を嵌入すべき床部を有し先端は僅に前方に彎曲し表面は中央より後方に斜面を成し宛も小なる雙鏵を成せり。壊把は通例二頭の役畜に引かしめ一日の工程普通二天地(一町二反)なり。

七　拉子

拉子は壊把若しくは劐子にて作條を開き下種せる畦上を曳きて覆土の用をなすものにして彎曲せる自然木の中央に柄を設け兩端に曳綱を繋ぎたるものにして粟、高粱覆土には一般に之を使用す、之が使用は曳綱を約十尺内外の間隔を置きて壊把若しくは犁丈の後端に結著し使用者は柄を把持して運行す、卽ち壊把にて作條を切開すれば其の直後に於て下種兒的下種しつゝ

進み其の後方に覆拉子的ありこの拉子を把持しつゝ覆土し其の後を踏みつけつゝ後に從ふなり。

八　收子

收子は其の用途拉子と同じく播種後の覆土に用ふるものにして主として壞把使用の際用ひられ剿種に使用すること稀れなり。

九　點葫蘆

粟、高粱の播種に專ら之れを使用す、其の構造は葫蘆(夕顏の類)の中身を拔き取りて空となしたるものに木製の管を貫きたるものにして管は長さ三尺六、七寸太さ一寸五、六分の方形なるものにて先端より五、六分の上面に七、八分の方形の穴を穿ち針金又は細き竹等を格子形に編みたるものにて之を蓋ひ一時に多量の種子の出ずるを防ぎ又先端にては種子の撒下作用を助くる爲めに高粱穗の粒を落したる穗殼を纏ふ、其の葫蘆內に於ける部分は種子を管內に出で易からしむるため其の上下兩側を削り取れり、而して葫蘆の中腹には徑の一寸許の孔を穿ちて種子の出入のため栓を裝置す。

十　把斗子

把斗子は柳斗子とも稱し柳の小枝を以つて編みたるものにして上部緣邊には幅一寸五、六分の薄き柳木片又は楸木皮を纏ひ柳木片又は柳枝の把手を附せり、粟は概ね點葫蘆を播種に使用すれども然らざるときは木器に種子を入れ手にて摑み出しつゝ播下するものなり。

十一　木掀

木掀は全體木製にして柄と鏟板とは同一の木材より成る木材は通例河柳木と稱する木を用ひて製せらる。

十二　糞筐

糞筐は柳條製にして上面に丁字形に取手を附したる楕圓形の淺き笊なり主として土糞の運搬に用ふ。

十三　鋤頭

鋤頭は本邦在來の萬能又は外國の「ホー」に相當する除草器なり、刀部は形種々あれど大別して弓狀形をなせるものと直線形をなせるものとの二種あり、刀部の弓狀形をなすものは主として滿洲の北方に用ひられ後者は主として南方に使用せらる。

之を使用するには體を稍前方に屈し柄を兩手に把持し曳きて地表を側り兩端の尖りたる部分にては或は堀りて芟除し或は作物の根際の除草をなし又は幼苗を間引くにも亦用ひらる、支那農夫の鋤頭を使用するは極めて巧妙快速なること驚くばかりなり。

十四　鎌刀

鎌刀は本邦に於ける普通小鎌の類にして作物の收穫に使用せらる。

十五　掐刀

掐刀は一名捻刀と稱し專ら高粱の穗を切りとるに使用するものなり錬鐵板製にして先端稍

幅廣き方形をなし後端に近き處に二箇の小孔ありて革又は布類にて覆ひ被せたる上より細紐の類にて小孔を貫きて之を縫付け、且つ一面に環を造り使用者は右手の拇指を環に挿入し他の指頭及び左手にて粟、高粱其の他の穗首を握り各々指頭を働かして之を切り取るものとす。

十六　連枷

連枷は俗に連筋兒と稱す、本邦の連枷と同じく穀物を打ちて脫粒するの用をなすものなり、滿洲に於ては作物脫粒は一般に石頭磙子によりて行ふこと多く、之を使用するは家畜なき小農の場合か又は石頭磙子を用ふるに足らざる少量の場合に於て使用するなり。

十七　木叉子

木扠子は二股を有せる自然木製なり、其の用途は主として脫穀の際に穗又は稿稈等を圃場に敷き攤げ又は飜轉するの用をなす、用材は槐木、楡木、柞木等を用ふ。

十八　賞扒

賞扒は一に賞板と稱す、脫穀せる粒の精選を行はんが爲め穀粒圃園の一端に耙集し又の場園其の他に敷き攤げて乾燥せしむる等の場合に用ふるものにして其の大小により大賞扒、小賞扒の二種あり、大賞扒は主して畜力を用ひて牽引す、用材は輕きものを用ひ柳木、楊木、楡木等最も多し。

十九　揚掀

揚掀は又木揚掀とも稱し脫穀せる穀粒を風力を利用して精選するに用ふる器具にして形狀

木揚と殆ど同じきも木揚は柄と鏹板部は連續せる同一の木板にて造らるゝに反し、揚揚は鏹板に柄を附裝したるの差あるのみ、又木揚は厚身にして堆糞の取扱等に用ふべく造られたるものなれども此の兩者は各々混同して使用せらるゝ場合尠なからざるを以つて之を區別するの要なきも揚揚は風選用として一般に用ひらる。

之を使用するには兩手に把持して種實を空中高く掬ひ上げ上下の途中に自然の風力にて稃皮及び塵芥を吹き去らしめて精選す。

二十　簸　箕

簸箕は本邦の箕にして主として風選の充分ならざりし穀物又は小量の穀物を稃皮、塵芥、其の他と穀物とを選別するに使用せられ、材料は河柳條と稱する柳枝製なり。

二十一　磙　子

磙子は石製「ローラー」を平石圓盤上の中央に立てたる心棒により盤上を廻轉せしむる裝置にして主として穀物の精白に用ふ。

二十二　竹　杷　子

竹杷子は主に秋收穫後の圃場に於ける落葉、枯草等を掻き集むるに用ふるものなれども亦脫穀の際作物の穗殼の集散を行ふに使用す。

備考　公主嶺農事試驗場編「滿洲在來農具」參照せられたし。

第八章　農事試驗成績

第一節　公主嶺農事試驗場試驗成績

大正二年に設立せられ同三年より事業開始せる公主嶺農事試驗場は滿洲に於ける農業に關する各種の試驗及び調査研究を行ひ其の結果を廣く一般に知らしめ且つ改良品種及び優良品種の奬勵配布を行ひつゝあり。特に粟に關しては昭和三年度より大々的に純系分離による改良事業に從事しつゝあり。遠からずして改良粟が一般に配布せらるべし。

今粟栽培に關する試驗の中、品種試驗、表土攪擾試驗、耕鋤深淺試驗、地力減耗試驗、肥料試驗、經濟試驗等に就いて各年別に其の成績を列記すれば次の如し。

一、一般耕種梗概

整　地　　播種當日一回耕鋤

播種量　　陌當八瓩(反當七合)

播種法　　條播

畦　幅　　六二・五糎(二尺)

肥　料　　陌當堆肥四、八〇〇瓩(反當一二〇貫匁)

除草及中耕　三回

培土　二回

供試地積　一區〇·五亞宛二區

第一項　品種試驗

目的　本試驗は各品種の優劣を比較調査し以て優良なる品種を選出するを目的とす。

種子取寄年度及取寄先

品種名	取寄年度	試驗開始年度	試驗年數	取寄先
窩裡青苗	大正三年	大正三年	八箇年	熊岳城分場
大斗黃	同	同	六箇年	同
繩錦	同	同	同	同
白沙	同	同	九箇年	同
毛	同	同	四箇年	同
黃	同	同	六箇年	遼陽
柳根赤	同	同	四箇年	奉天農事試驗場
龍爪	同	同	同	同
六十日	同	同	同	同

雙廟子	大正三年	大正三年	四箇年	雙廟子
八面城	同	同	九箇年	八面城
鷺鷥樹	同	同	四箇年	鷺鷥樹
紅穀	同	同	同	遼陽
青苗粘	同	同	八箇年	熊岳城分場
紅苗粘	同	同	四箇年	同
北海道糯	同	同	同	札幌植産園
昌圖三號	大正二年	大正六年	七箇年	昌圖
薄地租	大正三年	同	十箇年	公主嶺
叩根	同	大正三年	七箇年	同
刀把齊	同	同	同	同
水裡站	同	同	同	同
龍鳳擋	大正六年	大正十一年	六箇年	唐家房
八大葉	同	同	同	普蘭店
牛尾把黃	大正四年	同	同	靠山屯
黃粘谷子	同	同	同	雙榆樹
淺彩紅粘	同	同	同	靠山屯
御穀	同	大正十四年	三箇年	公主嶺附近安家窩棚
蓋州紅	大正六年	同	同	雙臺溝

長縄緊	大正四年	大正十四年	同	大泉眼
猴腿子	大正六年	同	同	關東州窪子店
新臺白	大正四年	同	同	新臺子
黒粘	同	同	同	公主嶺

大正三年度

品種名	播種期	發芽			出穗期	成熟期	作況					反當收量	
		期	良否	整否			夏至	大暑	二百十日	秋分	收穫期	子實容量	稈重量
	月 日	月 日			月 日	月 日	米	米	米	米		石	貫
窊裡青苗	五、八	五、三〇	稍良	稍整	八、七	九、一五	〇・一六	〇・六九	一・二一	—	—	一・九一六	一一七・四二〇
大斗黄	五、八	六、一	同	同	八、一〇	九、一五	〇・一六	〇・六三	一・二六	—	—	一・九三九	一二九・六二〇
縄錦	五、八	六、一	同	同	八、八	九、一五	〇・一六	〇・七四	一・四八	—	…	二・六五三	一八四・八九〇
白沙	五、八	五、三一	同	整	八、五	九、一六	〇・一五	〇・七九	一・三五	—	—	二・八六八	一八三・一九〇
毛	五、八	五、三〇	同	稍整	八、一一	九、一五	〇・一三	〇・六九	一・四六	—	—	一・七九一	一五八・一二〇
黄	五、八	五、三一	同	同	八、一五	九、二一	〇・一九	〇・六二	一・三四	一・四〇	—	一・九九八	一七五・〇七〇
白	五、八	五、三〇	同	同	八、一三	九、二一	〇・一九	〇・七一	一・四七	一・三四	—	一・七三五	一六七・〇六〇
柳根赤	五、八	六、一	同	同	八、一四	九、二一	〇・一七	〇・五七	一・〇八	一・一八	—	一・二八〇	九〇・六七〇
龍爪	五、八	五、三〇	同	同	八、一一	九、二一	〇・一七	〇・六五	一・二四	一・二八	—	二・六〇三	一三七・四一〇
六十日	五、八	六、一	同	同	八、一四	九、二一	〇・一七	〇・六七	一・三一	一・四二	—	一・七六一	一七五・一四〇

雙廟子	大正三年	大正三年	四箇年	雙廟子
八面城	同	同	九箇年	八面城
鷺鷺樹	同	同	四箇年	鷺鷺樹
紅穀	同	同	同	遼陽
青苗粘	同	同	八箇年	熊岳城分場
紅苗粘	同	同	四箇年	同
北海道糯	同	同	同	札幌植產園
昌圖三號	大正二年	大正六年	七箇年	昌圖
薄地租	大正三年	同	十箇年	公主嶺
叩根	同	大正三年	七箇年	同
刀把齊	同	同	同	同
水裡站	同	同	同	同
龍鳳擋	大正六年	大正十一年	六箇年	唐家房
八大葉	同	同	同	普蘭店
牛尾把黃	大正四年	同	同	靠山屯
黃粘谷子	同	同	同	雙楡樹
淺彩紅粘	同	同	同	靠山屯
御穀	同	大正十四年	三箇年	公主嶺附近安家窩棚
蓋州紅	大正六年	同	同	雙臺溝

長縄	堅	大正四年	大正十四年	同	大泉眼
猴腿	子	大正六年	同	同	關東州窪子店
新臺	白	大正四年	同	同	新臺子
黑	粘	同	同	同	公主嶺

大正三年度

品種名	播種期 (月日)	發芽 期 (月日)	發芽 良否	發芽 整否	出穗期 (月日)	成熟期 (月日)	作況 夏至 (米)	作況 大暑 (米)	作況 二百十日 (米)	作況 秋分 (米)	作況 收税期	反當收量 子實容量 (石)	反當收量 稈重量 (貫)
窊裡青苗	五、八	五、三〇	稍良	稍整	八、七	九、一五	〇・一六	〇・六九	一・二二	—	—	一・九一六	一二七・四二〇
大斗黃	五、八	六、一	同	同	八、一〇	九、一五	〇・一六	〇・六三	一・一六	—	—	一・九三九	一二九・六二〇
縄錦	五、八	六、一	同	同	八、八	九、一五	〇・一六	〇・七四	一・四八	—	…	二・六五三	一八四・八九〇
白沙	五、八	五、三一	同	整	八、五	九、一六	〇・一五	〇・七九	一・三五	—	—	二・八六八	一八三・一九〇
毛	五、八	五、三〇	同	稍整	八、二	九、一五	〇・一三	〇・六九	一・四六	—	—	一・七九一	一五八・一二〇
黃	五、八	五、三一	同	同	八、一五	九、二二	〇・一九	〇・六二	一・三四	一・四〇	—	一・九九八	一七五・〇七〇
白	五、八	五、三〇	同	同	八、一三	九、二二	〇・一九	〇・七一	一・四七	一・三四	—	一・七三五	一六七・〇六〇
柳根赤	五、八	六、一	同	同	八、一四	九、二二	〇・一七	〇・五七	一・〇八	一・一八	—	一・二八〇	九〇・六七〇
龍爪	五、八	五、三〇	同	同	八、一一	九、二二	〇・一七	〇・六五	一・二四	一・二八	—	二・六〇三	一三七・四一〇
六十日	五、八	六、一	同	同	八、一四	九、二二	〇・一七	〇・六七	一・三一	一・四二	—	一・七六一	一七五・一四〇

雙廟子	大正三年	大正三年	四箇年	雙廟子
八面城	同	同	九箇年	八面城
鶯鶯樹	同	同	四箇年	鶯鶯樹
紅穀	同	同	同	遼陽
青苗粘	同	同	八箇年	熊岳城分場
紅苗粘	同	同	四箇年	同
北海道糯	同	同	同	札幌植産園
昌圖三號	大正二年	大正六年	七箇年	昌圖
薄地租	大正三年	同	十箇年	公主嶺
叩根	同	大正三年	七箇年	同
刀把齊	同	同	同	同
水裡站	同	同	同	同
龍鳳擋	大正六年	大正十一年	六箇年	唐家房
八大葉	同	同	同	普蘭店
牛尾把黄	大正四年	同	同	靠山屯
黄粘谷子	同	同	同	雙楡樹
淺彩紅粘	同	同	同	靠山屯
御穀	同	大正十四年	三箇年	公主嶺附近安家窩棚
蓋州紅	大正六年	同	同	雙臺溝

長縄緊	大正四年	大正十四年	同	大泉眼
猴腿子	大正六年	同	同	關東州洼子店
新臺白	大正四年	同	同	新臺子
黑粘	同	同	同	公主嶺

大正三年度

品種名	播種期 月日	發芽 期 月日	發芽 良否	發芽 整否	出穗期 月日	成熟期 月日	作況 夏至 米	作況 大暑 米	作況 二百十日 米	作況 秋分 米	作況 收穫期	反當收量 子實容量 石	反當收量 稈重量 貫
窊裡青苗	五、八	五、三〇	稍良	稍整	八、七	九、一五	〇・一六	〇・六九	一・二一	—	—	一・九一六	一一七・四二〇
大斗黄	五、八	六、一	同	同	八、一〇	九、一五	〇・一六	〇・六三	一・二六	—	—	一・九三九	一二九・六三〇
縄錦	五、八	六、一	同	同	八、八	九、一五	〇・一六	〇・七四	一・四八	—	…	二・六五三	一八四・八九〇
白沙	五、八	五、三一	同	整	八、五	九、一六	〇・一五	〇・七九	一・三五	—	—	二・八六八	一八三・一九〇
毛	五、八	五、三〇	同	稍整	八、一一	九、一五	〇・一三	〇・六九	一・四六	—	—	一・七九一	一五八・一三〇
黄	五、八	五、三一	同	同	八、一五	九、二二	〇・一九	〇・六二	一・三四	一・四〇	—	一・九九八	一七五・〇七〇
白	五、八	五、三〇	同	同	八、一三	九、二二	〇・一九	〇・七一	一・四七	一・三四	—	一・七三五	一六七・〇六〇
柳根赤	五、八	六、一	同	同	八、一四	九、二二	〇・一七	〇・五七	一・〇八	一・一八	—	一・二八〇	九〇・六七〇
龍爪	五、八	五、三〇	同	同	八、一一	九、二二	〇・一七	〇・六五	一・二四	一・二八	—	二・六〇三	一三七・四一〇
六十日	五、八	六、一	同	同	八、一四	九、二二	〇・一七	〇・六七	一・三一	一・四二	—	一・七六一	一七五・一四〇

品種名	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穂期	成熟期	作況夏至	作況大暑	作況二百十日	作況秋分	作況收穫期	反當收量子實容量	反當收量稈重量
五石取	五、八	六、一	稍良	稍整	八、一〇	九、一五	〇・一七	〇・六八	一・三二	—	—	一・九五七	一四八・四五〇
紅苗粘	五、八	六、一	同	同	八、三	九、一七	〇・一八	〇・七六	一・一九	—	—	一・六四一	一三三・六二〇
青苗粘	五、八	六、一	同	同	八、三	九、二九	〇・二一	〇・六五	一・五八	一・六六	—	二・四一九	一七〇・七二〇
赤	五、八	五、三一	同	同	八、一六	九、二九	〇・一七	〇・六三	一・二六	一・三二	—	一・四九九	一七三・七二〇
糯	五、八	六、一	同	同	八、一〇	九、一四	〇・一三	〇・六一	一・一三	—	—	一・五五七	一〇三・二五〇

播種後乾燥に失せるため發芽不良にして五月下旬の降雨により二十五日內外の長時日を要して漸く發芽するに至れり、爾後の生育叉遲々として進まざりしが夏至後適當なる雨濕を得漸次生育佳良に向ひ雨期後叉天候順調にして作況益々良好なるを得たり。而して出穂前後に於て粟の髓蟲、白髮病、黑穗病等の被害稍々現れたるも大ならずして豫想以上の收量を得たり。收量の最も多きは白沙にして反當二石八斗餘に上り縄錦、龍爪等之に次ぎ赤種最も少く反當一石五斗なりき。

大正四年度

品種名	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穂期	成熟期	作況夏至	作況大暑	作況二百十日	作況秋分	作況收穫期	反當收量子實容量	反當收量稈重量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	米	石	貫
窊裡青苗	五、一九	五、三〇	良	稍整	八、一八	九、二六	〇・〇八	〇・四七	一・二四	一・二九	一・二九	〇・五二六	五一・三二〇
毛	五、一九	五、三〇	同	整	八、一八	九、二六	〇・〇八	〇・四〇	一・〇五	一・〇八	一・〇八	〇・一〇八	二七・七〇〇

大斗黃	五、一九	六、二	同	同	八、二九	九、二六	〇・〇八	〇・五三	一・一五	〇・九一	〇・九一	—	四・四〇〇
縄錦	五、一九	五、三〇	同	同	八、二四	九、二六	〇・〇八	〇・三六	〇・九五	〇・九九	〇・九九	〇・〇七一	一四・〇二〇
白沙	五、一九	五、三〇	同	稍整	八、一八	九、二六	〇・〇六	〇・三四	一・〇八	一・一一	一・一一	〇・一四七	二七・〇四〇
黃	五、一九	六、三	稍良	同	八、二四	九、二六	〇・〇六	〇・三八	一・〇八	一・一一	一・一一	〇・二三〇	六三・〇四〇
白穀	五、一九	六、二	同	同	八、二四	九、二六	〇・〇七	〇・四〇	一・二三	一・二七	一・二七	〇・五三一	七〇・七〇〇
柳根赤	五、一九	六、二	同	同	八、二五	九、二六	〇・〇九	〇・四三	〇・九八	一・〇二	一・〇二	〇・一六五	三九・四六〇
雙廟子	五、一九	六、二	同	同	八、二〇	九、二六	〇・〇九	〇・四一	一・〇二	一・〇三	一・〇三	〇・〇七八	一四・九〇〇
八面城	五、一九	六、二	同	同	八、二〇	九、二六	〇・〇八	〇・四〇	〇・八六	〇・八五	〇・八五	〇・一〇九	九・四〇〇
鷺鷥樹	五、一九	六、六	不良	不整	八、二〇	九、二六	〇・〇六	〇・四七	〇・九七	〇・九七	〇・九七	〇・〇八九	一一・二四〇
五石取	五、一九	六、六	同	同	八、二〇	九、二六	〇・〇五	〇・四二	一・〇四	一・一三	一・一三	〇・〇八〇	五八・六四〇
赤穀	五、一九	六、二	良	整	八、二三	九、二六	〇・〇八	〇・四七	一・〇〇	一・〇二	一・〇二	〇・三三四	三三・〇六〇
青苗粘	五、一九	六、六	不良	不整	八、二三	九、二六	〇・〇八	〇・四五	一・〇三	一・〇二	一・〇二	〇・二一九	四二・六四〇
北海道糯	五、一九	六、六	同	同	八、二〇	九、二六	〇・〇八	〇・四四	一・〇二	一・〇六	一・〇六	〇・五九三	三八・八六〇
六十日	五、一九	六、六	同	同	八、二五	九、二六	〇・〇八	〇・四七	〇・八五	〇・八九	〇・八九	〇・二一〇	四一・〇四〇
龍爪	五、一九	六、六	同	同	八、二〇	九、二六	〇・〇六	〇・七二	一・一〇	一・一四	一・一四	〇・三七六	二七・一四〇
紅苗粘	五、一九	六、七	同	同	八、二〇	九、二六	〇・〇八	〇・八五	一・〇五	一・〇八	一・〇八	〇・三一一	三九・三四〇

發芽狀況を見るに遲々として進まず、且つ整一を缺く其の後天候恢復するに及んで作況漸く良好ならんとせしも、八月下旬の開花當時寒冷と降雨屢々來襲して充分なる結實を見ること能

はざりき。

收量の上位にあるは北海道糯の五斗九升にして白穀、窪裡、青苗等之に次ぎ最も少かりしは縄錦にして七升一合なりき。

大正五年度は害蟲の被害の爲欠除。

大正六年度

品種名	播種期（月日）	發芽 期（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗期（月日）	成熟期（月日）	作況 夏至（米）	作況 大暑（米）	作況 二百十日（米）	作況 秋分	作況 收穫期（米）	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）
窪裡青苗	五、一七	六、六	良	整	八、一七	九、二一	〇・〇七	〇・六四	一・一三	―	一・一三	一・四八六	一三四・七〇〇
毛	五、一七	六、八	稍不良	稍整	八、一八	九、二四	〇・〇五	〇・六九	一・一八	―	一・一八	〇・七八五	七〇・六五〇
大斗黄	五、一七	六、七	良	同	八、一七	九、二一	〇・〇六	〇・七一	一・二六	―	一・二六	一・四〇八	一二八・三〇〇
縄錦	五、一七	六、七	同	同	八、一六	九、二一	〇・〇六	〇・六八	一・二九	―	一・二九	一・三三八	一一〇・八〇〇
白沙	五、一七	六、六	同	整	八、一七	九、二三	〇・〇八	〇・七一	一・一〇	―	一・一〇	一・一八六	一三四・二〇〇
黄	五、一七	六、六	稍良	同	八、二四	一〇、二	〇・〇八	〇・六八	一・一八	―	一・二〇	一・四五五	一五八・七〇〇
柳根赤	五、一七	六、七	同	同	八、一八	九、二三	〇・〇九	〇・七六	一・一四	―	一・一五	一・二六九	一三八・六〇〇
雙廟子	五、一七	六、七	同	同	八、一七	九、二八	〇・〇六	〇・七七	一・二九	―	一・二九	一・四一二	一二四・〇〇〇
八面城	五、一七	六、六	良	同	八、一六	九、一八	〇・〇八	〇・六九	一・〇〇	―	一・〇〇	一・四九三	一二五・五〇〇
鷺鷥樹	五、一七	六、六	同	同	八、一〇	九、一七	〇・〇八	〇・七一	〇・九九	―	〇・九九	一・五二七	一〇六・六〇〇

赤穀	五、一七	六、六	稍良	同	八、二四	一〇、二	〇・〇七	〇・七四	一・二三	—	一・二五	一・四五〇	一六八・一〇〇
青苗粘	五、一七	六、七	同	同	八、二三	一〇、一	〇・一〇	〇・八〇	一・三四	—	一・三五	一・四八二	一五三・一〇〇
紅苗粘	五、一七	六、七	同	同	八、二一	九、二五	〇・〇九	〇・八四	一・二九	—	一・二九	一・二五五	一四八・七〇〇
北海道糯	五、一七	六、七	良	同	八、一七	九、二〇	〇・〇八	〇・六九	一・一三	—	一・一三	一・二五五	一〇一・二〇〇
六十日	五、一七	六、六	同	同	七、二四	一〇、三	〇・〇七	〇・七九	一・二八	—	一・二八	一・三九六	一六二・六〇〇
龍爪	五、一七	六、六	同	同	八、一九	九、二七	〇・〇八	〇・七〇	〇・九六	—	〇・九六	一・二〇九	一〇九・八〇〇
昌圖三號	五、一七	六、六	同	同	八、二一	九、一八	〇・〇九	〇・七二	一・〇三	—	一・〇三	一・四六八	一一五・四〇〇
薄地租	五、一七	六、七	同	同	八、一三	九、一八	〇・〇九	〇・七五	一・一〇	—	一・一一	一・八〇三	一三三・八〇〇
叩根兒	五、一七	六、七	稍良	同	八、一三	九、一九	〇・一〇	〇・七五	一・一三	—	一・一三	一・五一九	一一五・四〇〇
刀把齊	五、一七	六、六	良	同	八、一三	九、二〇	〇・一一	〇・七七	一・一一	—	一・一一	一・九二四	一三四・三〇〇
水裡站	五、一七	六、七	稍良	同	八、一二	九、一九	〇・〇七	〇・七四	一・一三	—	一・一三	一・八八六	一三七・〇〇〇

發芽當時は毛、黃兩種を除きては概ね良好なりしも爾後旱魃打續き幼苗の枯死するものあるを見るに至り生育捗らず、七月に入り雨濕を得て大暑前より生育旺盛に向ひ作況頓に良變し來れり。

されど八月上旬粟のさゝら病、粟の夜盜蟲の發生を見たるが該病は蔓延大ならざりしも、夜盜蟲は鬱蒸なる天候に遇ひ愈々發生多く驅除に努めたるも葉の喰害せらるゝこと甚だしく、殊に龍爪、昌圖三號の如きは遂に穗の一部をも害せられ且つ同下旬に及びて降雨甚だしく、地下水上昇

して點々停滯水を見るに至り、努めて排水を行ひたるも成熟に尠からざる影響を及ぼせり。收量最も多きは刀把齊の反當一石九斗にして水裡站、薄地租之に次ぎ、毛最も少なく反當七斗八升なりき。

大正七年度

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	米	石	貫
叩根	五、一〇	五、二九	良	整	八、一一	九、二四	〇・一五	〇・六六	〇・九八	〇・九八	〇・九八	〇・八五二	五一・八〇〇
紅苗粘	五、一〇	五、二九	同	同	八、一六	九、二六	〇・一七	〇・九五	一・〇三	一・〇〇	一・〇五	〇・三一九	四一・六〇〇
北海道糯	五、一〇	五、二九	同	同	八、一四	九、二六	〇・一二	〇・四九	一・〇三	〇・九七	〇・九七	〇・四三三	二九・五〇〇
薄地租	五、一〇	五、二八	同	同	八、一一	九、二四	〇・一二	〇・五二	一・〇二	一・〇〇	一・〇〇	〇・七二三	四七・六〇〇
水裡站	五、一〇	五、二九	同	同	八、一一	九、二四	〇・一六	〇・五六	一・〇七	一・〇二	一・〇二	〇・六七六	四八・五〇〇
紅殼	五、一〇	五、三〇	同	同	八、一六	九、二五	〇・一三	〇・四九	〇・九九	一・〇三	一・〇三	〇・三五〇	三一・〇〇〇
白沙	五、一〇	五、三〇	同	同	八、一五	九、二七	〇・一一	〇・四四	〇・九六	〇・九五	〇・九二	〇・三二八	一五・五〇〇
毛	五、一〇	五、三〇	同	同	八、一五	九、二七	〇・一二	〇・三六	一・〇三	一・一三	一・一四	〇・二八四	一七・五〇〇
青苗粘	五、一〇	五、二九	同	同	八、一六	九、二七	〇・一五	〇・五三	一・〇〇	一・〇三	一・〇四	〇・二〇七	一七・〇〇〇
鷺鷲樹	五、一〇	五、二九	同	同	八、一一	九、二四	〇・一五	〇・四八	〇・九二	〇・九二	〇・九二	〇・四〇八	二五・八〇〇
柳根赤	五、一〇	五、二九	同	同	八、一六	九、二五	〇・一五	〇・五三	〇・九三	一・〇〇	一・〇四	〇・三五二	三一・八〇〇

龍爪	五、一〇	五、二九	同	同	八、二	九、二四	〇・一二	〇・三七	〇・八九	〇・八九	〇・八九	〇・三〇四	一八・二〇〇
大斗黄	五、一〇	五、二九	同	同	八、二	九、二五	〇・一三	〇・四八	〇・九五	〇・九七	一・一〇	〇・一九三	一二・三〇〇
八面城	五、一〇	五、二九	同	同	八、一四	九、二五	〇・一三	〇・四五	〇・八九	一・〇二	〇・九六	〇・三〇二	一五・六〇〇
縄錦	五、一〇	五、二九	同	同	八、二	九、二五	〇・一〇	〇・四九	〇・九六	一・〇九	一・一九	〇・二七五	一八・四〇〇
窯裡青苗	五、一〇	五、二九	同	同	八、一六	九、二六	〇・一三	〇・五四	一・〇〇	〇・九九	一・一〇	〇・二六二	二〇・二〇〇
昌圖三號	五、一〇	五、三〇	同	同	八、一〇	九、二四	〇・一四	〇・五八	一・〇三	一・〇二	一・〇二	〇・六二四	四六・四〇〇
六十日	五、一〇	五、二九	同	同	八、一六	九、二六	〇・一六	〇・七〇	一・〇三	一・〇八	一・一二	〇・三三〇	五八・六〇〇
黄	五、一〇	五、二九	同	同	八、一六	九、二七	〇・一四	〇・五四	一・〇三	一・〇四	一・〇八	〇・三八六	二六・八〇〇
雙廟子	五、一〇	五、三〇	同	同	八、一六	九、二七	〇・一三	〇・四八	一・〇二	一・〇〇	一・〇八	〇・二六八	三四・八〇〇
刀把齊	五、一〇	五、三〇	同	同	八、一四	九、二四	〇・一四	〇・五八	一・〇九	一・一〇	一・一〇	〇・九二九	五九・二〇〇

發芽整一なりしも「きすじのみはむし」の發生によりて稚苗は少しく生育を害せられ、加ふるに六月末日に至り「螟蟲」「夜盗蟲等發生し猖獗を極めしため喰害甚だしく七月に入り三回の驅除を行ひたるも、縄、錦、窯裡青苗、八面城、白沙、毛等は其の喰害を受け種苗の枯凋して點々缺苗を生じ殘存せるものも生育捗しからず。

然れ共叩根薄地租、水裡站、刀把齊等は被害輕微なりし爲生育良變せり。八月に及び降水量多くして地下水の停滯せしこと屢々なりしため各品種とも生育進まず、狀況不良に陥れり。

斯くの如くにして漸次收穫期に入りしを以て收量少きのみならず、品質又例年に比し劣れり。

收量の最も多きは刀把把齊の反當九斗三升にして叩根、北海道糯等之に次ぎ大斗黃最も少く反當一斗九升なりき。

大正八年度　病蟲害の被害甚だしく成績を得る能はず。

大正九年度

品種名	播種期（月日）	發芽 期（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗期（月日）	成熟期（月日）	作況 夏至（米）	作況 大暑（米）	作況 二百十日（米）	作況 秋分（米）	作況 收穫期（米）	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）
窓裡青苗	五、二	六、一九	稍良	稍整	八、二〇	九、三〇	—	〇・六五	一・四五	一・五〇	一・五〇	一・五〇八	一四二・五三〇
大斗黃	五、二	六、二〇	同	同	八、一九	九、二九	—	〇・五二	一・三七	一・四一	一・四二	一・四六九	一三一・〇七〇
繩緊	五、二	六、一八	良	整	八、一九	九、二九	—	〇・五六	一・三八	一・四二	一・四二	一・七五一	一三五・八八〇
白沙	五、二	六、一八	同	同	八、一六	九、二四	—	〇・六二	一・三四	一・三九	一・三九	一・六九六	一一一・三五〇
黃	五、二	六、一八	同	稍整	八、二七	一〇、五	—	〇・四七	一・三四	一・三七	一・三七	一・三九四	一七八・九八〇
八面城	五、二	六、一八	同	整	八、一七	九、二三	—	〇・六一	一・三一	一・三一	一・三一	一・六七八	九九・六六〇
青苗粘	五、二	六、一七	稍良	稍整	八、二七	一〇、五	—	〇・六四	一・五五	一・六〇	一・六〇	一・三七七	一五五・五三〇
薄地租	五、二	六、一八	良	整	八、一六	九、二六	—	〇・六七	一・四〇	一・三六	一・四一	一・八二六	一三五・〇〇〇
刀把齊	五、二	六、一八	同	同	八、一六	九、二三	—	〇・五八	一・三〇	一・二八	一・二八	一・七九六	一〇六・九九〇
水裡站	五、二	六、二〇	同	同	八、一九	九、二五	—	〇・五九	一・五七	一・六三	一・六三	二・二三九	一五六・九八〇
昌圖三號	五、二	六、二〇	稍良	稍整	八、一八	九、二八	—	〇・五〇	一・二九	一・三一	一・三一	二・四二四	一五八・一九〇
叩根	五、二	六、二三	同	同	八、一九	九、三〇	—	〇・五〇	一・三五	一・四七	一・四七	二・二四四	一五五・九〇〇

播種後長期間降雨無かりしため發芽せざりしも、六月十日後の雨濕により漸く發芽を見るに至れり。然れども夏至後再び激烈なる旱魃に遇ふや生長頓に停止せるのみならず、嫩葉の大部は凋萎し殆んど枯死するの狀態となれり。七月中旬に入り適當なる降雨を得て蘇生し爾後順調なる天候により急激なる生育をなし、漸次作況良變し、開花成熟期等に際しても晴天相續き登熟頗る良好なりしを以て收量は立毛に比し増收を見るに至れり。

收量最も多きは昌圖三號の反當二石四斗にして叩根、水裡站等之に次ぎ青苗粘最も少く反當一石四斗なりき。

大正十年度

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	米	石	貫
窪裡青苗	五、九	五、二二	不良	稍整	八、一三	九、二八	〇・二二	一・〇〇	一・五五	一・五二	一・五二	一・二〇九	一〇三・九五二
大斗黄	五、九	五、二二	同	同	八、一〇	九、二七	〇・二六	一・〇一	一・三八	一・五四	一・四五	一・〇一七	九五・七九一
繩緊	五、九	五、二二	同	同	八、九	九、二四	〇・一七	〇・九七	一・四七	一・三三	一・三三	一・一二〇	八九・六三〇
白沙	五、九	五、二二	同	同	八、一一	九、二四	〇・二二	〇・九八	一・四四	一・四四	一・四四	一・四三三	一〇九・四〇一
黄	五、九	五、二〇	同	同	八、一五	一〇、二	〇・二六	一〇・五	一・五九	一・五九	一・五九	一・三三八	一一九・九〇三
八面城	五、九	五、二二	同	同	八、一〇	九、一八	〇・二四	〇・九六	一・三七	—	一・三四	一・三八六	九六・〇一三
青苗站	五、九	五、二二	同	同	八、一五	一〇、三	〇・二三	〇・九九	一・六五	一・六四	一・六四	〇・九九一	六八・二〇八

品種名	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	成熟期	夏至	大暑	二百十日	秋分	收穫期	子實容量	稈重量
昌圖三號	五、九	五、二三	不良	稍整	八、五	九、一九	〇・二三	〇・八八	一・二九	—	一・二八	一・三〇六	一一五・〇二三
薄地租	五、九	五、二三	同	同	八、五	九、二九	〇・二五	〇・九九	一・四二	一・四〇	一・四〇	一・二三〇	一〇三・六九五
叩根	五、九	五、二三	同	同	八、六	九、二七	〇・二九	一・〇八	一・五三	一・五二	一・五二	〇・九九四	九一・三八二
刀把齊	五、九	五、二三	同	同	八、一〇	九、二四	〇・二六	〇・九五	一・三六	一・三六	一・三六	一・二六二	九七・四二七
水裡站	五、九	五、二〇	同	同	八、六	九、一七	〇・二四	一・一三	一・四六	—	一・四六	一・四五七	一三〇・五四二

播種當時土壤稍々乾燥に失したるため、發芽不良不整なりき。從つて缺苗多かりしも六月中下旬に亙り適當の雨濕を得て、生育稍々恢復の徴あり、爾後「きすぢのみはむし」の食害に遇ひしも輕微にして止み、順調なる天候の繼續と共に生育稍々旺盛となり開花成熟期に際しても晴天打續き登熟頗る良好なりしを以て收量は立毛に比し增收を見たり。

收量最も多かりしは水裡站の反當一石四斗にして白河、八面城等之に次ぎ青苗粘最も少く九斗九升なりき。

大正十一年度

品種名	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米		米	石	貫
窊裡青苗	五、一三	五、二四	良	整	八、五	九、二〇	〇・三六	一・三四	一・六二	—	一・六〇	一・二七七	一三三・〇〇〇

白沙	五、一三	五、二四	同	同	七、三一	九、一七	〇・四四	一・四四	一・六〇	—	一・六五	一・八〇八	一三三・八〇〇
八面城	五、一三	五、二四	同	同	八、二	九、二〇	〇・三九	一・二五	一・五三	—	一・五四	一・四〇四	一一二・〇〇〇
青苗粘	五、一三	五、二五	不良	稍整	八、一一	九、二四	〇・五七	一・三三	一・八五	—	一・九〇	一・一〇七	一三六・〇〇〇
昌圖三號	五、一三	五、二四	良	整	七、三一	九、一七	〇・四〇	一・一六	一・三六	—	一・三九	一・二三八	一〇一・六〇〇
薄地租	五、一三	五、二四	同	同	七、三一	九、一八	〇・四二	一・一二	一・五一	—	一・五二	一・四二六	一〇九・〇〇〇
叩根	五、一三	五、二五	稍良	稍整	八、一	九、一七	〇・三六	一・二四	一・四七	—	一・五三	一・二四九	九四・七〇〇
刀把齊	五、一三	五、二四	良	整	八、七	九、一九	〇・三五	一・一〇	一・四五	—	一・四六	〇・九一六	一〇五・三〇〇
水裡站	五、一三	五、二四	稍良	稍整	八、六	九、一六	〇・四二	一・一三	一・六四	—	一・六〇	〇・八四八	一〇二・一〇〇
龍鳳擋	五、一三	五、二五	同	同	八、四	九、一九	〇・三五	一・二四	一・五二	—	一・五二	一・〇一九	九六・五〇〇
八大葉	五、一三	五、二四	同	同	八、八	九、一八	〇・二九	一・一二	一・四一	—	一・四四	〇・九八四	八三・三〇〇
牛尾把黃	五、一三	五、二四	良	整	八、三	九、二三	〇・四一	一・二七	一・六三	—	一・六三	一・五三四	一三七・二〇〇
黃粘谷子	五、一三	五、二五	稍良	稍整	八、二	九、二〇	〇・四二	一・二四	一・六八	—	一・七二	〇・九〇八	一〇一・一〇〇
淺彩紅粘	五、一三	五、二四	良	整	八、一	九、一八	〇・四一	一・二六	一・四八	—	一・四五	一・二九六	一一三・三〇〇

播種後暴風の爲、土地甚だしく乾燥し、發芽概して良好ならざりしも其の後氣溫上昇し、降水の分布宜敷を得て旺盛なる生育を遂げたり。殊に出穗期に於ける天候順調なりしため出穗整一にして、成熟又良好なりき。收穫期に近く雀の喰害を蒙り、品種によりては稍々影響を受けたれども品質は頗る良好なりき。

收量最も多きは白沙の反當一石八斗にして牛尾把黃、薄地租等之に次ぎ水裡站最も少く反當

八斗五升なりき。

大正十二年度

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 子實	反當收量 稈重量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	米	石	貫
窊裡青苗	五、二一	五、二三	良	整	八、一四	九、二〇	〇・一九	〇・九六	一・四七	一・五一	一・五一	一・二四三	九六・五〇〇
白沙	五、二一	五、二三	同	同	八、一三	九、二三	〇・二三	一・〇三	一・三六	一・三八	一・三八	一・四三三	九一・五〇〇
八面城	五、二一	五、二三	同	同	八、一〇	九、二四	〇・一五	〇・八七	一・二八	一・三一	一・三一	二・四九九	八九・四一〇
青苗粘	五、二一	五、二三	同	同	八、一七	九、二六	〇・一九	〇・九六	一・四七	一・五四	一・五四	一・〇八六	一〇六・三二〇
昌圖三號	五、二一	五、二三	同	同	八、九	九、二三	〇・一四	〇・七四	〇・九八	一・一一	一・一一	一・四四一	九三・〇九〇
薄地租	五、二一	五、二三	同	同	八、一〇	九、二六	〇・一八	〇・八四	一・二〇	一・二一	一・二一	一・六一四	一三〇・六〇〇
叩根	五、二一	五、二四	同	同	八、一一	九、二三	〇・一六	〇・九〇	一・二七	一・二九	一・二九	二・〇二〇	一〇五・二九〇
刀把齊	五、二一	五、二三	同	同	八、一三	九、二三	〇・一四	〇・七九	一・二三	一・二四	一・二四	一・五九六	一二三・六二〇
水裡站	五、二一	五、二三	同	同	八、一二	九、二五	〇・二〇	〇・九五	一・二五	一・三九	一・三九	一・五二一	一一一・五八〇
龍鳳擋	五、二一	五、二三	同	同	八、一三	九、二六	〇・一三	〇・七六	一・一六	一・二四	一・二四	一・三六一	九一・八一〇
八大業	五、二一	五、二三	同	同	八、一六	九、二六	〇・一三	〇・七四	一・二一	一・二一	一・二一	一・一七五	八〇・七三〇
牛尾把黃	五、二一	五、二三	同	同	八、一三	九、二三	〇・一九	〇・九〇	一・三一	一・三四	一・三四	一・八五三	一一七・二九〇
黃粘谷子	五、二一	五、二三	同	同	八、一五	九、二五	〇・二〇	一・〇六	一・四四	一・五二	一・五二	一・四八四	一二三・五二〇
淺彩紅粘	五、二一	五、二三	同	同	八、一六	九、二六	〇・一〇	〇・八七	一・二四	一・五二	一・五二	一・四九〇	一〇〇・三二〇

發芽良好且つ整一にして順調なる生育を持續せしも、六月下旬に至り夜盗蟲發生し、七月上旬其の被害著しく生育を阻害せられしも爾後の降雨により害蟲は自然驅除せられたるも缺苗多く生ずるに至れり。其後天候恢復と共に旺盛なる生育を遂げ出穗頗る良好整一にして成熟に向ひしも、九月下旬の結霜甚だしかりしため早生種にありては左程被害を認めざるも晩生種にありては可成不良なる影響を被り充分なる成熟をなす能はず品質著しく降下せり。

收量は叩根の反當二石最も多く牛尾把黃、薄地租之に次ぎ八大葉の反當一石二斗最も劣れり。

大正十三年度

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十四	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
	月 日	月 日			月 日	月 日	米	米	米		米	石	貫
白沙	五、八	五、二〇	良	整	七、三一	九、一五	〇・四〇	一・二〇	一・四六	―	一・四四	一・五七八	八九・八〇〇
八面城	五、八	五、二〇	同	同	七、三一	九、一六	〇・三一	〇・九九	一・二七	―	一・二九	一・二二八	八二・九三〇
昌圖三號	五、八	五、二〇	同	同	七、三一	九、一七	〇・三三	〇・九六	一・一九	―	一・二四	一・〇九九	八〇・七七〇
薄地租	五、八	五、二〇	同	同	八、一	九、一六	〇・三四	一・〇四	一・三六	―	三・三六	一・四八一	一〇三・二七〇
叩根	五、八	五、二〇	同	同	七、三〇	九、一七	〇・三四	一・〇四	一・三一	―	一・三一	一・四三四	九〇・七六〇
刀把齊	五、八	五、二〇	同	同	八、六	九、一八	〇・三三	一・〇〇	一・二八	―	一・三〇	一・三九五	一〇五・七六〇
水裡站	五、八	五、二〇	同	同	八、四	九、一五	〇・三五	一・〇五	一・三五	―	一・三八	一・三〇八	九一・一四〇
龍鳳擋	五、八	五、二〇	稍良	不整	八、二	九、一七	〇・三〇	〇・九八	一・二九	―	一・三四	一・五五七	八八・四五〇

八大葉	五、八	五、二〇	良	整	八、七	九、一五	〇・二七	〇・九八	一・一七	―	一・二五	一・三三一	一八七・一三〇
牛尾把黄	五、八	五、二〇	同	同	八、五	九、一八	〇・三五	一・〇〇	一・三六	―	一・三〇	一・三六一	九六・三一〇
黄粘谷子	五、八	五、二〇	同	同	八、六	九、一九	〇・四〇	一・一七	一・四九	―	一・五六	〇・八〇四	一三一・三六〇
淺彩紅粘	五、八	五、二〇	同	同	八、五	九、一九	〇・三八	一・〇六	一・三一	―	一・三三	一・三二四	九一・五四〇

龍鳳擋を除き他の各品共發芽良好且つ整一なりき。

六月上旬乾燥の爲幼苗枯死せるを見るに至りしも、爾後適度の降雨を得て順調の生育を遂げたれば概して優良の成績を得たり。

收量は白砂の一石五斗最も多く薄地租、龍鳳擋之に次ぎ黄粘谷子の八斗最も少なし。

大正十四年度

品種名	播種期	發芽			出穗期	成熟期	作況					反當收量	
		期	良否	整否			夏至	大暑	二百十日	秋分	收穫期	子實容量	稈重量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米		米	石	貫
薄地租	五、一〇	五、一九	良	整	八、二	九、二〇	〇・三〇	〇・九三	一・三八	―	一・四〇	一・八一三	九五・六九〇
龍鳳擋	五、一〇	五、二一	同	同	八、七	九、一七	〇・二七	〇・九〇	一・二七	―	一・三〇	一・八九三	七八・〇二〇
八大葉	五、一〇	五、二〇	同	同	八、一三	九、二四	〇・三三	〇・九〇	一・二八	―	一・三〇	一・五七一	七一・〇一〇
牛尾把黄	五、一〇	五、二〇	同	同	八、七	九、一七	〇・三〇	〇・九〇	一・三三	―	一・三三	一・八一三	九三・三九〇
紅殻	五、一〇	五、一九	同	同	八、八	九、二二	〇・二六	〇・九七	一・三〇	―	一・三二	一・六二四	八二・八二〇

蓋州紅	五、一〇	五、二一	同	同	八、八	九、二〇	〇・二六	〇・九七	一・四三	—	一・四九	一・五八四	六五・五二〇
長繩緊	五、一〇	五、一九	同	同	八、三	九、二〇	〇・三一	一・〇六	一・五〇	—	一・四八	二・一八五	一〇三・八九〇
猴腿子	五、一〇	五、二三	同	稍整	八、七	九、一七	〇・二八	〇・九三	一・二七	—	一・四四	一・七一五	八八・二〇〇
新臺白	五、一〇	五、二〇	同	整	八、三	九、二四	〇・二九	〇・九六	一・四四	—	一・四四	二・二一〇	一〇一・九三〇
淺彩紅粘	五、一〇	五、一九	同	同	八、二	七、三一	〇・三一	一・〇六	一・三六	—	一・四〇	一・七五五	一〇〇・八三〇
黃粘谷子	五、一〇	五、二〇	同	同	八、三	九、二一	〇・三三	〇・九九	一・四四	—	一・五八	一・四二六	一〇三・七七〇
黑粘	五、一〇	五、二〇	同	同	八、五	九、二一	〇・二七	〇・九二	一・四五	—	一・四五	一・五一三	八七・二三〇

各品種共發芽良好且つ整一にして爾後の生育頗る順調に進み例年に比し二割内外の增收を見たるも蓋州紅のみは病害(病名調査中)を被り稍々收量を減じたり。收量は最も多きは新臺白の二石二斗にして長繩緊、牛尾把黃之に亞ぎ黃粘谷子の一石四斗收量最も劣れり。

昭和元年度

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 處暑	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
	月日	月日			月日	月日		米	米	米	米	石	貫
薄地租	五、一一	六、二七	良	整	八、一六	九、二七	—	〇・一六	一・四五	一・四六	一・四六	二・三四一	一〇八・八一五
龍鳳擋	五、一一	六、二七	同	同	八、一九	九、二八	—	〇・一九	一・四三	一・五五	一・五五	二・三五三	一一五・六〇〇

八大葉	五、二	六、二七	良	整	八、三	九、二七	―	〇・一七	一・二四	一・四八	一・四八	二・六〇一	一三四・一二五
牛尾把黃	五、二	六、二七	同	同	八、二〇	九、二七	―	〇・一七	一・三四	一・三九	一・三九	二・〇九六	一一六・六〇〇
御殼	五、二	六、二七	同	同	八、一六	九、二八	―	〇・一五	一・一八	一・二三	一・二三	二・二九五	一〇七・六〇〇
蓋州紅	五、二	六、二七	同	同	八、一七	九、二七	―	〇・一八	一・三七	一・五一	一・五一	二・七九二	一五一・六〇〇
長繩緊	五、二	六、二七	同	同	八、一六	九、二七	―	〇・一八	一・三六	一・四九	一・四九	二・三〇九	一二八・三二五
猴腿子	五、二	六、二七	同	同	八、三	九、二八	―	〇・一五	一・二二	一・三二	一・三二	二・一九六	一七二・四七五
新臺白	五、二	六、二七	同	同	八、一六	九、二八	―	〇・二二	一・四五	一・五一	一・五一	二・六〇七	一四四・〇五〇
淺彩紅粘	五、二	六、二七	同	同	八、一七	九、二八	―	〇・一八	一・四一	一・四九	一・四九	二・〇四〇	一二六・四〇〇
黃粘谷子	五、二	六、二七	同	同	八、一七	九、二七	―	〇・一八	一・五二	一・六一	一・六一	一・八一四	一一〇・〇七五
黑粘	五、二	六、二七	同	同	八、一七	九、二八	―	〇・一六	一・四八	一・五九	一・五九	一・五〇一	一〇九・三五五

播種當時に於て土壤過乾に失し水濕不充分の爲め容易に發芽を見ず、六月二十一日の降雨あるや一齊に發芽せるも其の間一箇月餘を要せり。爾後天候順調にして生育著しく促進し降霜前既に成熟期に達せり、收量は各品種共優良にして例年に比し四割内外の增收なりき。

收量の最も多きは蓋州紅の反當二石八斗にして新臺白、薄地租之に次ぎ黑粘最も少なく反當一石五斗なりき。

昭和二年度

品種名	播種期（月日）	發芽 期（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗期（月日）	成熟期（月日）	作況 夏至（米）	作況 大暑（米）	作況 處暑（米）	作況 秋分	作況 收穫期（米）	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）
薄地租	五、一〇	五、二六	良	整	八、四	九、一八	〇・二三	一・一六	一・四三	—	一・五九	二・二八四	一三二・九五〇
龍鳳擋	五、一〇	五、二八	同	同	八、五	九、一六	〇・二三	一・二〇	一・五四	—	一・六〇	二・〇三八	一〇六・七五〇
八大葉	五、一〇	五、二八	同	同	八、九	九、二〇	〇・一七	四・二三	一・五〇	—	一・五四	一・九四〇	一〇六・〇〇〇
牛尾把黄	五、一〇	五、二七	同	同	八、七	九、一九	〇・二〇	一・二四	一・五八	—	一・五九	二・〇五一	一一九・一五〇
御穀	五、一〇	五、二七	同	同	八、三	九、一九	〇・二三	一・〇六	一・三四	—	一・三九	一・七三一	九六・八二五
蓋州紅	五、一〇	五、二八	同	同	八、四	九、一六	〇・二六	一・二〇	一・五八	—	一・六〇	二・〇八三	一一五・〇〇〇
長縄緊	五、一〇	五、二六	同	同	八、五	九、一八	〇・二五	一・二一	一・五八	—	一・六〇	一・四五〇	一〇八・七二五
猴腿子	五、一〇	五、二八	同	同	八、六	九、一五	〇・二三	一・二一	一・四八	—	一・五三	一・五三〇	一〇九・四五〇
新臺白	五、一〇	五、二八	同	同	八、四	九、三	〇・二三	一・二六	一・五二	—	一・五四	二・三三五	一一八・五六三
淺彩紅粘	五、一〇	五、二八	同	同	八、六	九、二一	〇・二四	一・二一	一・五三	—	一・五九	一・七四八	一三六・三五〇
黄粘谷子	五、一〇	五、二八	同	同	八、八	九、二三	〇・二七	一・三〇	一・八一	—	一・八四	一・五九五	一三二・二〇〇
黒粘	五、一〇	五、三〇	同	同	八、五	九、二三	〇・二一	一・一七	一・六二	—	一・六五	二・〇四五	一二四・七五〇

各品種共發芽良好、且つ整一にして爾後の生育頗る順調に進みしかば各品種を通じ例年に比し二割以上の増收を得たり。

收量最も多きは新臺白の反當二石三斗にして薄地租、蓋州紅之に亞ぎ長縄緊最も少く反當一石五斗なりき。

本年は近年稀れなる豐作を示せり。

昭和三年度

品種名	播種期（月日）	發芽 期（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗期（月日）	成熟期（月日）	作況 夏至（米）	作況 大暑（米）	作況 處暑（米）	作況 秋分	作況 收穫期（米）	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）
薄地租	五、一〇	五、二四	良	整	八、一	九、一七	〇・二五	一・一六	一・五六	—	一・五七	一・五一八	一〇三・八四八
龍鳳擡	五、一〇	五、二四	同	同	八、一	九、一〇	〇・二五	一・一三	一・五〇	—	一・五二	一・四八五	七四・四二三
八大葉	五、一〇	五、二四	同	同	八、四	九、一〇	〇・二三	一・一五	一・四四	—	一・四二	一・二七八	五六・四二三
牛尾把黃	五、一〇	五、二四	同	同	八、三	九、一七	〇・二九	一・一九	一・五八	—	一・五六	一・九六三	一二一・〇七五
御穀	五、一〇	五、二四	同	同	八、三	九、一七	〇・二五	一・〇九	一・四一	—	一・四三	一・三七二	八五・三五〇
蓋州紅	五、一〇	五、二五	同	同	八、一	九、一〇	〇・二七	一・一七	一・五二	—	一・五五	一・三一三	八〇・六五〇
長縄緊	五、一〇	五、二四	同	同	八、一	九、一〇	〇・二六	一・二四	一・五五	—	一・五四	一・三九四	八二・二〇八
猴腿子	五、一〇	五、二五	同	同	八、三	九、一〇	〇・二八	一・一〇	一・三四	—	一・四一	〇・九四九	七一・四八五
新臺白	五、一〇	五、二四	同	同	七、三〇	九、一七	〇・二三	一・一五	一・五八	—	一・五四	二・二三九	一〇〇・五八三

淺彩紅粘	五、一〇	五、二四	同	同	八、一	九、一〇	〇・二九	一・二四	一・五八	―	一・五五	一・五五四	九六・二〇
黄粘・谷子	五、一〇	五、二四	同	同	七、三	九、一七	〇・二九	一・三五	一・七九	―	一・七三	一・五〇三	一二五・八五〇
黒粘	五、一〇	五、二五	同	同	一、八二	九、一七	〇・二四	一・一九	一・六五	―	一・六七	一・四一四	一〇五・一九八

播種當時の土壤の狀態は乾濕適度にして、各品種共發芽良好且つ整一なりき。其の後の生育も順調に進み九月九日頃より九月十六日頃迄に成熟期に達せり。而して收量は平年作に比し五分の增收を得たり。

收量最も多きは新臺白の反當二石三斗にして、牛尾把黄、淺彩紅粘等之に亞ぎ猴腿子最も少く反當九斗四升なりき。

累年平均反當收量

品種名＼年次	大正三年	大正四年	大正六年	大正七年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	平均	收量順位
	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	
窩裡青苗	一・九一六	〇・五二六	一・四八六	〇・二六三	一・五〇八	一・三〇九	一・二二七	一・二四三	―	―	―	―	―	一・一九一	一九
大斗黄	一・九三九	―	一・四〇八	〇・一九三	一・四六九	一・〇一七	―	―	―	―	―	―	―	一・二〇五	一八
縄錦	二・六五三	〇・五七一	一・二三八	〇・二七五	―	―	―	―	―	―	―	―	―	一・〇五九	二五
白沙	二・八六八	〇・一四七	一・一八六	〇・二三八	一・六九六	一・四三三	一・八〇八	一・三四三	一・五七八	―	―	―	―	一・三六五	一六

毛	一・七九一	〇・一〇八	〇・七八五	〇・二八四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・七四二	三〇
黄	一・九九八	〇・二三〇	一・四五五	〇・三八六	一・三九四	一・三三八	—	—	—	—	—	—	—	一・二三四	二二
柳根赤	一・二八〇	〇・一六五	一・二六九	〇・三五二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・七六七	二九
龍爪	二・六〇三	〇・三七六	一・二〇九	〇・三〇四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・二三三	二三
六十日	一・七六一	〇・二一〇	一・三九六	〇・三三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・九二四	二六
五石取	一・九五七	〇・〇八〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・〇一八	
紅苗粘	一・六四一	〇・三一一	一・二五五	〇・三一九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・八八一	二八
青苗粘	二・四一九	〇・二一九	一・四八二	〇・二〇七	一・三七七	〇・九九一	一・一〇七	一・〇八六	—	—	—	—	—	一・一一一	二四
糯	一・五五七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・五五七	
白殼	一・七三五	〇・五三一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・一三三	三三
雙廟子	—	〇・〇七八	一・四一三	〇・六二八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・七〇六	
八面城	—	〇・一〇九	一・四九三	〇・三〇二	一・六七八	一・三八六	一・四〇四	一・四九九	一・二二八	—	—	—	—	一・一三七	二〇
鷲鷲樹	—	〇・〇八九	一・五二七	〇・四〇八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・六七五	
赤殼	一・四九九	〇・三三四	一・四五〇	〇・三五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・九〇八	二七
北海道糯	—	〇・五九三	一・二五五	〇・四三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・七六〇	
昌圖三號	—	—	一・四六八	〇・六二四	二・四二四	一・三〇六	一・二二八	一・四四一	一・〇九九	—	—	—	—	一・三七〇	一五
叩根	—	—	一・五一九	〇・八五二	二・二四四	〇・九九四	一・一四九	二・二〇二	一・四三四	—	—	—	—	一・四五九	一二
刀把齊	—	—	一・九二四	〇・九二九	一・七九六	一・二六二	〇・九一六	一・五九六	一・三九五	—	—	—	—	一・四〇二	一四
水裡站	—	—	一・八八六	〇・六七六	二・二三九	一・四五七	〇・八四八	一・五二二	一・三〇八	—	—	—	—	一・四一九	一三

薄地租	—	—	一・九〇三	〇・七二三	一・八二六	一・二三〇	一・四二六	一・六一四	一・四八一	一・八二三	二・三四二	二・六八四	一・五一八	一・六四二	七
繩緊	—	—	—	—	一・七五一	一・二二〇	—	—	—	—	—	—	—	一・四三五	
龍鳳擡	—	—	—	—	—	—	一・〇一九	一・三六一	一・五五七	一・八九二	二・三五三	二・〇三八	一・四八五	一・六七二	六
八大葉	—	—	—	—	—	—	〇・九八四	一・一七五	一・三三一	一・五七一	一・六〇一	一・九四〇	一・二七八	一・五五四	一二
牛尾把黄	—	—	—	—	—	—	一・五三四	一・八五三	一・二六一	一・八二二	二・〇九六	二・〇三一	一・九六三	一・七九六	四
黄粘谷子	—	—	—	—	—	—	〇・九〇八	一・四八四	〇・八〇四	一・四二六	一・八一四	一・五九五	一・五〇三	一・三四八	一七
浅彩紅粘	—	—	—	—	—	—	一・二九六	一・四九〇	一・二二四	一・七五五	二・〇四〇	一・七四八	一・五五四	一・五八五	一〇
御殻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・六二四	二・二九五	一・七三一	一・三七一	一・七五六	五
蓋州紅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・五八四	二・七九二	二・〇八三	一・三一三	一・九四三	二
長繩緊	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二・一八五	二・三〇九	一・四五〇	一・三九四	一・八三五	三
猴腿子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・七一五	二・一九六	一・五三〇	〇・九四九	一・五九八	九
新臺白	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二・二一〇	二・六〇二	二・三三五	二・三二九	二・三七〇	一
黒粘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一・五二三	一・五〇一	二・〇四五	一・四一四	一・六二二	八
計	一・九七四	〇・二四六	一・四二四	〇・四二七	一・七八四	一・二三七	一・七一七	一・四八〇	一・三九二	一・七五九	二・二四六	一・九〇三	一・五〇六	一・四六八	

以上三十六品種の累年成績によつて見るに新臺白最も收量よく蓋州紅、長繩緊等之に亞ぎ毛及び柳根赤最も劣る。各種平均累年平均收量を見れば一石四斗六升八合なり。

第二項　耕鋤深淺試驗

目的　本試驗は土地耕鋤の深淺によりて主要作物の收量及品質に及す影響を知らんとす。

供試品種　　刀把齊

大正三年

試驗區別	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米		貫	石
秋期一回耕 深さ約三寸	五、六	六、二	稍良	不整	七、二七	九、一五	〇・二九	〇・八三	一・二七	—	一三一・一〇〇	三・二〇
同 五寸	五、六	五、三一	同	同	七、三一	九、一五	〇・三一	〇・九一	一・三一	—	一三三・〇〇〇	三・三五
同 七寸	五、六	六、二	同	同	八、一	九、一六	〇・一九	〇・九一	一・一六	—	一五〇・六〇〇	三・五一
同 一尺	五、六	六、二	同	同	八、一	九、一六	〇・二〇	〇・九一	一・三三	—	一二四・六〇〇	二・八六
秋春二回耕 深さ約三寸	五、六	六、二	稍良	不整	七、三一	九、一五	〇・二七	〇・八二	一・三一	—	一六五・四五〇	三・七〇
同 五寸	五、六	六、二	同	同	七、三〇	九、一五	〇・二五	〇・九一	一・二九	—	九七・八〇〇	二・七八
同 七寸	五、六	六、四	同	同	七、三一	九、一六	〇・二〇	〇・八二	一・一九	—	一〇〇・八〇〇	二・九七
同 一尺	五、六	六、四	同	同	七、三一	九、一六	〇・二〇	〇・七六	一・一九	—	九五・一〇〇	二・六二

試驗區別	播種期	發芽期	良否	整否	出穗期	成熟期	夏至	大暑	二百十日	秋分	稈重量	子實容量
春期一回耕												
深さ約三寸	五、六	五、三一	稍良	不整	七、二九	九、一五	〇・二三	〇・七七	一・一八	—	一四六・一〇〇	三・五七
同 五寸	五、六	五、三一	同	同	七、二九	九、一五	〇・一三	〇・八五	一・一三	—	一三四・七〇〇	三・五一
同 七寸	五、六	六、一	同	同	七、三〇	九、一六	〇・一三	〇・八〇	一・二九	—	一三九・八〇〇	三・五四
同 一尺	五、六	六、一	同	同	八、二	九、一六	〇・一二	〇・七九	一・一三	—	一四八・八〇〇	三・四九

右の成績によれば秋、春二回耕三寸區最優良にして春期一回耕三寸區七寸區等之に亞ぎ春期一回耕の五寸區及び秋期一回耕七寸區とは其の收量同一にして春、秋二回耕の一尺區最も不成績となれども然し尙試驗年度淺き故確定したる良否とは謂ひ難し。

大正四年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	貫	石
秋期一回耕												
深さ約三寸	五、二五	六、七	稍不良	稍不整	八、八	九、二五	〇・一〇	一・〇〇	一・〇九	一・〇九	一三八・七八〇	一・九八
同 五寸	五、二五	六、七	良	整	八、八	九、二五	〇・一三	一・一〇	一・二四	一・二四	一九九・二〇〇	二・七八
同 七寸	五、二五	六、七	同	同	八、八	九、二五	〇・一三	一・一八	一・二四	一・二四	一八七・六五〇	三・一三
同 一尺	五、二五	六、七	稍良	稍整	八、八	九、二五	〇・一三	一・〇〇	一・二〇	一・二〇	一四二・一一〇	二・五三

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
秋春二回耕 深さ約三寸	五、二五	六、七	稍不良	稍不整	八、八	九、二五	〇・二三	一・〇〇	一・二一	一・二一	一三〇・五六〇	一・八九
同　五寸	五、二五	六、七	同	同	八、八	九、二五	〇・二三	〇・九七	一・一七	一・一七	一二三・四六〇	一・八二
同　七寸	五、二五	六、七	不良	不整	八、三	九、二五	〇・二二	〇・九九	一・一八	一・一八	一〇二・八七〇	一・五〇
同　一尺	五、二五	六、七	稍不良	稍不整	八、三	九、二五	〇・二三	〇・九八	一・一六	一・一六	一三七・六七〇	二・一三
春期一回耕 深さ約三寸	五、二五	六、七	稍不良	稍不整	八、三	九、二五	〇・二三	〇・九六	一・一七	一・一七	一二七・一一〇	一・八三
同　五寸	五、二五	六、七	不良	不整	八、三	九、二五	〇・二二	一・〇一	一・一〇	一・一〇	一一三・〇五〇	一・六四
同　七寸	五、二五	六、七	同	同	八、三	九、二五	〇・二二	〇・九四	一・一三	一・一三	一〇七・四三〇	一・五二
同　一尺	五、二五	六、七	同	同	八、三	九、二五	〇・二二	〇・九〇	一・一〇	一・一〇	一〇七・一六〇	一・五六

右の成績によれば秋期一回七寸區、五寸區、同三寸區等は何れも收量多く春秋二回七寸區及春期一回七寸區等共に少し。

大正六年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	貫	石
秋期一回耕 深さ約三寸	五、一四	六、一四	—	—	八、一五	九、二四	〇・〇七	〇・八〇	一・一六	一・一一	一〇八・六〇〇	一・七二

深さ約五寸	五、一四	六、一四	ー	ー	八、一五	九、二四	〇・〇五	〇・八二	一・二三	一・二三	九六・〇〇〇	一・六七
同　七寸	五、一四	六、一五	ー	ー	八、一六	九、二四	〇・〇八	〇・八〇	一・二四	一・〇七	七九・五〇〇	一・二六
同　一尺	五、一四	六、一五	ー	ー	八、一六	九、二四	〇・〇九	〇・七八	一・〇二	一・〇三	六五・一〇〇	一・二五
秋春二回耕												
深さ約三寸	五、一四	六、一四	ー	ー	八、一六	九、二四	〇・〇六	〇・八一	一・二四	一・一八	六三・六〇〇	一・一七
同　五寸	五、一四	六、一四	ー	ー	八、一六	九、二四	〇・〇八	〇・七六	一・〇七	一・一三	六一・二〇〇	一・一三
同　七寸	五、一四	六、一八	ー	ー	八、一八	九、二九	〇・〇三	〇・四六	〇・九四	一・二〇	一五・六〇〇	二・一六
同　一尺	五、一四	六、一八	ー	ー	八、一八	九、二九	〇・〇三	〇・二六	〇・八九	一・一四	四・八〇〇	〇・九六
春期一回耕												
深さ約三寸	五、一四	六、一四	ー	ー	八、一三	九、二四	〇・一三	〇・八〇	一・一八	一・一一	一〇三・三〇〇	二・〇七
同　五寸	五、一四	六、一四	ー	ー	八、一四	九、二四	〇・〇八	〇・八三	一・一六	一・二四	九二・七〇〇	一・八二
同　七寸	五、一四	六、一八	ー	ー	八、一八	九、二九	〇・〇五	〇・五七	〇・九六	一・〇三	一六・八〇〇	〇・五三
同　一尺	五、一四	六、一八	ー	ー	八、一八	九、二九	〇・〇二	〇・四二	〇・九一	一・〇二	二六・一〇〇	〇・三七

右の成績によりて見れば春、秋二回七寸區の收量最も多く春期一回三寸區之に亞ぎ、春期一回一尺區の收量最も少なし。

大正七年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
秋期一回耕												
深さ約三寸	月日 五、二一	月日 五、二六	良	整	月日 八、一五	月日 九、三	米 〇・一八	米 〇・七三	米 〇・九七	米 一・〇三	貫 七五・〇〇〇	石 〇・八四
同　五寸	五、二一	五、二六	同	稍整	八、一三	九、三	〇・一六	〇・六五	一・一八	一・一七	七九・二〇〇	〇・九二
同　七寸	五、二一	五、二六	同	同	八、一三	九、二三	〇・一八	〇・七二	一・一五	一・一三	八八・二〇〇	〇・九七
同　一尺	五、二一	五、二六	同	整	八、一五	九、二三	〇・一五	〇・七一	一・一八	一・一五	七八・九〇〇	〇・八〇
秋春二回耕												
深さ約三寸	五、二一	五、二六	良	整	八、一六	九、二四	〇・一〇	〇・五二	一・〇〇	一・〇六	六〇・九〇〇	〇・五七
同　五寸	五、二一	五、二六	同	同	八、一六	九、二四	〇・一〇	〇・七二	一・〇一	一・〇〇	六一・二〇〇	〇・五三
同　七寸	五、二一	五、二六	同	同	八、一五	九、二四	〇・一二	〇・七二	一・〇〇	一・〇〇	七二・〇〇〇	〇・六六
同　一尺	五、二一	五、二六	同	同	八、一六	九、二四	〇・一三	〇・七五	一・一二	一・〇九	七二・六〇〇	〇・五六
春期一回耕												
深さ約三寸	五、二一	五、二六	良	稍整	八、一三	九、二三	〇・一五	〇・八五	一・一五	一・一二	八四・三〇〇	〇・八三
同　五寸	五、二一	五、二六	同	整	八、一五	九、二三	〇・一二	〇・六四	一・〇二	一・〇〇	七二・〇〇〇	〇・五八
同　七寸	五、二一	五、二六	同	稍整	八、一七	九、二四	〇・〇八	〇・六六	一・一九	一・二五	五三・四〇〇	〇・五〇
同　一尺	五、二一	五、二六	同	整	八、一五	九、二四	〇・一九	〇・六五	一・一二	一・一二	六七・五〇〇	〇・五四

右成績により見れば收量の最も多きは秋期一回耕區にして秋春二回耕區收量最も劣れり。

大正八年

試驗區別	播種期（月日）	發芽期（月日）	發芽良否	發芽整否	出穗期（月日）	成熟期（月日）	作況 夏至（米）	作況 大暑（米）	作況 二百十日（米）	作況 收穫期（米）	反當收量 稈重量（貫）	反當收量 子實容量（石）
秋期一回耕 深さ約三寸	五、一五	五、二七	良	整	八、一	九、一五	〇・二五	一・〇八	一・四一	一・四六	一四九・〇八〇	一・九四
同 五寸	五、一五	五、二七	同	同	八、一	九、一五	〇・二三	一・〇一	一・三八	一・三八	一五三・二五〇	一・九一
同 七寸	五、一五	五、二七	同	同	八、一	九、一五	〇・二三	一・〇三	一・四三	一・三八	一六六・五〇〇	一・九五
同 一尺	五、一五	五、二七	稍良	稍整	八、二	九、一五	〇・一七	〇・九九	一・三四	一・三四	一七六・五二〇	二・〇三
秋春二回耕 深さ約三寸	五、一五	五、二七	稍良	稍整	八、三	九、一五	〇・二五	〇・八九	一・三〇	一・二五	一七五・五〇〇	二・二六
同 五寸	五、一五	五、二七	同	同	八、二	九、一五	〇・一九	一・〇五	一・四六	一・四六	一八四・九八〇	二・四七
同 七寸	五、一五	五、二七	不良	不整	八、二	九、一五	〇・一三	〇・九九	一・三九	一・四一	二三三・七四〇	二・四五
同 一尺	五、一五	五、二七	不良	同	八、四	九、一五	〇・一二	〇・八四	一・一二	一・一三	二五二・五七〇	二・一八
春期一回耕 深さ約三寸	五、一五	五、二六	稍良	稍整	八、三	九、一五	〇・一六	〇・九八	一・四四	一・三四	二〇二・〇五〇	二・五五
同 五寸	五、一五	五、二七	不良	不整	八、二	九、一五	〇・一八	一・〇〇	一・三八	一・三八	一七八・二〇〇	二・三二
同 七寸	五、一五	五、二七	同	同	八、三	九、一五	〇・一二	一・〇五	一・四七	一・四二	一八二・六七〇	二・三三
同 一尺	五、一五	五、二六	同	同	八、三	九、一五	〇・一三	一・〇〇	一・四二	一・三八	二二四・五五〇	三・一五

右の成績により見るに收量最も多きは春期一回耕の一尺區にして秋期一回耕の五寸區の收量最も少なし。

大正九年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	貫	石
秋期一回耕 深さ約三寸	五、一〇	五、二九	不良	不整	八、九	九、一九	〇・六〇	一・三八	一・三八	一・三八	一四三・七三〇	二・七一
同 五寸	五、一〇	六、四	同	同	八、九	九、二〇	〇・八〇	一・四九	一・四七	一・四七	一四三・一九〇	三・二三
同 七寸	五、一〇	六、一三	同	同	八、一三	九、二四	〇・四八	一・四三	一・四一	一・四一	一五八・六〇〇	三・四二
同 一尺	五、一〇	六、一四	同	同	八、一七	九、二四	〇・五七	一・四四	一・四四	一・四四	一三三・〇二〇	二・九〇
秋春二回耕 深さ約三寸	五、一〇	六、四	稍良	不整	八、九	九、二四	〇・七〇	一・三八	一・五二	一・五二	一三一・一四〇	二・四二
同 五寸	五、一〇	六、九	同	同	八、一三	九、二四	〇・四九	一・三三	一・三五	一・三五	一〇七・六四〇	二・四七
同 七寸	五、一〇	六、一四	同	同	八、一四	九、二五	〇・五一	一・四二	一・四一	一・四一	一三〇・一五〇	二・四四
同 一尺	五、一〇	六、一四	不良	同	八、二〇	九、二五	〇・五五	一・三三	一・三三	一・三三	一二六・三一〇	二・六四
春期一回耕 深さ約三寸	五、一〇	六、一四	不良	不整	八、一九	九、二五	〇・四一	一・二九	一・二八	一・二八	九八・六七〇	二・二六

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
同　五寸	五、一〇	六、一四	稍良	稍整	八、一九	九、三〇	〇・三五	一・三〇	一・三三	一・三三	九七・六三〇	二・三三
同　七寸	五、一〇	六、一三	同	同	八、二三	九、三〇	〇・四八	一・三九	一・三八	一・三八	一一七・二四〇	二・六三
同　一尺	五、一〇	六、三	良	同	八、一三	九、二七	〇・三〇	一・三一	一・二五	一・二五	一一一・九九〇	二・七〇

右の成績によれば秋期一回耕の深さ七寸區最も收量多く同區五寸耕之に亞ぎ秋春二回耕の三寸區の收量最も少なし。

大正十年

發芽遲延し六月十七、八日頃漸く發芽揃に達したる有樣にて夏至當日たる六月二十二日には草丈を量る迄に至らず。

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	貫	石
秋期一回耕 深さ約三寸	五、一三	五、二四	良	整	八、一五	九、一二	〇・二四	一・〇二	一・二九	一・三五	一五五・八六五	二・四三
同　五寸	五、一三	五、二三	同	同	八、一五	九、一八	〇・二九	一・〇六	一・四二	一・三六	一四九・八三五	二・六四
同　七寸	五、一三	五、二四	同	同	八、一六	九、一八	〇・三三	一・〇四	一・四五	一・三六	一五三・五五五	二・五〇
同　一尺	五、一三	五、二四	稍良	稍整	八、一〇	九、一九	〇・二五	一・〇二	一・四三	一・三二	一三六・五六〇	二・三八
秋春二回耕												

深さ約三寸	五、一二	五、二四	良	整	八、一一	九、一八	〇・三三	一・〇一	一・四一	一・三五	一三八・五五〇	一・二一九
同　五寸	五、一二	五、二四	稍良	稍整	八、一三	九、二〇	〇・二九	一・〇四	一・四四	一・四〇	一四八・〇五〇	一・二二七
同　七寸	五、一二	五、二三	良	同	八、一二	九、二〇	〇・二四	一・〇三	一・四三	一・三六	一四七・四八〇	一・二二〇
同　一尺	五、一二	五、二四	同	整	八、八	九、二〇	〇・二四	一・〇五	一・四五	一・三三	一四〇・六一〇	一・二二三
春期一回耕												
深さ約三寸	五、一二	五、二四	良	稍整	八、五	九、一八	〇・二七	一・〇七	一・四六	一・三七	一七二・一七〇	一・二八六
同　五寸	五、一二	五、二六	稍良	同	八、五	九、二〇	〇・二四	一・〇八	一・五二	一・三七	一六七・七六〇	一・二六五
同　七寸	五、一二	五、二五	同	同	八、八	九、二〇	〇・二五	一・〇四	一・四五	一・二九	一六一・九五五	一・二七八
同　一尺	五、一二	五、二六	同	整	八、八	九、二〇	〇・二六	一・〇五	一・四九	一・三五	一四七・七九五	一・二四八

右の成績によれば秋期一回耕及秋春二回耕にあつては深さ五寸區首位を占め同深る三寸區は不良なるに春期一回耕にありては深さ三寸區却つて首位を占むるが如く其の關係一樣ならず。

大正十一年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
秋期一回耕												

	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	貫	石
深さ約三寸	五、二	五、二六	稍良	稍整	八、三	九、二	〇・三二	一・一一	一・四七	一・四〇	一五三・〇〇〇	一・九五
同　五寸	五、二	五、二六	同	同	八、三	九、二	〇・三二	一・一五	一・四五	一・四四	一四〇・五五〇	二・〇四
同　七寸	五、二	五、二六	良	整	八、七	九、二	〇・二八	一・一五	一・四五	一・三七	一二九・三〇〇	二・〇一
同　一尺	五、二	五、二六	同	同	八、七	九、二	〇・二五	一・〇九	一・四四	一・四〇	一三二・七〇〇	二・一〇
秋春二回耕												
深さ約三寸	五、二	五、二六	稍良	稍整	八、七	九、二	〇・二八	一・二四	一・三八	一・三六	一三六・〇五〇	二・一五
同　五寸	五、二	五、二五	同	同	八、七	九、二	〇・二九	一・一八	一・四八	一・四〇	一四五・〇八〇	二・一七
同　七寸	五、二	五、二五	良	整	八、七	九、二	〇・二四	一・一〇	一・五一	一・四二	一四五・八〇〇	二・二九
同　一尺	五、二	五、二五	同	同	八、七	九、二	〇・二三	一・一三	一・四五	一・三七	一四七・〇〇〇	二・一九
春期一回耕												
深さ約三寸	五、二	五、二五	良	整	八、三	九、二	〇・二八	一・一三	一・四四	一・三八	一三八・〇〇〇	二・一三
同　五寸	五、二	五、二五	同	同	八、五	九、二	〇・二五	一・一六	一・四九	一・四四	一五七・九五〇	二・五〇
同　七寸	五、二	五、二五	同	同	八、五	九、二	〇・二五	一・〇八	一・四八	一・三九	一五〇・七五〇	二・三五
同　一尺	五、二	五、二六	稍良	稍整	八、七	九、二	〇・二三	一・二四	一・五二	一・四四	一六二・三〇〇	二・四九

右の成績によれば春期一回耕區何れも良好にして秋春二回區之れに亞ぎ秋期一回耕區何れも不良の成績を示せり、春期一回耕區深さ五寸區收量最も多く秋期一回耕深さ三寸區の收量最も少なし。

大正十二年

試験區別	播種期 (月、日)	發芽 期 (月、日)	發芽 良否	發芽 整否	出穂期 (月、日)	成熟期 (月、日)	作況 夏至 (米)	作況 大暑 (米)	作況 二百十日 (米)	作況 秋分 (米)	反當收量 稈重量 (貫)	反當收量 子實容量 (石)
秋期一回耕 深さ約三寸	五、八	五、二一	良	整	八、八	九、二五	〇・一六	〇・九五	一・二九	一・二五	一三六・九四五	二・二一
同　五寸	五、八	五、二一	同	同	八、八	九、二五	〇・一六	〇・九七	一・二七	一・二五	一三四・九八〇	二・〇五
同　七寸	五、八	五、二一	同	同	八、八	九、二五	〇・一四	〇・九七	一・二六	一・二六	一二〇・七七五	二・五五
同　一尺	五、八	五、二一	同	同	八、八	九、二五	〇・一四	〇・九四	一・二五	一・二〇	一二二・六七五	二・二六
秋春二回耕 深さ約三寸	五、八	五、二一	良	整	八、八	九、二五	〇・一三	〇・九四	一・二五	一・二三	一三三・七八〇	二・二七
同　五寸	五、八	五、二一	同	同	八、八	九、二五	〇・一三	〇・九五	一・二三	一・二四	一一七・三三五	二・三〇
同　七寸	五、八	五、二一	同	同	八、八	九、二五	〇・一五	〇・九〇	一・二一	一・二二	一一六・〇二五	二・一三
同　一尺	五、八	五、二一	同	同	八、九	九、二五	〇・一三	〇・八八	一・二三	一・二〇	一一三・二九五	二・一〇
春期一回耕 深さ約三寸	五、八	五、二一	良	整	八、八	九、二五	〇・一五	一・〇〇	一・二五	一・二三	一三九・二七〇	二・二〇
同　五寸	五、八	五、二〇	同	同	八、八	九、二五	〇・一六	一・〇四	一・二八	一・二六	一四三・八八〇	二・二七
同　七寸	五、八	五、二〇	同	同	八、八	九、二五	〇・一五	〇・九三	一・二七	一・二六	一三七・二六〇	二・四二
同　一尺	五、八	五、二〇	同	同	八、八	九、二五	〇・一三	〇・九五	一・二五	一・二六	一一七・三六〇	二・二五

右の成績によれば秋期一回耕深さ七寸收量最も多く春期一回耕深さ七寸區秋春二回耕深さ五寸區等之れに亞ぎ秋期一回耕の深さ五寸區の收量最も少なし。

大正十三年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穂期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月 日	月 日			月 日	月 日	米	米	米	米	貫	石
秋期一回耕 深さ約三寸	五、七	五、二二	良	整	八、七	九、一五	〇・三三	〇・九三	一・二六	一・一五	九七・五九〇	一・六八
同 五寸	五、七	五、二二	同	同	八、六	九、一五	〇・三三	一・〇二	一・二八	一・二六	一〇九・九八〇	二・〇二
同 七寸	五、七	五、二二	同	同	八、六	九、一五	〇・三四	〇・九五	一・二七	一・二四	九九・五二五	一・八〇
同 一尺	五、七	五、二二	同	同	八、五	九、一五	〇・三三	〇・八九	一・一八	一・一八	八六・三四〇	一・八一
秋春二回耕 深さ約三寸	五、七	五、二二	良	整	八、七	九、一五	〇・三三	〇・八八	一・一六	一・一七	八七・四九三	一・五六
同 五寸	五、七	五、二二	同	同	八、六	九、一五	〇・三四	〇・九六	一・一三	一・一九	一〇六・三九五	一・六九
同 七寸	五、七	五、二〇	同	同	八、六	九、一五	〇・三三	〇・九三	一・二三	一・二〇	一〇七・三五五	一・八二
同 一尺	五、七	五、二〇	同	同	八、六	九、一五	〇・二八	〇・九四	一・二三	一・二五	一〇八・八七〇	一・八八
春期一回耕 深さ約三寸	五、七	五、二〇	良	整	八、三	九、一五	〇・三三	一・〇三	一・二九	一・二七	九九・六九〇	二・四三

同　五寸	五、七	五、二二	良	整	八、三	九、一五	〇・二三	一・〇七	一・二三	一・三一	一二四・四八五	二・五二
同　七寸	五、七	五、二〇	同	同	八、三	九、一五	〇・三〇	一・〇五	一・二三	一・三四	一三四・五八〇	二・四七
同　一尺	五、七	五、二〇	同	同	八、三	九、一五	〇・三一	一・〇五	一・三一	一・二三	一三八・七七〇	二・三七

右の成績によれば春期一回耕五寸區の收量最も多く春期一回耕七寸區、春一回耕三寸區等之に亞ぎ春秋二回耕三寸區の收量最も少なし、春期一回耕區は各區に比し共に優良の成績を示せり。

大正十四年

試驗區別	播種期	發芽			出穗期	成熟期	作況				反當收量	
		期	良否	整否			夏至	大暑	二百十日	收穫期	稈重量	子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	貫	石
秋期一回耕 深さ約三寸	五、八	五、二三	良	整	八、五	九、一九	〇・二三	〇・九〇	一・二〇	一・二八	八八・九八〇	一・六九
同　五寸	五、八	五、二一	同	同	八、五	九、一九	〇・三一	〇・九三	一・三一	一・三二	一〇六・九八〇	二・〇一
同　七寸	五、八	五、二一	同	同	八、五	九、一九	〇・三〇	〇・九六	一・三〇	一・三一	一〇三・三八〇	一・九八
同　一尺	五、八	五、二一	同	同	八、五	九、一九	〇・二九	〇・九六	一・二三	一・三二	一〇一・〇二五	一・九九
秋春二回耕 深さ約三寸	五、八	五、二三	良	整	八、五	九、一九	〇・三二	〇・九二	一・二六	一・三一	八五・七四〇	一・八一

同　五寸	五、八	五、三	亘	整	八、五	九、一九	〇・三〇	〇・九二	一・三一	一・三四	八七・四九五	一・八五
同　七寸	五、八	五、三	同	同	八、五	九、一九	〇・二六	〇・九二	一・三一	一・三五	九六・四〇五	一・八六
同　一尺	五、八	五、三	同	同	八、五	九、一九	〇・三〇	〇・九五	一・三一	一・三〇	九六・四〇五	二・〇一
春期一回耕 深さ約三寸	五、八	五、三	亘	整	八、五	九、一九	〇・二六	〇・八八	一・三一	一・三一	九一・五六〇	一・九二
同　五寸	五、八	五、三	同	同	八、五	九、一九	〇・二六	〇・九三	一・三一	一・三一	一〇二・七〇五	二・四八
同　七寸	五、八	五、三	同	同	八、五	九、一九	〇・二八	〇・九四	一・三一	一・三三	七三・七八〇	二・二五
同　一尺	五、八	五、三	同	同	八、五	九、一九	〇・二一	〇・八五	一・三〇	一・三五	七四・五五〇	二・三三

右の成績を見るに春期一回耕深さ五寸區收量最も多く、同區一尺區、同區七寸區等之に亞ぎ秋期一回耕深さ三寸區收量最も少なし。

異年平均

試驗區別＼年	大正三年	大正四年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	平均
秋期一回耕 深さ約三寸	石 三・二〇〇	石 一・九八〇	石 一・七二〇	石 〇・八四〇	石 一・九四三	石 二・七〇八	石 二・四三〇	石 一・九四〇	石 二・二〇六	石 一・六七八	石 一・六八九	石 二・〇三一
同　五寸	三・二〇〇	二・七八〇	一・六七〇	〇・九二〇	一・九一〇	三・二二五	二・六四三	二・〇四一	二・〇四六	二・〇〇七	二・〇一三	二・二三一
同　七寸	三・五一〇	三・一二〇	二・二六〇	〇・九七〇	一・九五〇	三・四一九	二・五〇三	二・〇〇五	二・五四七	一・七九六	一・九八一	二・二七八

同　一尺	二・八六〇	二・五三〇	一・一五〇	〇・八〇〇	二・〇二四	二・九〇四	二・三八一	二・〇九八	二・二六四	一・八一四	一・九九一	二・〇七四
秋春二回耕 深さ約三寸	三・七〇〇	一・八八七	一・一七〇	〇・五七〇	二・二五六	二・四一七	二・一八九	二・一四八	二・二七一	一・五五五	一・八一三	一・九九八
同　五寸	二・七八〇	一・八一三	一・二三〇	〇・五三〇	二・四八六	二・四六六	二・二七四	二・一六八	二・三〇三	一・六八九	一・八四七	一・九六二
同　七寸	二・九七〇	一・五〇二	二・一六〇	〇・六六〇	二・四五四	二・四四七	二・二〇〇	二・二八五	二・二一九	一・八二四	一・八六三	二・〇五三
同　一尺	二・六二〇	二・一三四	〇・九六〇	〇・五六〇	二・一一七	二・六三九	二・二三五	二・一九二	二・一九九	一・八八一	二・〇〇九	一・九六一
春期一回耕 深さ約三寸	三・五七〇	一・八二六	二・〇六〇	〇・八三〇	二・五四五	二・二五五	二・八六二	二・三一八	二・一九六	二・四三二	一・九二〇	二・二五五
同　五寸	三・五一〇	一・六四〇	一・八二〇	〇・五四〇	二・三一三	二・三二四	二・六四五	二・五〇二	二・二七二	二・五二〇	二・四七九	二・二三三
同　七寸	三・五四〇	一・五二〇	〇・五三〇	〇・四九〇	二・三二〇	二・六二六	二・七八四	二・二五〇	二・四一八	二・四七四	二・二四九	二・一〇九
同　一尺	三・四九〇	一・五五八	〇・三七〇	〇・五四〇	三・一五二	二・七〇四	二・四八四	二・四八五	二・二五三	二・三五六	二・三二八	二・一五六

大正三年以降十一箇年間の收量を見るに秋期一回耕の七寸區首位を占め、春期一回耕三寸區同五寸區等之に亞ぎ、春秋二回耕一尺區、同五寸區等收量少なし。

第三項　地方減耗試驗

目的　本試驗は粟に就き無肥又は施肥供試品種により刀把齊連作又は輪作なして地力及收量に如何なる影響あるかを知らんとするにあり。

大正三年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米		貫	石
無肥連作區	五、九	五、二四	良	稍整	八、五	九、一四	〇・二九	一・一七	一・四六	—	一八三・六〇〇	二・八四三
施肥連作區	五、九	五、二四	稍良	同	八、一	九、一四	〇・三三	〇・九一	一・五二	—	一八四・二〇〇	三・七九四
無肥輪作區	五、九	五、二四	良	同	八、四	九、一四	〇・二七	〇・九一	一・二三	—	一七三・七〇〇	二・三五七
施肥輪作區	五、九	五、二四	同	同	八、四	九、一四	〇・二八	〇・九一	一・三五	—	二〇一・六〇〇	三・七七三

右成績を見るに施肥連作區收量多くして施肥輪作區之に亞ぎ、無肥輪作區收量少なし。

大正六年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米		貫	石
無肥連作區	五、一四	六、八	稍良	—	八、一三	九、一三	〇・〇九	一・〇四	一・二三	—	一四五・二〇〇	一・二八四
施肥連作區	五、一四	六、八	良	—	八、一三	九、一三	〇・〇七	一・〇九	一・三三	—	一六七・一〇〇	一・八八四
無肥輪作區	五、一四	六、一五	稍良	—	八、一四	九、一三	〇・〇六	〇・七二	一・一三	—	九六・三〇〇	〇・八七三
施肥輪作區	五、一四	六、一〇	良	—	八、一四	九、一二	〇・〇七	〇・七八	一・一三	—	一二四・五〇〇	一・五七八

右の成績を見るに施肥連作區收量多くして施肥輪作區之に亞ぎ、無肥輪作區の收量少なし。

大正七年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、一〇 月日	五、二四 月日	良	整	八、一四 月日	九、三 月日	〇・一五 米	〇・八四 米	一・一七 米	一・一八 米	六九・〇〇〇 貫	〇・四六二 石
施肥連作區	五、一〇	五、二五	同	稍整	八、一三	九、三	〇・一六	〇・八〇	一・二〇	一・二三	七八・三〇〇	〇・九三九
無肥輪作區	五、一〇	五、二五	同	整	八、一五	九、三	〇・一一	〇・七七	〇・九六	一・〇七	五三・一〇〇	〇・三六〇
施肥輪作區	五、一〇	五、二五	同	同	八、一三	九、三	〇・一四	〇・八七	一・二三	一・二六	八七・九〇〇	〇・六八一

右表に見るも施肥連作區收量多くして施肥輪作區之に亞ぎ、無肥輪作區の收量最も劣るを見るべし。

大正八年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、一八 月日	五、三〇 月日	良	整	八、三 月日	九、二 月日	〇・〇八 米	〇・五六 米	〇・八一 米	一・〇四 米	六八・五八〇 貫	〇・五六九 石
施肥連作區	五、一八	五、三〇	同	同	八、一四	九、二	〇・一三	〇・五五	一・〇七	一・一三	一四五・二〇〇	一・四二一

無肥輪作區	五、一八	五、三〇	同	同	八、九	九、一八	〇・〇九	〇・六八	〇・九八	一・二七	六九・三三〇	〇・八九二
施肥輪作區	五、一八	五、三〇	同	同	八、六	九、一八	〇・一五	〇・八八	一・一五	一・一六	六七・九〇〇	〇・九三〇

右表を見るに施肥連作區の收量最も多く、施肥輪作區之に亞ぎ、無肥連作區の收量最も少なし。

大正九年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月日	月日			月日	月日	米	米	米	米	貫	石
無肥連作區	五、六	五、一八	良	整	八、四	九、二三	〇・三二	一・一〇	一・五五	一・五四	二七八・四〇〇	四・一九四
施肥連作區	五、六	五、一八	同	稍整	八、四	九、二三	〇・三一	一・〇八	一・五七	一・五三	二〇一・六〇〇	三・〇一八
無肥輪作區	五、六	五、一八	同	同	八、四	九、二三	〇・二五	一・〇三	一・四八	一・四八	一五〇・六〇〇	二・五七二
施肥輪作區	五、六	五、二〇	同	稍整	八、四	九、二三	〇・二三	一・〇一	一・五六	一・五五	一五三・九〇〇	二・〇四九

右成績によりて見れば無肥連作區の收量最も多く、施肥連作區之に亞ぎ施肥輪作區の收量最も少なきを見る、施肥區の收量は無施肥區より少なく、連作區より輪作區は收量少なき相反する現象を呈せり。

大正十年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、三 月日	五、二三 月日	良	整	八、五 月日	九、二八 月日	一・三七 米	一三七・四〇〇 貫	二・四一五 石
施肥連作區	五、三	五、二三	同	同	八、五	九、二八	一・四八	一四四・九〇〇	二・五五九
無肥輪作區	五、三	五、二三	同	同	八、五	九、二八	一・三三	一三一・四〇〇	一・七〇九
施肥輪作區	五、三	五、二三	同	同	八、五	九、二七	一・三八	一二八・五〇〇	一・八四一

右の成績を見るも無肥連作區の收量最も多く、施肥連作區之に亞ぎ、無肥輪作區の收量最も少なし。

大正十一年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、二 月日	五、二七 月日	良	整	八、二 月日	九、一八 月日	一・三八 米	二六・一〇〇 貫	二・三四五 石
施肥連作區	五、二	五、二七	同	同	八、二	九、一八	一・四九	二七・九〇〇	二・六八五
無肥輪作區	五、二	五、二七	同	同	八、二	九、一八	一・四七	二四・〇〇〇	一・八八九
施肥輪作區	五、二	五、二七	同	同	八、二	九、一八	一・四七	二六・九〇〇	二・二八〇

右成績を見るも最も收量多きは施肥連作區にして無肥連作區之に亞ぎ、無肥輪作區の收量最

も少なし。一般に連作區は輪作區よりも優れり

大正十二年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、九 月日	五、三 月日	良	整	八、八 月日	九、三 月日	一・二一 米	一二七・五一〇 貫	一・四九八 石
施肥連作區	五、九	五、三	同	同	八、七	九、三	一・三三	一〇四・〇七〇	一・八五二
無肥輪作區	五、九	五、三	同	同	八、一〇	九、三	一・二一	八五・八〇〇	一・六五一
施肥輪作區	五、九	五、三	同	同	八、七	九、三	一・二九	一一三・一七〇	一・九五九

右成績を見るに施肥輪作區の收量多くして施肥連作區之に亞ぎ、無肥連作區の收量少なし。施肥區は無施肥區よりも良好なり。

大正十三年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、八 月日	五、二一 月日	良	整	八、四 月日	九、一五 月日	一・二五 米	六四・七一〇 貫	一・二三五 石
施肥連作區	五、八	五、二一	同	同	八、四	九、一五	一・二四	七五・一八〇	一・三八〇

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥輪作區	五、八	五、二三	良	整	八、四	九、一五	一・二七	一〇九・二二〇	一・六二八
施肥輪作區	五、八	五、二三	同	同	八、四	九、一五	一・二九	二二一・七八〇	一・五八五

右成績によれば輪作區は連作區に比し、又施肥區は無肥區に比し良好なる成績を示せり。

大正十四年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、五 月日	五、一六 月日	良	整	八、四 月日	九、一八 月日	二・七三 米	二三四・六八〇 貫	二・三二四 石
施肥連作區	五、五	五、一六	同	同	八、五	九、一八	二・三三	九二・三七〇	一・八一六
無肥輪作區	五、五	五、一六	同	同	八、三	九、一八	二・四七	七五・四五〇	一・五三九
施肥輪作區	五、五	五、一六	同	同	八、三	九、一八	二・四七	八四・四二〇	一・〇〇〇

右成績により見れば無肥輪作區の收量多く、施肥輪作區之に亞ぎ、無肥連作區の收量少なし。

昭和元年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	五、六 月日	五、一九 月日	稍良	稍整	八、一六 月日	九、二六 月日	一・二六 米	七四・二五〇 貫	〇・八五七 石

施肥連作區	五、六	五、二〇	同	同	八、二	九、二五	一・三八	一二七・八〇〇	一・一五九
無肥輪作區	五、六	五、二〇	同	同	八、九	九、二六	一・三六	一〇五・〇〇〇	一・三六八
施肥輪作區	五、六	五、二二	同	同	八、五	九、二六	一・五〇	一一五・〇五〇	一・二五九

右試驗成績により見れば收量に於ては輪作區は連作區に比し優良なれど無肥區と施肥區との成績明かならず、無肥輪作區最も優良なり。

昭和二年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
	月 日	月 日			月 日	月 日	米	貫	石
無肥連作區	五、九	五、二六	良	稍整	八、五	九、二〇	一・五一	一五四・七五〇	二・二七六
施肥連作區	五、九	五、二六	同	整	八、五	九、二〇	一・四九	一三八・二五〇	二・一〇六
無肥輪作區	五、九	五、二六	同	同	八、九	九、二〇	一・四一	一三一・〇〇〇	一・九六七
施肥輪作區	五、九	五、二六	同	同	八、五	九、二〇	一・四五	一三一・一〇〇	一・六七五

右成績を見るに連作區優良にして輪作區は劣れり。

昭和三年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 收穫期	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
無肥連作區	月日 五、九	月日 五、一六	良	整	月日 八、一二	月日 九、一七	米 一・三三	貫 五四・〇五〇	石 〇・九九八
施肥連作區	五、九	五、一六	同	同	八、七	九、一七	一・二一	一〇〇・八五〇	一・六三九
無肥輪作區	五、九	五、一七	同	同	八、一〇	九、一七	一・三一	一〇三・〇一〇	一・三七五
施肥輪作區	五、九	五、一六	同	同	八、八	九、一七	一・三一	一〇七・二〇〇	一・三三三

右成績を見るに施肥連作區の收量優良にして無肥輪作區之に亞ぎ、無肥連作區の收量最も劣れり。

今大正三年以降の累年平均を示せば次の如し。

累年平均數量

區別	無肥連作區	施肥連作區	無肥輪作區	施肥輪作區
大正三年	石 二・八四三	三・七九四	二・三五七	三・七七三
大正六年	石 一・二六四	一・八八四	〇・八七四	一・五七八
大正七年	石 △〇・四六三	△〇・九三九	△〇・三六〇	△〇・六八一
大正八年	石 〇・五六九	一・四一一	〇・八九一	〇・九三〇
大正九年	石 △四・一九四	三・〇一八	△二・五七一	二・〇四九
大正十年	石 二・四一五	二・五五九	一・七〇九	一・八四一
大正十一年	石 二・三四五	二・六八五	一・八八九	二・二八〇
大正十二年	石 一・四九八	一・八五二	一・六五一	一・九五九
大正十三年	石 一・一三五	一・三八一	一・六一八	一・五八五
大正十四年	石 二・三一四	一・八一六	一・五三九	一・〇〇〇
昭和元年	石 〇・八五八	一・一五八	一・三六七	一・二六〇
昭和二年	石 二・二七六	二・一〇六	一・九六七	一・六七五
昭和三年	石 〇・九九八	一・六三九	一・三七五	一・三三三
平均	石 一・六八五	一・九五五	一・五六七	一・五九〇
順位	二	一	四	三

以上十三年間の試驗成績に依れば收量に於て連作區は輪作區に比し優れり、即ち施肥連作區首位を占め、無肥連作區之に亞ぎ無肥輪作區最も不良なり。

首位を占め、無肥連作區之に亞ぎ無肥輪作區最も不良なり。
尚後年の試驗を待つて確證せんとす。

第四項　表土攪擾試驗

目的　本試驗は表土攪擾が地水の地表蒸發防止に對する效果を知らんため行ふ。

供試品種　　刀把齊

大正十二年度

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
普通栽培區	五月、九日	五月、二三日	良	整	八月、八日	九月、二五日	〇・一八〇米	〇・九六五米	一・三八〇米	一・三七〇米	二・一三三石	一一五・八八〇貫
普通耕表土攪擾區	五、九	五、二三	同	同	八、八	九、二五	〇・二一五	一・〇一〇	一・四〇〇	一・三九五	一・六三一	一〇〇・四一五
一尺耕表土攪擾區	五、九	五、一九	同	同	八、八	九、二五	〇・一四五	〇・九四〇	一・三六五	一・三七五	一・九四四	一一〇・一七五

大正十三年度

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 立秋	作況 二百十日	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
普通栽培區	五月、七日	五月、二三日	良	整	八月、四日	九月、一五日	〇・三〇〇米	〇・九九〇米	一・三一〇米	一・三〇〇米	一〇五・九五〇貫	一・五一二石

普通耕表土攪擾區	五、七	五、三	良	整	八、四	九、一五	〇・二九〇	一・〇八〇	一・二六〇	一・三三〇	一二〇・四三五	一・六〇〇
一尺耕表土攪擾區	五、七	五、三	同	同	八、四	九、一五	〇・二七〇	一・〇三〇	一・二三〇	一・三四〇	一二〇・三三〇	一・六六四

大正十四年度

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟期	作況 夏至	作況 大暑	作況 立秋	作況 二百十日	反當收量 稈重量	反當收量 子實容量
普通栽培區	月日 五、六	月日 五、三	良	整	月日 八、二三	月日 九、一九	米 〇・三三〇	米 〇・八九〇	米 一・〇九五	米 一・二九〇	貫 一〇〇・二四五	石 一・七一三
普通耕表土攪擾區	五、六	五、三	同	同	八、二三	九、一九	〇・三二五	〇・九四五	一・二五〇	一・三〇五	一〇〇・三六〇	一・六八二
一尺耕表土攪擾區	五、六	五、三	同	同	八、二三	九、一九	〇・三二五	〇・九三五	一・一五〇	一・三三五	一〇〇・三六〇	一・八四六

累年平均收量

試驗區別＼年次	大正十二年	大正十三年	大正十四年	平均	順位
普通栽培區	石 二・一三三	石 一・五一一	石 一・七一三	石 一・七八六	二
普通耕表土攪擾區	一・六三一	一・六〇〇	一・六八二	一・六三八	三
一尺耕表土攪擾區	一・九四四	一・六六四	一・八四六	一・八一八	一

以上の成績によつて見るが如く一尺耕表土攪擾區收量最もよく普通栽培區之に亞ぎ普通栽培表土擾攪區收量最も劣る。

第五項　肥料試驗

一　三要素試驗

目的　本試驗は粟に對する肥料の用量を知らんとするにあり。

供試品種　　刀把齊

大正三年

試驗區別	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）	收量順位
無肥料區	六月三日	六月十日	良	整	八月八日	九月二十日	二・七一〇	一四八・七〇〇	三
無窒素區	同	同	同	稍整	同	同	二・六一〇	一三九・二〇〇	五
無燐酸區	同	同	稍良	同	八月九日	同	二・六二四	一〇〇・五〇〇	四
無加里區	同	同	同	同	八月六日	同	三・三〇八	一四九・二〇〇	一
三要素區	同	同	同	同	八月七日	同	三・〇七三	一五九・九〇〇	二

右の成績によりて見るに無加里區の收量最も多く三要素區之に亞ぎ無窒素區の收量最も少なし。

大正六年

試驗區別＼項目	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）	收量順位
無肥料區	六月七日	六月十四日	良		七月卅一日	九月廿三日	二・二一三	一八四・二〇〇	四
無窒素區	同	同	同		八月二日	九月廿二日	二・三〇七	一九七・七〇〇	一
無燐酸區	同	同	同		同	同	二・〇九一	一八六・六〇〇	五
無加里區	同	同	同		八月三日	同	二・二一一	一八二・七〇〇	二
三要素區	同	同	同		同	同	二・二四八	一八五・一〇〇	三

右の成績によりて見るに無窒素區の收量最も多く無加里區之に亞ぎ無燐酸區の收量最も少なし。

大正七年

試驗區別＼項目	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）	收量順位
無肥料區	五月十日	五月廿五日	良	稍整	八月十日	九月廿五日	一・〇六六	七九・四〇〇	五
無窒素區	同	同	同	同	八月十二日	同	一・一八〇	八五・一〇〇	三
無燐酸區	同	五月廿四日	同	同	八月十一日	同	一・一八六	六九・六〇〇	二

無加里區	同	同	同	同	同	同	一・一六四	七七・八〇〇	四
三要素區	同	同	同	整	同	同	一・二三〇	九〇・三〇〇	一

右の成績によりて見るに收量最も多きは三要素區にして無燐酸區之に亞ぎ收量最も少なきは無肥料區なり。

大正八年

項目 / 試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月十五日	八月三日	不良	不整	八月三日	九月十七日	石 〇・九三三	貫 七一・六〇〇	三
無窒素區	同	同	同	同	八月四日	同	〇・九八六	七二・七〇〇	二
無燐酸區	同	八月四日	同	同	同	同	〇・六〇七	五九・九〇〇	五
無加里區	同	八月二日	同	同	八月二日	同	〇・八八五	六九・三〇〇	四
三要素區	同	同	同	同	同	同	一・〇七六	七三・九〇〇	一

右の成績を見るに三要素區收量最も多く無窒素區之に亞ぎ無燐酸區の收量最も少なし。

本年は旱害竝に蟲害の諸害により良成績を得ず。

大正九年

試驗區別＼項目	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月十日	五月廿五日	稍良	不整	八月八日	九月十九日	石 一・八二七	貫 一二六・二二〇	五
無窒素區	同	同	同	同	八月十一日	同	一・九五一	一三〇・八五〇	四
無燐酸區	同	五月十六日	同	稍整	八月十三日	同	二・四四四	一五六・五〇〇	一
無加里區	同	同	同	同	八月十二日	同	二・一三七	一三三・一五〇	二
三要素區	同	五月廿五日	同	同	八月十日	同	二・四一八	一五三・四三〇	三

右成績を見るに收量最も多きは無燐酸區にして無加里區之に亞ぎ收量最も少なきは無肥料區なり。

累年成績

試驗區別＼年度	大正三年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	平均	收量順位
無肥料區	石 二・七一〇	石 二・一一三	石 一・〇六六	石 〇・九三三	石 一・八二七	石 一・七三〇	五
無窒素區	二・六一〇	二・三〇七	一・一八〇	〇・九八六	一・九五一	一・八〇七	三
無燐酸區	二・六二四	二・〇九一	一・一八六	〇・六〇七	二・四四四	一・七九〇	四
無加里區	三・三〇八	二・二一一	一・一六四	〇・八八五	二・一三七	二・〇〇一	二
三要素區	三・〇七三	二・一四八	一・二三〇	一・〇七六	二・四一八	一・九八七	一

右五箇年間の平均收量を見るに無加里區首位にして三要素區之に亞ぎ、無肥料區の收量最も少なし。

而して一要素を缺する各區につきて見るに無燐酸區最も不良にして無窒素區と大差なく、無加里區に至りては三要素區の收量と差少なく、卽ち之に仍て粟の栽培に當り加里は殆んど其の肥效を認むることなく窒素質肥料の最も重要にして燐酸質肥料も亦忽にすべからざるを知る。

二 堆肥用量試驗

目的　本試驗は粟に對する堆肥の用量を知らんとするにあり。

大正三年

試驗區別＼項目	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
							石	貫	
無肥料區	五月十四日	五月廿一日	稍良	稍整	八月六日	九月十五日	二・一八四	一三〇・七三〇	三
堆肥百貫區	同	同	同	同	八月七日	同	一・九五二	一〇七・四〇〇	四
堆肥二百貫區	同	六月一日	同	稍不整	同	同	二・三六二	一三〇・五五〇	二
堆肥三百貫區	同	五月廿一日	同	稍整	八月六日	同	二・七〇二	一四八・二〇〇	一

右の成績を見るに堆肥三貫區の收量最も多く、堆肥二百貫區之に亞ぎ、堆肥百貫區の收量最も

少なし。

大正四年

試驗區別＼項目	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月二十日	五月三十日	良	整	八月八日	九月廿五日	石 一・九六二	貫 一〇六・二〇〇	四
堆肥百貫區	同	同	同	同	同	同	二・四七〇	一三六・〇〇〇	二
堆肥二百貫區	同		稍良	同	八月十二日	同	二・四九八	一四〇・七六〇	一
堆肥三百貫區	同		同	同	同	同	二・二四七	一三〇・二六〇	三

右の成績を見るに堆肥二百貫區の收量最も多く、堆肥百貫區之に亞ぎ、無肥料區の收量最も少なし。

大正五年

試驗區別＼項目	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月廿二日	六月十日	稍不良		八月十一日	九月廿三日	石 〇・三三九	貫 一五・〇六〇	四
堆肥百貫區	同	同	不良		八月十三日	九月廿四日	〇・三一四	一九・四〇〇	三
堆肥二百貫區	同	同	稍良		同	同	〇・五五九	二五・四〇〇	二
堆肥三百貫區	同	六月十一日	不良		八月十二日	同	〇・八九一	三六・一六〇	一

右の成績を見るに堆肥三百貫區の收量最も多く、堆肥二百貫區之に亞ぎ、無肥料區の收量最も少なし。

大正六年

項目 / 試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量 (石)	反當收量 稈重量 (貫)	收量順位
無肥料區	五月十八日	六月八日	良		八月十日	九月廿一日	二・一三三	一三三・一〇〇	三
堆肥百貫區	同	同	同		八月十一日	九月二十日	二・一一三	一三四・〇〇〇	四
堆肥二百貫區	同	同	同		同	九月廿三日	二・三四四	一五五・二〇〇	二
堆肥三百貫區	同	同	稍良		八月十一日	同	二・三五三	一四九・三〇〇	一

右成績により見るに收量最も多きは堆肥三百貫區にして堆肥二百貫區之に亞ぎ、堆肥百貫區の收量最も少なし。

大正七年

項目 / 試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量 (石)	反當收量 稈重量 (貫)	收量順位
無肥料區	五月十三日	五月廿七日	良	整	八月十三日	九月廿二日	〇・七四二	六七・〇〇〇	一
堆肥百貫區	同	同	同	同	同	九月廿三日	〇・七一六	五八・〇〇〇	二

堆肥二百貫區	五月十三日	五月廿六日	良	整	八月十三日	九月廿二日	〇・六九八	六四・四〇〇	三
堆肥三百貫區	同	五月廿七日	同	同	八月十五日	九月廿三日	〇・五五〇	四八・二〇〇	四

右成績を見るに無肥料區の收量最も多く、堆肥施用量を增すに伴ひて漸次收量も亦減少す。

累年成績

試驗區別＼年度	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	平均	順位
	石	石	石	石	石	石	
無肥料區	二・一八四	一・九六一	〇・四一三	二・一二三	〇・七四二	一・四八四	四
堆肥百貫區	一・九五二	二・四六九	〇・五四〇	二・一一三	〇・七一六	一・五五八	三
堆肥二百貫區	二・三六二	二・四九七	〇・九九四	二・三四四	〇・六九八	一・七七九	二
堆肥三百貫區	二・七〇二	二・二四七	一・七五一	二・三五三	〇・五五〇	一・九二一	一

右五箇年平均收量を見るに堆肥增加と共に收量も亦增加を示せり。

三　過燐酸石灰肥效試驗

目的　本試驗は粟に對する過燐酸石灰の肥效を知らんとす。

大正四年

試驗區別	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月二十日	六月三日	稍不良	稍整	八月十三日	九月廿五日	石 二・五五〇	貫 一八三・〇二〇	一
反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	同	六月四日	稍良	同	同	同	一・九一五	一〇五・六〇〇	八
同三貫匁施用	同	六月三日	同	同	同	同	一・九六八	一一三・八〇〇	六
同六貫匁施用	同	同	同	同	同	同	二・一一八	一一五・四〇〇	五
反當堆肥百二十貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・九六一	一三二・四〇〇	七
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	同	六月四日	同	同	同	同	二・二一八	一三八・六〇〇	三
同過石三貫匁施用	同	六月三日	同	同	同	同	二・二二四	一三七・六〇〇	四
同過石六貫匁施用	同	同	同	同	同	同	二・二六五	一三八・五二〇	二

右の成績によりて見るに無肥料區の收量最も多く、堆肥百二十貫過燐酸石灰六貫區之に亞ぎ、反當過燐酸石灰一貫五百匁區の收量最も多し。

大正五年

試驗區別	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月廿二日	六月七日	稍不良		八月十三日	九月廿二日	石 〇・七三七	貫 三七・八〇〇	一

反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	五月廿二日	六月十一日	不良		八月十四日	九月廿三日	〇・一〇二	六・七〇〇	八
同三貫匁施用	同	六月十四日	同		同	同	〇・三三五	一七・一七〇	五
同六貫匁施用	同	六月十一日	同		八月十五日	九月廿四日	〇・二二七	三・七八〇	七
反當堆肥百二十貫匁施用	同	同	稍不良		八月十二日	九月廿三日	〇・四一九	二一・三〇〇	三
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	同	同	同		八月十二日	九月廿一日	〇・五八七	二八・五五〇	二
同過石三貫匁施用	同	同	不良		同	同	〇・四二九	二四・四〇〇	四
同過石六貫匁施用	同	同	同		同	同	〇・三〇七	一七・九〇〇	六

右の成績を見るに、無肥料區の收量最も優良にして、反當堆肥百二十貫過燐酸石灰一貫五百匁區之に亞ぎ、反當過燐酸石灰一貫五百匁區の收量最も少なし。

大正六年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月十七日	六月八日	良		八月十二日	九月廿三日	石 一・九三〇	貫 二四・九〇〇	三
反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	同	六月九日	同		八月十三日	九月廿二日	一・九三九	二五・九〇〇	二
同三貫匁施用	同	六月八日	稍良		同	九月廿一日	一・九七七	二五・二〇〇	一

同六貫匁施用	同	同	亘		同	九月二十日	一・七六六	一〇六・七〇〇	五
反當堆肥百二十貫匁施用	同	六月九日	稍亘		八月十四日	九月廿二日	一・八六六	一〇三・二〇〇	四
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	同	同	同		八月十三日	九月廿一日	一・四七九	八七・二〇〇	七
同過石三貫匁施用	同	同	同		八月十五日	九月廿二日	一・四三六	八二・九〇〇	八
同過石六貫匁施用	同	同	同		八月十四日	同	一・五八五	八七・五〇〇	六

右の成績を見れば反當過燐酸石灰六貫施用區の收量最も多く、過燐酸石灰一貫五百匁施用區之に亞ぎ、反當堆肥百二十貫過燐酸石灰三貫匁施用區の收量最少なし。

大正七年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 亘否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
							石	貫	
無肥料區	五月十四日	五月廿七日	亘	整	八月十一日	九月二十日	〇・九四七	九九・七〇〇	二
反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	同	五月廿八日	同	稍整	同	九月廿一日	〇・八四八	八四・四〇〇	三
同三貫匁施用	同	同	同	整	八月十二日	同	〇・九八六	八九・二〇〇	一
同六貫匁施用	同	同	同	同	八月十四日	九月廿二日	〇・六三五	六〇・四〇〇	四
反當堆肥百二十貫匁施用	同	同	同	稍整	八月十六日	九月廿三日	〇・四八〇	四九・六〇〇	五

反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	五月十四日	五月廿八日	良	整	八月十六日	九月廿四日	〇·四七二	三九·六〇〇	六
同過石三貫匁施用	同	同	同	同	八月十七日	九月廿三日	〇·四七一	四一·五〇〇	七
同過石六貫匁施用	同	同	同	同	同	同	〇·四二六	四三·三〇〇	八

右の成績を見るに反當過燐酸石灰三貫區の收量最も優良にして、無肥料區之に亞ぎ、反當堆肥百二十貫過燐酸石灰六貫施用區の收量劣れり。

大正八年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月十五日	五月廿八日	不良	不整	八月三日	九月十五日	石 一·七五四	貫 一三五·七〇〇	四
反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	同	同	同	同	八月二日	同	一·六四八	一一九·三〇〇	七
同三貫匁施用	同	五月廿七日	稍良	稍整	同	同	一·六二三	一一〇·六一〇	八
同六貫匁施用	同	五月廿八日	不良	同	同	同	一·六五五	一二〇·二五〇	六
反當堆肥百二十貫匁施用	同	五月廿七日	稍良	同	同	同	一·七九一	一二八·三〇〇	三
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	同	同	同	同	同	同	一·九〇八	一三五·四二〇	二
同過石三貫匁施用	同	同	不良	不整	同	同	一·七四九	一二〇·一二五	五
同過石六貫匁施用	同	五月廿八日	同	同	同	同	二·三三八	一五八·三二〇	一

右の成績を見れば反當堆肥百二十貫過燐酸石灰六貫施用區の收量最も優良にして、反當百二十貫過燐酸石灰一貫五百匁區之に亞ぎ、反當過燐酸石灰三貫施用區の收量劣れり。

大正九年

試驗區別	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量 石	反當收量 稈重量 貫	收量順位
無肥料區	五月十日	六月十三日	良	整	八月十四日	九月廿一日	一・八八二	一二三・七七〇	七
反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	同	六月十五日	同	同	同	九月二十日	一・七五〇	一〇〇・〇五〇	八
同三貫匁施用	同	六月十四日	同	同	同	九月十九日	二・〇七一	一二〇・〇五〇	三
同六貫匁施用	同	六月十五日	同	稍整	八月十三日	同	二・〇三三	一二五・九七〇	四
反當堆肥百二十貫匁施用	同	六月十六日	稍良	同	八月十四日	九月二十日	二・一六九	一二八・七〇〇	二
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	同	六月十四日	良	整	八月十五日	九月廿二日	二・二六二	一三〇・七〇〇	一
同過石三貫匁施用	同	六月十六日	稍良	同	同	同	一・九六四	一〇五・六七〇	五
同過石六貫匁施用	同	同	同	稍整	同	九月廿三日	一・九二一	一二四・九〇〇	六

右の成績によりて見るに反當堆肥百二十貫過燐酸石灰一貫五百匁區の收量最も多く、反當過燐酸石灰一貫五百匁區の收量最も少なし。

大正十年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量 (石)	反當收量 稈重量 (貫)	收量順位
無肥料區	五月十一日	五月廿一日	良	整	八月七日	九月廿五日	一・〇四四	一三六・九〇〇	五
反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	同	同	同	同	同	同	一・五〇〇	一二九・七〇〇	一
同三貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・二五四	一〇六・八〇〇	三
同六貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・〇四四	一〇四・〇〇〇	四
反當堆肥百二十貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・二七八	一三一・〇〇〇	二
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	同	同	同	同	同	同	〇・八四四	九五・二〇〇	六
同過石三貫匁施用	同	同	同	同	同	同	〇・七〇三	九一・二〇〇	七
同過石六貫匁施用	同	同	同	同	同	同	〇・五八九	九七・〇〇〇	八

右の成績によりて見るに反當過燐酸石灰一貫五百匁施用區の收量最も多く、反當堆肥百二十貫匁施用區之に亞ぎ、反當堆肥百二十貫過燐酸石灰六貫匁施用區の收量最も少なし。

大正十一年

試驗區別	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	收穫期	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	收量順位
無肥料區	五月十二日	五月廿四日	良	整	八月七日	九月十六日	石 一・二七八	貫 九一・五〇〇	八
反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	同	五月廿三日	同	同	同	同	一・二〇九	九三・二〇〇	七
同三貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・三七六	九六・七〇〇	六
同六貫匁施用	同	五月廿四日	同	同	同	同	一・四六一	一〇六・〇〇〇	四
反當堆肥百二十貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・五三九	一〇八・〇〇〇	三
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	同	同	同	同	同	同	一・六三三	一一八・五〇〇	二
同過石三貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・七二二	一二六・〇〇〇	一
同過石六貫匁施用	同	同	同	同	同	同	一・四四六	一〇四・四〇〇	五

右の成績を見るに反當堆肥百二十貫過燐酸石灰三貫匁施用區の收量最も優良にして、反當堆肥百二十貫過燐酸石灰一貫五百匁施用區之に亞ぎ、無肥料區の收量最も劣れり。

累年成績

試驗區別	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	平均	順位
無肥料區	石 二・五五〇	石 〇・七三七	石 一・九三〇	石 〇・九四七	石 一・七五四	石 一・八八二	石 一・〇四四	石 一・二七八	石 一・四五六	四

反當過燐酸石灰一貫五百匁施用	一・九一五	〇・一〇三	一・九三九	〇・八四八	一・六四八	一・七五〇	一・五〇〇	一・二〇九	一・四七九	三
同三貫匁施用	一・九六八	〇・三二五	一・九七七	〇・九八六	一・六一二	二・〇七一	一・二五四	一・三七六	一・五一三	一
同六貫匁施用	二・一一八	〇・一二七	一・七六六	〇・六三五	一・六五五	二・〇三三	一・〇四四	一・四六一	一・四三一	六
反當堆肥百二十貫匁施用	一・九六一	〇・四四九	一・八六六	〇・四八〇	一・七九一	二・一六九	一・二七八	一・五三九	一・四八七	二
反當堆肥百二十貫過石一貫五百匁施用	二・二一八	〇・五八七	一・四七九	〇・四七一	一・九〇八	二・二六二	〇・八四四	一・六三三	一・四五〇	五
同過石三貫匁施用	二・二一四	〇・四二九	一・四三六	〇・四七一	一・七四九	一・九六四	〇・七〇三	一・七二一	一・三四一	八
同過石六貫匁施用	二・二六五	〇・三〇七	一・五八五	〇・四一六	二・三三八	一・九一二	〇・五八九	一・四四六	一・三六九	七

右の成績により見るに反當過燐酸石灰三貫匁施用區の收量最も優良にして、反當堆肥百二十貫匁施用區之に亞ぎ、反當堆肥百二十貫過燐酸石灰三貫匁施用區の收量最も劣れり。

第六項　經濟試驗

收支比較試驗

目的　本試驗は滿洲在來の栽培により收支をば明かに示さんとするにあり。

耕種梗概

前作物　高粱

供試品種　白沙

播種量　一天地當日本桝三升
播種法　壤土
播種期　五月六日
肥料　無施肥
畦幅　二尺(六十一糎)
收穫期　九月二十五日

大正七年度

(イ)作況調査

播種期	發芽					出穗			成熟		各期に於ける草丈			
	始	期	揃	良否	整否	始	期	揃	期	日數	夏至	大暑	二百十日	收穫期
五月六日	五、一六 月日	五、一七 月日	五、一九 月日	良	整	八、八 月日	八、一二 月日	八、一五 月日	九、二五 月日	一四二 日	〇・一〇 米	一・〇一 米	一・二二 米	一・〇六 米

發芽當時「ノミハムシ」の喰害を蒙り頻繁なる連雨に遇ひ生育遲々として振はず、六月中旬に至りて作況稍々順當に進捗せしも、七月上旬には「夜盜蟲」の發生浸喰に遭遇し生育、又若干阻止せらる。其の後兎角降雨勝ちにして草丈の伸長見るべきものあり。八月十二日の出穗頃より降溫の支持と共に遂次作況良變し二百十日には八分作と確實ならんと豫想せり。然れども登熟期に於て

低溫陰冷なりしかば穗長短小稔實又澁滯し、前年より四日遲れ九月二十五日に收穫を了せり。要するに本年は前年期に於て害蟲の浸害を蒙り後半期に於ては一般に低溫過濕に失し天候も又粟作に不適應なるが如し。

（ロ）收量調査

一天地支那桝收量		反當日本桝收量		子實一升重量
子實容量	稈重量	子實容量	稈重量	
石 三・六八一	斤 二八四七・二	石 一・一三八	貫 七一・一八〇	匁 三三一・〇

但し支那桝一石は我が一石九斗、支那一斤は我が百五十匁に相當す。

（ハ）收量比較

A　收入之部

種別	價格		收量	價格		備考
	小洋銀	金		支那桝	日本桝	
粟	元 二八・七九〇	円 三〇・〇八三	三六九・二	小洋銀 元 七・八〇〇 金 円 八・一五〇	金 円 四・二九	大正七年十月平均公主嶺の相場による換算率　〇・九五七

種別	價格 小洋銀	價格 金	收量	單價 一〇〇把	備考
稈	一九・九三〇元	二〇・八一三円	二、八四七・二斤	小洋銀 〇・七〇〇円 金 〇・七三一元	同上
計	四八・七三〇	五〇・八九五			

B　支出之部

種別	價格 小洋銀	價格 金	一天地小作料（支那桝） 大豆	高粱	粟	單價 大豆	高粱	粟	價額 大豆	高粱	粟	計
地代	二二・二九五元	二三・二九六円	〇・六六六石	〇・六六七石	〇・六六七石	小洋銀 一六・五〇〇元 金 一七・二四一円	九・一五〇元 九・五六一円	七・八〇〇元 八・一五〇円	一〇・九八九元 一一・四八三円	六・一〇三元 六・三七七円	五・二〇三元 五・四三六円	二二・二九五元 二三・二九六円

種別	價格 小洋銀	價格 金	播種量	單價	價額	備考
種子代	〇・一二三元	〇・一二五円	〇・〇三〇石	小洋銀 四・一〇五元 金 四・一六八円	〇・一二三元 〇・一二五円	大正七年四月公主嶺相場による 換算率 〇・九八五

種別	價額 小洋銀	價額 金	犁丈臺數	單價	價額	備考
整地代	〇・六二六元	〇・六四〇円	〇・五臺	小洋銀 一・二五一元 金 一・二八〇円	〇・六二六元 〇・六四〇円	苦力一人に付犁丈一臺半日使用す 換算率 〇・九八五

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	犂丈臺數	單價 苦力	單價 犂丈	價額 苦力	價額 犂丈	備考
播種代	〇・九五〇元	〇・九〇〇円	一人	〇・五臺	小洋銀 〇・三〇〇元 金 〇・二八四円	一・三〇〇元 一・二三二円	〇・三〇〇元 〇・二八四円	〇・六二五元 〇・六一六円	苦力二人犂丈一臺半日使用す 換算率 一・〇五六

種別	價額 小洋錢	價額 金	苦力員數	馬總數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎭壓費	〇・二〇〇元	〇・一八九円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 〇・三〇〇元 金 〇・二八四円	〇・五〇〇元 〇・四七四円	〇・〇七五元 〇・〇七一円	〇・一二五元 〇・一一八円	苦力一人馬1/4日使用す 換算率 一・〇五六

種別	價額 小洋銀	價額 金
除草及中耕培土費	七・〇五九元	六・八二九円

回數	苦力員數	犂丈臺數	單價 苦力	單價 犂丈	價額 苦力	價額 犂丈	備考
一	四人	〇・五	小洋銀 〇・三五〇元 金 〇・三二四円	一・四九八元 一・三二四円	一・四〇〇元 一・二六五円	〇・七四九元 〇・七一〇円	換算率 一・一四〇
二	四	〇・五	小洋銀 〇・四四〇元 金 〇・四一九円	一・四九〇元 一・四一九円	一・七六〇元 一・六七六円	〇・七四五元 〇・六五七円	換算率 一・〇五〇
三	三	〇・五	小洋銀 〇・三五〇元 金 〇・三六五円	一・三一〇元 一・三六五円	一・〇五〇元 一・〇九五円	〇・六五五元 〇・六八二円	換算率 〇・九六〇
四	二	—	小洋銀 〇・三五〇元 金 〇・三七六円	— —	〇・七〇〇元 〇・七五二円	— —	換算率 〇・九三〇
計	一三	一・五	小洋銀 — 金 —	— —	四・九一〇元 四・七七九円	二・一四九元 二・〇五〇円	

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收穫費	一・八〇〇元	二・〇三六円	四人	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・五〇九円	一・八〇〇元 二・〇三六円	換算率　〇・八八三

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	一・九五九元	二・〇四九円	一・二人	〇・六臺	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・四七三円	三・三五八元 二・四七二円	〇・五四〇元 〇・五六六円	一・四二五元 一・四八三円	換算率　〇・九五四

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
脫殼調製費	三・二五〇元	三・三九三円	四・〇人	一・五頭	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・五二三円	〇・五〇〇元 〇・五二三円	二・〇〇〇元 二・〇八八円	一・二五〇元 一・三〇五円	換算率　〇・九五八

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇・二五〇元	〇・二六一円	〇・五人	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・五二三円	〇・二五〇元 〇・二六一円	脫殼場整理作業　換算率　〇・九五八
肥料代 施肥運搬費	三・九七五元	四・二〇〇円	當地方は大豆、高粱、粟の三年輪作を行ふを普通とし、大豆輪作のみ、即ち三箇年三度施肥するなり故に三作物に分ち計上せり。			
計	四二・四八三元	四三・八一八円				

C　損益計算

種別	一天地當 小洋銀	一天地當 金	一反當 小洋銀	一反當 金
收入	元 四八・七二〇	円 五〇・八九五	元 八・一二〇	円 八・四八三
支出	四二・四八三	四三・八一八	七・〇八一	七・三〇三
差引益	六・二三七	七・〇七七	一・〇三九	一・一八〇

右支出表により明かなる如く一天地當平均小洋銀に於て六元二毛四分、金に於ては七圓七錢七厘の收益を見るに至れり。然れども本年度は收量稍々減少せるを以て收得額隨つて少なし、猶金立の方銀立に比し稍々收益額多きが如きも收納當時に於て金の換算率小なるを以て殆んど大差なし。

大正八年度

(イ)　作況調査

項目		品種名：刀把齊
播種期		月日 五、一三
發芽	始	月日 五、二六
	期	月日 五、二七
	揃	月日 五、二九
	良否	良
	整否	整
出穗	始	月日 七、三一
	期	月日 八、三
	揃	月日 八、六
成熟	期	月日 九、一五
	日數	日 一二五
各期に於ける草丈	夏至	米 〇・三三
	大暑	米 一・〇〇
	二百十日	米 一・一三
	收穫期	米 一・二五

發芽當時氣溫陰冷にして生育稍々不振の傾向ありしも、夏至後氣溫の昇騰に伴ひ作況を恢復せり。六月下旬より七月上旬に亙り、髓蟲發生により作況劣りたるも大事に至らずして止み、八月六日出穗揃に達し、其の後の作況に變化なく九月上旬より成熟期に入り、同じ十七日收穫するを得たり。然れども旱魃の爲め一般に穗長短少なるにより收量從つて少なし。

(ロ) 收量調査

一天地支那桝收量		一反當日本桝收量		子實一升重量
子實容量	稈重量	子實容量	稈重量	
四・三三九石	二、八〇〇・〇斤	一・二三四石	七〇・〇〇〇貫	三一五・〇匁

但し支那桝一石は我が一石九斗、支那一斤は我百五十匁とす。

(ハ) 收支比較

A 收入之部

種別	價額		收量	單價		備考
	小洋銀	金		支那桝	日本桝	
粟	五〇・六八〇元	五六・五六三円	四・三三九石	小洋銀 一一・六八〇元 金 一三・〇三六円	六・八六一円	

	價額 小洋銀	價額 金		單價 一〇〇把	
稈	一九・六〇〇元	二二・二四八円	二八・〇〇〇斤	小洋 〇・七〇〇元 金 〇・六九一円	
計	七〇・二八〇	七八・七三			

B 支出之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	一天地小作料(支那桝) 大豆	一天地小作料(支那桝) 高粱	一天地小作料(支那桝) 粟	單價 大豆	單價 高粱	單價 粟	價額 大豆	價額 高粱	價額 粟	價額 計	備考
地代	三二・〇五二元	三五・七七三円	〇・六六六石	〇・六六七石	〇・六六七石	小洋銀 二四・四〇〇元 金 二七・二五四円	一二・〇一〇元 一三・三八四円	一一・六八〇元 一三・〇三六円	一六・二五〇元 一八・一五一円	八・〇一一元 八・九二七円	七・七九一元 八・六九五円	三二・〇五二元 三五・七七三円	

種別	價額 小洋銀	價額 金	播種量	單價	價額	備考
種子代	〇・一四五元	〇・一四〇円	〇・〇三〇石	小洋銀 四・八二〇元 金 四・六六〇円	〇・一四五元 〇・一四〇円	大正八年四月平均公主嶺相場による 換算率 一・〇三四

種別	價額 小洋銀	價額 金	犁丈臺數	單價	價額	備考
整地代	一・〇〇〇元	〇・九六七円	〇・五臺	小洋銀 二・〇〇〇元 金 一・九三四円	一・〇〇〇元 〇・九六七円	犁丈一臺半日使用す 換算率 一・〇三四

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
播種代	一・三七五元	一・三七五円	一人	〇・五臺	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・四五〇円	一・八五〇元 一・八五〇円	〇・四五〇元 〇・四五〇円	〇・九二五元 〇・九二五円	苦力二人犁丈一臺半日使用す 金銀同額

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎮壓代	〇・二八八元	〇・二八八円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・四五〇円	〇・七〇〇元 〇・七〇〇円	〇・一一三元 〇・一一三円	〇・一七五元 〇・一七五円	苦力一人、馬一頭¼日使用す 金銀同額

	價額 小洋銀	價額 金
除草及中耕培土費	九・〇三三元	九・六一三円

回數	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
一	四人	〇・五臺	小洋銀 〇・五七一元 金 〇・六一〇円	二・〇〇〇元 二・一三七円	二・二八四元 二・四四〇円	一・〇〇〇元 一・〇六九円	換算率 〇・九三六
二	四	〇・五	小洋銀 〇・五九六元 金 〇・六三三円	二・〇〇〇元 二・一三六円	二・三八四元 二・五三三円	一・〇〇〇元 一・〇六三円	換算率 〇・九三六
三	三	〇・五	小洋銀 〇・四五五元 金 〇・四七三円	二・〇〇〇元 二・一八二円	一・三六五元 一・四一九円	一・〇〇〇元 一・〇九一円	換算率 〇・九四一
計	一一	一・五	小洋銀 ― 金 ―	― ―	六・〇三三元 六・三九一円	三・〇〇〇元 三・二二三円	換算率 〇・九六三

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收獲費	三.〇〇〇元	三.〇九五円	五人	小洋銀 〇.六〇〇元 金 〇.六一九円	三.〇〇〇元 三.〇九五円	換算率 〇,九七〇

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	三.七六〇元	四.一二六円	二人	〇.八臺	小洋銀 〇.五九〇元 金 〇.六五一円	三.二〇〇元 三.五三〇円	一.一八〇元 一.三〇三円	二.五八〇元 二.八二四円	換算率 〇.九〇六五

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
脫殼調製費	六.二〇〇元	六.八四〇円	五人	三頭	小洋銀 〇.五九〇元 金 〇.六五一円	〇.六五〇元 〇.七一七円	二.九五〇元 三.二五五円	三.二五〇元 三.五八五円	換算率 〇.九〇六五

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇.二九五元	〇.三二六円	〇.五人	小洋銀 〇.五九〇元 金 〇.六〇一円	〇.二九五元 〇.三二六円	脫殼場整理作業 換算率 〇.九〇六五

	價額 小洋銀	價額 金	備考
肥料代施肥運搬費	元 五三・三〇一	円 五三・〇六三	當方は大豆、高粱、粟の三年輪作を行ふを普通とし大豆輪作のみ卽ち三箇年に一度施肥す。故に三作物に分ち計上せり。
計	六三・三八五	六七・六〇五	

C 損益計算

種別	一天地當 小洋銀	一天地當 金	一反歩當 小洋銀	一反歩當 金
收入	元 七〇・二八〇	円 七八・七一一	元 一一・七一三	円 一三・一一九
支出	六二・三八五	六七・六〇五	一〇・三九八	一一・二六八
差引益	七・八九五	一一・一〇六	一・三一五	一・八五一

右收支表により明かなる如く一天地當小洋銀に於て七元八毛九分五、金に於て十一圓十錢六厘の收益を見るに至れり。本年は相當の收入ありしも農期間に於ける勞働賃高價なりしを以て稍々支出額多きため比較的收益額少き傾きあり。然れども金建の方銀建に比すれば利得多きが如きも之れを良く考査する時は秋納當時に於ける金の換算率甚だしく小なるを以て金建の方存外に多額ならず。

大正九年度

(イ) 作況調査

播種期	發芽 始期	發芽 期	發芽 揃	發芽 良否	發芽 整否	出穗 始期	出穗 期	出穗 揃	成熟 期	成熟 日數	各季に於ける草丈 夏至	各季に於ける草丈 大暑	各季に於ける草丈 二百十日	各季に於ける草丈 收穫期
五月九日	五、一七（月日）	五、一八（月日）	五、二三（月日）	不良	不整	八、九（月日）	八、一四（月日）	八、一九（月日）	九、一七（月日）	一三一（日）	〇・三三（米）	〇・七九（米）	一・二（米）	一・七（米）

發芽概して不良加ふるに苗揃ひ不整なりしため作況見劣りたるも七月に入りてより順次生育を恢復し早きは七月下旬點々出穗を初め八月十四日出穗期に達せり。當時に粟のささら病發生したるも被害輕微にして止み、其の後良好なる天候打續きしを以て順調なる作況を繼承して豫想以上の收量を納め品質亦良好なりき。

(ロ) 收量調査

一天地當支那桝收量 子實容量	一天地當支那桝收量 稈重量	反當日本桝收量 子實容量	反當日本桝收量 稈重量	子實一升重量
四・五一五（石）	二、九四七・〇（斤）	一・四三〇（石）	七三・八〇〇（貫）	三二七・〇（匁）

但し支那桝一石は我が一石九斗、支那一斤は我が百五十匁なり。

（ハ）收支比較

A 收入之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	收量	單價 支那桝	單價 日本桝	備考
粟	五一・一五五元	四四・九一二円	四・五一五石	小洋銀 一一・三三〇元 金 九・九四九円	五・四〇五円	大正九年十月平均公主嶺相場による換算率 一・一三九

種別	價額 小洋銀	價額 金	收量	單價	備考
稈	二〇・六二九元	一八・一二四円	二九四七・〇斤	小洋銀 〇・七〇〇元 金 〇・六一五円	同上
計	七一・七八四	六三・〇三五			

B 支出之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	一天地小作料（支那桝） 大豆	高粱	粟	單價 大豆	單價 高粱	單價 粟	價額 大豆	價額 高粱	價額 粟	計	備考
地代	三一・五九八元	二七・七四二円	〇・七〇〇石	〇・六〇〇石	〇・七〇〇石	小洋銀 一七・五一〇元 金 一五・三七三円	一六・三〇〇元 一四・三二四円	一一・三三〇元 九・九〇〇円	一二・二五七元 一〇・七六一円	一一・四一〇元 一〇・〇一八円	七・九三一元 六・九六三円	三一・五九八元 二七・七四三円	

費目	價額 小洋銀	價額 金	播種量	單價	價額	備考
種子代	〇・二〇五元	〇・二六八円	〇・〇三石	小洋銀 六・八四二元 金 八・九三〇円	〇・二〇五元 〇・二六八円	大正九年四月平均公主嶺相場による　換算率　〇・七六六二

費目	價額 小洋銀	價額 金	犁丈臺數	單價	價額	備考
整地代	一・〇〇〇元	一・三〇五円	〇・五臺	小洋銀 二・〇〇〇元 金 二・六一〇円	一・〇〇〇元 一・三〇五円	苦力一人に付犁丈一臺半日使用す　換算率　〇・七六六二

費目	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
播種費	一・七一〇元	一・六六一円	一人	〇・五臺	小洋銀 〇・四六〇元 金 〇・四四七円	二・五〇〇元 二・四二七円	〇・四六〇元 〇・四四七円	一・二五〇元 一・二一四円	苦力二人犁丈一臺半日使用す　換算率　一・〇三〇

費目	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎭壓費	〇・三七三元	〇・三六二円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 〇・四六〇元 金 〇・四四七円	一・〇三〇元 一・〇〇〇円	〇・一一五元 〇・一一二円	〇・二五八元 〇・二五〇円	苦力一人馬一頭¼日使用す　換算率　一・〇三〇

	價額 小洋銀	價額 金	回數	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	
除草及中耕培土費	七・三四〇元	六・二二二円	一	四人	〇・五臺	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・四五一円	三・〇〇〇元 二・四五九円	二・二〇〇元 一・八〇四円	一・五〇〇元 一・二三〇円	換算率 一・二二〇
			二	四	〇・五	小洋銀 〇・五六〇元 金 〇・四九〇円	二・八〇〇元 二・四五六円	二・二四〇元 一・九六〇円	一・四〇〇元 一・二二八円	換算率 一・一四〇
			計	八	一	小洋銀 ― 金 ―	― ―	四・四四〇元 三・七六四円	二・九〇〇元 二・四五八円	

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	
收穫費	二・二五〇元	二・一四五円	五人	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・四二九円	二・二五〇元 二・一四五円	換算率 一・〇五〇

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	
運搬費	四・六六〇元	四・一一四円	二人	〇・八臺	小洋銀 〇・五三〇元 金 〇・四六八円	〇・四五〇元 三・九七三円	一・〇六〇元 〇・九三六円	三・六〇〇元 三・一六八円	換算率 一・一三七

	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	
脫穀調製費	五・七〇六元	四・九五五円	五人	三頭	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・三九一円	一・一五二元 一・〇〇〇円	二・二五〇元 一・九五五円	三・四五六元 三・〇〇〇円	換算率 一・一五二

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	摘要
雜費	〇・二三五元	〇・一九六円	〇・五人	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・三九一円	〇・二三五元 〇・一九六円	脫穀場整理作業 換算率 一・一五二
肥料代及施肥費	四・四八四元	五・九二〇円				當地方に於て大豆、高粱、粟の三年輪作を行ふを普通とし肥料は大豆輪作のみ三箇年に一度施肥せるにより三作物に分ち計上せり
計	五九・五五一元	五四・八九〇円				

C　損益計算

種別	一天地當 小洋銀	一天地當 金	一反歩當 小洋銀	一反歩當 金
收入	七一・七八四元	六三・〇三五円	一一・九六四元	一〇・五〇六円
支出	五九・五五一	五四・八九〇	九・九二五	九・一四八

差引益	一二•二三三	八•一四五	二•〇三九	一•三五八

右收支表によりて明かなる如く、一天地當小洋銀に於て十二元二毛三分三、金に於て八圓十四錢五厘即ち平年に比すれば收量多かりしと猶秋收穫當時に於ける市場取引相場良好なりしによる。然して銀建の方、金建に比し遙かに利益多額なるが如きも收納時に於て金の換算率稍々大なるを以て其の收益額も大差なし。

大正十年度

(イ) 作況調査

播種期	發芽					出穗			成熟		各期に於ける草丈				
	始期	期	揃	良否	整否	始期	期	揃	期	日數	夏至	大暑	二百十日	秋分	收穫期
五月十一日	五、一八 月日	五、一九 月日	五、二三 月日	稍良	稍整	八、三 月日	八、六 月日	八、八 月日	九、一六 月日	一三〇 日	〇•二五 米	〇•九八 米	一•二五 米	一•二四 米	一•二四 米

發芽は概して良好なりしも稍々缺苗の箇所を生じたり、其後天候順當なりしかば生育亦良好なりき。六月二十六日の降雹の被害を認めず作況の經過順調にして八月六日出穗期に達す出穗開花中は天候順適なりしも高粱同樣登熟作用全く行はれしため收穫期甚だ遲延せしに拘らず豫想以上の增收を見るに至れり。

（ロ）收量調査

項目	一天地支那桝收量 子實容量	一天地支那桝收量 稈重量	反當日本桝收量 子實容量	反當日本桝收量 稈重量	子實一升重量
刀把齊	石 四・四〇四	斤 三、六〇〇・〇	石 一・三九五	貫 九〇・〇〇	匁 三三九・〇

但し支那桝一石は我が一石九斗、支那一斤は我百五十匁なり。

（ハ）收支比較

A　收入之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	收量	單價 支那桝	單價 日本桝	備考
粟	元 三八・八四三	円 三三・四五三	石 四・四〇四	小洋銀 元 八・七二〇 金 円 七・五九六	金 円 三・九九八	大正十年十月平均公主嶺相場による換算率　一・一四八
稈	元 二五・二〇〇	円 二一・九五三	斤 三・六〇〇・〇	小洋銀 元 七・〇〇〇 金 円 六・〇九八		同上
計	六四・〇四三	五五・四〇六				

B　支出之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	一天地小作料（支那桝） 大豆	高粱	粟	單價（石） 大豆	單價（石） 高粱	單價（石） 粟	價額 大豆	價額 高粱	價額 粟	計
地代	二六・七六五元	二三・三二四円	〇・七〇石	〇・七〇石	〇・七〇石	小洋銀 一九・八二六元 金 一七・二六一円	九・七〇〇元 八・四四九円	八・七二〇元 七・五九一円	一三・八七一元 一二・〇八三円	六・七九〇元 五・九一四円	六・一〇四元 五・三一七円	二六・七六五元 二三・三二四円

種別	價額 小洋銀	價額 金	播種量	單價（石）	備考
種子代	〇・一四二元	〇・九二〇円	〇・〇三〇石	小洋銀 四・七〇五元 金 三・〇五八円	大正十年四月平均公主嶺相場に依る　換算率　一・五四八七

種別	價額 小洋銀	價額 金	犁丈 臺數	單價	價額	備考
整地代	一・四〇〇元	〇・八九二円	〇・五臺	小洋銀 二・八〇〇元 金 一・七八三円	一・四〇〇元 〇・八九二円	苦力一人に付犁丈一臺半日使用す　換算率　一・五七〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	犁丈 臺數	苦力 員數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
播種代	一・八〇〇元	一・二〇八円	〇・五臺	一人	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・三〇二円	二・七〇〇元 一・八三二円	〇・四五〇元 〇・三〇二円	一・三五〇元 〇・九〇六円	苦力二人犁丈一臺半日使用　換算率　一・四九〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
鎮壓代	元 〇・四三八	円 〇・二九四	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 元 〇・四五〇 金 円 〇・三〇二	元 一・三〇〇 円 〇・八七三	元 〇・一一三 円 〇・〇七六	元 〇・三二五 円 〇・二一八	苦力一人馬一頭¼日使用 換算率 一・四九〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	回數	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
除草及中耕培土費	元 九・二〇〇	円 六・〇九四	一	四人	〇・五臺	小洋銀 元 〇・六〇〇 金 円 〇・三八九	元 二・六〇〇 円 一・六八五	元 二・四〇〇 円 一・五五六	元 一・三〇〇 円 〇・八四三	換算率 一・五四三
			二	四	〇・五	小洋銀 元 〇・四五〇 金 円 〇・二九四	元 二・五〇〇 円 一・六三四	元 一・八〇〇 円 一・一七六	元 一・二五〇 円 〇・八一七	換算率 一・五三〇
			三	三	〇・五	小洋銀 元 〇・四〇〇 金 円 〇・二七八	元 二・五〇〇 円 一・七三六	元 一・二〇〇 円 〇・八三三	元 一・二五〇 円 〇・八六八	換算率 一・四四〇
			計	一一	一・五	小洋銀 — 金 —	—	元 五・四〇〇 円 三・五六六	元 三・八〇〇 円 二・五二八	

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收穫費	元 二・五〇〇	円 二・三〇八	五人	小洋銀 元 〇・五〇〇 金 円 〇・四六〇	元 二・五〇〇 円 二・三〇五	換算率 一・〇八五

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	四•二六〇元	三•八〇三円	二人	〇•八臺	小洋銀 〇•五三〇元 金 〇•四七三円	四•〇〇〇元 三•五七一円	一•〇六〇元 〇•九四六円	三•二〇〇元 二•八五七円	換算率 一•一二〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
脫穀調製費	六•二五〇元	五•二四九円	五人	三頭	小洋銀 〇•五三〇元 金 〇•四四五円	一•二〇〇元 一•〇〇八円	二•六五〇元 二•二二五円	三•六〇〇元 三•〇二四円	換算率 一•一九〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇•二五六元	〇•二二三円	〇•五人	小洋銀 〇•五三〇元 金 〇•四四五円	〇•二六五元 〇•二二三円	脫穀場整理作業　換算率 一•一九〇
肥料代 施肥運搬費	七•五二七	四•八八九	當地方に於ては大豆、高粱、粟の三年輪作を行ふを普通とし肥料は大豆輪作のみ卽ち三年に一度施肥す、其故三作物分ち計上す			
計	六〇•五四六	四八•三六三				

C　損益計算

種別	一天地當		一反歩當	
	小洋銀	金	小洋銀	金
收入	元 六四・〇四三	円 五五・四〇六	元 一〇・六七四	円 九・二三四
支出	六〇・五四六	四八・三六三	一〇・〇九六	八・〇六一
差引益	三・四九七	七・〇四三	〇・五七八	一・一六三

右表によれば一天地當小洋銀に於て三元四毛九分七、金に於て七圓四錢三厘の利益を見たり然してこの金銀兩建に於ては收得額に於て差大なるが故に此れに於て考査するに作物收納當時に換算率に差異あるかを知る。

大正十一年度

(イ) 作況調査

播種期	發芽					出穗			成熟		各季に於ける草丈				
	始期	期	揃	良否	整否	始期	期	揃	期	日數	夏至	大暑	立秋	秋分	收穫期
五月十一日	月日 五、二三	月日 五、二五	月日 五、二七	良	整	月日 八、一	月日 八、五	月日 八、七	月日 九、二〇	日 一三二	米 〇・一四〇	米 〇・九六〇	米 一・一六〇	米 一・二〇〇	米 一・二〇〇

發芽一般に良好なりしも大豆同樣發芽當時過濕且低溫のため例年に比し約一週間遲延し五月二十五日に至り漸くその期に達し爾後天候不良のため生育餘り思しからざりしも六月下旬より漸次天候の回復と共に生育一般に良變し例年と略同樣八月五日出穗期に達せり、其後生育

期に至る間天候順當に經過し結實完全なりしを以て平年に比し幾分の增收を豫想せられしも出穗稍々小形なりしを以て豫想に反し稍々減收を見るに至れり。

（ロ）收量調査

項目	一天地當收量 子實容量	一天地當收量 稈重量	一反歩當收量 子實容量	一反歩當收量 稈重量	子實一升重量
刀把齊	四・四六六石	二・七四一・三斤	一・四一四石	六八・五三五貫	三二・〇匁

（ニ）收支比較

A　收入之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	收量	單價 支那桝	單價 日本桝	備考
子實	三三・七五〇元	二四・五七三円	四・四六六石	小洋銀七・五五七元 金五・五〇二円	金二・九七四円	大正十一年十月平均公主嶺相場による換算率　一・三七三六

種別	價額 小洋銀	價額 金	收量	單價 一〇〇〇斤	單價 一〇〇貫	備考
稈	一七・八一八元	一二・九七三円	二・七四一・三斤	小洋銀六・五〇〇元 金四・七三三円	金三・一三五円	同上
計	五一・五六八	三七・五四五				

B　支出之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	一天地小作量（支那桝） 大豆	一天地小作量（支那桝） 高粱	一天地小作量（支那桝） 粟	單價（石） 大豆	單價（石） 高粱	單價（石） 粟	價額 大豆	價額 高粱	價額 粟
地代	元 二四・三三〇	円 一七・七三	石 〇・七〇〇	石 〇・七〇〇	石 〇・七〇〇	小洋銀 元 一八・七三三 金 円 一三・六三〇	元 八・四八七 円 六・一七三	元 七・五五七 円 五・五〇二	元 一三・一〇五 円 九・五四一	元 五・九三五 円 四・三三〇	元 五・二九〇 円 三・八五一

種別	價額 小洋銀	價額 金	播種量	單價	價額	備考
種子代	元 〇・一七一	円 〇・一二八	〇・〇三六	小洋銀 元 四・七五七 金 円 三・五一三	元 〇・一七一 円 〇・一二六	大正十一年四月平均公主嶺相場による 換算率 一・三五四

種別	價額 小洋銀	價額 金	犁丈臺數	單價	價額	備考
整地代	元 一・二五〇	円 〇・九一三	臺 〇・五	小洋銀 元 二・五〇〇 金 円 一・八二五	元 一・二五〇 円 〇・九三〇	犁丈一臺半日使用す 換算率 一・三七〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	懐耙臺數	單價 苦力	單價 懐耙	價額 苦力	價額 懐耙	備考
播種費	元 一・八〇〇	円 一・三〇七	人 一	臺 〇・五	小洋銀 元 〇・四〇〇 金 円 〇・二九二	元 二・八〇〇 円 二・〇三〇	元 〇・四〇〇 円 〇・二九一	元 一・四〇〇 円 一・〇一五	苦力二人に付懐耙一臺半日使用 換算率 一・三七〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎮壓費	〇・四〇〇元	〇・二九二円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 〇・四〇〇元 金 〇・二九二円	一・二〇〇元 〇・八七六円	〇・一〇〇元 〇・〇七三円	〇・三〇〇元 〇・二一九円	苦力一馬一頭¼日使用 換算率 一・三七〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	回數	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
除草及中耕培土費	一〇・三〇〇元	七・五五五円	一	三人	〇・五臺	小洋銀 〇・六五〇元 金 〇・四四二円	二・七〇〇元 一・八三六円	一・九五〇元 一・三二六円	一・三五〇元 〇・九一八円	換算率 一・四七〇
			二	四	〇・五	小洋銀 〇・六〇〇元 金 〇・四四四円	二・七〇〇元 二・〇〇〇円	二・四〇〇元 一・七七六円	一・三五〇元 一・〇〇〇円	換算率 一・三五〇
			三	四	〇・五	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三九〇円	二・五〇〇元 一・九五〇円	二・〇〇〇元 一・五六〇円	一・二五〇元 〇・九五〇円	換算率 一・二八二
			計	一一・〇	一・五	小洋銀 — 金 —	— —	六・三五〇元 四・六六二円	三・九五〇元 二・八六八円	

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收穫期	二・二〇〇元	一・五九六円	四人	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・三九九円	二・二〇〇元 一・五九六円	換算率 一・三八〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	三・六〇〇元	二・六六三円	一・五人	〇・七五臺	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三七〇円	三・八〇〇元 二・八一一円	〇・七五〇元 〇・五五五円	二・八五〇元 二・一〇八円	換算率　一・三五二

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
脫穀調製費	四・三〇〇元	三・一三四円	四人	二・五頭	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・三二八円	一・〇〇〇元 〇・七二九円	一・八〇〇元 一・三一二円	二・五〇〇元 一・八二二円	換算率　一・三七二

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇・二二五元	〇・一六四円	〇・五人	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・三二八円	〇・二二五元 〇・一六四円	脫穀場整理作業　換算率　一・三七三
肥料代施肥搬運費	六・八三三	五・〇七〇	當地方に於ては大豆、高粱、粟の三年輪作を普通とし肥料は大豆輪作のみに卽ち三箇年一度施肥す其れ故各三作に分ち計上す			
計	五五・四〇八	四〇・四八三				

C　損益計算

種別	一天地當 小洋銀	一天地當 金	反當 小洋銀	反當 金
收入	元 五一・五七八	円 三七・五四五	元 八・五九六	円 六・二五九
支出	五五・四〇八	四〇・四八三	九・二三五	六・七四七
差引益	(－)三・八四一	(－)二・九三八	(－)〇・六三九	(－)〇・四八八

右表により明かなる如く金銀共に一天地當り三、四圓の損失を來せり。之本年は收量稍少なかりしのみならず市場不振の結果取引價額甚だしく低價なりしによるべし。

大正十二年度

(一) 作況調査

播種期	發芽 始期	發芽 期	發芽 揃	發芽 良否	發芽 整否	出穗 始	出穗 期	出穗 揃	成熟 期	成熟 日數	各季に於ける草丈 夏至	大暑	立秋	二百十日	秋分	收穫期
五月十日	月日 五、二二	月日 五、二七	月日 五、二七	稍良	稍整	月日 八、九	月日 八、一二	月日 八、一三	月日 九、二〇	日 一三七	米 〇・一六	米 〇・九	米 一・〇五	米 一・二四	米 一・三	米 一・三

發芽は稍々良好且つ整齊なりしも他作物同樣生育期間を通じ降雨頻來のため土壤常に過濕に失せしかば生育不良にして草丈の伸長捗々しからず例年に比し著しく矮小なりき。從つて出穗も高粱同樣週日餘遲延し且つ出穗開花中より成熟の前期に亙り天候順當ならざるを以つて

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	三・六〇〇元	二・六一三円	一・五人	〇・七五臺	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三七〇円	三・八〇〇元 二・八一二円	〇・七五〇元 〇・五〇五円	二・八五〇元 二・一〇八円	換算率　一・三五二

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
脫穀調製費	四・三〇〇元	三・一三四円	四人	二・五頭	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・三二八円	一・〇〇〇元 〇・七二九円	一・八〇〇元 一・三一二円	二・五〇〇元 一・八二二円	換算率　一・三七二

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇・二二五元	〇・一六四円	〇・五人	小洋銀 〇・四五〇元 金 〇・三二八円	〇・二二五元 〇・一六四円	脫穀場整理作業　換算率　一・三七三
肥料代運搬施肥費	六・八三三	五・〇七〇	當地方に於ては大豆、高粱、粟の三年輪作を普通とし肥料は大豆輪作のみに卽ち三箇年一度施肥す其れ故各三作に分ち計上す			
計	五五・四〇八	四〇・四八三				

C　損益計算

種別		收入	支出	差引損益
一天地當	小洋銀	五一・五七八元	五五・四〇八	(-)三・八四一
	金	三七・五四五円	四〇・四八三	(-)二・九三八
反當	小洋銀	八・五九六元	九・二三五	(-)〇・六三九
	金	六・二五九円	六・七四七	(-)〇・四八八

右表により明かなる如く金銀共に一天地當り三、四圓の損失を來せり。之本年は收量稍少なかりしのみならず市場不振の結果取引價額甚だしく低價なりしによるべし。

大正十二年度

(一) 作況調査

播種期	發芽 始期	發芽 期	發芽 揃	發芽 良否	發芽 整否	出穗 始	出穗 期	出穗 揃	成熟 期	成熟 日數	各季に於ける草丈 夏至	大暑	立秋	二百十日	秋分	收穫期
五月十日	五、二二 月日	五、二七 月日	五、二七 月日	稍良	稍整	八、九 月日	八、一二 月日	八、一三 月日	九、二〇 月日	一三七 日	〇・一六 米	〇・七九 米	一・〇五 米	一・二四 米	一・三 米	一・三 米

發芽は稍々良好且つ整齊なりしも他作物同様生育期間を通じ降雨頻來のため土壤常に過濕に失せしかば生育不良にして草丈の伸長捗々しからず例年に比し著しく矮小なりき。從つて出穗も高粱同様週日餘遲延し且つ出穗開花中より成熟の前期に亙り天候順當ならざるを以つて

結實稍不良なりしも收量は平年と大差なかりき。

(二) 收量調査

項目	一天地當		反當		子實一升重量
	子實容量	稈重量	子實容量	稈重量	
刈把齊	四・一九四石	三、一三〇斤	一・三二八石	七八・二五〇貫	三三〇匁

(三) 收支比較

A 收入之部

種別	價額		單價		收量	備考
	小洋銀	金	支那析	日本桝		
子實	三八・五八五元	二六・七〇三円	小洋銀 九・二〇〇元 金 六・三六七円	金 三・四四三円	四・一九四石	大正十二年十月平均公主嶺相場による換算率 一・四四五

種別	價額		收量	單價		備考
	小洋銀	金		支一〇〇〇斤	百貫	
稈	三七・五六〇元	二五・三三二円	三・一三〇斤	小洋銀 一二・〇〇〇元 金 八・〇九〇円	金 五・三九三円	同上
計	七六・一四五	五二・〇三五				

B　支出之部

種別	價額 小洋銀	價額 金	一天地小作料(支那桝) 大豆	一天地小作料(支那桝) 高粱	一天地小作料(支那桝) 粟	單價(一石) 大豆	單價(一石) 高粱	單價(一石) 粟	價額 大豆	價額 高粱	價額 粟
地代	元三〇・九三〇	円三・四二二	石〇・七〇〇	石〇・七〇〇	石〇・七〇〇	小洋銀 元二三・〇〇〇 金 元一五・九一七	元一三・〇〇〇 円八・三〇四	元九・二〇〇 円六・三六七	元一六・一〇〇 円一一・一四二	元八・四〇〇 円五・八一三	元六・四四〇 円四・四四五

種別	價額 小洋銀	價額 金	播種量	單價	價額	備考
種子費	元〇・一七〇	円〇・一二六	石〇・〇四二	小洋銀 元四・〇五〇 金 円三・二三七	元〇・一七〇 円〇・一二六	大正十二年四月平均公主嶺相場による 換算率 一・三九〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	犁丈臺數	單價	價額	備考
整地費	元一・三〇〇	円〇・九二三	臺〇・五	小洋銀 元二・六〇〇 金 円一・八四四	元一・三〇〇 円〇・九二三	馬に苦力一人付犁丈一臺を半日使用す 換算率 一・四一〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	懷耙臺數	單價 苦力	單價 懷耙	價額 苦力	價額 懷耙	備考
播種費	元一・九五〇	円一・三九六	人一	臺〇・五	小洋銀 元〇・五〇〇 金 円〇・三五八	元二・九〇〇 円二・〇七六	元〇・五〇〇 円〇・三五八	元一・四五〇 円一・〇三八	苦力一人懷耙一臺半日使用 換算率 一・三九七

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎮壓費	〇・四五〇元	〇・三二三円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三五八円	一・二五〇元 〇・九三〇円	〇・一二五元 〇・〇九〇円	〇・三二五元 〇・二三三円	馬一、苦力一人を¼日使用 換算率 一・三九七

種別	價額 小洋銀	價額 金	回數	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
除草及中培工耕費	一二・五五〇元	八・八二三円	一	五人	〇・五臺	小洋銀 〇・七五〇元 金 〇・五三八円	二・九〇〇元 二・〇七九円	三・七五〇元 二・六九〇円	一・四五〇元 一・〇四〇円	換算率 一・三九五
			二	四	〇・五	小洋銀 〇・六〇〇元 金 〇・四二一円	二・八〇〇元 一・九六六円	二・四〇〇元 一・六八四円	一・四〇〇元 〇・九八三円	換算率 一・四二四
			三	四	〇・五	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・三八二円	二・七〇〇元 一・八七五円	二・二〇〇元 一・五二八円	一・三五〇元 〇・八八八円	換算率 一・四四〇
			計	一三	一・五	小洋銀 — 金 —	— —	八・三五〇元 五・九〇二円	四・二〇〇元 二・九二〇円	

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收穫費	二・〇〇〇元	一・四〇〇円	四人	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三五〇円	二・〇〇〇元 一・四〇〇円	換算率 一・四一〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	三・八二五元	二・六一〇円	一・五人	〇・七五臺	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・三七五円	四・〇〇〇元 二・七二九円	〇・八二五元 〇・五六三円	三・〇〇〇元 二・〇四七円	苦力二人は馬車一臺を¾日使用 換算率 一・四六六

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
脫殼調製費	五・二〇〇元	三・五四八円	四人	二・五頭	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三五五円	一・二〇〇元 〇・八五一円	二・〇〇〇元 一・四二〇円	三・二〇〇元 二・二二八円	換算率 一・四一〇

種別	價額 小洋銀	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇・二五〇元	〇・一七八円	〇・五人	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三五〇円	〇・二五〇元 〇・一七八円	脫殼場整理作業
肥料代施肥費	七・〇二三	五・〇九三	當地方に於て高粱、大豆、粟は輪作を普通とす大豆輪作には施肥を行ふ卽ち三年一度施肥する故此處には各作物に分ち計上せり			
計	六五・六五八	四五・八三二				

C　損益計算

種別	一天地當		反當	
	小洋票	金	小洋票	金
收入	元 七六・一四五	円 五二・〇二五	元 一二、六九一	円 八・六七一
支出	六五・六五九	四五・八三一	一〇・九四三	七・六三八
差引益	一〇・四八六	六・二二一	一・七四八	一・〇三三

右收支表により明かなる如く一天地當小洋票に於て十元四毛八分六、金に於て六圓二十二錢の純益にして例年に比して遙かに多きを示せり。是れ本年は收量に於て例年と大差なきも市場取引價額一般に高騰せしにより收入比較的多かりしによるべし。

大正十三年度

(イ) 作況調査

播種期	發芽					出穗			成熟		各期に於ける調査					
	始期	期	揃	良否	整否	始	期	揃	期	日數	夏至	大暑	立秋	二百十日	秋分	收穫期
五月十二日	五、二一 月日	五、二三 月日	五、二五 月日	良	整	八、一 月日	八、四 月日	八、九 月日	八、一七 月日	三八 日	〇・二七 米	〇・八六 米	一・二一 米	一・二〇 米	一	一・二〇 米

發芽整一且つ良好にして其後順調なる生育を續け六月中旬より同下旬に亙り旱魃に遭遇しても何等の支障なく順當に經過せり。然して出穗より成熟期に至る間一般に天候良好なりしか

ば高粱同様登熟完全に行はれしため品質良好且つ收量も平年に比し一割餘の増加を見るに至れり。

（ロ）收量調査

品種名	一天地當收量		一反歩當收量		子實一升重量
	子實容量	稈重量	子實容量	稈重量	
刀把齊	四.五七六石	二、五〇〇.〇斤	一.四四九石	六二.五〇〇貫	三一八.〇匁

（ハ）收支比較

A 收入之部

種別	價額		收量	價額		備考
	小洋票	金		支那桝	日本桝	
子實	六八.六四〇元	四四.五七〇円	四.五七六石	小洋銀 一五.〇〇〇元 金 九.七四〇円	金 五.二六五円	大正十三年十月公主嶺平均相場による換算率 一.五四〇

種別	價額		收量	價額		備考
	小洋票	金		一〇〇〇斤	一〇〇貫	
稈	三八.二五〇元	二三.五四〇円	二.五〇〇斤	小洋銀 一四.五〇〇元 金 九.四一六円	金 六.二七七円	同上
計	一〇四.八九〇	六八.一一〇				

B　支出之部

種別	價額 小洋票	價額 金	一天地小作料(支那桝) 大豆	高粱	粟	單價 大豆	單價 高粱	單價 粟	價額 大豆	價額 高粱	價額 粟	備考
地代	四九・七〇〇元	三二・二七三円	〇・七石	〇・七石	〇・七石	小洋銀 三七・五〇〇元 金 二四・三五一円	一八・五〇〇元 一二・〇一三円	一五・〇〇〇元 九・七四〇円	二六・二五〇元 一七・〇四六円	一二・九五〇元 八・四〇九円	一〇・五〇〇元 六・八一八円	公主嶺附近中等地一反地小作料は二石一斗にして大豆、高粱、粟を各等分に納入するものとす。大正十三年十月公主嶺平均相場による 換算率 一・五四

種別	價額 小洋票	價額 金	播種量	單價	價額	備考
種子代	〇・二五二元	〇・一八九円	〇・〇四二	小洋銀 六・〇〇〇元 金 四・五一一円	〇・二五二元 〇・一八九円	大正十三年四月平均公主嶺相場による 換算率 一・三三〇

種別	價額 小洋票	價額 金	犂丈臺數	單價	價額	備考
整地代	一・四〇〇元	一・〇三七円	〇・五臺	小洋銀 二・八〇〇元 金 二・〇七四円	一・四〇〇元 一・〇三七円	馬一、苦力一人に付犂丈一臺を半日使用 換算率 一・三五〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	懷耙臺數	單價 苦力	單價 懷耙	價額 苦力	價額 懷耙	備考
播種費	一・九五〇元	一・四六七円	一人	〇・五臺	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・四一七円	二・八〇〇元 二・一〇五円	〇・五五〇元 〇・四一五円	一・四〇〇元 一・〇五三円	換算率 一・三三〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎮壓費	〇・四三八元	〇・三三〇円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・四一四円	一・二〇〇元 〇・九〇二円	〇・一三八元 〇・一〇四円	〇・三〇〇元 〇・二二六円	馬一頭苦力一人は¼日使用す 換算率　一・三三〇

種別	價額 小洋票	價額 金	回數	苦力員數	單價 苦力	單價 犂丈	價額 苦力	價額 犂丈	犂丈臺數	備考
除草及中耕培土費	一二・二〇〇元	九・二〇五円	一	五人	小洋銀 〇・八〇〇元 金 〇・六〇二円	二・八〇〇元 二・一二一円	四・〇〇〇元 三・〇三〇円	一・四〇〇元 一・〇六一元	〇・五臺	換算率　一・三二〇
			二	四	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三七九円	二・八〇〇元 二・一二一円	二・〇〇〇元 一・五一六円	一・四〇〇元 一・〇六一円	〇・五	換算率　一・三二〇
			三	四	小洋銀 〇・五〇〇元 金 〇・三七九円	二・八〇〇元 二・〇九〇円	二・〇〇〇元 一・四九二円	一・四〇〇元 一・〇四五円	〇・五	換算率　一・三四〇
			計	一三・〇	小洋銀 — 金 —	— —	八・〇〇〇元 六・〇三九円	四・二〇〇元 三・一六七円	一・五	

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收穫期	二・六〇〇元	一・三八四円	四人	小洋銀 〇・六五〇元 金 〇・三四六円	二・六〇〇元 一・三八四円	換算率　一・八八〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
脫殼調製費	五・二〇〇元	三・四二二円	四人	二・五頭	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・三六二円	一・二〇〇元 〇・七八九円	二・二〇〇元 一・四四八円	三・〇〇〇元 一・九七三円	換算率　一・五二〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	四・二七五元	二・四一六円	一・五人	〇・七五臺	小洋銀 〇・六〇〇元 金 〇・三三九円	四・五〇〇元 二・五四二円	〇・九〇〇元 〇・五〇九円	三・三七五元 一・九〇七円	苦力二人に付き馬車一臺 ¾日使用 換算率　一・七七〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇・二七五元	〇・一八一円	〇・五人	小洋銀 〇・五五〇元 金 〇・三六二円	〇・二七五元 〇・一八一円	脫殼場整理作業　換算率　一・五二〇
肥料代運搬施肥費	七・〇四一	五・三六六	當地方に於ては大豆、高粱、粟の三輪作を行ふを普通とす其の内大豆のみ即ち三年に一度施肥す故に三作物に分ち計上せり			
計	八五・四四七	五七・二六九				

C　損益計算

種別	一天地當 小洋票	一天地當 金	一反歩當 小洋票	一反歩當 金
收入	一〇四・八九〇元	六八・二一〇元	一七・四八二元	一一・三五二元
支出	八五・四四七	五七・二六九	一四・二四一	九・五四九
差引益	一九・四四三	一〇・九四一	三・二四一	一・八〇三

右收支表により明かなる如く一天地當小洋票に於て一九元四毛四分餘、金に於て十圓八十四錢餘の收益にして近年に無き好結果を示せり、之れ本年は收量增加せるのみならず市場に於て取引き價額の高騰せるにより收入額比較的多かりしによるべし。

大正十四年度

(一) 作況調査

播種期	發芽 始期	發芽 期	發芽 揃	發芽 良否	發芽 整否	出穗 始	出穗 期	出穗 揃	成熟 期	成熟 日數	各季に於ける草丈 夏至	大暑	立秋	二百十日	收穫期
五月十二日	五、一七	五、一九	五、二〇	良	整	八、二	八、七	八、一二	九、二〇	一三一日	〇・二七米	〇・八三米	一・〇六米	一・二五米	一・二六米

發芽整齊且つ良好にして其後旺盛なる生育を續け六月下旬より七月上旬に亙り旱魃に遇ひしも何等の支障なく順當に經過して出穗及開花期より成熟期に至る間一般に天候良好なりし

かば高粱同様登熟完全に行はれ品質良好且つ收量も多く平年に比し一割五分餘の増加を見るに至れり。

（二）收量調査

項目	一天地當收量		反當收量		子實一升重量
	子實容量	稈重量	子實容量	稈重量	
刀把齊	五・〇四三石	二、一三六・〇斤	一・五七〇石	五三・四〇〇貫	三二〇・〇匁

（三）收支比較

A　收入之部

種別	價額		收量	價額		備考
	小洋票	金		支那桝	日本桝	
子實	八五・七三一元	五〇・四三〇円	五・〇四三石	小洋銀一七・〇〇〇元 金一〇・〇〇〇円	金五・四三五円	大正十四年十月公主嶺平均相場による換算率　一七〇〇
種別	價額		收量	價額		備考
	小洋票	金		一〇〇〇斤	一〇〇貫	
稈	四〇・五八四元	二三・八七二円	二・一三六斤	小洋銀一九・〇〇〇元 金一一・一七六円	金七・四五一円	同　上
計						

B　支出之部

種別	價額		一天地小作料			單價（石）			價額			備考
	小洋票	金	大豆	高粱	粟	大豆	高粱	粟	大豆	高粱	粟	
地代	元 五五・三〇〇	円 三一・五八三	石 〇・七〇	石 〇・七〇	石 〇・七〇	小洋銀 元 四一・〇〇〇 金 円 二四・一一九	元 二一・〇〇〇 円 一二・三五三	元 一七・〇〇〇 円 一〇・〇〇〇	元 二八・七〇〇 円 一六・八八二	元 一四・七〇〇 円 八・六四七	元 一一・九〇〇 円 六・〇五三	公主嶺附近中等地一天地小作料は二石一斗にして大豆、高粱、粟を各等分に納入するものとす大正十四年十月公主嶺平均相場による 換算率 一・七〇〇

種別	價額		播種量	單價	價額	備考
	小洋票	金				
種子代	元 〇・四六二	円 〇・二七〇	石 〇・〇四二	小洋銀 元 一一・〇〇〇 金 円 六・四七一	元 〇・四六二 円 〇・二七二	大正十四年平均公主嶺相場による 換算率 一・七〇〇

種別	價額		犂丈臺數	單價	價額	備考
	小洋票	金				
整地代	元 一・四〇〇	円 〇・八二四	〇・五臺	小洋銀 元 二・八〇〇 金 円 一・六四七	元 一・六四七 円 一・四〇〇	馬二、苦力一人に付犂丈一臺半日使用 換算率 一・七〇〇

種別	價額		苦力員數	懷把臺數	單價		價額		備考
	小洋票	金			苦力	懷把	苦力	懷把	
播種費	元 二・二〇〇	円 一・二九五	一人	〇・五臺	小洋銀 元 〇・七〇〇 金 円 〇・四一二	元 三・〇〇〇 円 一・七六五	元 〇・七〇〇 円 〇・四一二	元 一・五〇〇 円 〇・八八二	苦力二人懷把一臺半日使用 換算率 一・七〇〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎮壓費	〇・五五〇元	〇・三二四円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 〇・七〇〇元 金 〇・四一二円	一・五〇〇元 〇・八八二円	〇・一七五元 〇・一〇三円	〇・三七五元 〇・二二一円	馬一、苦力一人に付¼日使用 換算率 一・七〇〇

種別	價額 小洋票	價額 金	回數	苦力員數	犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
除草及中耕培土費	一五・三〇〇元	九・四四八円	一	五人	〇・五臺	小洋銀 一・〇〇〇元 金 〇・六一七円	三・五〇〇元 二・一六〇円	五・〇〇〇元 三・〇八五円	一・七五〇元 一・〇八〇円	換算率 一・六二〇
			二	四	〇・五	小洋銀 〇・八〇〇元 金 〇・五〇三円	三・五〇〇元 二・二〇一円	三・二〇〇元 二・〇一三円	一・七五〇元 一・一〇一円	換算率 一・五九〇
			三	三	〇・五	小洋銀 〇・七〇〇元 金 〇・四二三円	三・〇〇〇元 二・一〇〇円	二・一〇〇元 一・二六六円	一・五〇〇元 〇・九〇四円	換算率 一・六六〇
			計	一二	一・五	小洋銀 — 金 —	— —	一〇・三〇〇元 六・三六三円	五・〇〇〇元 三・〇八五円	

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收穫費	三・六〇〇元	二・一一六円	四人	小洋銀 〇・九〇〇元 金 〇・五二九円	三・六〇〇元 二・一一六円	換算率 一・七〇〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 犂丈	價額 苦力	價額 犂丈	備考
運搬費	五・七〇〇元	三・四三五円	一・五人	〇・七五頭	小洋銀 〇・八〇〇元 金 〇・四七六円	六・〇〇〇元 三・六一四円	一・二〇〇元 〇・七二四円	四・五〇〇元 二・七一〇円	苦力二人付馬車一臺を¾日使用 換算率一・六六〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 犂丈	備考
脫殼調製費	七・一五〇元	四・〇二〇円	四	二・五頭	小洋銀 〇・八五〇元 金 〇・四七八円	一・五〇〇元 〇・八四三円	三・四〇〇元 一・九一三円	三・七五〇元 二・一〇八円	換算率 一・七八〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇・四二五元	〇・二三九円	〇・五人	小洋銀 〇・八五〇元 金 〇・四七八円	〇・四二五元 〇・二三九円	脫殼場整理作業 換算率 一・七八〇
肥料代施肥費	八・六八〇	五・一〇三	當地方に於ては大豆、高粱、粟は普通輪作を行ふ大豆輪作のみに施肥す卽ち三箇年一度施肥す故作物に分ち計上せり			
計	一〇〇・七六七	五八・六四五				

C 損益計算

種別	一天地當 小洋票	一天地當 金	一反步當 小洋票	一反步當 金
收入	一二六・三一五元	七四・三〇二円	二一・〇五三元	一二・三八四円

支出	一〇〇・六六九	五八・六五四	一六・七七八	九・七七六
差引益	二五・五四八	一五・六四八	四・二七五	二・六〇八

右收支表により明かなる如く一天地當小洋票に於に二十五元五毛四分餘金に於て十五圓六十五錢八厘の收益にして近年に無き良結果を來せり、之れ本年は收量蓋して增加せるのみならず市場に於て取引價稍々高價なりしため收入多かりしに基因すべし。

昭和元年度

(一) 作況調査

項目		刀把齊
發芽	始期	五月二三日
	期	五月二五日
	揃	五月二七日
	良否	不良
	整否	不整
出穗	始	八月一五日
	期	八月二一日
	揃	八月二六日
成熟	期	九月二六日
	日數	一三七日
冬期に於ける草丈	夏至	〇・〇六米
	大暑	〇・三八米
	處暑	一・三一米
	秋分	二・二三米
	收穫期	二・二三米

前年と略々同樣五月十二日播種せるに例年と大差なく五月二十五日發芽期に達せるも初春以來の旱魃のため發芽不整且つ缺苗甚だ多かりしのみならず其後の生育至つて振はず高粱同樣六月中旬に入るや莖葉黃變せるのみならず點々枯死を認めたり、秋收穫を懸念せられしも六月二十一日以來の降雨により蘇生し其後生育頓に促進し適順なる天候にして作況漸次回復したるを以て豫想以上の收量あり平年に比し若干の減收に止まれり。

(二) 收量調査

播種期	一天地收量 子實容量	一天地收量 稈重量	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量	子實一升重量
五月十二日	四・〇六四石	二、四三三・〇斤	一・二七六石	六〇・八二五貫	三一五・〇匁

(三) 收支比較

A 收入之部

種別	價額 小洋票	價額 金	收量	價額 支那桝	價額 日本桝	備考
子實	二二七・六一〇元	三一・五〇八円	四・〇六四石	小洋銀 三一・四〇〇元 金 七・七五三円	四・一九一円	大正十五年十一月平均公主嶺相場による換算率 四・五〇〇
種別	價額 小洋票	價額 金	收量	價額 一〇〇〇斤	價額 一〇〇貫	備考
稈	九七・三二〇元	二四・〇三二円	二、四三三・〇斤	小洋銀 四〇・〇〇〇元 金 九・八七七円	金 六・五八五円	同上
計	三二四・九三〇	五五・五三九				

B　支出之部

種別	價額 小洋票	價額 金	一天地小作料 大豆	一天地小作料 高粱	一天地小作料 粟	單價 大豆	單價 高粱	單價 粟	價額 大豆	價額 高粱	價額 粟	備考
地代	八二・六八〇元	二〇・四一六円	〇・六〇石	〇・六〇石	〇・六〇石	小洋銀 六一・三〇〇元 金 一五・一三六円	四五・一〇〇元 一一・一三六円	三一・四〇〇元 七・七五三円	三六・七八〇元 九・〇八二円	二七・〇六〇元 六・六八二円	一八・八四〇元 四・六五二円	公主嶺中等地一天地小作料本年は一石八斗にして大豆、高粱、粟を各等分に納入することとす。昭和元年十一月公主嶺相場による 換算率 四・〇五〇

種別	價額 小洋票	價額 金	播種量	單價	價額	備考
種子代	〇・六三六元	〇・二二九円	〇・〇四二石	小洋銀 一五・一三五元 金 五・四四四円	ー ー	大正十五年四月公主嶺相場による 換算率 二・七八〇

種別	價額 小洋票	價額 金	犁丈臺數	單價	價額	備考
整地代	二・〇〇〇元	〇・六一八円	〇・五臺	小洋銀 四・〇〇〇元 金 一・二三五円	二・〇〇〇元 〇・六一八円	換算率 三・二四〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	懷耙臺數	單價 苦力	單價 懷耙	價額 苦力	價額 懷耙	備考
播種代	二・九五〇元	一・〇五二円	一人	〇・五臺	小洋銀 一・二〇〇元 金 〇・四一四円	三・七〇〇元 一・二七六円	一・二〇〇元 〇・四一四円	一・七五〇元 〇・六三八円	換算率 二・九〇〇〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
鎭壓費	〇・七二五元	〇・二五一円	〇・二五人	〇・二五頭	小洋銀 一・二〇〇元 金 〇・四一四円	一・七〇〇元 〇・五八六円	〇・三〇〇元 〇・一〇四円	〇・四二五元 〇・一四七円	換算率 二・九〇〇〇

種別	價額 小洋票	價額 金	回數	苦力員總數	苦力犁丈臺數	單價 苦力	單價 犁丈	價額 苦力	價額 犁丈	備考
除草及中耕培土費	二八・九〇〇元	六・四五三円	一	五人	〇・五臺	小洋銀 一・二〇〇元 金 〇・二九九円	七・〇〇〇元 一・七〇七円	六・〇〇〇元 一・四六五円	三・五〇〇元 〇・八五四円	換算率 四・一〇〇
			二	四	〇・五	小洋銀 一・五〇〇元 金 〇・三五三円	七・五〇〇元 一・七六五円	六・〇〇〇元 一・四一三円	三・七五〇元 〇・八八三円	換算率 四・二五〇
			三	三	〇・五	小洋銀 一・八〇〇元 金 〇・三四三円	八・五〇〇元 一・六一九円	五・四〇〇元 一・〇二九円	四・二五〇元 〇・八一〇円	換算率 五・二五〇
			計	一二	一・五	小洋銀 — 金 —	— —	一七・四〇〇元 三・九〇六円	一一・五〇〇元 二・五四七円	

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
收穫期	五・六〇〇元	一・五五四円	三・五人	小洋銀 一・六〇〇元 金 〇・四四四円	五・六〇〇元 一・五五四円	換算率 三・六〇〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬車臺數	單價 苦力	單價 馬車	價額 苦力	價額 馬車	備考
運搬費	一一·二五〇元	二·八一三円	一·五人	〇·七五臺	小洋銀 一·五〇〇元 金 〇·三七五円	三·〇〇〇元 三·〇〇〇円	二·二五〇元 〇·五六三円	九·〇〇〇元 二·二五〇円	換算率 四·〇〇〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	馬頭數	單價 苦力	單價 馬	價額 苦力	價額 馬	備考
調製費	八·八〇〇元	二·一二三円	三人	二頭	小洋銀 一·六〇〇元 金 〇·三六八円	二·〇〇〇元 〇·四八二円	四·八〇〇元 一·一五八円	四·〇〇〇元 〇·九六四円	換算率 四·一五〇

種別	價額 小洋票	價額 金	苦力員數	單價	價額	備考
雜費	〇·八〇〇元	〇·一八四円	〇·五人	小洋銀 一·六〇〇元 金 〇·三六八円	〇·八〇〇元 〇·一八四円	脫殼場整理作業
肥料代施肥費	一四·〇七四	四·八一四	當地方に於て大豆、高粱、粟は普通輪作を行ひ大豆輪作のみ施肥す卽ち三箇年一度施肥致す故各作物に分ち計上す			
計	一五八·四二五	四〇·六〇六				

C　損益計算

種別	一天地當 小洋票	一天地當 金	一反當 小洋票	一反當 金
收入	元 二二四・八〇〇	円 五五・五三九	元 三七・四六八	円 九・二五九
支出	一五八・四一五	四〇・六〇六	二六・四〇三	六・七六八
差引益金	六六・五一五	一四・九三三	一一・〇六五	二・四八九

右收支表により明かなる如く一天地當小洋票に於て六十六元五毛一分餘金に於て十四圓七十三錢餘の純益にして例年に比して遙かに多きを示せり。又本年は小洋票と金の差甚だ大きく又市街に於て取引き價額一般に高騰せしにより比較的多かりき。

累年收支比較

A 收入之部（一天地當）

種別	大正七年 收量	大正七年 單價 小洋票	大正七年 單價 金	大正七年 價額 小洋票	大正七年 價額 金	大正八年 收量	大正八年 單價 小洋票	大正八年 單價 金	大正八年 價額 小洋票	大正八年 價額 金
種實	三、六九一・〇石 一、五〇六・〇斤	元 七・八〇〇	円 八・一五〇	元 二八・七九〇	元 三〇・〇八二	四、三三九・〇石 一、六八五・七斤	元 一一・六八〇	円 一三・〇三六	元 五〇・六八〇	円 五六・五六三
莖稈	二、八四七・二	七・〇〇〇	七・三一〇	一九・九三〇	二〇・八一三	二、八〇〇・〇	七・〇〇〇	七・九一〇	一九・六〇〇	二二・一四八
計	四、三五三・二	一四・八〇〇	一五・四六〇	四八・七二〇	五〇・八九五	四、四八五・七	一八・六八〇	二〇・九四六	七〇・二八〇	七八・七一一

種別	收量	單價 小洋票	單價 金	價額 小洋票	價額 金
	大正九年				
種實	四・五一五石 一、八二〇・九斤	一一・三三〇元	九・九四七円	五一・一五五元	四四・九一二円
莖稈	二、九四七・〇	七・〇〇〇	六・一五〇	二〇・六二九	一八・一二四
計	四、七六七・九	一八・三三〇	一六・〇九七	七一・七八四	六三・〇三五
	大正十年				
種實	四、四〇四・〇石 一、六四〇・九斤	八・七二〇元	七・五九六円	三八・八四三元	三三・四五九円
莖稈	三、六〇〇・〇	七・〇〇〇	六・〇九八	二五・二〇〇	二一・九五三
計	五、二四〇・九	一五・七二〇	一三・六九四	六四・〇四三	五五・四〇六
	大正十一年				
種實	四、四六六・〇石 一、八二三・二斤	七・五五七元	五・五〇〇元	三三・七五〇元	二四・五七三元
莖稈	二、七四一・三	六・五〇〇	四・七三二	一七・八一八	一三・九七二
計	四、五六四・五	一四・〇五七	一〇・二三四	五一・五六八	三七・五四五
	大正十二年				
種實	四、一九四・〇石 一、七〇七・〇斤	九・二〇〇元	六・三六七円	三八・五八五元	二六・七〇三円
莖稈	三、一三〇・〇	一二・〇〇〇	八・〇九〇	三七・五六〇	二五・三二二
計	四、八三七・五	二一・二〇〇	一四・四五七	七六・一四五	五二・〇二五
	大正十三年				
種實	四、五七六・〇石 一、七九四・七斤	一五・〇〇〇元	九・七四〇円	六八・六四〇元	四四・五七〇円
莖稈	二、五〇〇・〇	一四・五〇〇	九・四一六	三六・二五〇	二三・五四〇
計	四、二九四・七	二九・五〇〇	一九・一五六	一〇四・八九〇	六八・一一〇
	大正十四年				
種實	五、〇四三石 一、九九三・四斤	一七・〇〇〇元	一〇・〇〇〇円	八五・七三一元	五〇・四三〇円
莖稈	二、一三六・〇	一九・〇〇〇	一一・一七六	四〇・五八四	二三・八七二
計	四、一二八・四	三六・〇〇〇	二一・一七六	一二六・三一五	七四・三〇二

種別	昭和元年 收量	昭和元年 單價 小洋票	昭和元年 單價 金	昭和元年 價額 小洋票	昭和元年 價額 金	平均 收量	平均 單價 小洋票	平均 單價 金	平均 價額 小洋票	平均 價額 金
種實	四、〇六四・〇石 一、五七八・九斤	三一・四〇〇元	七・七五二元	一二七・六一〇元	三一・五〇八元	四、三六六・〇石 一、七二七・八斤	一三・三三〇元	八・七二四元	五八・一九八元	三八・〇八八元
莖稈	二、四三三・〇	四〇・〇〇〇	九・八七七	九七・三二〇	二四・〇三一	二、七九二・七	一五・五二八	七・六七〇	三四・九八八	二一・四一九
計	四、〇一一・九	七一・四〇〇	一七・六三〇	二二四・九三〇	五五・五三九	四、五二〇・五	二八・九五八	一六・三九四	九三・一八六	五九・五〇七

種別	反當平均 收量	反當平均 單價 小洋票	反當平均 單價 金	反當平均 價額 小洋票	反當平均 價額 金	陌當平均 收量	陌當平均 單價 小洋票	陌當平均 單價 金	陌當平均 價額 小洋票	陌當平均 價額 金
種實	一、三四六・〇石 四三・一九五貫	七・二〇七元	四・七一六円	九・七〇〇元	六・三四八円	一、六三三・三斤	七二・六九一元	四七・五五三円	九七・八〇五元	六四・〇〇九円
莖稈	六九・八一八	八・三二六	五・一一七	五・八三二	三・五七〇	二、六三八・九	八三・九九四	五一・五九六	五八・七七九	三五・九九六
計	一一三・〇一三	一五・五三三	九・八三三	一五・五三二	九・九一八	四、二七二・二	一五・六六一	一五・六六〇	一五六・六〇四	一〇〇・〇〇五

B　支出之部

(一)　小洋票

項目＼年度別	大正七年	同　八年	同　九年	同　十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和元年	平均
地代	三二・二九〇元	三一・〇五三元	三一・五九八元	二六・七六五元	二四・三三〇元	三〇・九四〇元	四九・七〇〇元	五五・三〇〇元	八二・六八〇元	三九・五一八元

種子代	〇・一二五	〇・一四五	〇・二〇五	〇・一四二	〇・一七一	〇・一七〇	〇・二五二	〇・四六二	〇・六三六	二・三〇五
整地代	〇・六二五	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・四〇〇	一・二五〇	一・三〇〇	一・四〇〇	一・四〇〇	二・〇〇〇	一・二六四
播種代	〇・九五〇	一・三七五	一・七一〇	一・八〇〇	一・八〇〇	一・九五〇	一・九五〇	二・〇〇〇	二・九六〇	一・八五四
鎮壓代	〇・二〇〇	〇・二八八	〇・三七三	〇・四三八	〇・四〇〇	〇・四五〇	〇・四三八	〇・五五〇	〇・七二五	〇・四二九
除草培土費	七・〇五九	九・〇三三	七・三四〇	九・二〇〇	一〇・三〇〇	一三・五五〇	一三・二〇〇	一五・三〇〇	二八・九〇〇	一三・四三一
收穫費	一・八〇〇	三・〇〇〇	二・二五〇	二・五〇〇	二・五〇〇	二・〇〇〇	二・六〇〇	三・六〇〇	五・六〇〇	二・八三九
運搬費	一・九五五	三・七五〇	四・六六〇	四・二六〇	三・六〇〇	三・八二五	四・二七五	五・七〇〇	一一・二五〇	四・八〇九
調製費	三・二五〇	六・二〇〇	五・七〇六	六・二五〇	四・三〇〇	五・二〇〇	五・二〇〇	七・一五〇	八・八〇〇	五・七八四
雜費	〇・二五〇	〇・二九五	〇・二六五	〇・二二五	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二七五	〇・四二五	〇・八〇〇	〇・三三四
肥料代	二・九五八	三・七二〇	二・九八八	六・二〇〇	五・二八〇	五・四二四	五・一九〇	六・六三〇	一〇・八四〇	五・四四八
施方代	〇・一〇〇	〇・一五〇	〇・一五三	〇・一二七	〇・一三三	〇・一六七	〇・二〇〇	〇・二五〇	〇・三六七	〇・一八三
肥料運搬費	〇・九一七	一・三六七	一・三四三	一・四〇〇	一・四二〇	一・四三三	一・七六七	一・八〇〇	二・八六七	一・五九〇
計	四二・四八三	六二・三八四	五九・五五一	六〇・五四六	五五・四〇九	六五・六五九	八五・四四七	一〇〇・七六七	一五八・四二五	七六・七三九

（二）金

項目／年度別	大正七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和元年	平均
地代	円 二三・二九六	円 三五・七七三	円 二七・七四二	円 二三・三一四	円 一七・七二三	円 二一・四一三	円 三二・二七三	円 三一・五八三	円 二〇・四一六	円 二五・九四七

種子代	〇・一二五	〇・一四〇	〇・二六八	〇・〇九二	〇・一二六	〇・一三六	〇・一八九	〇・二七二	〇・二二九	〇・一七五
整地代	〇・六四〇	〇・九六七	一・三〇五	〇・八九二	〇・九一三	〇・九二三	一・〇三七	〇・八二四	〇・六一八	〇・九〇二
播種費	〇・九〇〇	一・三七五	一・六六一	一・二〇八	一・三〇七	一・三九六	一・四六七	一・二九五	一・〇五二	一・二九六
鎮壓費	〇・一八九	〇・二八八	〇・三六二	〇・二九四	〇・二九二	〇・三二三	〇・三三〇	〇・三二四	〇・二五一	〇・二九五
除草培土費	六・八二九	九・六一三	六・二二三	六・〇九四	七・五五五	八・八一三	九・二〇五	九・四四八	六・四五三	七・八〇四
收穫費	二・〇三六	三・〇九五	二・一四五	二・三〇五	一・五九六	一・四〇〇	一・三八四	二・一一六	一・五五四	一・九五九
運搬費	二・〇四九	四・一二六	四・一一四	三・一一四	三・八〇三	二・六一三	二・六一〇	二・四一六	三・四二五	二・八一二
調製費	三・三九三	六・八四〇	四・九五五	五・二四九	三・一三七	三・五四八	三・四二一	四・〇二〇	二・二二三	四・〇七六
雜費	〇・二六一	〇・三二六	〇・一九六	〇・二二三	〇・一六四	〇・一七八	〇・一八一	〇・二三九	〇・一八四	〇・二一七
肥料代	三・〇〇〇	三・六〇〇	三・九〇〇	三・九〇〇	三・九〇〇	三・九〇〇	三・九〇〇	三・九〇〇	三・九〇〇	三・七六七
施肥費	〇・〇九三	〇・一五〇	〇・一四九	〇・〇八二	〇・〇九八	〇・一一九	〇・一四七	〇・一〇六	〇・一二六	〇・一二四
肥料運搬費	一・〇〇八	一・三二二	一・八七一	〇・九〇六	一・〇七三	一・〇七四	一・三一九	一・〇六〇	〇・八八八	一・一六八
計	四三・八一八	六七・六〇五	五四・八九〇	四八・三六三	四〇・四八三	四五・八三一	五七・二六九	五七・六〇三	四〇・六〇六	五〇・八三五

(三) 損益計算

項目／年度別	大正七年		大正八年		大正九年		大正十年	
	小洋票	金	小洋票	金	小洋票	金	小洋票	金
收入	四八・七二〇元	五〇・八九五円	七〇・二六〇元	七八・七一二円	七一・七八四元	六三・〇三五円	六四・〇四三元	五五・四〇六円

支出	四二・四八三	四三・八一八	六二・三八五	六七・六〇五	五九・五五一	五四・八九〇	六〇・五四六	四八・三六三
差引益	六・二三七	七・〇七七	八・七九五	一一・一〇六	一二・二三三	八・一四三	三・四九七	七・〇四三

項目＼種別	大正十一年 小洋票	大正十一年 金	大正十二年 小洋票	大正十二年 金	大正十三年 小洋票	大正十三年 金	大正十四年 小洋票	大正十四年 金
收入	元 五一・五六八	円 三七・五四五	元 七六・一四五	円 五二・〇二五	元 一〇四・八九〇	円 六八・一一〇	元 一二六・三一五	円 七四・三〇二
支出	五五・四〇八	四〇・四八三	六五・六五八	四五・八三一	八五・四四七	五七・二六九	一〇〇・六六九	五八・六五四
差引益	(一)三・八四二	(一)二・九三八	一〇・四八六	六・二三一	一九・四四三	一〇・八四一	二五・五四八	一五・六四八

項目＼區別	昭和元年 小洋票	昭和元年 金	平均 小洋票	平均 金	反當平均 小洋票	反當平均 金	陌當平均 小洋票	陌當平均 金
收入	元 二三四・九三〇	円 五五・五三九	元 九三・一八九	円 五九・五〇七	元 一五・五三二	円 九・九一八	元 一五六・六〇四	円 一〇〇・〇〇五
支出	一五八・四一五	四〇・六〇六	七六・七三九	五〇・八三六	一二・七九〇	八・四七三	一二八・九二六	八五・四〇七
差引益	六六・五一五	一四・九三三	一六・四〇五	八・六七一	二・七四一	一・四四五	二七・六七八	一四・五九八

以上九箇年間の平均に見るに反當一圓四十四錢五厘の收益を見たり、大正十一年度に一度損となれることあるもあとの八箇年は皆相當の利益を見たり。

第二節　熊岳城農事試驗場分場試驗成績

第一項　品種試驗

耕種梗概

整地　春季播種當時一回耕鋤

播種法　條播

播種期　四月下旬

播種量　反當六合

畦幅　二尺

間引　二回

除草中耕　三回

培土　二回

供試地積　一區十五坪宛二區

肥料　土糞反當四百貫匁

供試品種

品種名	取寄先	取寄年度
青苗窊里	熊岳城	大正二年
紅苗窊里	同	大正三年
黄苗窊里	同	同
大斗黄	同	大正二年
白沙	同	同
尖穗	同	大正三年
毛穀	同	大正二年
縄錦	同	同
早穀	同	大正三年
刀把齊	同	同
秋白兒	萬家嶺	同
薄地高	海城	同
大粒黄	遼陽	同
猫爪	同	同
老來變	同	同
敬穀	同	同
由穀	同	同

品種名	取寄先	取寄年度
秘時混	普蘭店	大正三年
頂頭	同	同
鷄爪	同	同
八大葉	同	同
十里香	同	同
虎尾	同	同
龍鳳擋	同	同
瓦壠	同	同
水裡站	海城	同
米勝	遼陽	同
五石取	同	同
紅苗粘	熊岳城	大正二年
青苗粘	同	同
龍爪粘	同	大正三年
尖穗粘	同	同
紅毛粘	大石橋	同
白粘	遼陽	同

紅粘遼陽　正大三年　風不知遼陽　大正三年

大正三年度

品種名＼項目	發芽（月日）	出穗（月日）	收穫（月日）	草丈（米）	子實收量（石）	一升重量（匁）	稈重（貫）	收量順位
青苗瓜里	五、二七	七、二七	九、三	一・六〇	一・九八一	三二五	一〇八・八二〇	一八
紅苗瓜量	五、二七	七、二九	九、三	一・三九	二・〇三三	三二四	七〇・七八八	三
黄苗瓜里	五、二七	七、二九	九、三	一・四四	一・九八一	三二二	九三・二六〇	一九
大斗黄	五、二七	七、三〇	九、三	一・三八	二・二二五	三二二	八四・二四〇	五
白沙	五、二七	七、三一	九、三	一・四五	一・九八四	三一三	九五・五五〇	一七
尖穗	五、二七	八、一	九、三	一・五五	一・三三一	三一一	一〇六・三一〇	三四
毛穀	五、二七	七、三一	九、三	一・四五	二・〇九三	三二九	一〇六・〇〇〇	一〇
繩錦	五、二七	七、三一	九、三	一・四〇	一・八七三	三一五	九三・三〇〇	二五
早穀	五、二七	七、二六	八、三〇	一・三三	一・八六〇	三〇八	七九・〇〇〇	一六
刀把齊	五、二七	七、三〇	九、三	一・二三	二・二二一	三一七	八四・六六〇	七六
秋白兒	五、二七	八、二	九、三	一・五〇	一・七五九	三一一	一一一・三四〇	二八
薄地高	五、二七	七、三一	九、三	一・三三	一・九一八	三二〇	九三・九四〇	二二
大粒黄	五、二七	八、四	九、一七	一・四七	二・二三三	二九五	一三一・二六〇	六

猫爪	五、二七	八、五	九、三三	一・三八	一・四三二	二八九	一二三・八八〇	三
老來變	五、二七	八、八	九、三三	一・三三	一・七四四	三三三	一二六・一九〇	二九
散穀	五、二七	八、七	九、一七	一・三四	一・九一六	三三一	一二九・〇八〇	三
白穀	五、二七	八、三	九、三三	一・八五	一・六一六	三二八	一〇一・三三〇	三〇
秘時混	五、二七	七、二七	九、七	一・三二	二・三一八	三〇八	八五・〇〇〇	一
項頭	五、二七	七、二九	九、三三	一・二九	二・二六八	三一七	九四・二六〇	二
鷄爪	五、二七	八、四	九、三三	一・〇九	二・〇〇三	二九四	九二・〇三〇	一六
八大葉	五、二七	七、三〇	九、三三	一・一八	一・九〇二	三一〇	八〇・〇三〇	三
十里香	五、二七	七、二六	八、三〇	一・二九	二・〇二六	三〇九	六六・五〇〇	一四
虎尾	五、二七	八、三	九、一七	一・三九	二・〇二四	二八九	一〇〇・八二〇	一五
龍鳳擋	五、二七	七、二九	九、三三	一・二〇	二・二三四	三二一	八四・〇八〇	四
瓦壠	五、二七	七、二八	九、三三	一・三二	二・〇六〇	三一五	九五・九六〇	二
紅苗粘	五、二七	八、三	九、三三	一・三九	一・七六四	二九三	一〇一・四三〇	二七
青苗粘	五、二七	八、三	九、三三	一・四八	一・八八〇	二八四	一〇六・三三〇	二四
龍爪粘	五、二七	八、三	九、三三	一・二六	一・二九一	二八九	九八・七五〇	三
尖穗粘	五、二七	八、一	九、三三	一・二五	二・一六三	二八八	九〇・一一〇	八
紅毛粘	五、二七	七、二七	九、三三	一・三六	二・一〇六	三二〇	九一・一一〇	九
水裡站	五、二七	七、二九	九、一七	一・三七	一・九五三	三三三	九五・五八〇	二〇
白粘	五、二七	八、五	九、一七	一・三二	二・〇三〇	三〇三	一一九・二三〇	一三

紅粘	五、二七	八、六	九、一七	一・四一	一・六〇九	三一〇	一二〇・七二〇	三一
米勝	五、二七	八、一七	九、二七	一・二二	〇・八三九	三一一	一三四・四一〇	三六
五石取	五、二七	七、三一	九、二三	一・三三	二・二六四	二九七	一〇九・八三〇	三一
風不知	五、二七	八、一六	九、二七	一・二四	一・〇一三	三一〇	一一八・五〇〇	三五

發芽一齊にして其後の生育良好なりしが六月下旬夜盜蟲の被害を受け之が驅除に務めたり。概して生育可にして頗る豐作なりしも收穫期に至り濠雨ありし爲め無芒種は稍數量を減ぜり。而して收量最も多きは秘時泥にして頂頭之れに次ぎ邦種にして最も收量多きは五石取にして第三位にあり。

大正四年度

品種名	播種期	發芽 始	發芽 揃	發芽 狀況	出穗 始	出穗 揃	收穫期	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 收穫期	反當收量 子實	反當收量 稈重量
	月日	月日	月日		月日	月日	月日	米	米	米	米	石	貫
青苗窊里	五、一	五、一三	五、一九	整頁	八、二	八、七	九、一七	〇・一八	〇・九九	一・二三	一・二三	一・四〇九	六八・五〇〇
紅苗窊里	五、一	五、一三	五、一九	同	八、二	八、七	九、一七	〇・一八	一・一一	一・四二	一・四二	一・一三五	六七・〇〇〇
黄苗窊里	五、一	五、一三	五、一九	同	八、二	八、七	九、一七	〇・一五	〇・九六	一・四四	一・四四	一・〇八六	六七・〇〇〇
大斗黄	五、一	五、一三	五、一九	同	八、二	八、七	九、一七	〇・一九	一・一五	一・四六	一・四六	〇・九一九	六九・〇〇〇
白沙	五、一	五、一三	五、一九	同	八、二	八、七	九、一七	〇・一八	一・〇四	一・四四	一・四四	一・一〇四	七四・〇〇〇

			月日										
尖穗	五、一	五、一三	五、一九	整苢	八、二	八、七	九、一七	〇・一八	一・一二	一・五〇	一・五〇	〇・八六一	七一・〇〇〇
毛穀	五、一	五、一三	五、一九	同	八、二	八、七	九、一七	〇・一七	一・一〇	一・四四	一・四四	一・一七六	九六・〇〇〇
繩錦	五、一	五、一三	五、一九	同	八、二	八、七	九、一七	〇・一五	一・〇一	一・五九	一・五九	一・〇二四	七二・〇〇〇
早穀	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三〇	八、四	九、六	〇・一五	一・〇〇	一・三七	一・三七	一・四三五	七〇・〇〇〇
刀把齊	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、五	九、一七	〇・一七	一・〇七	一・三五	一・三五	一・三八八	六九・〇〇〇
秋白兒	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、五	九、一七	〇・一七	一・〇七	一・三五	一・三五	一・四八五	七七・五〇〇
薄地高	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、五	九、一七	〇・一七	一・〇八	一・三五	一・三五	一・二一七	五八・五〇〇
大粒黃	五、一	五、一三	五、一九	同	八、四	八、一〇	九、一七	〇・一八	一・一〇	一・四五	一・四五	一・四六八	八三・〇〇〇
猫爪	五、一	五、一四	五、一九	同	八、四	八、一〇	九、一七	〇・一九	一・一六	一・四五	一・四五	一・一六八	八〇・〇〇〇
老來變	五、一	五、一四	五、一九	同	八、六	八、三	九、一七	〇・二〇	一・一二	一・五〇	一・五〇	一・一五五	八六・〇〇〇
散穀	五、一	五、一三	五、一九	同	八、四	八、九	九、一七	〇・二〇	一・二〇	一・四九	一・四九	一・三五一	八八・五〇〇
白穀	五、一	五、一四	五、一九	同	八、六	八、二	九、一七	〇・一九	一・一三	一・四八	一・四八	一・二一〇	七三・〇〇〇
秘時混	五、一	五、一四	五、一九	同	七、二三	七、三一	九、六	〇・一八	一・〇八	一・四七	一・四七	一・四一三	四七・五〇〇
項頭	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、六	九、一七	〇・一五	〇・九八	一・三三	一・三三	一・二八五	四九・〇〇〇
鷄爪	五、一	五、一三	五、一九	同	八、四	八、九	九、一七	〇・一六	一・〇五	一・三二	一・三二	一・三〇四	五六・〇〇〇
八大葉	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、五	九、一七	〇・一八	一・一〇	一・三二	一・三二	一・四八九	四一・〇〇〇
十里香	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、四	九、一七	〇・一四	〇・九四	一・二五	一・二五	一・五七四	五六・五〇〇
虎尾	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、一〇	九、一九	〇・一五	〇・九九	一・四一	一・四二	一・三三〇	六四・五〇〇
龍鳳擋	五、一	五、一三	五、一九	同	七、三一	八、五	九、一〇	〇・一四	〇・九四	一・二八	一・二八	一・五七二	六一・〇〇〇

瓦壠	五、一	五、一三	五、一九	同		七、三一	八、五	九、一七	〇・一八	一・〇七	一・三五	一・三五	一・五三二	五九・五〇〇
水裡站	五、一	五、一三	五、一九	同		七、二四	八、一	九、一七	〇・一八	一・一四	一・三八	一・三八	一・五三六	七八・〇〇〇
米勝	五、一	五、一三	五、一九	同		八、二〇	八、二三	一〇、五	〇・一四	〇・九七	一・三〇	一・三〇	〇・八二二	一一一・〇〇〇
五石取	五、一	五、一三	五、一九	同		七、三一	八、五	九、一七	〇・一五	一・〇二	一・三三	一・三三	一・六九八	八三・五〇〇
紅苗粘	五、一	五、一三	五、二〇	同		八、四	八、九	九、一七	〇・一八	一・〇九	一・四六	一・四六	一・三六四	七〇・五〇〇
青苗粘	五、一	五、一三	五、一九	同		八、五	八、一〇	九、一七	〇・一八	一・一一	一・六〇	一・六〇	一・〇〇〇	六七・五〇〇
龍爪粘	五、一	五、一三	五、一九	同		八、三	八、九	九、一七	〇・一九	一・二九	一・五六	一・五六	一・二〇九	六八・五〇〇
尖穂粘	五、一	五、一三	五、一九	同		八、二	八、六	九、一七	〇・一五	一・一二	一・三七	一・三七	一・五七八	六〇・〇〇〇
紅毛粘	五、一	五、一三	五、一九	同		七、三一	七、三一	九、一七	〇・一九	一・三二	一・四二	一・四二	一・二三三	五六・〇〇〇
白粘	五、一	五、一三	五、一九	同		八、二	八、九	九、一七	〇・一八	一・〇九	一・三五	一・三五	一・一二	七〇・〇〇〇
紅粘	五、一	五、一三	五、一九	同		八、四	八、九	九、一七	〇・一八	一・一五	一・三五	一・三五	一・一六一	八八・〇〇〇
風不知	五、一	五、一三	五、一九	同		八、二	八、二四	一〇、五	〇・一四	〇・九〇	一・五四	一・五四	〇・六七四	一〇三・〇〇〇

播種後適度の雨濕を得發芽齊一にして順調なる生育を續け七月下旬に至り夜盜蟲の浸害を受けたるも甚しきに至らず、七月下旬乃至八月上旬には出穗揃となりて九月中旬に收穫期に達せり。而して收量最も多きは五石取、尖穗粘、十里香、龍鳳擋、水裡站等にして瓦壠、八大葉之に亞ぎたり、就中品質優良なるものは五石取、尖穗粘、龍鳳擋、水裡站等の數種とす。

大正五年度

品種名	播種期	發芽期	發芽狀況	出穗	收穫	作況 夏至	作況 大暑	作況 二百十日	作況 秋分	作況 收穫期	反當收量 子實	反當收量 稈
	月日	月日		月日	月日	米	米	米	米	米	石	貫
青苗窊里	五、二	五、一〇	整頁	七、三二	九、一五	〇・三八	一・二〇	一・四三	一・五一	一・五一	二・二八五	一二四・五〇〇
大斗黄	五、二	五、一〇	同	八、四	九、一三	〇・三三	一・〇八	一・五六	一・五六	一・五六	二・三〇〇	一一〇・五〇〇
毛穀	五、二	五、一〇	同	八、一	九、一五	〇・三三	一・二三	一・五四	一・五五	一・五五	二・二三〇	一一三・五〇〇
散穀	五、二	五、一〇	同	八、五	九、一五	〇・四〇	一・二五	一・六一	一・六三	一・六三	二・四一〇	一一五・〇〇〇
龍鳳擋	五、二	五、一〇	同	七、三一	九、一一	〇・三九	一・一三	一・三三	—	—	二・一七〇	七五・〇〇〇
瓦壠	五、二	五、一〇	同	七、三一	九、一四	〇・三三	一・一三	一・三八	一・三三	一・三三	二・五九〇	一一八・五〇〇
水稗站	五、二	五、一〇	同	七、三一	九、一五	〇・三八	一・二六	一・五八	一・五八	一・五八	二・三五〇	六九・五〇〇
五石取	五、二	五、一〇	同	八、四	九、一三	〇・三八	一・一六	一・四〇	一・四〇	一・四〇	二・三四〇	九八・〇〇〇
紅苗粘	五、二	五、一〇	同	八、六	九、一一	〇・三三	一・〇四	一・五〇	一・五三	一・五三	一・九七〇	一五一・五〇〇
尖穗粘	五、二	五、一〇	同	八、一	九、一五	〇・二七	一・〇五	一・三六	一・三八	一・三八	二・八四〇	一四二・〇〇〇

發芽整一良好にして何等の被害を受けることなく順調なる生育をなし九月中旬に至りて收穫を完了せり。

而して本年は一般に豐作にして尖穗粘の反當子實收量二石八斗四升を最大として瓦壠之に亞ぎ最も劣れるは紅苗粘の一石九斗七升なりとす。

大正七年度

品種名	播種期（月日）	發芽 揃（月日）	發芽 狀況	出穗（月日）	收穫（月日）	作況 夏至（米）	作況 大暑（米）	作況 二百十日（米）	作況 收穫期（米）	反當收量 子實（石）	反當收量 稈（貫）
青苗笊里	五、三	五、二二	整 稍良	八、一	九、一〇	〇・三〇	〇・九九	一・四八	一・四八	二・〇五五	七二・五〇〇
大斗黄	五、三	五、二四	稍整 稍良	八、三	九、一〇	〇・二四	一・〇五	一・五四	一・五四	一・七九五	九二・五〇〇
毛穀	五、三	五、二二	整 稍良	八、一	九、一〇	〇・一六	〇・九九	一・四五	一・四五	一・八四〇	九五・〇〇〇
散穀	五、三	五、二四	稍整 稍良	八、九	九、一四	〇・一八	一・〇三	一・六八	一・六八	一・六二九	一一八・五〇〇
龍鳳擋	五、三	五、二四	同	八、一	九、七	〇・二三	〇・九九	一・三八	一・三八	一・八九六	七七・五〇〇
瓦壠	五、三	五、二二	整 稍良	八、一	九、一一	〇・二二	一・〇〇	一・三六	一・三六	一・七三〇	六六・五〇〇
水裡站	五、三	五、二二	同	八、一	九、一一	〇・二〇	一・〇二	一・三〇	一・三〇	一・七八〇	七七・五〇〇
五石取	五、三	五、二二	整良	七、三一	九、一四	〇・二〇	〇・九八	一・四三	一・四三	一・九五五	六四・五〇〇
紅苗粘	五、三	五、二四	稍整 稍良	八、七	九、一三	〇・一三	〇・八五	一・三九	一・三九	一・六三三	八七・〇〇〇
尖穗粘	五、三	五、二四	同	八、三	九、一二	〇・一八	〇・九一	一・三二	一・三二	一・八六〇	六〇・五〇〇

概して整一良好なる發芽を見たれども六月上旬より螟蟲及夜盜蟲の發生被害を受け其の生育恢復せしも充分ならずして九月上中旬には收穫を了したり。而して收量最も多きは青苗笊里にして散穀最も少なし。

大正八年度

品種名	播種期（月日）	發芽 始期（月日）	發芽 期（月日）	發芽 播（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗 始（月日）	出穗 期（月日）	出穗 揃（月日）	成熟 期（月日）	成熟 日數（日）	收穫期（月日）	作況調査 夏至（米）	作況調査 大暑（米）	作況調査 二百十日（米）	作況調査 收穫期（米）	反當收量 子實（石）	反當收量 稈（貫）
青苗窩里	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	良	整	七、二五	七、二七	七、二八	九、三	一三五	九、五	〇・二四	一・二七	一・五九	一・五九	〇・七四四	五七・五〇〇
大斗黄	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二三	七、二五	七、二六	九、三	一三五	九、五	〇・二五	一・三二	一・五八	一・五八	〇・七四二	六三・〇〇〇
毛穀	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二五	七、二七	七、二八	九、三	一三五	九、五	〇・三二	一・二五	一・四八	一・四八	〇・六八八	七一・〇〇〇
散穀	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二六	七、二八	七、二九	九、三	一三五	九、五	〇・四七	一・四四	一・五五	一・五五	〇・七五一	七〇・〇〇〇
龍鳳擋	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二三	七、二六	七、二七	八、三一	一三三	八、三一	〇・三九	一・三三	一・四五	一・四五	〇・七二八	三八・〇〇〇
瓦壠	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二三	七、二五	七、二六	九、二	一三四	九、五	〇・三二	一・三二	一・四〇	一・四〇	〇・七八二	五三・〇〇〇
水稗站	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二二	七、二四	七、二五	九、二	一三四	九、五	〇・四五	一・四四	一・五七	一・五七	〇・八三三	六一・五〇〇
五石取	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二三	七、二六	七、二七	八、三一	一三三	八、三一	〇・三四	一・四三	一・五〇	一・五〇	〇・九二九	六七・五〇〇
紅苗粘	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二七	七、二八	七、二九	九、三	一三五	九、五	〇・三九	一・四〇	一・四八	一・四八	〇・六六〇	七〇・〇〇〇
尖穂點	五、一	五、二一	五、二三	五、二五	同	同	七、二三	七、二六	七、二七	九、三	一三五	九、五	〇・四二	一・三五	一・四九	一・四九	〇・七三二	六五・〇〇〇

發芽は齊一良好なれども其後の旱害竝に夜盗蟲の被害を受け生育充分ならずして九月上旬には成熟期に達したり。

而して其の收量は前年竝に平年作に比して甚だ悪く五石取の九斗二升九合を以て反當子實最大收量とす。

大正十年度

品種名	播種期（月日）	發芽 始（月日）	發芽 期（月日）	發芽 揃（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穂 始（月日）	出穂 期（月日）	出穂 揃（月日）	成熟 期（月日）	成熟 日數（日）	收穫期（月日）	作況調査 夏至 草丈（米）	作況調査 夏至 莖數一米間（本）	作況調査 大暑 草丈（米）	作況調査 大暑 莖數一米間（本）	作況調査 二百十日 草丈（米）	作況調査 二百十日 莖數一米間（本）	作況調査 收穫期 草丈（米）	作況調査 收穫期 莖數一米間（本）	反當收量 子實（石）	反當收量 稈（貫）
青苗窊里	四、二三	五、六	五、八	五、九	良	整	七、二五	七、二七	七、二九	九、五	一三五	九、九	〇・四九	二九・四	一・一六	二六・九	一・五一	三三・八	一・五二	二五・四	一・九四五	九五・〇七三
毛穀	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二三	七、二六	七、二九	九、五	一三五	九、九	〇・四六	二五・一	一・一〇	二八・二	一・四二	三三・三	一・四二	二三・三	一・二三七	七四・七四一
大斗黄	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二三	七、二五	七、二九	九、四	一三四	九、六	〇・四五	二六・四	一・〇八	三四・八	一・三五	三〇・五	一・四五	三一・〇	一・六二一	八一・七三九
紅苗粘	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二六	七、二八	八、一	九、八	一三八	九、九	〇・四八	二一・五	一・〇五	二六・一	一・四〇	三三・四	一・四二	二三・六	一・三九四	七五・五五六
散穀	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二六	七、二七	八、一	九、八	一三八	九、九	〇・四八	二三・一	一・一六	二四・九	一・四五	三三・四	一・四五	二一・八	一・三二〇	八三・四三九
龍鳳擡	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二三	七、二五	七、二八	八、二九	一二八	八、三〇	〇・四五	二五・九	一・〇五	二八・二	—	—	一・二四	二四・八	一・四二一	六三・三〇九
瓦壠	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二〇	七、二三	七、二六	九、一	一三一	九、六	〇・四五	二一・八	一・〇九	二三・九	一・三〇	三〇・三	一・二八	二三・九	一・四二一	七七・一八三
尖穗粘	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二三	七、二六	七、二八	九、五	一三五	九、六	〇・四八	二三・一	一・〇五	二六・二	一・三二	三三・六	一・三四	二三・六	一・五〇七	七六・〇九一
水裡站	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二〇	七、二三	七、二八	九、五	一三五	九、六	〇・五六	二三・六	一・一七	二七・九	一・四四	三三・六	一・四七	二三・九	一・九一四	九七・〇三五
五石取	四、二三	五、六	五、八	五、九	同	同	七、二五	七、二七	八、一	九、五	一三五	九、六	〇・五二	二三・九	一・一六	二五・六	一・四四	三三・四	一・四四	三三・四	一・四六九	八二・三三八

本年は概して生育良好にして諸病蟲の被害を蒙ること少なく順調なる作況を見て九月上旬には收穫を了したり。

而して右の表に見る如く子實收量最も多きは青苗窊里の一石九斗四升五合にして水裡站之に亞ぎ最も劣れるは毛穀の一石二斗三升七合なりとす。

大正十一年度

品種名	播種期	發芽 始期	發芽 期	發芽 揃	發芽 良否	發芽 整否	出穗 始期	出穗 期	出穗 揃	成熟 期	成熟 日數	收穫期	作況調査 夏至 草丈	夏至 莖數（一米間）	大暑 草丈	大暑 莖數（一米間）	二百十日 草丈	二百十日 莖數（一米間）	收穫期 草丈	收穫期 莖數（一米間）	反當收量 子實	反當收量 稈
	月日	月日	月日	月日			月日	月日	月日	月日	日	月日	米	本	米	本	米	本	米	本	石	貫
青苗窊里	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	良	整	七、二一	七、二四	七、二七	九、八	一二九	九、二一	〇・四八	二三・七	一・二二	二七・三	一・五二	二二・四	一・五〇	二三・六	一・六八六	八五・五〇〇
大斗黃	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二三	七、二五	七、三一	九、六	一二七	九、二一	〇・四五	二一・六	一・二五	三七・二	一・四四	三一・三	一・四四	三〇・六	二・二三四	九八・〇〇〇
瓦壠	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二〇	七、二三	七、二九	九、三	一二四	九、二一	〇・五三	一九・八	一・二五	二六・〇	一・四一	二一・七	一・四一	二三・九	一・九五五	七七・〇〇〇
水裡站	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二一	七、二四	七、二九	九、三	一二四	九、二一	〇・五四	二三・四	一・二七	二五・九	一・五四	二三・一	一・五五	二四・二	二・一四〇	八八・五〇〇
毛穀	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二一	七、二四	七、三一	九、三	一二四	九、二一	〇・四九	二一・六	一・二九	三三・一	一・五二	二六・七	一・五二	二九・五	一・八六一	九一・〇〇〇
龍鳳㯳	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二一	七、二四	七、二九	九、八	一二九	九、二一	〇・五二	二三・七	一・二五	二八・二	一・三五	二三・七	一・三四	三三・六	二・〇〇七	七二、五〇〇
五石取	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二一	七、二五	七、三一	九、八	一二九	九、二一	〇・五二	一九・一	一・一八	二六・二	一・三五	二〇・一	一・三三	二一・七	一・八一四	八一・五〇〇
刀把齊	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二一	七、二五	七、三一	九、八	一二九	九、二一	〇・四八	二三・二	一・二二	三七・四	一・四五	三二・五	一・四五	三四・三	一・九七六	八九・五〇〇
縄緊	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二四	七、二八	八、一	九、六	一二七	九、一九	〇・五二	二三・二	一・二四	二六・四	一・五〇	二二・七	一・四九	二一・四	一・四二六	七四・〇〇〇
散穀	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二四	七、二七	七、三一	九、一六	一三七	九、一九	〇・五四	二三・七	一・二四	二五・七	一・五二	二一・一	一・五〇	二一・四	一・八二〇	八〇・〇〇〇
紅苗粘	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二五	七、二七	八、一	九、一〇	一三一	九、一三	〇・四八	二〇・九	一・二四	三〇・八	一・四七	二五・七	一・四五	二六・七	一・九六七	八九・〇〇〇
尖穗粘	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二一	七、二五	七、三一	九、八	一二九	九、一三	〇・四六	二三・九	一・二〇	二三・〇	一・三三	二三・七	一・三一	二五・五	一・七〇二	六九・五〇〇
紅毛粘	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、一九	七、二二	七、二五	九、八	一二九	九、一三	〇・五七	二一・二	一・二五	二五・二	一・四一	一七・八	一・三八	一八・八	一・七四〇	六四・五〇〇
白粘	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二四	七、二七	八、二	九、一六	一三七	九、一五	〇・五三	一九・五	一・二八	二六・四	一・四九	二三・二	一・五二	一八・九	一・四四四	八二・五〇〇
青苗粘	五、二	五、一五	五、一六	五、一九	同	同	七、二四	七、二七	八、二	九、一六	一三七	九、一六	〇・五八	二一・四	一・二八	二九・二	一・五二	二六・二	一・四七	二一・九	一・五八九	七七・五〇〇

春季旱魃の爲め播種期少しく遲れたるも發芽期に至りて適當の降雨ありて發芽良好且つ整一にして其後順調なる生育をなし登熟亦良好九月中旬に至りて收穫を終了したり。

而して水裡站の二石一斗四升を最大として白粘の一石四斗四升四合を最少の收量とす。

大正十二年度

品種名	播種期	發芽 始期	發芽 期	發芽 揃	發芽 良否	發芽 整否	出穂 始	出穂 期	出穂 揃	成熟 期	成熟 日數	收穫期	作況調査 夏至草丈	作況調査 立秋草丈	作況調査 大暑草丈	作況調査 二百十日草丈	作況調査 收穫期草丈	作況調査 收穫期 一米間莖數	反當收量 子實	反當收量 稈
	月日	月日	月日	月日			月日	月日	月日	月日	日	月日	米	米	米	米	米	本	石	貫
青苗窊里	四、二六	五、六	五、九	五、一二	稍良	稍整	七、一七	七、二〇	七、二六	九、七	一三四	九、一〇	〇・六四	一・一二	一・三五	一・三八	一・四二	二五・七	二・〇二六	一四四・五〇〇
大斗黄	四、二六	五、六	五、九	五、一二	良	整	七、一九	七、二一	七、二四	九、七	一三四	九、一〇	〇・五九	一・二三	一・四二	一・四三	一・四三	三六・六	二・二一七	一五三・五〇〇
瓦壠	四、二六	五、六	五、八	五、一二	同	同	七、一七	七、一九	七、二三	九、九	一三六	九、一〇	〇・六三	一・二八	一・三九	一・三九	一・三八	三三・七	二・三八六	一三九・五〇〇
水裡站	四、二六	五、六	五、八	五、一二	同	同	七、一七	七、一九	七、二三	九、六	一三三	九、一〇	〇・六八	一・三五	一・四四	一・四五	一・四五	二七・七	二・二五一	一三一・五〇〇
龍鳳擋	四、二六	五、六	五、九	五、一二	稍良	稍整	七、一六	七、一九	七、二三	九、五	一三二	九、一〇	〇・五五	一・二〇	一・三一	一・二七	一・二八	二八・六	二・二八七	一一六・〇〇〇
五石取	四、二六	五、六	五、九	五、一二	同	同	七、一七	七、二〇	七、二三	九、五	一三二	九、一〇	〇・五七	一・一四	一・三五	一・三三	一・三二	二四・五	二・三三七	一三五・〇〇〇
刀把齊	四、二六	五、六	五、九	五、一二	良	整	七、一八	七、二一	七、二四	九、五	一三二	九、一〇	〇・五一	一・二八	一・四五	一・四八	一・四七	二九・七	二・〇四七	一四四・五〇〇
縄緊	四、二六	五、六	五、九	五、一二	稍良	稍整	七、一九	七、二三	七、二八	九、一〇	一三七	九、一六	〇・五六	一・二〇	一・四一	一・三七	一・三八	二五・二	一・四三七	一一九・〇〇〇
紅苗粘	四、二六	五、六	五、九	五、一二	良	整	七、一九	七、二三	七、二九	九、一二	一三九	九、一〇	〇・六二	一・一八	一・四六	一・四四	一・四一	二三・九	一・五一七	一二〇・〇〇〇
尖穂粘	四、二六	五、六	五、九	五、一二	同	同	七、一九	七、二三	七、二七	九、七	一三四	九、一〇	〇・五八	一・一六	一・四一	一・三八	一・三八	二五・九	一・八七四	一二四・〇〇〇
紅毛粘	四、二六	五、六	五、九	五、一二	同	同	七、一六	七、一八	七、二三	九、四	一三二	九、一〇	〇・五六	一・二八	一・三六	一・三八	一・三六	一九・八	一・八六九	一〇一・〇〇〇

白粘	四、二六	五、六	五、八	五、一二	良	整	七、一九	七、二三	七、二五	九、一〇	一三七	九、二〇	〇・六二	一・二四	一・四五	一・四五	一・四四	二三・四	二・〇八六	一五一・五〇〇

播種當時雨濕適當なりし爲め發芽良好且つ整一にして其後一時天候不良にして生育を害せられたるも大暑以後作況を恢復し登熟順調にして九月中旬には收穫を終了したり。

而して右表に見る如く、反當二石三斗八升六合を最良とする瓦壠を第一位として水裡站之に亞ぎ繩緊最も惡し。

大正十三年度

品種名	播種期（月日）	發芽 始（月日）	發芽 期（月日）	發芽 揃（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗 始（月日）	出穗 期（月日）	出穗 揃（月日）	成熟 期（月日）	成熟 日數（日）	收穫期（月日）	作況調査 夏至 草丈（米）	作況調査 大暑 草丈（米）	作況調査 立秋 草丈（米）	作況調査 二百十日 草丈（米）	作況調査 收穫期 草丈（米）	作況調査 收穫期 一米間莖（本）	反當收量 子實（石）	反當收量 稈（貫）
青苗窯里	四、三〇	五、一二	五、一四	五、一六	稍良	稍整	七、一七	七、二三	七、二七	八、三一	一二三	九、二	〇・四五	一・四五	一・五四	一・五七	一・五七	二〇・四	一・四一三	八三・〇〇〇
大斗黃	四、三〇	五、一三	五、一四	五、一六	同	同	七、一九	七、二四	七、三〇	八、三一	一二三	九、二	〇・三六	一・三八	一・六〇	一・五八	一・五八	二五・四	一・四二七	八一・五〇〇
瓦壠	四、三〇	五、一三	五、一四	五、一六	良	整	七、一七	七、二三	七、二九	八、三一	一二三	九、二	〇・四二	一・二〇	一・三七	一・三七	一・三七	二四・四	一・三四六	七〇・〇〇〇
水裡站	四、三〇	五、一三	五、一四	五、一六	同	同	七、一七	七、二三	七、二九	八、三一	一二三	九、二	〇・四二	一・四四	一・二八	一・五六	一・五七	二三・九	一・二七七	八一・〇〇〇
龍鳳擋	四、三〇	五、一三	五、一四	五、一六	同	同	七、一七	七、二三	七、二九	八、三一	一二三	九、二	〇・三九	一・二五	一・三七	一・三六	一・三六	二八・二	一・五八一	八四・〇〇〇
五石取	四、三〇	五、一三	五、一四	五、一六	同	同	七、一七	七、二四	七、二九	八、三一	一二三	九、二	〇・四三	一・三八	一・四五	一・四六	一・四五	二三・一	一・五七三	九一・〇〇〇
刀把齊	四、三〇	五、一三	五、一四	五、一七	同	同	七、一九	七、二四	七、二九	八、三一	一二三	九、二	〇・三四	一・二五	一・四八	一・四八	一・四八	二六・七	一・五二八	八六・〇〇〇
繩緊	四、三〇	五、一三	五、一四	五、一七	稍良	稍整	七、二三	七、二六	七、三一	九、三	一二六	九、六	〇・四五	一・三二	一・四三	一・四三	一・三五	一八・四	一・一三〇	七三・〇〇〇

紅苗窊里	四、三〇	五、三	五、一四	五、一七	同	同	七、一八	七、二五	七、三〇	八、三〇	一三三	九、一	〇・三六	一・四二	一・五七	一・五五	一・五五	二一・二	一・三〇五	八九・〇〇〇
搭拉黄	四、三〇	五、三	五、一四	五、一七	不良	不整	七、二一	七、二七	八、一	八、三〇	一三三	九、一	〇・三五	一・三九	一・六三	一・六一	一・六一	二四・七	一・三三三	七八・五〇〇
白沙	四、三〇	五、三	五、一四	五、一七	稍良	稍整	七、二〇	七、二五	七、三〇	八、三〇	一三三	九、一	〇・三八	一・四二	一・六二	一・五九	一・五九	三三・二	一・四七一	八三・五〇〇
秋白兒	四、三〇	五、三	五、一四	五、一七	同	同	七、一九	七、二三	七、二八	九、三	一三六	九、六	〇・三八	一・三三	一・六四	一・六四	一・六三	二五・九	一・五二六	一〇五・〇〇〇
紅苗粘	四、三〇	五、三	五、一六	五、一七	同	同	七、二一	七、二五	七、二九	八、三〇	一三三	九、一	〇・三六	一・三九	一・五七	一・五六	一・五六	一八・三	一・四六九	一八・五〇〇
尖穗粘	四、三〇	五、三	五、一六	五、一七	同	同	七、二〇	七、二四	七、二七	九、三	一三六	九、六	〇・三八	一・二八	一・四四	一・四一	一・四二	一八・三	一・五八二	七〇・〇〇〇
紅毛粘	四、三〇	五、三	五、一六	五、一七	同	同	七、一七	七、二〇	七、二五	八、三〇	一三三	九、一	〇・四二	一・四五	一・五〇	一・四九	一・四九	一四・三	一・三三二	七五・〇〇〇
白粘	四、三〇	五、三	五、一六	五、一七	同	同	七、二一	七、二六	七、三〇	九、三	一三六	九、六	〇・四七	一・四八	一・五三	一・五三	一・五三	三三・六	一・二二六	八八・〇〇〇

發芽稍良好にして五月中旬に揃となりしも其後旱魃の爲生育を害せられ七月中旬頃に至り發育挽回せるも再度の旱魃の爲充分なる生育を成し得ず九月上旬には收穫を了したり。而して收量最も多きは龍鳳擋の一石五斗八升一合を第一として刀把齊之に亞ぎ最も劣れるは細緊なりとす。

累年反當收量

品種名／年度	大正三年	大正四年	大正五年	大正七年	大正八年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	平均	收量順位
青苗窊里	石 一・九八一	石 一・四〇九	石 二・二六五	石 二・〇五五	石 〇・七四四	石 一・九四五	石 一・六八六	石 二・〇二六	石 一・四二三	石 一・七二七	六
大斗黄	二・三二五	〇・九一九	二・三〇〇	一・七九五	〇・七四三	一・六二二	二・一三四	二・二一七	一・四二七	一・七〇九	七

瓦壠	二・〇六〇	一・五三二	二・五九〇	一・七三〇	〇・七八二	一・四二二	一・九五五	二・三八六	一・三四六	一・七五六	四
水裡站	一・九五三	一・五三六	二・三五〇	一・七八〇	〇・八三三	一・九一四	二・二四〇	二・二五一	一・二七七	一・七八二	二
龍鳳擋	二・二三四	一・五七二	二・一七〇	一・八九六	〇・七二八	一・四二二	二・〇〇七	二・二八七	一・五八一	一・七六六	三
五石取	—	—	—	—	—	—	—	—	一・五七三	一・五七三	一一
刀把齊	二・二六四	一・六九八	二・三四〇	一・九五五	〇・九二九	一・四六九	一・八一四	二・二五七	一・五二八	一・八〇六	一
縄緊	二・二二一	一・三六八	—	—	—	—	一・九七六	二・〇四七	一・一三〇	一・七五三	五
紅苗窩里	一・八七三	一・〇二四	—	—	—	—	一・四二六	一・四三七	一・三〇五	一・四一三	一五
搭拉黄	—	—	—	—	—	—	—	—	一・二三二	一・二三二	一六
白砂	—	—	—	—	—	—	—	—	一・四七一	一・四七一	一四
秋白兒	—	—	—	—	—	—	—	—	一・五二六	一・五二六	一二
紅苗粘	一・七六四	一・三六四	一・九七〇	一・六三三	〇・六六〇	一・三九四	一・九六七	一・五一七	一・四六九	一・五二六	一二
尖穗粘	二・一六二	一・五七八	二・八四〇	一・八六〇	〇・七三三	一・五〇七	一・〇七三	一・八七四	一・五八二	一・六八九	八
紅毛粘	二・一〇六	一・二二三	—	—	—	—	一・七四〇	一・八六九	一・三二三	一・六五二	九
白粘	二・〇三〇	一・二二二	—	—	—	—	一・五八九	二・〇八六	一・二二六	一・六一〇	一〇

以上の成績に見るが如く最も收量の多きは刀把齊の一石八斗六合にして水裡站、龍鳳擋之に亞ぎ最も收量の惡きは搭拉黄及紅苗谷子等なり．

第三節　鄭家屯試作農場試驗成績

第一項　品種試驗

耕種梗概

整地　播種當日

播種法　條播

播種量　陌當八瓩（反當七合）

畦幅　六二・五糎（二尺）

除草中耕　三回

培土　二回

肥料　陌當堆肥四八〇〇瓩（反當百二十貫匁）
過燐酸石灰一二瓩（反當三貫匁）

供試地積　一區〇・五亞宛二區

目的　本試驗の目的は生育收量特性を調査し地方的優良品種を選擇せんとするにあり。

種子取寄年度及取寄先

品種名	取寄年度	取寄先	試驗年數
刀把齊	大正六年度	公主嶺農事試驗場	

薄地租	大正六年度	公主嶺農事試驗場
水裡站	同	同
鄭家屯種	同	鄭家屯
高裡站	大正十年	五道崗子
皂皮黃	同	同
猫耳	同	同
紅粳粟	同	同

大正八年度

項目＼品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟 期	成熟 日數	生育狀況 夏至 草丈	生育狀況 夏至 莖數	生育狀況 大暑 草丈	生育狀況 大暑 莖數	生育狀況 二百十日 草丈	生育狀況 二百十日 莖數	生育狀況 秋分 草丈	生育狀況 秋分 莖數	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
	月日	月日			月日	月日	日	米	本	米	本	米	本	米	本	石	貫
刀把齊	五、一四	五、二五	良	整	八、一	九、一七	一二六	〇・一七	六五・三	〇・八二	五二・四	〇・九七	五九・四	—	—	〇・八六五	一〇六・〇〇〇
薄地租	五、一四	五、二五	同	同	七、二九	九、一九	一二八	〇・一五	四八・八	〇・八〇	四六・二	〇・七四	五〇・一	—	—	〇・七〇〇	八一・〇〇〇
水裡站	五、一四	五、二五	同	同	七、二九	九、一九	一二八	〇・一九	五〇・一	〇・八二	四四・二	〇・九三	三六・九	—	—	〇・七四五	九四・二〇〇
鄭家屯種	五、一四	五、二五	同	同	七、二九	九、一九	一二八	〇・一七	四三・八	〇・六九	三一・三	〇・七九	二四・七	—	—	〇・三八〇	六四・八〇〇

發芽二十二、三日內外を要したりしが其狀況何れも整良なりき、而して當時の天候乾燥勝にして爾後の發育徐々として進まず、六月中旬に於ける降水後生育稍旺盛となりしと雖夏至を經て

間もなく畑地の乾燥酷しく連日の旱天に殆んど頻死の狀態を辿り又「粟のズイムシ」發生して枯死せしめられるものを生ずるに至る等生育期中の障害甚しけれども九月中旬には成熟期に達せり。

而して收量の最多は刀把齊の八斗六升五合にして水裡站の七斗四升五合之に亞ぎ鄭家屯種の三斗八升最も劣れり。

大正九年度

項目／品種名	播種期（月日）	發芽 期（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗期（月日）	成熟 期（月日）	成熟 日數（日）	生育狀況 夏至 草丈（米）	生育狀況 夏至 莖數（本）	生育狀況 大暑 草丈（米）	生育狀況 大暑 莖數（本）	生育狀況 二百十日 草丈（米）	生育狀況 二百十日 莖數（本）	生育狀況 秋分 草丈（米）	生育狀況 秋分 莖數（本）	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）
刀把齊	五、二五	六、二七	不良	不整	八、三	九、二三	一二一	—	—	〇・三六	三三・七	〇・九六	三七・九	一・一〇	四三・九	二・二六〇	二八・八〇〇
薄地租	五、二五	六、二七	同	同	八、三	九、二三	一二一	—	—	〇・四三	三三・七	〇・九〇	三六・三	一・〇四	四七・八	一・九六三	八七・八〇〇
水裡站	五、二五	六、二七	同	同	八、二	九、二三	一二一	—	—	〇・四二	二二・一	〇・九一	三七・九	一・〇一	四六・二	一・五三〇	七〇・七〇〇
鄭家屯種	五、二五	六、二七	同	同	八、三	九、二三	一二一	—		〇・三九	一九・一	〇・九六	四二・九	一・〇八	四四・五	一・四七〇	四五・三八五

發芽極めて不良、不整なりき。而して夏至後適當の降水を得發育頓に加はり本年作付作物中第一位の好作況を呈するに至り秋期に於て多少霜害を蒙りたれども其の被害甚大ならざりき。而して九月下旬には收穫を了したり、收量最多は刀把齊の二石二斗六升にして薄地租の一石九斗六升三合之に亞ぎ鄭家屯種の一石四斗七升最少なり。

大正十年度

品種名	播種期（月日）	發芽 始（月日）	發芽 期（月日）	發芽 揃（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗期（月日）	成熟 期（月日）	成熟 日數（日）	夏至 草丈（米）	夏至 莖數（本）	大暑 草丈（米）	大暑 莖數（本）	立秋 草丈（米）	立秋 莖數（本）	二百十日 草丈（米）	二百十日 莖數（本）	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）
刀把齊	五、五	五、一六	五、一八	五、二〇	良	整	七、三〇	九、一八	一三六	〇・四三	五六・一	一・二〇	六四・二	一・五六	六一・〇	一・六二	五二・八	二・二九五	一三三・八〇〇
薄地租	五、五	五、一六	五、一八	五、二〇	同	同	八、二	九、一八	一三六	〇・四四	四四・五	一・二四	七九・二	一・六六	七九・二	一・五八	六六・〇	二・四一五	一五三・四〇〇
水稗站	五、五	五、一六	五、一八	五、二〇	同	同	七、三一	九、一八	一三六	〇・四八	三四・六	一・二四	三九・六	一・五八	三九・六	一・四六	三七・九	一・九四五	一三七・四〇〇
鄭家屯種	五、五	五、一六	五、一八	五、二〇	同	同	八、一	九、一八	一三六	〇・四三	四九・五	一・一四	四九・五	一・四七	五二・八	一・三七	四九・五	一・八六二	一三九・〇〇〇

發芽生育良好整一なりしも「きすじのみむし」の發生、喰害を蒙り一時其の生育を阻止せられしが六月上旬の降水後漸次作況を持ち直し夏至より大暑の期に於て發育特に旺盛にして爾來何等の障害を受けず順調なる生育をなし九月中旬には成熟期に達したり。

而して收量最多は薄地租の二石四斗一升五合にして反當收量一石八斗六升二合の鄭家屯種最も劣れるを認む。

大正十一年度

品種名	播種期（月日）	發芽 期（月日）	發芽 良否	發芽 整否	出穗期（月日）	成熟 期（月日）	成熟 日數（日）	夏至 草丈（米）	大暑 草丈（米）	立秋 草丈（米）	二百十日 草丈（米）	收穫期 草丈（米）	反當收量 子實容量（石）	反當收量 稈重量（貫）
刀把齊	五、五	五、一七	良	整	八、三	八、二六	一二五	〇・四二	一・二〇	一・三六	一・四二	一・四二	三・三〇五	一六八・八〇〇

薄地粗	五、一五	五、一七	同	同	八、七	八、三〇	一一七	〇・二八	一・〇五	一・三八	一・五二	一・五二	三・一九〇	一四九・二〇〇
水稉站	五、一五	五、一七	同	同	八、一	八、二六	一一三	〇・四二	一・一〇	一・三一	一・八六	一・八七	三・二二四	一六一・六〇〇
鄭家屯種	五、一五	五、一七	同	同	八、三	八、二八	一一五	〇・四〇	一・二三	一・四二	一・六二	一・六二	二・八八〇	一八八・八〇〇
高稉站	五、一五	五、一七	同	同	七、三一	八、二六	一一三	〇・五〇	一・一八	一・四二	一・六一	一・六一	三・四六二	一七八・〇〇〇
皂皮黄	五、一五	五、一七	同	同	七、二九	八、二三	一〇九	〇・三五	一・二六	一・五八	一・六五	一・六五	二・九八二	一三四・〇〇〇
猫耳	五、一五	五、一七	同	同	八、三	八、二八	一一五	〇・三一	一・三〇	一・三三	一・五五	一・五五	三・〇八九	一五三・〇〇〇
紅粳粟	五、一五	五、一七	同	同	八、七	八、二六	一一三	〇・三〇	一・〇五	一・三三	一・四八	一・四八	三・二五九	一五一・二〇〇

發芽極めて整一良好にして順調なる生育を促せども其後「きすじのみはむし」及粟のずゐむしの發生被害を受けたり、然れども夏至より大暑の期に於て是等害蟲の被害全く絶ち發育特に旺盛にして作況甚だ良好となり七月下旬より八月上旬には早や出穗揃となりたり。而して其の收量を見るに高稉站の三石四斗六升二合を第一位として刀把齊之に亞ぎ最も劣れるは鄭家屯種の二石八斗八升なりとす。

大正十二年度

項目 / 品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟 期	成熟 日數	生育狀況 夏至草丈	生育狀況 大暑草丈	生育狀況 立秋草丈	生育狀況 二百十日草丈	生育狀況 秋分草丈	生育狀況 收穫期草丈	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
刀把齊	五月、九日	五月、一七日	良	整	八月、八日	九月、一九日	一三三日	〇・三三米	一・二〇米	一・二六米	一・四七米	一・四九米	一・五〇米	二・七七七石	一九七・六〇〇貫

薄地租	五、九	五、一七	良	整	八、九	九、一九	一三三	〇・二四	一・二五	一・三九	一・六四	一・六七	一・六九	三・六八二	二三〇・三三〇
水裡站	五、九	五、一七	同	同	八、六	九、一九	一三三	〇・二六	一・三五	一・五〇	二・一〇	二・一一	二・一一	三・三三五	二三三・三〇〇
鄭家屯種	五、九	五、一七	同	同	八、一〇	九、一九	一三三	〇・二三	一・三〇	一・四六	一・五八	一・六三	一・六六	二・七三七	二〇五・〇〇〇
高裡站	五、九	五、一七	同	同	八、六	九、一九	一三三	〇・二二	一・一九	一・三四	一・六〇	一・六一	一・六四	二・八四二	二三四・四〇〇
皂皮黃	五、九	五、一七	同	同	八、三	九、一九	一三三	〇・二二	一・一七	一・三九	一・三六	一・三八	一・四〇	二・五三三	一四三・四〇〇
猫耳	五、九	五、一七	同	同	八、八	九、一九	一三三	〇・二〇	一・二四	一・三〇	一・五〇	一・五五	一・五五	二・四二二	一七〇・一〇〇
紅粳粟	五、九	五、一七	同	同	八、三	九、一九	一三三	〇・一九	一・一二	一・一七	一・四七	一・四七	一・四七	二・七一八	一五六・八〇〇

發芽極めて整良なるも「きすじのみはむし」の發生被害を蒙りたり。而して漸次成長するに及びて粟のずゐむし及白髮病の被害を受けたるも其の害少なく出穗後の發育は特に旺盛にして作況良好八月上中旬に成熟期に達せり。

其の收量を見る時は薄地租三石六斗八升二合を最大として水裡站之に亞ぎ最も劣れるは猫耳の二石四斗二升一合なりとす。

大正十三年度

品種名＼項目	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗期	成熟 期	成熟 日數	生育狀況 夏至草丈	生育狀況 大暑草丈	生育狀況 立秋草丈	生育狀況 二百十日草丈	生育狀況 收穫期草丈	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
刀把齊	五月二一日	五月三一日	良	整	八月四日	九月一五日	一三七日	〇・二七米	一・〇七米	一・三三米	一・三六米	一・三六米	二・九四九石	一三五・七三〇貫

高粱站	五、一一	五、二三	同	同	八、四	九、一五	一二七	〇・二八	一・一三	一・二七	一・三八	一・三八	二・二〇六	一一六・八〇〇
皂皮黄	五、一一	五、二三	同	同	八、二	九、一五	一二七	〇・二六	一・〇二	一・二六	一・二七	一・二七	二・〇八四	九八・一三〇
猫耳	五、一一	五、二三	同	同	八、二	九、一五	一二七	〇・二九	〇・九四	一・一三	一・一七	一・一七	二・五五〇	一一九・〇六〇
紅粳粟	五、一一	五、二三	同	同	八、二	九、一五	一二七	〇・二九	〇・九二	一・二一	一・二七	一・二七	二・九〇五	一一〇・九三〇

發芽整一良好なれども當時「きすじのみはむし」の發生被害を蒙り多少缺苗の處を見受けたが爾後順調なる生育をなし八月上旬に於ては早や出穂揃となり九月中旬には收穫を了したり。

而して其の收量最も多きは刀把齊の二石九斗四升九合を第一位として最も劣れるは皂皮黄の二石八升四合なりとす。

累年平均反當收量

品種名＼項目	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	平均	收量順位
刀把齊	石 〇・八六五	石 二・二六〇	石 二・二九〇	石 三・三〇五	石 二・七七七	石 二・四六三	石 二・三二六	六
薄地租	〇・七〇〇	一・九六三	二・四一五	三・一九〇	三・六八二	二・四七八	二・四〇四	五
水裡站	〇・七四五	一・五三〇	一・九四五	三・二一四	三・三三五	二・二四七	二・〇八六	七
鄭家屯種	〇・三八〇	一・四七〇	一・八六二	二・八八〇	二・七三七	一・七五五	一・八四七	八
高裡站	—	—	—	三・四六三	二・八四二	三・一五二	三・一五二	一

皂皮黃	—	—	—	二・九八一	二・五三三	二・七五二	二・七五一	四
猫耳	—	—	—	三・〇八九	二・四二二	二・七五五	二・七五五	三
紅粳粟	—	—	—	三・二五九	二・七一八	二・九八九	二・九八八	二

右累年收量成績表に見るに試驗年數淺きも高裡站の三石一斗五升二合を最大收量として紅粳粟之に亞ぎ最も劣れるは鄭家屯種の一石八斗四升七合なり。

第二項　經濟試驗

一　作物收支比較試驗

目的　當試驗は粟を滿洲在來の栽培法により栽培し其の收支を明かにせんとするにあり。

耕種概梗

前作物　陸稻

供試品種　刀把齊

肥料　一天地當廐肥九百貫(反當百五十貫)

播種量　一天地當二升四合(反當四合)

播種法　條播

畦幅　二尺

供試地面積　一天地（日本の六段歩）

除草　三回

中耕、培土　三回

大正八年度

（イ）作況調査

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穂期	成熟 期	成熟 日數	各期に於ける作況 夏至 草丈	夏至 莖數（一米間）	大暑 草丈	大暑 莖數（一米間）	二百十日 草丈	二百十日 莖數（一米間）	秋分 草丈	秋分 莖數（一米間）	收穫期 草丈
刀把齊	五月、一四日	五月、二五日	良	不整	八月、一六日	九月、一〇日	一一九日	〇・二九米	七五・九本	〇・七四米	九二・四本	〇・七四米	一〇五・六本	—米	—本	〇・七七米

（ロ）收量調査

品種名	一天地當收量 子實容量	一天地當收量 稈重量	反當收量 子實容量	反當收量 稈重量
刀把齊	四・七五〇石	三五二・四二〇貫	〇・七九一石	五八・七三六貫

（ハ）收支比較

A　收入之部

品名	金額	換算率百圓に付金	小洋錢	摘要
粟	円 四六・一八	六五	元 三〇・〇二	四石七斗五升代@六元三角二分錢
粟稈	四三・三七	六五	二八・一九	三百五十二貫四百二十匁@八分錢
計	八九・五五	—	五八・二一	

B　支出之部

費目	金額	換算率百圓に付金	小洋銀	摘要
地代	円 二〇・五五	七三	元 一五・〇〇	小作料平均
種子代	〇・一〇	一〇五	〇・一一	二升四合代@四元七角四分錢
肥料代	四・二八	一〇五	四・五〇	九百貫代@五文錢
肥料運搬費	一・一四	一〇五	一・二〇	馬車〇・四臺@三元錢
施肥費	〇・二四	一〇三	〇・三五	人夫一人@三角五分錢
下種費	三・一一	一〇三	三・二〇	犁〇・五臺@二元錢、懷耙〇・五臺@二元錢、下種人夫一人、踏壓夫一人、計二人@三角五分錢、鎭壓〇・五臺@一元
除草費 第一回	一・四七	九二	一・三五	人夫三人@四角五分錢
除草費 第二回	六・五七	九五	六・二四	人夫七人分@八角錢
除草費 第三回	一・九三	九七	一・八七	人夫三人四分@五角五分錢

中耕培土費　第一回	一・〇六	九四	一・〇〇	犁〇・五臺@二元錢
同　第二回	一・〇五	九五	一・〇〇	犁〇・五臺@二元錢
同　第三回	一・〇三	九七	一・〇〇	犁〇・五臺@二元錢
刈取費	二・一八	九六	二・一〇	人夫四人二分@五角錢
運搬費	一・二五	九六	一・二〇	馬車〇・三臺@三元錢、人夫〇・六人@五角錢
調製費	四・八八	八二	四・〇〇	馬一頭四分@一元錢、人夫五人@五角錢
收納費	〇・六一	八二	〇・五〇	人夫一人@五角錢
租税　支那租税一期	〇・六二	九七	〇・六〇	一月納
租税　同　二期	〇・六三	九五	〇・六〇	七月納
租税　蒙古租税	〇・二〇	九四	〇・一九	年一回十月納
計	五三・〇〇		四六・〇一	

C　損益計算

摘要	一天地當 金額	一天地當 小洋錢	一反步當 金額	一反步當 小洋錢
收入	円 八九・五五	元 五八・二一	円 一四・八三	九・七〇
支出	五三・〇〇	四六・〇一	八・八三	七・六七
差引益	三六・五五	一二・二〇	六・〇〇	二・〇三

大正九年度

(イ) 作況調査

品種名	播種期	發芽期	發芽良否	發芽整否	出穗初期	成熟期	成熟日數	各期に於ける作況 夏至草丈	大暑草丈	二百十日草丈	秋分草丈	收穫期草丈
刀把齊	五月一四日	六月一七日	不良	不整	八月一七日	九月一三日	一二三日	—	〇・四三米	一・二三米	一・二八米	一・二六米

(ロ)

品種名	一天地當收量 子實容量	一天地當收量 稈重量	一反歩當收量 子實容量	一反歩當收量 稈重量	一升重量
刀把齊	八・七四〇石	三八三・六八〇貫	一・四五一石	六三・九四七貫	二九六匁

(ハ) 收支比較

A 收入之部

品名	金額	換算率	小洋錢	摘要
粟	二七・六七円	一三九	三八・四六元	八石七斗四升代@四分四文錢
粟稈	一一・〇四	一三九	一五・三五	三百八十三貫六百八十匁代@四文錢

計	三八•七一	一	五三•八一	

B 支出之部

費目	金額	換算率	小洋錢	摘要
地代	円 三一•二五	六四	元 二〇•〇〇	小作料平均
種子代	〇•一二	九八	〇•一二	二升四合代@五分錢
肥料代	四•五九	九八	四•五〇	厩肥九百貫代@五文錢
肥料運搬費	一•四三	九八	一•四〇	馬車〇•四臺@三元五角錢
施肥費	〇•三八	一〇五	〇•四〇	人夫一人@四角錢
下種費	二•七四	一〇五	二•八八	犂〇•四臺@二元六角錢、懐耙〇•四臺@二元六角錢、下種人夫一人、踏壓人夫一人、計二人@四角錢
除草費 第一回	一•二〇	一二五	一•五〇	人夫三人@五角錢
除草費 第二回	一•四〇	一二五	三•〇〇	人夫五人@六角錢
中耕培土費 第一回	〇•八三	一二五	一•〇四	犂〇•四臺@二元六角錢
中耕培土費 第二回	一•一〇	一一八	一•三〇	犂〇•五臺@二元六角錢
刈取費	二•一五	一〇七	二•三〇	人夫四、六人@五角錢
運搬費	一•六七	一〇八	一•八〇	馬車〇•四臺@三元五角錢、人夫〇•八人@五角錢
調製費	四•七四	一一六	五•五〇	馬二頭@一元、人夫七人@五角錢
收納費	〇•四三	一一六	〇•五〇	人夫一人@五角

租税				
第一期	〇・八三	一六四	〇・六〇	一月納
第二期	〇・四八	一二五	〇・六〇	七月納
蒙古租税	〇・一七	一一四	〇・一九	十月納
計	五六・五一	—	四七・六三	

C　損益計算

摘要	一天地當 金額	一天地當 小洋錢	一反歩當 金額	一反歩當 小洋錢
收入	三八・七一円	五三・八一元	九・四二円	八・九七元
支出	五六・五一	四七・六三	九・四二	七・九四
差引	損 一七・八一	益 六・一四	損 二・九七	益 一・〇三

大正十年度

(イ)作況調査

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	出穗始	成熟 期	成熟 日數	各期に於ける作況 夏至 草丈	大暑 草丈	立秋 草丈	二百十日 草丈	收穫期 草丈
刀把齊	五月三日	五月二五日	良	整	七月二八日	九月一三日	一三三日	〇・四四米	一・〇〇米	一・五三米	一・七三米	一・六四米

(ロ) 收量調査

品種名	一天地當收量 子實容量	一天地當收量 稈重量	一反歩當收量 子實容量	一反歩當收量 稈重量	子實一升重量
刀把齋	一二・六六六石	六九八・三二三貫	二・一一一石	一一六・三八七貫	三一八匁

(ハ) 收支比較

A 收入之部

品名	銀額	換算率	摘要
粟	五〇・六六四元	一二〇・〇元	十二石六斗六升六合@四分錢
粟稈	三四・八一六	一二〇・〇	六百九十六貫三百二十匁@五分錢
計	八五・四八〇	—	

B 支出之部

費目	銀額	換算率	摘要
地代	二〇・〇〇〇元	一五二・五元	小作料平均
種子代	〇・〇七二	一五三・〇	二升四合代@三分錢

肥料代	四・五〇〇	一五三・〇	廐肥九百貫代@五文錢
肥料運搬費	一・四〇〇	一五三・〇	馬車〇・四臺@三元五角錢
施肥費	〇・五〇〇	一五三・〇	人夫一人@五角錢
下種費	三・九四〇	一五三・〇	犂〇・五臺@三元錢、慢耙〇・六臺@二元四角錢、下種人夫一人、踏壓人夫一人、計二人@五角錢
除草費　第一回	二・二〇〇	一五四・〇	人夫四人@五角五分錢
除草費　第二回	一・四〇〇	一五二・〇	人夫二人@七角錢
除草費　第三回	一・五六〇	一五〇・〇	人夫二人六分@六角錢
中耕培土費　第一回	〇・九〇〇	一五四・〇	犂〇・三臺@三元錢
中耕培土費　第二回	一・五〇〇	一五二・〇	犂〇・五臺@三元錢
中耕培土費　第三回	〇・九〇〇	一五二・〇	犂〇・三臺@三元錢
刈取費	四・〇〇〇	一二五・〇	人夫八人@五角錢
運搬費	四・〇〇〇	一一〇・〇	馬車一臺@三元五角錢、人夫一人@五角錢
調製費	六・五〇〇	一二〇・〇	馬三頭@一元、人夫七人@五角錢
收納費	〇・五〇〇	一二〇・〇	人夫一人@五角錢
租稅　第一期	〇・八二〇	一五〇・〇	一月納
租稅　第二期	〇・八二〇	一五〇・〇	七月納
蒙古租稅	〇・二五〇	一二〇・〇	十月納
計	五五・七六二	｜	

C 損益計算

項目	一天地當銀額	一反歩當銀額	一天地當金額	一反歩當金額
收入	八五・四八〇元	一四・二四六元	七一・二三三円	一一・八七一円
支出	五五・七六二	九・二九四	四六・四六八	七・七四五
差引益	二九・七一八	四・九五三	二四・七六五	四・一二六

大正十一年度

(イ) 作況調査

品種名	播種期	發芽 期	發芽 良否	發芽 整否	成熟 出穂期	成熟 期	成熟 日數	各期に於ける作況 夏至 草丈	大暑 草丈	立秋 草丈	二百十日 草丈	收穫期 草丈
刀把齊	五月三日	五月二三日	良	整	八月三日	九月一三日	一三三日	〇・二七米	一・二三米	一・四八米	一・四八米	一・四八米

(ロ) 收量調査

品種名	一天地當收量 子實容量	一天地當收量 稈重量	一反歩當收量 子實容量	一反歩當收量 稈重量	一升重量
刀把齊	一一・五九〇石	四八六・一〇〇貫	一・九三三石	八一・〇一七貫	三二三匁

(八) 收支比較

A 收入之部

品名	銀額	換算率	摘要
粟	元 四五・二〇一	元 一三七・〇	十一石五斗九升代@三元九角錢
粟稈	二四・三〇五	一三七・〇	四百八十六貫百匁@五分錢
計	六九・五〇六	—	

B 支出之部

費目	銀額	換算率	摘要
地代	元 二二・〇〇〇	元 一三〇・〇	小作料平均
種子代	〇・〇六〇	一三〇・〇	二升四合代@二分五文錢
肥料代	五・四〇〇	一三〇・〇	厩肥九百貫代@六文錢
肥料運搬費	一・四二二	一三〇・〇	馬車〇・三六臺@三元五角錢、人夫〇・三六人@四角五分錢
施肥費	〇・三〇六	一三〇・〇	人夫〇・六八人@四角五分錢
整地費	二・三四〇	一三〇・〇	犂七八臺@三元錢
下種費	一・七七六	一三〇・〇	犂〇・三四臺@三元錢、下種踏壓覆土人夫計一・〇二人@四角五分錢、第二回踏壓人夫〇・六六人@四角五分錢

除草費　第一回	一・七〇〇	一三〇・〇	人夫二人@八角五分錢
除草費　第二回	二・三四六	一四三・〇	人夫二・七六人@八角五分錢
除草費　第三回	二・〇四〇	一三二・〇	人夫二・四人@八角五分錢
中耕培土費　第一回	〇・九〇〇	一四四・〇	犁〇・三臺@三元錢
中耕培土費　第二回	〇・九〇〇	一三七・〇	同
中耕培土費　第三回	〇・九〇〇	一三〇・〇	同
刈取費	四・二〇〇	一三〇・〇	人夫四人@一元五分錢
運搬費	一・八七〇	一三〇・〇	馬車〇・四臺@三元五角錢、人夫〇・四人@九角五分錢
調製費	一〇・七一〇	一三六・〇	馬一・八頭@一元二角錢、人夫九人@九角五分錢
收納費	〇・九五〇	一三六・〇	人夫一人@九角五分錢
租税	一・八九〇	一三〇・〇	中國租税二期分一元六角四分錢 蒙古租税二角五分錢
計	六一・六二〇	—	

C 損益計算

項目	一天地當銀額	一反步當銀額	一天地當金額	一反步當金額
收入	元 六九・五〇六	元 一一・五八四	円 五〇・七三四	円 八・四五五
支出	六一・六二〇	一〇・二七〇	四四・九七九	七・四九六

差引益	七・八八六	一・三一四	五・七五五	〇・九五九

累年收支比較

損益計算（一反步當）

項目／年度別	大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年		平均	
	小洋銀	金	小洋銀	金	小洋銀	金	小洋銀	金	小洋銀	金
收入	元 九・七〇	円 一四・八三	元 八・九七	円 九・四二	元 一四・二四六	円 一一・八七一	元 一一・五八四	円 八・四五五	元 一一・一二五	円 一一・一四四
支出	七・六七	八・八三	七・九四	九・四二	九・二九四	七・七四五	一〇・二七〇	七・四九六	八・七九五	八・三七二
差引益	二・〇三	六・〇〇	一・〇三	〇	四・九五三	四・一二六	一・三一四	〇・九五九	二・三三〇	二・七七二

以上四箇年間の平均收支計算を見るに大正九年度は作惡くして利益を見ざる狀態にありかど大正十年度に利益多く四箇年平均二圓七十七錢二厘の差引利益を見るに至りたり。

第四節　湯崗子亞爾加里試驗地成績

第一項　適否試驗

目的　本試驗は粟が亞爾加里性土壤に對する適否を知らんとするにあり。

耕種梗概

供試品種	白砂
播種法	條播
播種量	反當八合
畦幅	二尺
間引	一回又は二回
除草	三回
中耕	二回
培土	一回
施肥量	堆肥 反當三〇〇貫 過燐酸石灰 反當三貫目 基肥

A 作況調査

年次＼項目	播種期	發芽 期	發芽 良否	出穗期	成熟期	成熟日數	生育調査 小滿 草丈	生育調査 小滿 莖數	生育調査 夏至 草丈	生育調査 夏至 莖數	生育調査 大暑 草丈	生育調査 大暑 莖數	生育調査 處暑 草丈	生育調査 處暑 莖數	生育調査 白露 草丈	生育調査 白露 莖數
	月 日	月 日		月 日	月 日	日	米	本	米	本	米	本	米	本	米	本
大正七年	五、九	六、六	不良	八、一三	九、三〇	一四四	—	—	〇・〇六	一六九・〇	〇・四二	九一・二	〇・九五	七一・〇	〇・九五	七一・〇
大正八年	五、一六	五、二八	稍不良	八、七	九、八	一一五	—	—	〇・一〇	二一〇・五	〇・五五	一三四・六	〇・八八	一〇三・〇	〇・九一	一〇三・〇
大正九年	四、二八	六、一六	不良	八、一七	一〇、一	一五六	—	—	〇・〇八	二〇七・二	〇・三〇	一三六・四	一・〇六	一〇七・六	一・〇六	九九・三

大正十年	五、七	五、二五	良	七、三一	九、一三	一三九	〇・八	一三六・三	〇・二八	八五・八	〇・八七	八五・〇	一・二五	八五・〇	一・二五	八五・〇
大正十一年	五、一〇	五、二七	稍不良	八、六	九、九	一三三	〇・五	三三八・六	〇・二一	五七・四	一・二九	六六・七	一・二九	六六・七	一・二九	六六・七
大正十二年	五、一〇	五、三三	稍良	八、五	九、一三	一三六	〇・二	三三八・六	〇・〇八	一四一・二	〇・七七	九〇・四	一・〇四	九〇・四	一・〇四	九〇・四
大正十三年	五、三	六、一	同	七、二七	九、一四	一三五	―	―	〇・〇七	八一・八	〇・七九	三五・〇	―	―	―	―

B　收量調査（陌當）

項目 ＼ 年度別	子實容量	子實重量	稈重量	子實一立重量
大正七年	竡 一四・九九	瓩 九九二・六	瓩 一、二五三・五	瓦 六五五
大正八年	一六・七三	一、〇七七・六	二、〇七〇・二	六四四
大正九年	一一・二八	七九〇・三	九九八・三	六五五
大正十年	一六・九二	一、一六〇・五	三、九七〇・三	六八六
大正十一年	二六・一七	一、七六四・〇	五、一〇四・六	六七四
大正十二年	一七・七四	一、二二〇・六	三、三〇三・三	六八八
大正十三年	二四・〇二	一、六四七・一	三、五六一・九	六八六
平均	一八・二六	一、二三七・五	二、八九四・六	六七〇

以上の表にて見る如く發芽狀態は概して良好ならず幼時に於ての被害少なからず草丈は低し。然れども他作物に比して比較的抵抗力強きものにして七箇年平均陌當一二三六・五瓩の收量

を示せり。之れと同品種なるものゝ公主嶺に於ける收量を見るに、八箇年平均一四八四・〇瓩にして其の差僅かに二四七・五瓩なり。

故にアルカリ地に於ては其の發芽時代及幼苗時代に氣候の乾燥と相俟つて尠なからざる被害を被り草丈二尺以上の頃となりてよりは普通の生育をなせど幼苗時の被害のため各季を通じて草丈低く且つ缺苗あるため無アルカリ地のものに比して收量少しく劣るものなり。

第五節　各地試驗成績結論

第一項　品種試驗

(イ) 公主嶺農事試驗場に於て今日までに選出せる優良品種は次の如し。

又公主嶺附近に於ける平年作(在來種收量)に比較對照すれば次の如し。

品種名	反當收量	收量比較
在來種	石 一・三六五	一〇〇
新臺白	二・三七〇	一七四
蓋州紅	一・九四三	一四二
長繩緊	一・八三五	一三四
牛尾把黃	一・七九六	一三二
御穀	一・七五六	一二九

即ち在來農家にて栽培し居るものに比して多くて七割、少くて二割九步の增收あり。

（ロ）熊岳城農事試驗場成績

品種試驗によりて選出せる優良品種次の如し。

品種名	反當收量	收量比較
在來種	石 一•四〇〇	一〇〇
刀把齊	一•八〇六	一二九
水裡站	一•七八二	一二七
龍鳳擋	一•七六六	一二六
瓦壠	一•七五六	一二五

品種試驗によりて選出せるものは在來種に比して右記の如く二—三割の增收あり。

次に鄭家屯試作場にて選出せる優良品種は次の如し。

品種名	反當收量	收量比較
鄭家屯在來種	石 一•八〇〇	一〇〇
高裡站	三•一五二	一七五
紅粳粟	二•九八八	一六六
猫耳	二•七五五	一五三
薄地租	二•四〇四	一三四

即ち在來種に比して多きは七割乃至三割の增收あり。

以上三箇所に於て選出せる優良品種を滿洲在來農家にて其の分讓を受け播種せんか收量品質共に在來種に比して優良なれば其の益する所極めて大なるものあるべし。

第二項　耕鋤深淺試驗

大正三年より同十四年迄試驗せる結果によれば秋期一回七寸の深さに耕鋤せる區收量最もよく春期一回深さ三寸耕鋤區及同五寸耕鋤區等之に亞ぎ秋春二回深さ一尺耕鋤區收量最も劣る。

各季節別に見れば春期一回耕鋤區最も收量よく秋期一回耕鋤區之れに亞ぎ秋春二回耕鋤區最も劣る。耕鋤別に之れを見れば淺耕は深耕に優り殊に春期耕鋤の際には淺きをよしとす、秋期一回耕鋤する時には五寸區、七寸區收量よし、秋春二回耕鋤區に於ては三寸區と六寸區の收量よし。又前述の如く全部を通じて最も收量よき秋期一回七寸耕と次位の春期一回三寸耕春季一回五寸耕との差僅に二―四升なる點より考ふれば目下の現況にては費用勞力を費して秋春二回耕鋤する必要なく春期一回深さ三寸又は五寸に耕鋤するをよしとす。

第三項　地方減耗試驗

大正三年より昭和三年迄十三箇年間即ち本日迄の成績によれば收量最もよきは連作區にして肥料の方より見れば無肥料區最もよし。此の試驗は尙繼續中なれば他日之を結論せんとす。

第四項　表土攪擾試驗

三箇年の試驗成績によれば一尺に耕鋤し表土攪擾せる區最も收量よく普通栽培區之に亞ぎ普通栽培表土攪擾區最も劣る。耕土を深く耕鋤し置き降雨を出來る丈け地中に滲透させ然る上に表土を攪擾して蒸發に制限を與へ地中の水分を保蓄することは乾燥地農業の營まれる所に於ては出來得る限り行ふべき良策なり。

第五項　肥料試驗

1　三要素試驗成績

五箇年間の試驗成績によれば無加里區三要素區最も收量よく無肥料區最も惡るし。一要素を缺する區に就いて見るに無燐酸區と無窒素區最も收量劣り無加里區は最も收量よし。之れによつて見るに粟作には加里は必要なく窒素質肥料と燐酸質肥料との必要を認む。

2　堆肥用量試驗

五箇年間の試驗成績によれば堆肥三百貫匁施用區最も收量よし。卽ち堆肥施用量增加と共に收量も增して居る。

3 過燐酸石灰肥效試驗

八箇年間の試驗成績によれば過燐酸石灰三貫匁施用區最も收量よく反當堆肥百二十貫匁過燐酸石灰三貫匁施用區收量最も劣る。この試驗を各年別に見る時には各年共の成績を異にして定まらず今後尙試驗を要するものゝ如し。

第六項 經濟試驗

公主嶺、鄭家屯の二箇所にての試驗成績を示せば次の如し。

地名	收入 一天地當	收入 反當	支出 一天地當	支出 反當	差引益 一天地當	差引益 反當	試驗年數	備考
公主嶺	五九・五七〇円	九・九一八円	五〇・八三六円	八・四七三円	八・六七一円	一・四四五円	自大正七年 至昭和元年	一天地は六反歩なり
鄭家屯	六六・八六四	一一・一四四	五〇・二三三	八・三七二	一六・六三一	二・七七二	自大正八年 至大正十一年	同

右の成績に見るが如く鄭家屯は公主嶺に比較して利益多し。

今次に公主嶺農事試驗場に於ける各作物收支比較試驗を示せば次の如し。

作物名	收入 一天地當	收入 反當	支出 一天地當	支出 反當	差引益 一天地當	差引益 反當	試驗年數	備考
高粱	七四・一七五円	一二・三六三円	四六・四三四円	七・七三九円	二七・七四一円	四・六二四円	自大正七年 至大正十四年	

大豆	六三・三四三	一〇・五五七	五八・二九六	九・七一六	五・〇四五	〇・八四一	自大正七年至大正十三年	
粟	五九・五〇七	九・九一八	五〇・八三六	八・四七三	八・六七一	一・四四五	自大正七年至昭和元年	
陸稻	四三・五〇〇	七・二五〇	五〇・二三一	八・三七二	(一)六・七三一	(一)一・一二三	自大正四年至大正九年	損
小麥	三四・九五〇	五・八二五	四一・六三九	六・九四〇	(一)六・六八九	(一)一・一一五	自大正四年至大正九年	損
向日葵	四三・三九一	七・二三二	三七・九五六	六・三二六	五・四三五	〇・九〇六	自大正五年至大正六年	
荏	五三・二八七	八・八八一	五二・〇五五	八・六七六	一・二三二	〇・二〇五	自大正五年至大正九年	
亞麻	二四・三三〇	四・〇五五	三五・六八〇	五・九四七	(一)一一・三五〇	(一)一・八九二	自大正五年至大正六年	損 採種用
甜菜	七四・五二四	一二・四二一	六三・〇九六	一〇・五一六	一一・四二八	(一)一・九〇五	自大正五年至大正六年	
蕎麥	一九・四九五	三・二四九	二四・八三六	四・一三九	(一)五・四三二	〇・八九〇	大正六年	損
蓖麻	五〇・〇〇四	八・三三四	六五・六四二	一〇・九四〇	(一)一五・六三八	(一)二・六〇六	自大正七年至大正十一年	損
青麻	七六・四七一	一二・七四五	七一・六八四	一一・九四七	四・七八七	〇・七九八	自大正十年至大正十三年	
黍	五二・七三八	八、七九〇	四五・六一五	七・六〇三	七・一二三	一・一八七	自大正十年至大正十三年	
玉蜀黍	五一・八八九	八・六四八	五六・七四四	九・四五七	(一)四・八五五	(一)〇・八〇九	自大正十年至大正十三年	損

右表の如く十四作物の收支調査によれば差引益あるもの八、損あるもの六なり。而して益あるもの丶内にて最高は高粱にして甜菜之に亞ぎ粟は第三位にあり。粟は豐凶の差著しからざれば滿洲にては安全の作物と云ふべし。

第九章　粟の病蟲害

第一節　粟の病害

一　粟の白髮病

病原菌　Sclerospora Graminicola-Sacc-Schrvet.

病徴　本病は一名粟のサヽラ病とも稱し、粟の葉及び穗を浸すものにして葉を襲ひたる場合には葉脈の間の柔組織浸されて破壞せられ脈部のみ殘り卷縮してサヽラ狀を成すに至り、又穗を浸されたる場合には被害粒は著しく長し且つ苞部も同樣長くなるを以て全穗畸形を呈す、若し出穗前に甚だしく葉を犯さるゝときは遂に抽穗せざることあり此等被害部よりは黃色の粉狀物を飛散す、粟の外にエノコログサをも浸す。

病原菌　本病原菌は露カビ菌科の一種に屬し、被害部より飛散する黃色粉狀物は本菌の厚膜胞子にして越冬の力を有するを以て越冬胞子又は受精作用の結果として生ずるを以て卵胞子とも稱せられ直徑二八乃至三五「ミウ」ありて球形をなす、此他分生胞子時代は下方の綠葉の裏面に生ずるものにして擔子梗は短くして太し二叉又は三叉に分枝して多くの楕圓形若しくは長楕圓形無色の胞子を著く、擔子梗の長さ約一〇〇「ミウ」幅一二乃至一五「ミウ」あり、分生胞子の長さ

一九乃至三一「ミウ」幅一二乃至二一「ミウ」ありて外面平滑水を得れば十一、二個の游走子を出す、之れ不規則なる腎臓形をなし一方には二本の鞭毛を有し暫時游泳したる後附着し鞭毛を吸收して直徑九乃至一二「ミウ」の球狀體となり發芽して菌絲となる而してベットラー氏(Brother, E. J.)は此分生胞子を健全なる粟の葉上に接種せしも本病害發生せざりしを以て此時代は本病の傳染及び越冬には大なる關係なきものゝ如しと稱し、本病は主として卵胞子の越冬によりて起るものなるべきも結局其の生活史は目下の處にては不明なりと稱せり。

豫防驅除法　被害植物を早く採集して燒却すべく且つ連作を避けエノコログサの如き雜草の驅除を行ふべし。

分布　歐米、東部亞弗利加、印度、日本、朝鮮、滿洲。

二　粟の黑穗病

病原菌　Ustilago Crameri Koern.

病徵　本病は粟の他にエノコログサの子房をも浸すものにして被害粒に於ては外面健全のものと異なることなきも內部は全く本菌胞子を以て充たされ其の熟するに及んでは外皮を破りて黑粉狀なる胞子を飛散せしむ被害大ならず。

病原菌　胞子は球形若しくは長多角形にして集合せるものは暗褐色を呈すれども個體は赤褐色をなし、外面平滑にして直徑六乃至一二「ミウ」あり、發芽の際は前菌絲を出すも小生子を形成

することなく直ちに菌絲に發達す。

豫防驅除法

一、種子をフォルマリン二百倍液二時間三百倍液五時間乃至七時間浸積殺菌後水洗して氣乾し播せば効果大なり。

二、フォルマリン三百五十倍液を種子容の一割乃至一割三分を種子に撒布しよく混ぜ合せて液が充分種子面にゆき渡る様なしたる後種子を一所に盛り上げ液の蒸發を防ぐため上部を厚き布にて三時間覆ひたる後擴げて乾燥せしめ播種せば効果大なり、第二の方法は簡便にして實用向なるべし。

三　粟の銹病

病原菌　Uromyces Petariae-italicae-Diet Yoshino.

病徵　本病は粟の外エノマコグサにも發生し印度に於ては種々のセタリア屬(Setaria)に發生すと云ふ、粟に於ては其葉及び葉鞘に發生し、日本に於ては九月下旬頃既に粟の登熟後に發生するが故に被害少なしと稱せらるゝも滿洲に於ては八月中旬頃即ち粟の出穗初期より發生するを以て其被害も亦決して僅少ならざるべし其發生するや葉の兩面に小楕圓形濃褐色の斑點として現はれ裏面に特に多く主として散在するも時に列をなすことあり、初め表皮を以て蔽はるゝも遂に表皮破れて粉樣物を飛散せしめ葉の枯死を早からしめ枯死に近き頃に至れば葉の各部

に等しく小楕圓形の帶灰黑色點を散在するに至る。

病原菌　本病原菌は銹病菌科單胞子屬の一種にして初め葉面に現はるゝ小楕圓形の濃褐色點は本菌の夏胞子推にして其內に含まるゝ夏胞子は稍歪形なる楕圓若しくは卵形をなし長さ二二乃至三六「ミウ」幅一八乃至二六「ミウ」あり表面に細刺を散在し橙黃褐色にして中央帶に三、四箇の發芽口を有す、葉の枯死に近き頃に至りて生ずる帶灰黑色の小點は本菌の冬胞子推にして長く表皮を以て蔽はれ其內に含まるゝ胞子は歪形なる圓形、楕圓形、楔形、方形、多角形等に近き形をなし單細胞よりなり表面滑かにして夏胞子よりも稍濃色長さ一七乃至三〇「ミウ」幅一六乃至二四「ミウ」あり無色にして長さ三〇乃至三六「ミウ」幅三乃至六「ミウ」ある柄を有す。

豫防驅除法　本病菌の生活史不明なるを以て從て確實なる豫防法も不明なり元來禾本科類を浸す銹菌類の多くは其生活史を完成するには必ず其或時代に於て全く異なる寄主を要する種類多く若し本病菌も同樣なる性質を有するものとせば此の異なる寄主を發見して之れを煙滅すれば完全に本病を豫防することを得るなるべし、應急の豫防法としては其の稈を翌一年間は乾燥の狀態に保ちたる後之を家畜の飼料等に用ふるを可とす。

分布　日本、印度、亞弗利加の北部、朝鮮及び滿洲。

四　栗苗の立枯病

病原菌 Fusarium sp.

病徴　本病は栗の苗時代卽ち二、三寸に成長したる時期に於て地際黑色に變じ縊れて倒臥し上部枯れ遂に全植物枯死するに至るものにして、接種試驗の結果によれば接種後三四日にして其の三分の二以上を枯死せしむるが如し。

病原菌　本菌は新月菌の一種にして分生胞子は一方に彎曲し五乃至七箇の隔膜を有し此部に於て僅に縊結するあり又全く縊結せざるあり先端は漸次細長となりて尖り下方も其幅狹くなり且つ不明瞭なる基部あり長さ五〇乃至六五「ミウ」幅四乃至七・二「ミウ」あり個體は無色なれども其群集せるものは有色にして培養基の異なるによりて其色も多少異なり、馬鈴薯汁寒天培養基上のものは淡赭色をなし胞子群の直徑〇・五乃至一「ミリメートル」あり、同上に五％の葡萄糖を加へたるものにありては帶紅赭色にして胞子群の直徑一乃至二「ミリメートル」あり、培養基を暗紅色に變色せしむ水を得れば直ちに發芽して菌絲を生ず厚膜胞子は菌絲間若しくは其一端に數箇連續して生じ大體に於て球形にして帶褐色表面には小數の小突起あり直徑五乃至一五「ミウ」あり。

豫防驅除法　菌の性質及び其病徴によりて考ふるに本病菌は主として土壤中に於て越生するものなるべし、從つて連作を避くるを要し且つ栗苗は成るべく健全に然かも短時日の間に旺盛なる發育をなす樣耕作上の手段をとるべし。

分布　滿洲

栗の病害中白髮病、銹病は被害程度最も甚だしく且つ分布區域も滿洲一圓に廣がり立枯病は

苗時代にのみ發生するものにして當農事試驗場圃場にての觀察によれば其の被害程度決して少なきに非ざれども滿洲一般農家は恐らく本病に對しては未だ注意を拂はざるべし而して以上の諸病害の爲めに蒙むる損害は又決して少量には非ざるべく單に直接之等病害の爲めに減ぜらるゝ量のみならず病害發生の爲めに粟其のものゝ生理狀態を不良ならしめ遂に結實を不完全に終らしむる等の損害をも加算する時は恐らく滿洲粟作は病害の爲めに年々二割以上の減收を來し居るべし。

第二節　粟の害蟲

一　粟よとうむし

學　名　Lenicania Unipunctata, Haw.

昆蟲學上の地位　鱗翅目粟蠶蛾科

被害植物　粟、麥、稗、高粱

成蟲　體長六分翅の開張一寸四、五分前翅は灰褐色にして中央に一個の小白紋を有し翅頂より後緣に向つて細き斜條線あり其の外側には外緣に沿ふて七個の小黑點紋を有す。

尙ほ翅の全面には小黑紋を散在す、後翅は灰色で外緣に到るに從ひ次第に濃色を呈す。

卵子　卵子は常に禾本科植物の葉又は袴内に數十粒塊狀に產下せられ白色の膠質物を以て

掩はる。

幼蟲　體長一寸五、六分孵化當時は淡黄色を呈するも成長するに從つて體色一様ならず通常頭部は淡褐色、胴部背線は細く白色を呈し、亞背線は暗綠色にして下緣白色を呈し、氣門上線は綠色で下緣は白色を呈し、腹面灰綠色を呈す。

蛹　光澤ある橙赤褐色を呈す、體長七、八分。

經過習性　通常一年二回發生する、第一回目の幼蟲は七、八月頃發生し第二回は八、九月頃發生する、日本では成蟲體にて越年する第一回の蛾は五月下旬から六月上旬に亙り、加害植物に產卵する、老熟せる幼蟲は地上に下りて淺い土中に窩を作り蛹化す、蛹期は約十日前後で後蛾化し作物に產卵する。

被害の狀況　幼蟲は性質貪食にして晝間は土塊間に潜伏し、夜間出て食害する、發生の甚だしき時は甲地を食ひ盡し隊伍を作つて乙地に移行し禾本科植物に大害を與へる、時に灌水の充分でない場合は水田にまでも移行して水稻を害することがある。

驅除豫防法

一、燈火誘殺法を行ふこと。

二、糖密誘殺法を行ふこと。

三、其の發生の甚だしい時は明溝を設け甲地より乙地へ移行するを防ぐこと。

四、亞砒酸を米糠等に混じて根元に撒布すること。

五、幻蟲は晝間地下に淺く潛伏するから此を捕殺すること。

二　栗のずいむし

學　名　Spilodes Kodzukalis, Holl.

昆蟲學上の地位　鱗翅目螟蟲科

被害植物　栗、玉蜀黍、藍、高粱

成蟲　體長四、五分翅の開張一寸內外黃褐色にして光澤あり、前翅の外緣は黃褐色後緣は褐色を呈す、外緣には太い褐色帶があつて其の內側に前緣より後緣に向つて從走する一個の波狀線を有し黃褐色を呈す、後翅は暗黃色を呈し、外緣及び翅の中央に暗褐色の橫線がある。

卵子　卵子は白色を呈し、常に葉裏に數十個鱗狀に產下せらる。

幼蟲　充分成長したものは體の長さ八、九分體色は淡褐色で背線は暗色を呈す、各節には數個の突起があつてこれから短毛を生ず、常に栗の莖內にあつて內容を食害する、但し蟲糞を出すから外部より容易に其の被害を知ることが出來る。

蛹　幼蟲が老熟する時は莖中に薄き繭を作つて其の中に蛹化する、蛹は褐色を呈して長さ四、五分ある。

經過及習性　年三回の發生をなすもので幼蟲體にて越年し翌春蛹化し五、六月頃蛾化して第一回の成蟲となる、第二回は七月、第三回は九月上旬蛾化する。

る。

被害の狀況　幼蟲は莖中にあつて內部を食害するから粟は發育不完全で遂に枯死するに至

驅除法　被害莖を集めて燒却すること。

尙ほ此の他に「エンマコホロギ」「ミツカドコホロギ」等があつて葉を害し「イッテンコクガ」は收穫した種實に害をする「キスヂノミハムシ」は春期粟の發芽當時嫩葉を喰害し往々粟作に大害を與ふることがある。

摘　記

「ミウ」とあるはミクロンの略なり。

第十章　粟の用途

第一節　食用としての粟の子實

粟は高粱に次いで滿洲農民の主要なる食糧なり。日本に於ても近代まで避地の農家又は貧農は粟を主食物とするもの多し。粟の精白せるものを小米と稱し、高粱の精白した高粱米に比して高價であるため高粱の栽培の多い地方では一般農民は高粱を常食とし粟は宿屋か又は富裕な農家の食糧となつて居るが又高粱の栽培の少ない吉林地方又は東支鐵道東部線地方の如きは農家の主食物は小米にして且つ此の地方にては稗と混じて燒酒の原料ともなす。

此の粟の飯は小米飯又は小米乾飯と云ひ粟の粥を小米稀飯と云ふ。今粟の化學的成分と他の食糧の作物との化學成分表を示せば次の如し。

成分／種類	水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶性無窒素物	粗纖維	灰分	分析者
滿洲粟二五種平均	一〇・五一〇%	一〇・〇六三%	四・二四二%	六四・二七一%	七・八九〇%	三・〇二四%	滿鐵農事試驗場
滿洲精白粟四種平均	一〇・九五〇	一〇・〇九八	三・七二五	七二・〇五三	一・五〇〇	一・六七五	同
日本産粟	一三・三四〇	一一・五七〇	五・五五〇	六五・三四〇	一・六五〇	二・五五〇	衞生試驗所
北海道産精白粟	一三・四三〇	一四・五一〇	二・六一〇	六八・六二〇	〇・八二〇	〇・九八〇	北海道帝國大學

外國產粟六種平均	一一・二六〇	一一・二九〇	三・五九〇	六七・三二〇	四・二五〇	二・三一〇	ブライフ氏
高粱二五種平均	一〇・二七四	一〇・〇八三	四・八八五	七〇・九〇四	二・〇六五	一・七八九	滿鐵農事試驗場
日本產高粱	一三・一〇〇	一〇・五〇〇	三・六二〇	六六・三九〇	六・二八〇	〇・二一〇	衞生試驗所
日本產玄米	一四・五〇〇	八・四〇〇	二・四七〇	七一・六三〇	〇・九〇〇	一・四六〇	同
日本產白米	一三・九一〇	七・七二〇	〇・七七〇	七六・七八〇	〇・二五〇	〇・五七〇	同
日本產大麥	一三・七八〇	一一・一六〇	二・一二〇	六五・五一〇	四・八〇〇	二・六三〇	日本飲食物分析表
挽割大麥	一四・四〇〇	九・六三〇	〇・三〇〇	七三・二二〇	一・〇〇〇	一・四五〇	澤村眞著食物講話より
朝鮮產白米	一八・〇〇〇	七・六二〇	〇・四五〇	七二・七四〇	〇・五六〇	〇・六三〇	衞生試驗所
滿洲產白米	一一・五二〇	八・二三〇	一・四九〇	七六・一九〇	一・八二〇	一・三〇〇	滿鐵中央試驗所

以上の表の如く粟の子實は蛋白質、粗脂肪等の分量日本の白米、玄米、大麥等と比較して優り高粱と略同樣なり。

次に粟飯に就き其の化學成分を見るに次の如し。

種類＼成分	水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶性無窒素物	粗纖維	粗灰分	分析者
滿洲產粟飯	七七・七一三%	二・四一〇%	〇・二三〇%	一九・四四七%	無窒素物の中に合まる	〇・一九〇%	滿鐵農事試驗場
日本產粟飯	五八・八〇〇	四・九六〇	二・七二〇	三一・九七〇	〇・七六〇%	〇・七九〇	同
上精白高粱飯	八六・七七三	一・八四二	〇・一一三	一一・〇九八	〇・一〇一	〇・〇六三	同

普通精白高粱飯	六九・二〇四	四・四八四	〇・四七三	二五・三四五	〇・三一六	〇・一七八	滿鐵農事試驗場
白米飯	六三・四九〇	四・三四〇	〇・四四〇	三一・〇三〇	〇・四六〇	〇・二四〇	高橋陸郎
玄米飯	六二・九九〇	四・九五〇	一・七九〇	二八・三九〇	一・三五〇	〇・五五〇	同
麥飯	七六・〇六〇	三・七七〇	〇・二三〇	一八・七四〇	〇・七七〇	〇・四三〇	衞生試驗所

以上の表によりて見る如く滿洲產粟飯は粗蛋白質、粗脂肪共に普通精白高粱白米飯、玄米飯、麥飯に劣るを見る。而し消化は大麥、黍、玉蜀黍、高粱等に比して勝る。而して粟が高粱又は挽割玉蜀黍に比して美味なり。殊に鮮人の嗜好に可なり適し、値段が米や外米又は鮮粟より安く其の上炊き增へが多く米が二倍の炊き增へとなるに比し粟は三倍となるから假りに一日米六合を食するものは粟ならば四合を以つて足ることゝなり經濟的に有利なり。故に貧窮なる鮮人農家に取つては此上も無い重寶な食料なること明かにして此の點より近時朝鮮行きの粟の激增してゐるのは當然なり。かゝる點から見て今後滿洲粟の値段が鮮米、外米、鮮粟を凌駕せぬ限り朝鮮に於ける滿洲粟の需要が衰へるとは思はれない。

第二節　黃酒の原料としての粟の子實

粟の子實は精白して糧食とする外釀造して黃酒と云ふ酒を作る。黃酒は色澤香味稍日本酒に似たる點あり。

滿洲に於ける年產額は百五十萬斤位なりと云はるゝが長春地方に於ては酒館子(專門販賣人)はなく唯飯館子(料理屋)の自家用として多く釀造せらるゝものであつて殆ど糖化醱酵を充分に完了せしめて居ないから永く貯藏し難い缺點がある。然し短時日の間に賣盡す方法を講ずると云ふ。今其の釀造法を見るに栗を四四・四瓩(支二斗)を約三〇Cの温水に浸し時々攪拌して浸漬を充分ならしめ一晝夜の後煮熟し之に約支二斗の水を加へて米案子と稱する木製の平たき箱に移し薄く擴げ約二五度Cに冷却すれば始めて麯子卽ち麴の粉末五瓩を散布し能く混和して恰も餅狀となし之れを容量約一石の缸に收め、日々攪拌し醱酵を充分ならしめ七、八日を經て醱酵を完了させ、之れに若干の水を加へ繭細製の酒袋に入れ壓搾す、この壓搾酒液は一度細目の篩にて濾過して飯料に供す。かく釀造法は極簡單だから往々土民が作るのを見受ける。今其の方法を述べると高粱酒十斤、栗三升、麯子一塊の原料仕込數を混和したものを桶の中に移し、之に湯三、四十斤を入れ日々攪拌して醱酵を充分ならしめると一週間足らずで黃酒四十斤が得られる。之を飲料とするには漉して粕を除去する。尙ほ前記原料の栗を煮熟するに當り黑く炒けるのと炒付けないとによつて鮮黃色のものと、黑褐色のものとの二種を生ず。而して黑褐色のものには苦味と炒臭ありと云ふ。

黃酒は甘酸味强い釀造酒であつて「アルコール」重量一〇・五―一三・〇%不揮發酸(乳酸として)〇・一五―〇・三五%揮發酸(醋酸として)〇・〇六〇―〇・一七%を含んで居る。今滿鐵中央試驗所にて分析せる結果を示せば次の如し。

成分＼種類	一號	二號	三號	四號	日本酒
	%	%	%	%	%
比重	一・〇〇六七	〇・九九九	一・〇〇一	〇・九九四三	〇・九九二
アルコール	一〇・五二〇〇	一二・五〇〇	一一・三四〇	一二・七三〇〇	一九・一四〇
越幾斯	六・二〇〇〇	四・六八〇	四・九四〇	三・八七七〇	四・〇六〇
不揮發酸	〇・三五〇〇	〇・二〇〇	〇・一四八	〇・一七三〇	〇・二〇〇
揮發酸	〇・〇五八〇	〇・一〇三	〇・一五六	〇・〇七〇〇	〇・〇三〇
糖分(葡萄糖)	三・九九三〇	二・二六〇	二・二六八	一・〇二二〇	一・六一〇
デキストリン	二・六一〇〇	一・六七二	一・二〇五	〇・七九七〇	〇・七五〇
グリセリン	〇・三六二〇	〇・五一五	〇・二二八	〇・一〇七〇	一・一一〇
灰分	〇・一〇八〇	〇・二一六	〇・一八八	〇・一七四〇	〇・〇五〇
フーゼル油	痕跡	同	同	同	

麯子は之を粉末として使用するものにして其方法は先づ麯子表面を約一糎位の厚迄斧を以つて削り去りたるを再び押し切りてに細片と爲し更に之を木槌にて打碎き小塊となし三〇度C内外の溫度を有する鍋中にて乾燥し然る後小形の石臼にて粉末となすのである而して黃酒釀造用麯子の形狀には二種あり。一は圓盤狀にて直徑一八糎、厚さ六.五糎、重量一、二六六瓩であつて他一は煉瓦形であつて其表面は荷花葉(蓮)苧葉、黃菸葉(煙草)等を以つて覆はれ長さ二五.五糎、幅

一三·五糎、厚さ八糎、重量一、八七五瓩であつて七·五％の水分を含有して居る、黄酒用には煉瓦形が普通用ひられる。此の製造原料は總て大麥のみにして其の製造方法は先づ大麥を石臼にて粉碎し其一·八瓩(支三斤)を取り之に一定量の水を注加し能く混和し半日間其儘放置し然る後麴模子と稱する長方形の框型中に入れ足にて踏み固め次に麴模子より取出したるもの表面には前記の草叉は木葉を附着せしめ温暖なる室中に置きて麴菌類の繁殖を圖り製麴を行ふのである。

次に麴子の製造期節は陰曆四、五月の頃にして皆山東省に於ける農家の副業である、故に滿洲地方にても黄酒用麴子は殆ど芝罘よりの輸入品を使用すると云ふ。

次に上表に見るが如く黄酒は日本酒に比較して比重の點は近似し酒精分は少ない、糖分は勝つて居る。揮發酸及び灰分も亦淸酒より多く何れも痕跡だけのフーゼル油を含有する故に一種の臭氣と酸味とがあつて日本人の口には喜ばれない。滿洲の濁酒と稱すべきもので目下公主嶺の相場にては一提大洋四毛で一提とは二斤内外であるから一斤日本金の十七、八錢位と見てよい。

第三節　家畜飼料としての粟稈

滿洲にて粟稈は耕馬耕牛の唯一の秣食並に蓐草なり。家畜を以つて耕耘する滿洲の農業にては必要量だけの粟は必ず播種しなければならん。

吉林地方の如き木材業盛んにして木材の運搬に牛馬の使役盛んなる所にては粟稈は非常な

高値を示し子實の値段より高い事が屢々見受けらる。公主嶺農事試驗場に於ても大正十二年、昭和元年の如きは子實と莖稈の値段は殆んど等しかつた。

今公主嶺農事試驗場の粟の收支比較試驗の部を摘記して見れば次の如し。（一天地當）

種別／年度	子實 收量	子實 單價	子實 價額	莖稈 收量	莖稈 單價	莖稈 價額	備考
大正七年	三・六九一石	八・二五〇円	三〇・〇八二円	二・八四七斤	七・三二〇円	二〇・八二三円	單價は千斤の單位とす。
大正八年	四・三三九	一三・〇三六	五六・五六三	二・八〇〇	七・九二〇	三二・二四八	一石は日本升の一石九斗
大正九年	四・五一五	九・九四七	四四・九一二	二・九四七	六・二五〇	一八・二二四	支那一斤は日本の一五〇
大正十年	四・四〇四	七・五九六	三三・四五九	三・六〇〇	六・〇九八	二一・九五三	匁とす。
大正十一年	四・四六六	五・五〇二	二四・五七三	二・七四一	四・七三二	一二・九七三	
大正十二年	四・一九四	六・三六七	二六・七〇三	三・一三〇	八・〇九〇	二五・三二九	
大正十三年	四・五七六	九・七四〇	四四・五七〇	二・五〇〇	九・四一六	二三・五四〇	
大正十四年	五・〇四三	一〇・〇〇〇	五〇・四三〇	二・一三六	一一・一七六	二三・八七三	
昭和元年	四・〇六四	七・七五三	三一・五〇八	二・四三三	九・八七七	二四・〇三二	
昭和二年	五・〇三九	九・四二九	四七・五一三	三・三〇八	六・四八一	二一・四三九	
平均	四・四三三	八・八〇五	三九・〇三三	二・八四四	七・五三二	二一・四一八	

卽ち二十一圓四十一錢八厘にして高粱稈の八箇年一天地當平均十一圓五十一錢六厘に比し

て九圓九十錢二厘も收益があることが知る。

今次に其の粟稈の化學分析せるものを示せば次の如し。

公主嶺農事試驗場

種類	成分	水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶性無窒素物	粗纖維	粗灰分	摘要
粟稈	一	% 六・四四六	% 四・九七九	% 一・〇六〇	% 四一・五五九	% 四一・二四〇	% 四・八二六	大正八年度當場産
同	二	五・八五四	五・二八八	一・九三五	四〇、四〇四	三八・七六〇	七・七五九	同
同	三	六・七六〇	四・五一〇	一・二九〇	三八・五七〇	四一・五三〇	七・三四〇	大正十年度旅順産
同	四	八・一八〇	五・三二五	一・四六〇	三九・一八三	三七・四三〇	八・四四八	大正十二年度當場産
同	五	八・四五〇	五・二六九	一・六〇〇	四三・五八一	三二・八五〇	八・二五〇	昭和二年度當場産
稲藁	一	六・一七八	七・四九四	二、七一〇	四七・二七〇	一六・八四三	九・五〇八	大正八年度産
同	二	五・三七四	五・二八八	一・八一〇	四四・四二七	三四・三六七	八・七三四	同
同	三	六・六二〇	六・〇八〇	一・六一〇	三四・五五〇	三七・〇九〇	一四・〇五〇	大正十年度三十里堡産

以上の如く蛋白質又は粗脂肪等稻藁と等しく粗纖維は多きを見る。之れを他の牧草植物に比しては營養價値は遙かに劣ると雖も子實の生産を主として耕作するものにして倘其の莖稈がかくも役畜の飼料となるものあるは滿洲の農業の惠まれたるものありと云ふべし。換言せば滿洲は粟作なくしては農業が合理的に經營出來ずと云ふも過言であるまい。

參考書目錄

1. Dle'man. Breeding Millet and songs for dronght. Bulletin. no. 291, 1916.

2. De Candoll. Odigin of culivatec p!ant. 1909.

3. Fruwirth. Handbuch der landwirtsehaftlich pflanzenznchtung. 1923.

4. Ninall. Foxtail millet. farmer's Bulletin 793. 1917.

5.

6. 川上三郎　作物栽培學　大正十三年

7. 三浦道哉　滿洲主要作物の病害　大正十年

8. 調査課　滿洲粟に關する調査　大正十四年

9. 三浦道哉　滿蒙植物誌　大正十四年

10. 村越信夫　滿洲主要作物栽培と氣候　大正十三年

11. 南鷹次郎博士　作物學講義　大正十二年

12. 野中時雄 竹內虎治　滿蒙全書　大正十年

13. 大橋敏　南滿洲土性調査報告　大正八年

14. 大橋敏　滿洲の在來肥料　大正八年

15. 大重篤　滿洲の在來農具　大正六年

16.	宗　光彥	南滿洲在來農業	大正七年
17.	突永一枝	滿洲亞爾加里土壤調査報告	大正十五年
18.	吉川祐輝	食用作物各論	大正十四年
19.	大西健吉	滿洲粟の鮮內事情	昭和三年
20.	村松　榮	滿洲高粱（栽培ノ卷）	昭和三年

参考書目録

1. [illegible] [illegible] and [illegible] for [illegible] Bulletin no. [illegible]
2. De Candolle. Origin of cultivated plant. [illegible]
3. Fruwirth. Handbuch der landwirtschaftlich pflanzenzüchtung. [illegible]
4. [illegible] Bulletin [illegible] 1917.

[illegible]

昭和五年十月一日印刷
昭和五年十月五日發行

編輯兼發行人　南滿洲鐵道株式會社農事試驗場長　松島鑑

印刷者　大連市東公園町三十一番地　吾妻力松

印刷所　大連市東公園町三十一番地　滿洲日報社印刷所

發行所　南滿洲鐵道株式會社農事試驗場